

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）

精神疾患患者の地域移行・地域生活支援の推進や適切な向精神薬の
使用の推進等を含む精神医療の実施状況調査 報告書

◇◆目 次◇◆

I. 調査の概要	1
II. 調査の結果	7
1. 回収結果	7
2. 施設調査の結果	8
(1) 病院の概要	8
(2) 診療所の概要	16
(3) 病院における精神科病棟の体制等	19
(4) 病院の地域移行機能強化病棟における取組状況	22
(5) 精神科デイ・ケア等の取組状況	32
(6) 精神科訪問看護の状況	46
(7) 精神科重症患者早期集中支援管理料の状況	56
(8) 病院における身体合併症治療への対応状況	64
3. 入院患者調査の結果	65
(1) 患者の属性等	65
(2) 入院の状況等	68
(3) 患者の状態等	82
(4) 治療の状況	93
(5) 退院の見通しと退院支援の状況	102
4. 精神科デイ・ケア等患者調査の結果	114
(1) 患者の属性等	114
(2) 精神科デイ・ケア等開始前後の状況	120
(3) 患者の状態等	126
(4) 精神科デイ・ケア等の実施状況	132

参考資料

I. 調査の概要

1. 目的

平成 28 年度診療報酬改定では、長期入院患者の退院と病床数の適正化に取り組む精神病棟の評価や、長期かつ頻回の精神科デイ・ケア等の適正化等、精神疾患患者の地域移行や生活支援に着目した評価が行われた。また、向精神薬の多剤・大量処方が行われている患者に対する評価の見直しが行われた。

本調査は、これらの診療報酬改定の内容を踏まえ、精神病棟の患者の状態や地域移行の状況、精神科デイ・ケア等における地域生活支援の実施状況、向精神薬の処方の実態等を把握し、診療報酬改定の結果を検証することを目的とする。

<調査のねらい>

- ・精神病棟の患者の状態や退院支援の実施状況等の把握
- ・精神科デイ・ケア等における地域生活支援の実施状況等の把握
- ・向精神薬の多剤・大量処方の適正化の状況等の把握 / 等

2. 調査対象

本調査では、「①病院調査」「②診療所調査」「③入院患者調査」「④精神科デイ・ケア等患者調査」を実施した。各調査の対象は、次のとおりである。

①病院調査

- ・地域移行機能強化病棟入院料を算定する病院（悉皆、17 施設）
- ・精神科重症患者早期集中支援管理料の届出を行っている病院（悉皆、16 施設）
- ・精神病棟入院基本料、精神療養病棟入院料を算定する病院の中から無作為抽出した病院
- ・上記合わせて 1,000 施設を調査対象とした。

②診療所調査

- ・精神科重症患者早期集中支援管理料の届出を行っている診療所（悉皆、5 施設）
- ・精神科デイ・ケア等の届出を行っている診療所の中から無作為抽出した診療所
- ・上記合わせて 500 施設を調査対象とした。

③入院患者調査

- ・上記①の施設の地域移行機能強化病棟入院料算定病棟に入院している患者、1 施設につき 2 名（入院期間が 5 年以上の患者 1 名、5 年未満の患者 1 名）
- ・上記①の施設の精神病棟入院基本料、精神療養病棟入院料算定病棟に長期にわたり入院している患者、1 施設につき各 1 名
- ・上記により、1 施設につき最大 4 名を調査対象とした。

④精神科デイ・ケア等患者調査

- ・上記①②の施設の精神科デイ・ケア等を 3 年超継続して利用している患者と 1 年超 3 年未満継続して利用している患者、1 施設につき各 1 名を調査対象とした。

3. 調査方法

- ・ 施設調査（上記①②）については、自記式調査票の郵送配布・回収とした。
- ・ 「①病院調査」については、施設属性、精神医療の実施状況・体制、患者の地域移行と地域定着に向けた取組状況、課題等を尋ねる「病院票」を配布した。
- ・ 「②診療所調査」については、施設属性、精神医療の実施状況・体制、患者の地域移行と地域定着に向けた取組状況、課題等を尋ねる「診療所票」を配布した。
- ・ 「③入院患者調査」については、平成 28 年 10 月 1 日現在、地域移行機能強化病棟入院料、精神病棟入院基本料、精神療養病棟入院料を算定している病棟に入院している患者の状況等を尋ねる「入院患者票」を配布した。
- ・ 「④精神科デイ・ケア等患者調査」については、平成 28 年 10 月 1 日現在、1 年超精神科デイ・ケア等を利用している患者の状態や精神科デイ・ケア等や他のサービスの利用状況等を尋ねる「精神科デイ・ケア等患者票」を配布した。
- ・ 回答者は、施設調査については管理者・開設者及びその代理者、患者調査については、対象患者を担当する看護師または精神保健福祉士等とした。
- ・ 調査実施時期は平成 28 年 10 月 20 日～平成 28 年 12 月 26 日。

4. 調査項目

区分	主な調査項目
(1) 病院調査	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 所在地、開設者、同一法人または関連法人が運営する施設・事業所、病院種別、標榜している診療科 ・ 届出を行っている精神科病棟の入院基本料、入院基本料等加算 ・ 病棟数、病床数、病床利用率、平均在院日数の変化 ○精神科の診療体制等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神科病棟の職員体制 ・ 退院支援を担当する専門部署の有無 ・ 特に困難な退院支援業務等 ○地域移行機能強化病棟の取組状況等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 届出の有無 ・ 届出をしていない場合の理由、今後の届出意向 ・ 届出時期、地域移行機能強化病棟に転換した病床種別、精神病床削減計画、届出に際しての精神病床の許可病床数の変更の有無 ・ 地域移行機能強化病棟の退院支援相談員、退院支援委員会の開催状況、各退院支援業務を行うタイミング、その他の退院支援業務等 ・ 平成 28 年 9 月 1 か月間に地域移行機能強化病棟に入院・入棟した患者数、退院・転院した患者数 ・ 病床削減後に実施したいサービス・事業 ○精神科デイ・ケア等の取組状況等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神科デイ・ケア等の届出状況 ・ 精神科デイ・ケア等に従事している職員数 ・ 精神科デイ・ケア等を行った患者数 ・ 平成 28 年 4 月～9 月の月平均患者数と平均実施期間 ・ 精神科デイ・ケア等のプログラムの種類、実施日におけるプログラムの種類、プログラムの選択・決定方法 <p>○精神科訪問看護の状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神科訪問看護の実施状況 ・ 精神科訪問看護に携わる職員数、精神科訪問看護を開始した時期、平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護を実施した患者数、身体疾患を有する患者数、他の精神科療法を行った患者数、新規の患者数 ・ 1 週間あたりの利用訪問回数別患者数 ・ 平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護・指導料（Ⅰ）と精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）の算定患者数・算定回数 ・ 精神科訪問看護・指導料（Ⅱ）について、施設への訪問延べ日数、対象人員、算定回数 ・ 長時間精神科訪問看護・指導加算、夜間・早朝訪問看護加算、深夜訪問看護加算、精神科緊急訪問看護加算の算定患者数・算定回数 ・ 1 日に複数回の訪問看護を行った患者数 ・ 精神科複数回訪問加算を算定した患者数・算定回数 <p>○精神科重症患者早期集中支援管理料の取組状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自院あるいは訪問看護ステーションとの連携等により整備されている 24 時間体制の内容 ・ 届出のある施設基準（在宅療養支援病院（在支病）、機能強化型在支病、在宅時医学総合管理料（在総管）、施設入居時等医学総合管理料（施設総管）） ・ 精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出状況、届出時期、届出を行っていない場合の理由、届出意向 ・ 連携する訪問看護ステーションの有無 ・ 精神科重症患者早期集中支援管理料に基づく医学管理を実施する上での職員の体制 ・ 精神科重症患者早期集中支援管理料を算定した患者数 ・ 精神科重症患者早期集中支援管理料を算定した患者の性別、年齢、算定回数、状況、直近の入院形態、患者の状態 <p>○身体合併症治療への対応状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体合併症の患者への対応状況 <p>○患者の地域移行と地域定着のために必要な取組等</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 患者の地域移行と地域定着を推進するために必要な取組等
(2) 診療所調査	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の概要 <ul style="list-style-type: none"> 所在地、開設者、同一法人または関連法人が運営する施設・事業所、種別、標榜している診療科、許可病床数 ○精神科デイ・ケア等の取組状況等 <ul style="list-style-type: none"> 精神科デイ・ケア等の届出状況 精神科デイ・ケア等に従事している職員数 精神科デイ・ケア等を行った患者数 平成28年4月～9月の月平均患者数と平均実施期間 精神科デイ・ケア等のプログラムの種類、実施日におけるプログラムの種類、プログラムの選択・決定方法 ○精神科訪問看護の状況等 <ul style="list-style-type: none"> 精神科訪問看護の実施状況 精神科訪問看護に携わる職員数、精神科訪問看護を開始した時期、平成28年9月1か月間の精神科訪問看護を実施した患者数、身体疾患を有する患者数、他の精神科療法を行った患者数、新規の患者数 1週間あたりの利用訪問回数別患者数 平成28年9月1か月間の精神科訪問看護・指導料（Ⅰ）と精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）の算定患者数・算定回数 精神科訪問看護・指導料（Ⅱ）について、施設への訪問延べ日数、対象人員、算定回数 長時間精神科訪問看護・指導加算、夜間・早朝訪問看護加算、深夜訪問看護加算、精神科緊急訪問看護加算の算定患者数・算定回数 1日に複数回の訪問看護を行った患者数 精神科複数回訪問加算を算定した患者数・算定回数 ○精神科重症患者早期集中支援管理料の取組状況等 <ul style="list-style-type: none"> 自院あるいは訪問看護ステーションとの連携等により整備されている24時間体制の内容 届出のある施設基準（在宅療養支援病院（在支病）、機能強化型在支病、在宅時医学総合管理料（在総管）、施設入居時等医学総合管理料（施設総管）） 精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出状況、届出時期、届出を行っていない場合の理由、届出意向 連携する訪問看護ステーションの有無 精神科重症患者早期集中支援管理料に基づく医学管理を実施する上での職員の体制 精神科重症患者早期集中支援管理料を算定した患者数

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神科重症患者早期集中支援管理料を算定した患者の性別、年齢、算定回数、状況、直近の入院形態、患者の状態 ○患者の地域移行と地域定着のために必要な取組等 ・ 患者の地域移行と地域定着を推進するために必要な取組等
(3) 入院患者調査	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 性別、年齢、精神障害者福祉手帳の状況、障害者支援区分 ○入院の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 入院日、現在の病棟への入院日、初診日、精神科・神経科への通算入院回数・通算入院期間、前回の退院日 ・ 現在入院している病棟 ・ 入院前の居場所、直近の在宅療養期間における精神科訪問看護の利用の有無、現在入院している病棟における主な入院の理由、入院形態、処遇、主傷病、その他の精神疾患の傷病、身体合併症の状況 ○患者の状態等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の GAF スコア、認知症高齢者の日常生活自立度、障害高齢者の日常生活自立度、要介護度、重症度、医療・看護必要度等 ○治療の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主傷病に対して実施している診療内容 ・ 向精神薬の処方状況 ・ 身体合併症に対する対応状況、他院でのサービス利用 ○退院の見通しと退院支援の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 退院後に同居する意思のある家族の有無、退院後の居住先の確保状況、退院が可能となる状況 ・ 予想される入院期間、入院期間が3か月超となる主な理由 ・ 退院先の予定 ・ 担当の退院相談支援員の有無、その職種 ・ 直近の退院支援委員会の参加者 ・ 退院支援計画の有無、策定時期 ・ 退院に向けて実施した退院支援業務等 ・ 生活を継続するために必要な支援 ・ 退院後の訪問看護の必要度と頻度
(4) 精神科デイ・ケア等患者調査	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 性別、年齢、精神障害者福祉手帳の状況、障害者支援区分 ・ 現在の居場所 ○精神科デイ・ケア等開始前後の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神疾患の治療開始日 ・ 精神科での入院の有無、精神科での1年以上の入院の有無、通算入院回数（精神科）、入院中の精神科デイ・ケア等実施の有無、直近

	<p>の主な入院の理由</p> <p>○患者の状態等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主傷病、その他の精神疾患の傷病、身体合併症 <p>○精神科デイ・ケア等の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神科デイ・ケア等の利用開始日 ・ 現在利用している精神科デイ・ケア等 ・ 精神科デイ・ケア等の利用回数 ・ 精神保健福祉士等による患者の意向確認の有無、精神科デイ・ケア等に関する患者の意向確認の頻度、長期かつ頻回により 100 分の 90 点数の該当状況 ・ 精神科デイ・ケア等の終了目途の有無、終了時期 ・ 精神科の医師による診察のタイミング ・ 精神科デイ・ケア等を実施する主な目的 ・ 精神科デイ・ケア等以外で利用している診療内容・サービス等 ・ 向精神薬の処方内容 ・ 精神療法の内容 ・ 精神科訪問看護の利用状況、精神科訪問看護で実施した具体的援助の内容
--	---

5. 調査検討委員会

本調査を実施するにあたり、調査設計、調査票の作成、調査の実施、集計・分析、報告書案等の検討を行うため、以下の通り、調査検討委員会を設置・開催した。

【委員】（○は委員長、五十音順、敬称略）

- | | |
|---------|---|
| 伊藤 弘人 | 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 社会精神保健研究部 部長 |
| ○ 印南 一路 | 慶應義塾大学総合政策学部 教授 |
| 萱間 真美 | 聖路加国際大学大学院 看護学研究科長 精神看護学 教授 |
| 小石川 比良来 | 亀田総合病院心療内科・精神科 部長 |
| 長瀬 輝誼 | 公益社団法人日本精神科病院協会 副会長 |
| 松原 由美 | 早稲田大学人間科学学術院 准教授 |
| 村上 優 | 独立行政法人国立病院機構榊原病院 院長 |

Ⅱ. 調査の結果

1. 回収結果

施設調査のうち、病院調査の有効回答数（施設数）は 443 件、有効回答率は 44.3%であった。また、診療所調査の有効回答数（施設数）は 295 件、有効回答率は 59.0%であった。

入院患者調査の有効回答数は 1,207 件、精神科デイ・ケア等患者調査の有効回答数（施設数）は 1,089 件であった。

図表 1 回収の状況

	発送数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
①病院調査	1,000	450	45.0%	443	44.3%
②診療所調査	500	299	59.8%	295	59.0%
③入院患者調査	-	1,207	-	1,207	-
④精神科デイ・ケア等患者調査	-	1,153	-	1,089	-

(注)・「④精神科デイ・ケア等患者調査」については、回答票のうち、精神科デイ・ケア等を開始してから 1 年未満のものは有効回答数には含まれていない。

2. 施設調査の結果

【調査対象等】

○施設調査

【調査対象】①病院調査：1) 地域移行機能強化病棟入院料を算定する病院（悉皆、17 施設）、2) 精神科重症患者早期集中支援管理料の届出を行っている病院（悉皆、16 施設）、3) 精神病棟入院基本料、精神療養病棟入院料を算定する病院の中から無作為抽出した病院、これら 1)、2)、3) 合わせて 1,000 施設とした。

②診療所調査：1) 精神科重症患者早期集中支援管理料の届出を行っている診療所（悉皆、5 施設）、2) 精神科デイ・ケア等の届出を行っている診療所の中から無作為抽出した診療所、これら 1)、2) 合わせて 500 施設とした。

回答数：①病院調査 443 施設、②診療所調査 295 施設

回答者：管理者

(1) 病院の概要

①所在地

回答病院の所在地は次のとおりである。

図表 2 所在地

都道府県	施設数(件)	構成割合	都道府県	施設数(件)	構成割合
北海道	30	6.8%	滋賀県	3	0.7%
青森県	9	2.0%	京都府	5	1.1%
岩手県	10	2.3%	大阪府	14	3.2%
宮城県	8	1.8%	兵庫県	14	3.2%
秋田県	9	2.0%	奈良県	0	0.0%
山形県	8	1.8%	和歌山県	6	1.4%
福島県	10	2.3%	鳥取県	1	0.2%
茨城県	8	1.8%	島根県	5	1.1%
栃木県	6	1.4%	岡山県	3	0.7%
群馬県	4	0.9%	広島県	13	2.9%
埼玉県	14	3.2%	山口県	8	1.8%
千葉県	22	5.0%	徳島県	3	0.7%
東京都	32	7.2%	香川県	6	1.4%
神奈川県	15	3.4%	愛媛県	6	1.4%
新潟県	10	2.3%	高知県	12	2.7%
富山県	9	2.0%	福岡県	24	5.4%
石川県	2	0.5%	佐賀県	4	0.9%
福井県	4	0.9%	長崎県	6	1.4%
山梨県	3	0.7%	熊本県	14	3.2%
長野県	10	2.3%	大分県	4	0.9%
岐阜県	5	1.1%	宮崎県	10	2.3%
静岡県	12	2.7%	鹿児島県	14	3.2%
愛知県	15	3.4%	沖縄県	9	2.0%
三重県	4	0.9%	全体	443	100.0%

② 開設者

開設者は次のとおりである。

図表 3 開設者

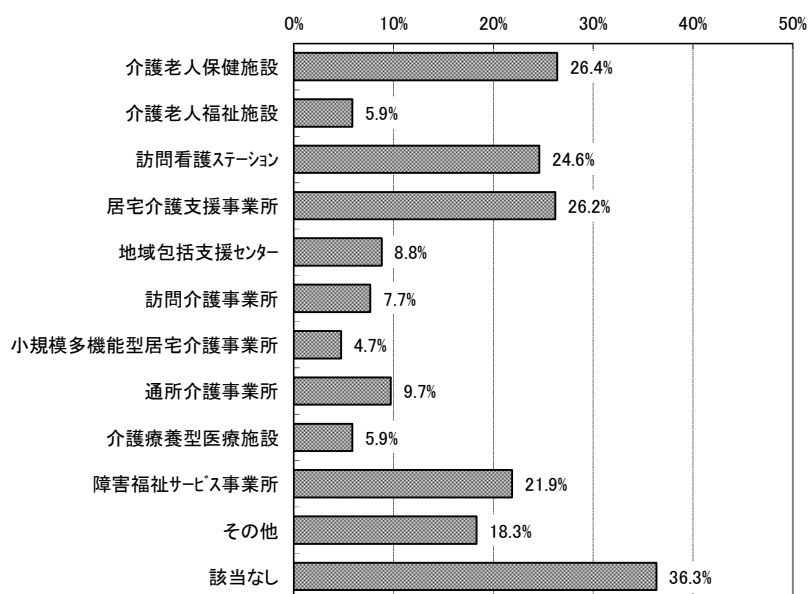
	施設数(件)	構成割合(%)
国	8	1.8
公立	65	14.7
公的	13	2.9
社会保険関係団体	2	0.5
医療法人	311	70.2
個人	4	0.9
学校法人	2	0.5
社会福祉法人	7	1.6
その他	31	7.0
無回答	0	0.0
全体	443	100.0

(注)「その他」の内容として、「一般財団法人」、「公益財団法人」、「一般社団法人」、「企業立法人」等が挙げられた。

③ 同一法人または関連法人が運営する施設・事業所

同一法人または関連法人が運営する施設・事業所は次のとおりである。

図表 4 同一法人または関連法人が運営する施設・事業所（複数回答、n=443）

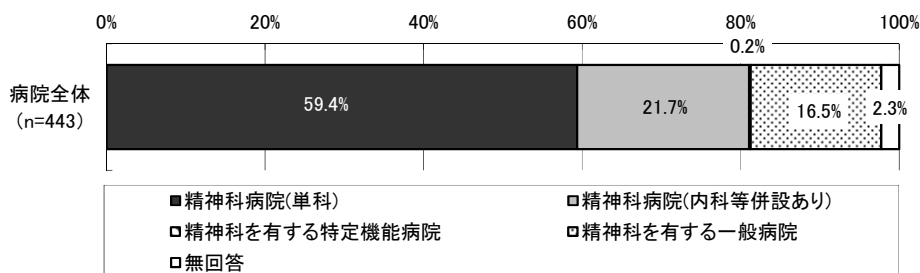


(注)・「その他」の内容として、「共同生活援助（グループホーム）」、「病院・診療所」、「地域活動支援センター」、「特定支援相談事業所」、「認知症対応型共同生活介護事業所」、「介護付き有料老人ホーム」、「宿泊型自立訓練・生活訓練施設」、「精神科グループホーム」等が挙げられた。
・当該項目について無回答はなかった。

④ 病院種別

病院種別をみると、「精神科病院（単科）」が 59.4%、「精神科病院（内科等併設あり）」が 21.7%で両者を合わせた「精神科病院」の割合は 81.1%であった。一方、「精神科を有する特定機能病院」が 0.2%、「精神科を有する一般病院」が 16.5%であった。

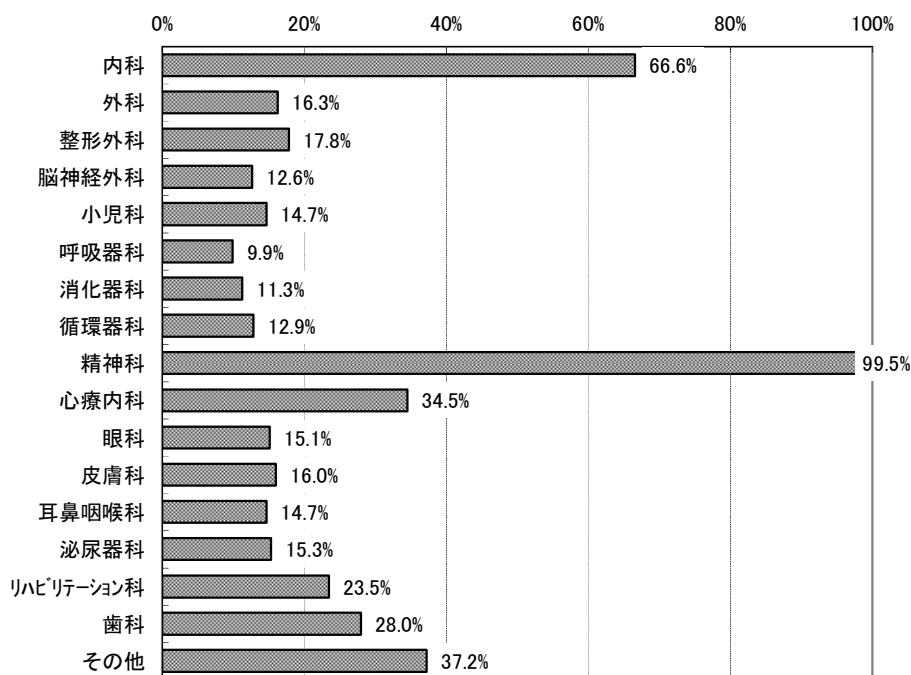
図表 5 病院種別



⑤ 標榜している診療科

標榜している診療科は次のとおりである。

図表 6 標榜している診療科（複数回答、n=443）



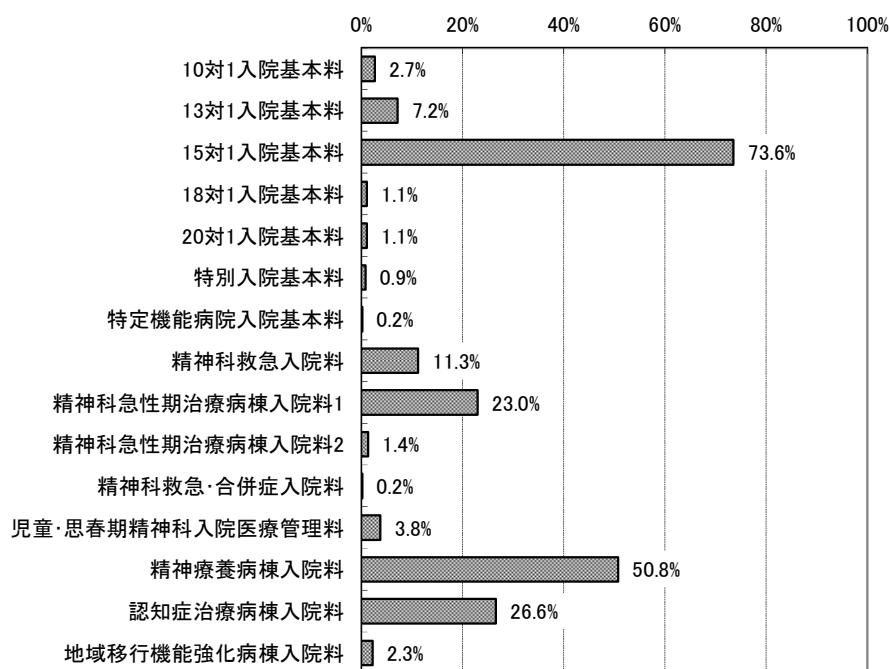
(注) 当該項目について無回答はなかった。

⑥ 届出を行っている精神科病棟の入院基本料等

届出を行っている精神科病棟の入院基本料等をみると、「(精神科病棟) 15 対 1 入院基本料」が 73.6%で最も多く、次いで「精神療養病棟入院料」が 50.8%、「認知症治療病棟入院料」が 26.6%であった。

平成 28 年度診療報酬改定で新設された「地域移行機能強化病棟入院料」は 2.3%であった。

図表 7 届出を行っている精神科病棟の入院基本料等（複数回答、n=443）

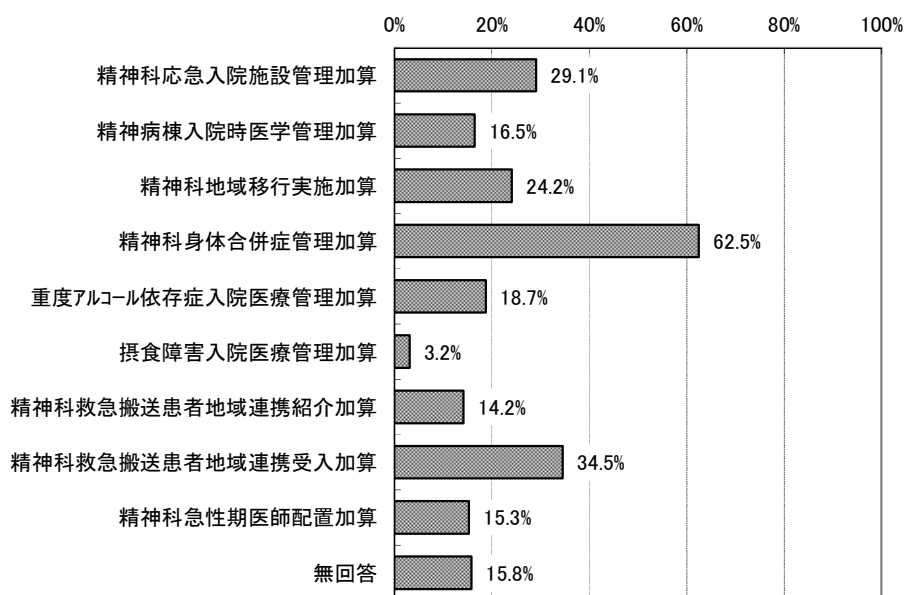


(注) 当該項目について無回答はなかった。

⑦ 届出を行っている入院基本料等加算（精神科）

届出を行っている入院基本料等加算（精神科）をみると、「精神科身体合併症管理加算」が62.5%で最も多く、次いで「精神科救急搬送患者地域連携受入加算」が34.5%、「精神科応急入院施設管理加算」が29.1%であった。

図表 8 届出を行っている入院基本料等加算（精神科）（複数回答、n=443）



⑧ 病院全体の許可病床数

1) 病院全体の病棟数

平成 27 年 9 月及び平成 28 年 9 月の病院 1 施設あたりの病棟数は次のとおりであり、大きな変化はみられなかった。

図表 9 病院全体の病棟数（n=440）

（単位：棟）

		一般病床	療養病床	精神病床	感染症病床	結核病床	全体
平成 27 年 9 月	平均値	1.36	0.29	4.07	0.06	0.05	5.83
	標準偏差	3.85	0.84	2.27	0.24	0.21	4.00
	中央値	0.00	0.00	4.00	0.00	0.00	5.00
平成 28 年 9 月	平均値	1.35	0.30	4.05	0.06	0.06	5.82
	標準偏差	3.82	0.84	2.25	0.24	0.39	3.99
	中央値	0.00	0.00	4.00	0.00	0.00	5.00

（注）平成 27 年 9 月及び平成 28 年 9 月の病院全体の病棟数について記入のあった 440 施設を集計対象とした。

2) 病院全体の許可病床数

平成27年9月及び平成28年9月の病院1施設あたりの許可病床数は次のとおりであり、大きな変化はみられなかった。

図表 10 病院全体の許可病床数 (n=443)

(単位：床)

		一般病床	療養病床	精神病床	感染症病床	結核病床	全体
平成27年 9月	平均値	55.4	13.9	218.8	0.3	0.5	288.9
	標準偏差	146.8	41.9	127.1	1.4	2.6	157.6
	中央値	0.0	0.0	202.0	0.0	0.0	248.0
平成28年 9月	平均値	55.0	14.1	217.6	0.3	0.4	287.3
	標準偏差	146.2	41.9	126.0	1.4	2.4	156.5
	中央値	0.0	0.0	200.0	0.0	0.0	248.0

⑨ 病棟数・許可病床数・病床利用率・平均在院日数

1) 病棟数

1施設あたりの精神病床全体の病棟数は次のとおりであり、大きな変化はみられなかった。

平成28年度診療報酬改定で新設された地域移行機能強化病棟入院料の病棟数は、届出施設が少ないため、平均で見ると0.02病棟であった。

図表 11 1施設あたりの病棟数 (n=442)

(単位：棟)

	平成27年9月			平成28年9月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神病床全体	4.06	2.28	4.00	4.04	2.26	4.00
地域移行機能強化病棟入院料				0.02	0.15	0.00
精神病棟入院基本料 15対1	1.62	1.71	1.00	1.62	1.66	1.00
精神療養病棟入院料	1.12	1.41	0.00	1.08	1.39	0.00
認知症治療病棟入院料	0.33	0.63	0.00	0.33	0.64	0.00
その他の精神科病棟	1.00	1.33	1.00	0.99	1.33	1.00

(注) 平成27年9月及び平成28年9月の病院全体の病棟数について記入のあった442施設を集計対象とした。

2) 届出病床数

1 施設あたりの精神病床全体の届出病床数は次のとおりであり、大きな変化はみられなかった。

平成 28 年度診療報酬改定で新設された地域移行機能強化病棟入院料の届出病床数は、届出施設が少ないため、1 施設あたりで見ると平均 1.3 床（標準偏差 8.5、中央値 0.0）であった。

図表 12 1 施設あたりの届出病床数

(単位：床)

	平成 27 年 9 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
精神病床全体	218.8	127.1	202.0	217.6	126.0	200.0
地域移行機能強化病棟入院料				1.3	8.5	0.0
精神病棟入院基本料 15 対 1	89.1	96.7	60.0	88.9	93.6	60.0
精神療養病棟入院料	62.2	79.6	0.0	60.1	77.9	0.0
認知症治療病棟入院料	17.3	34.5	0.0	17.7	35.0	0.0
その他の精神科病棟	50.1	70.6	34.0	49.4	70.8	33.0

(注)「精神病床全体」については平成 27 年 9 月及び平成 28 年 9 月について記入のあった 443 施設を集計対象とした。また、各病棟の内訳については平成 27 年 9 月及び平成 28 年 9 月について記入のあった 441 施設を集計対象とした。

3) 病床利用率

病床利用率は次のとおりであり、大きな変化はみられなかった。

地域移行機能強化病棟入院料がある 8 施設では、平成 28 年 9 月の病床利用率は平均 95.0%（標準偏差 3.5、中央値 94.8）であった。

図表 13 病床利用率

(単位：%)

	平成 27 年 9 月				平成 28 年 9 月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
精神病床全体	397	86.0	14.1	90.0	401	85.8	14.6	90.0
地域移行機能強化病棟入院料					8	95.0	3.5	94.8
精神病棟入院基本料 15 対 1	280	86.2	13.0	89.0	286	86.0	13.4	89.5
精神療養病棟入院料	209	93.3	7.3	95.2	209	93.1	7.2	95.6
認知症治療病棟入院料	109	90.9	10.0	94.8	111	91.5	9.7	94.0

(注) 各病棟のある施設で、記入のあった施設を集計対象とした。

4) 平均在院日数

平均在院日数をみると、精神病床全体は平成 27 年 9 月が平均 374.1 日（中央値 276.5）で、平成 28 年 9 月が平均 354.0 日（中央値 266.0）であり、精神病床全体では平均在院日数が短くなっている。

地域移行機能強化病棟入院料の 7 施設では、平成 28 年 9 月の平均在院日数は平均 706.5 日（中央値 433.0）であり、精神病棟入院基本料 15 対 1 よりは長く、精神療養病棟入院料よりは短かった。

図表 14 平均在院日数

(単位：日)

	平成 27 年 9 月				平成 28 年 9 月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
精神病床全体	392	374.1	412.2	276.5	395	354.0	364.6	266.0
地域移行機能強化病棟入院料					7	706.5	651.2	433.0
精神病棟入院基本料 15 対 1	274	389.7	362.2	281.6	280	400.3	624.3	271.8
精神療養病棟入院料	203	1,131.4	1,238.4	698.0	204	1,111.0	1,477.3	707.1
認知症治療病棟入院料	106	462.0	409.7	368.0	109	501.5	494.1	342.0

(注) 各病棟のある施設で、記入のあった施設を集計対象とした。

(2) 診療所の概要

① 所在地

回答診療所の所在地は次のとおりである。

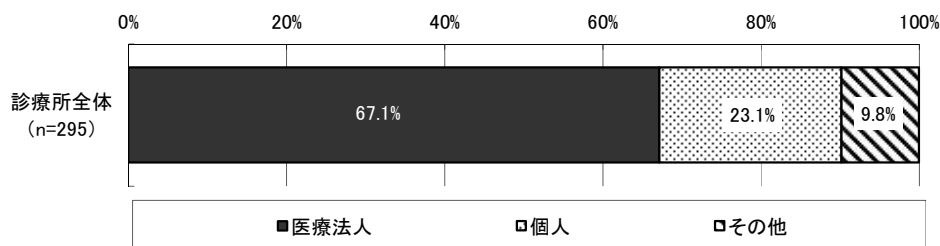
図表 15 所在地

都道府県	施設数 (件)	構成割合 (%)	都道府県	施設数 (件)	構成割合 (%)
北海道	13	4.4	滋賀県	3	1.0
青森県	2	0.7	京都府	7	2.4
岩手県	2	0.7	大阪府	33	11.2
宮城県	4	1.4	兵庫県	6	2.0
秋田県	3	1.0	奈良県	2	0.7
山形県	1	0.3	和歌山県	1	0.3
福島県	6	2.0	鳥取県	0	0.0
茨城県	6	2.0	島根県	0	0.0
栃木県	3	1.0	岡山県	5	1.7
群馬県	6	2.0	広島県	7	2.4
埼玉県	17	5.8	山口県	0	0.0
千葉県	13	4.4	徳島県	2	0.7
東京都	39	13.2	香川県	2	0.7
神奈川県	22	7.5	愛媛県	2	0.7
新潟県	2	0.7	高知県	1	0.3
富山県	2	0.7	福岡県	20	6.8
石川県	0	0.0	佐賀県	4	1.4
福井県	0	0.0	長崎県	4	1.4
山梨県	1	0.3	熊本県	4	1.4
長野県	5	1.7	大分県	2	0.7
岐阜県	1	0.3	宮崎県	2	0.7
静岡県	7	2.4	鹿児島県	4	1.4
愛知県	17	5.8	沖縄県	9	3.1
三重県	3	1.0	全体	295	100.0

② 開設者

開設者は次のとおりである。

図表 16 開設者

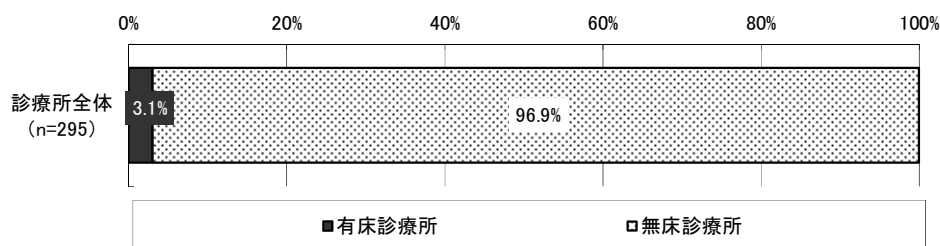


(注) 「その他」の内容として、「公益財団法人」、「生活協同組合」等が挙げられた。

③ 診療所種別

診療所種別は次のとおりである。

図表 17 診療所種別



図表 18 許可病床数（有床診療所、n=9）

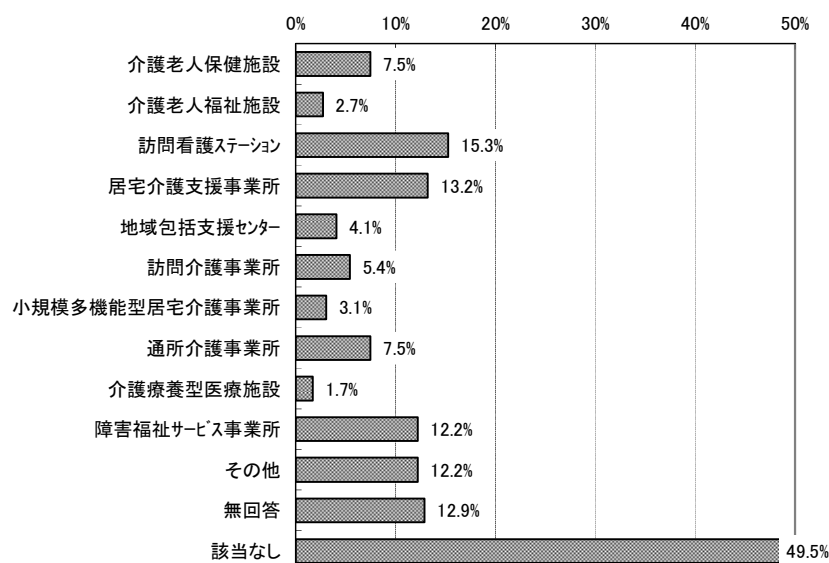
（単位：床）

	平均値	標準偏差	中央値
一般病床	11.8	8.0	15.0
療養病床	6.8	8.3	1.0
（うち）介護療養病床	1.3	4.0	0.0
全体	18.6	1.3	19.0

④ 同一法人または関連法人が運営する施設・事業所

同一法人または関連法人が運営する施設・事業所は次のとおりである。

図表 19 同一法人または関連法人が運営する施設・事業所（複数回答、n=295）

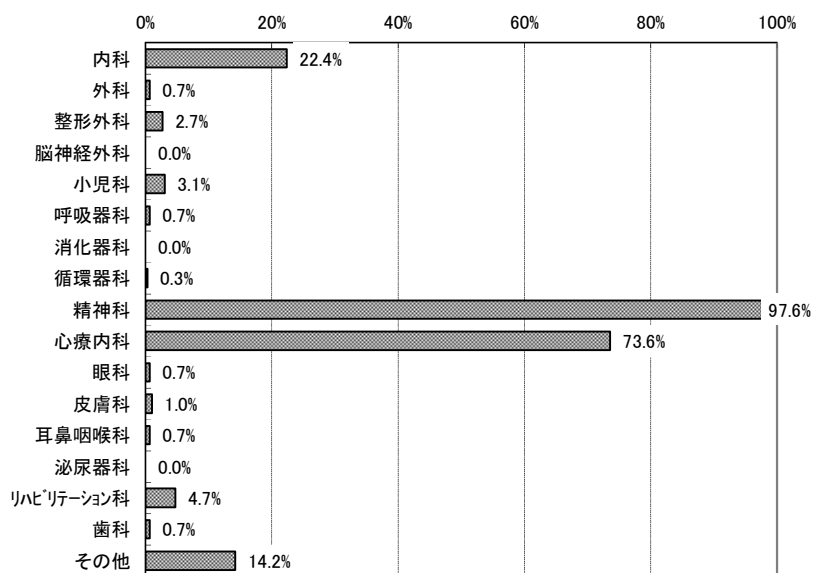


（注）「その他」の内容として、「精神病院」、「一般病院」、「診療所」、「精神障害者グループホーム」、「通所リハビリテーション」、「サービス付き高齢者向け住宅」等が挙げられた。

⑤ 標榜している診療科

標榜している診療科は次のとおりである。

図表 20 標榜している診療科（複数回答、n=295）



(注) 当該項目について無回答はなかった。

(3) 病院における精神科病棟の体制等

① 精神科病棟に従事している職員数

1 施設あたりの精神科病棟に従事している職員数は次のとおりである。

図表 21 精神科病棟に従事している職員数（常勤換算）（n=431）

（単位：人）

	平成 27 年 9 月			平成 28 年 9 月		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1) 医師	8.5	6.1	7.3	8.6	6.2	7.4
(うち)精神保健指定医	5.4	3.5	4.8	5.5	3.6	4.9
(うち)精神科特定医師	0.3	1.0	0.0	0.4	1.0	0.0
(うち)上記以外の精神科医	1.7	2.1	1.0	1.7	2.3	1.0
(うち)精神科以外の医師	1.1	2.5	0.3	1.2	2.6	0.3
2) 看護師(保健師を含む)	50.4	38.0	38.8	51.7	38.9	39.8
(うち)精神看護専門看護師*	0.1	0.4	0.0	0.1	0.4	0.0
(うち)認知症看護認定看護師*	0.1	0.3	0.0	0.1	0.3	0.0
(うち)精神科認定看護師**	0.3	0.9	0.0	0.4	1.0	0.0
3) 准看護師	23.3	18.1	21.6	22.8	17.7	21.0
4) 看護補助者	26.1	20.8	22.5	25.5	20.3	22.0
5) 薬剤師	2.3	2.9	2.0	2.3	2.9	2.0
6) 作業療法士	4.9	4.6	4.0	5.1	4.8	4.0
7) 臨床心理技術者	1.5	2.0	1.0	1.6	2.0	1.0
8) 精神保健福祉士	4.9	4.1	4.0	5.0	4.2	4.0
9) 社会福祉士(上記 8)を除く)	0.1	0.5	0.0	0.1	0.5	0.0
10) 事務職員	7.0	8.0	5.0	7.1	8.0	5.0
11) その他の職員	9.9	13.5	3.6	9.8	13.6	3.1
12) 職員数合計	138.9	84.8	125.3	139.6	85.6	125.0

(注)・平成 27 年 9 月及び平成 28 年 9 月の精神科病棟に従事している職員数（うち数を除く）について記入のあった 431 施設を集計対象とした。

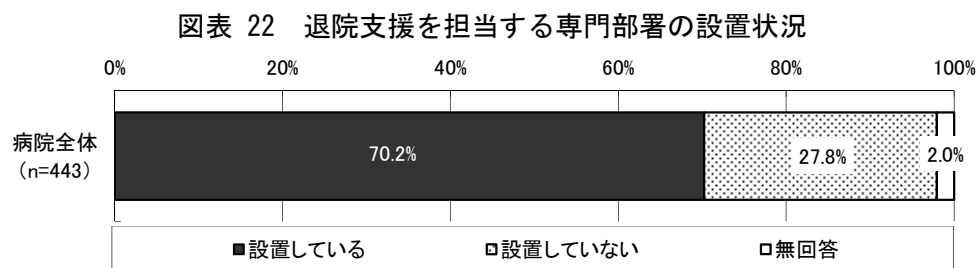
・常勤換算については、以下の方法で算出した。

- 1 週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 週間の勤務時間) ÷ (施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間)
- 1 か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の 1 か月の勤務時間) ÷ (施設が定めている常勤職員の 1 週間の勤務時間×4)

・* 日本看護協会の認定した者 ** 日本精神科看護協会の認定した者

② 退院支援を担当する専門部署の設置状況

退院支援を担当する専門部署の設置状況を見ると、「設置している」が70.2%、「設置していない」が27.8%であった。



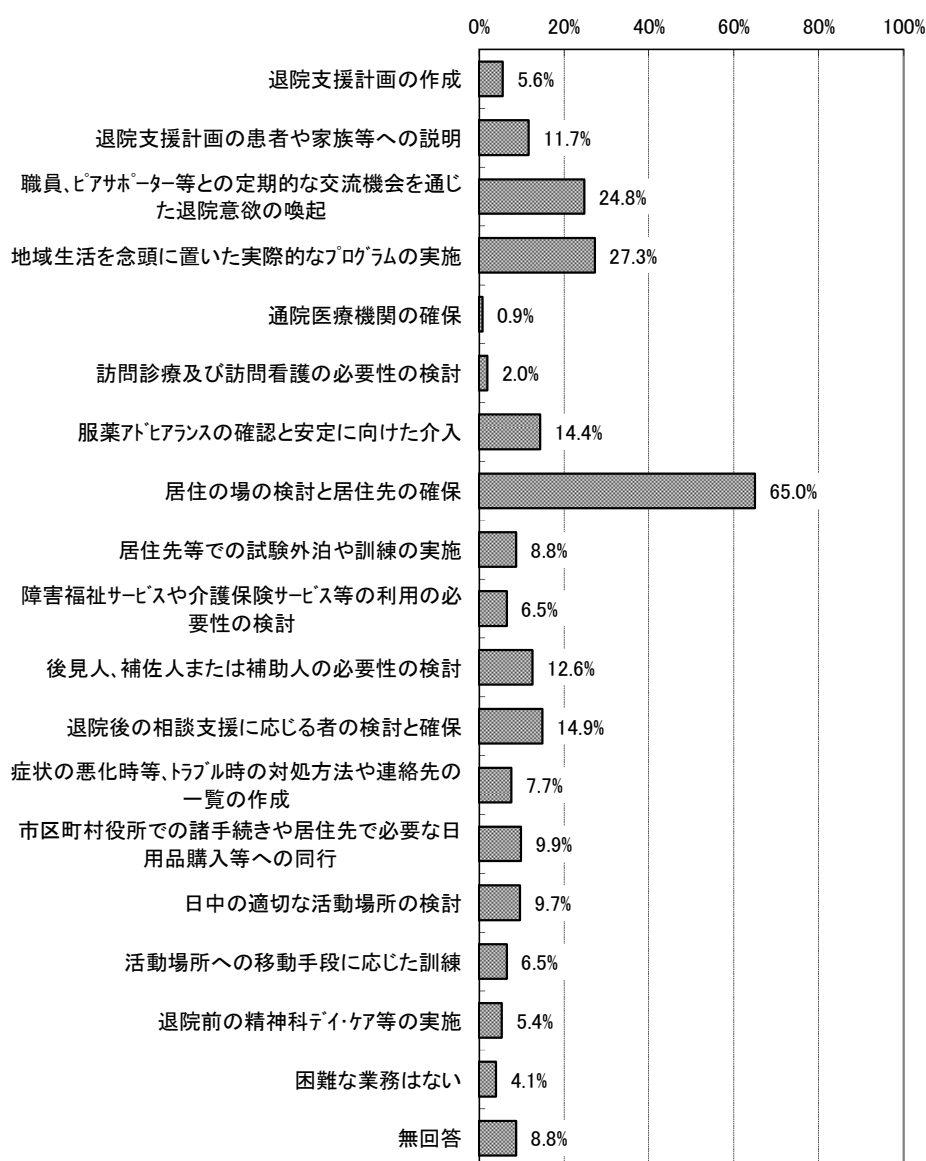
- (注) ・「退院支援」とは関係職種によって退院支援計画の作成、退院先の検討、退院後の必要なサービスの紹介等を行うことを指す。
 ・「退院支援を担当する専門部署」については、「地域移行推進室」等の名称は問わない。

③ 特に困難な退院支援業務等

特に困難な退院支援業務等を尋ねたところ、最も多かったのは「居住の場の検討と居住先の確保」で 65.0%であった。次いで「地域生活を念頭に置いた実際的なプログラムの実施」(27.3%)、「職員、ピアサポーター等との定期的な交流機会を通じた退院意欲の喚起」(24.8%)、「退院後の相談支援に応じる者の検討と確保」(14.9%)、「服薬アドヒアランスの確認と安定に向けた介入」(14.4%)、「後見人、補佐人または補助人の必要性の検討」(12.6%)、「退院支援計画の患者や家族等への説明」(11.7%)であった。

なお、「困難な業務はない」との回答は 4.1%であった。

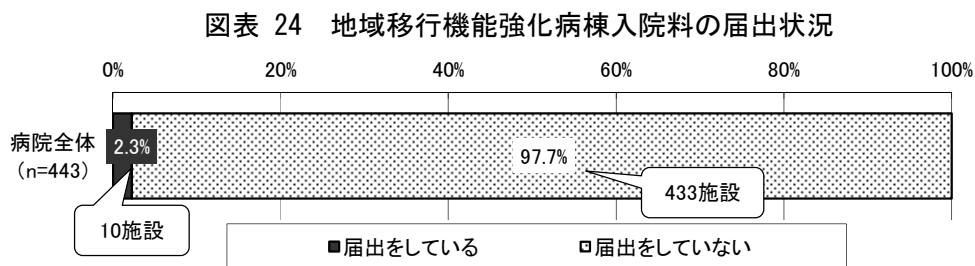
図表 23 特に困難な退院支援業務等（複数回答、最大3つまで、n=443）



(4) 病院の地域移行機能強化病棟における取組状況

① 地域移行機能強化病棟入院料の届出状況

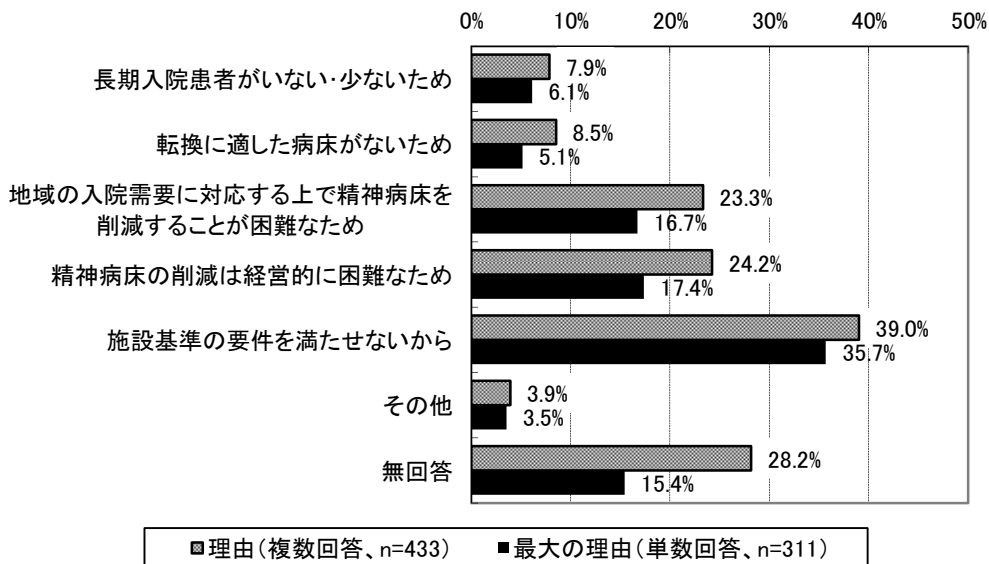
地域移行機能強化病棟入院料の届出状況を見ると、「届出をしている」は2.3% (10 施設)、「届出をしていない」が97.7%であった。



② 地域移行機能強化病棟入院料の届出をしていない理由

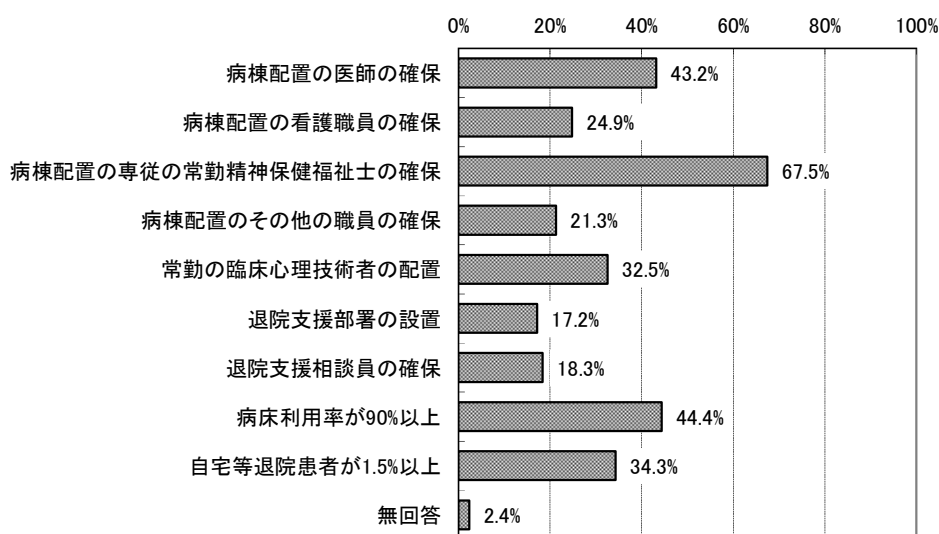
地域移行機能強化病棟入院料の届出をしていない理由を見ると、「施設基準の要件を満たせないから」が39.0%で最も多く、次いで「精神病床の削減は経営的に困難なため」(24.2%)、「地域の入院需要に対応する上で精神病床を削減することが困難なため」(23.3%)であった。最大の理由についても、同じ順位であった。

図表 25 地域移行機能強化病棟入院料の届出をしていない理由 (届出をしていない施設)



地域移行機能強化病棟入院料の届出をしていない理由で「施設基準の要件を満たせないから」を回答した施設に満たせない要件を尋ねたところ、「病棟配置の専従の常勤精神保健福祉士の確保」が67.5%で最も多く、次いで「病床利用率が90%以上」(44.4%)、「病棟配置の医師の確保」(43.2%)、「自宅等退院患者が1.5%以上」(34.3%)、「常勤の臨床心理技術者の配置」(32.5%)であった。

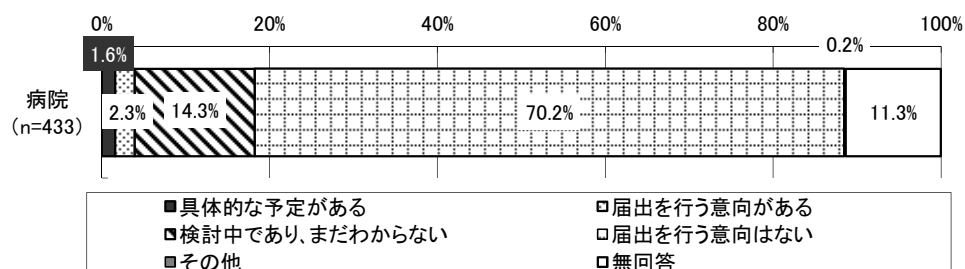
図表 26 満たせない施設基準の要件
 (「施設基準の要件を満たせないから」と回答した施設、複数回答、n=169)



③ 今後、地域移行機能強化病棟入院料の届出を行う意向

今後、地域移行機能強化病棟入院料の届出を行う意向を尋ねたところ、「具体的な予定がある」が1.6% (7施設)、「届出を行う意向がある」が2.3% (10施設)、「検討中であり、まだわからない」が14.3% (62施設)であった。また、「届出を行う意向はない」が70.2%であった。

図表 27 今後、地域移行機能強化病棟入院料の届出を行う意向 (届出をしていない施設)



(注) 「具体的な予定がある」と回答した7施設における届出の予定時期は、「平成28年10月」が2施設、「平成29年1月」が2施設、「平成29年4月」が1施設、「平成29年10月」が1施設、無回答が1施設であった。

図表 28 地域移行機能強化病棟入院料の届出をしようと思う状況
 (「届出を行う意向がある」「検討中であり、まだわからない」と回答した施設、自由記述式)

- 人員の確保
 - ・専従の精神保健福祉士の確保。
 - ・医師の確保。
 - ・常勤の臨床心理技術者が確保できれば検討可能。 /等
- 退院患者数に関する要件の変更・緩和
 - ・自宅等への退院に介護付き有料老人ホーム、住宅型有料老人ホームへの移行が含まれることになれば届出をしようとする。
 - ・1 か月あたりの退院患者数に関する要件の緩和。 /等
- 病床削減に関する要件の変更・緩和
 - ・1 年あたり届出病床数の5分の1の病床削減が条件となっており、緩和されることがあれば届出を考慮する。
 - ・精神病床の削減の必須がなくなれば検討しようと思う。 /等
- その他
 - ・病床削減後の収支悪化に対する具体的対策・方向性の決定。
 - ・既存の看護職員の減少後の配置計画の整備。
 - ・精神病棟入院基本料までの診療報酬アップ。
 - ・病床削減時に必要な地域での受入先の確保。
 - ・地域移行した後の病棟の再利用の方針決定。 /等

④ 地域移行機能強化病棟入院料の届出時期

地域移行機能強化病棟入院料の届出施設 10 施設における届出時期をみると、「4 月」が 2 施設 (20.0%)、「5 月」が 1 施設 (10.0%)、「6 月」が 1 施設 (10.0%)、「8 月」が 2 施設 (20.0%)、「9 月」が 4 施設 (40.0%) であった。

図表 29 地域移行機能強化病棟入院料の届出時期 (届出施設)

	施設数(件)	構成割合
4 月	2	20.0%
5 月	1	10.0%
6 月	1	10.0%
7 月	0	0.0%
8 月	2	20.0%
9 月	4	40.0%
全体	10	100.0%

⑤ 地域移行機能強化病棟に転換した病床種別

地域移行機能強化病棟に転換した病床種別をみると、「15 対 1 入院基本料」が 2 施設 (20.0%)、「精神療養病棟入院料」が 8 施設 (80.0%) であった。

図表 30 地域移行機能強化病棟に転換した病床種別 (届出施設)

	施設数(件)	構成割合
10 対 1 入院基本料	0	0.0%
13 対 1 入院基本料	0	0.0%
15 対 1 入院基本料	2	20.0%
18 対 1 入院基本料	0	0.0%
20 対 1 入院基本料	0	0.0%
特別入院基本料	0	0.0%
特定機能病院入院基本料	0	0.0%
精神科救急入院料	0	0.0%
精神科急性期治療病棟入院料 1	0	0.0%
精神科急性期治療病棟入院料 2	0	0.0%
精神科救急・合併症入院料	0	0.0%
児童・思春期精神科入院医療管理料	0	0.0%
精神療養病棟入院料	8	80.0%
認知症治療病棟入院料	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
全体	10	100.0%

⑥ 地域移行機能強化病棟入院料の届出に際しての精神病床削減計画

地域移行機能強化病棟入院料の届出に際しての精神病床削減計画の内容は次のとおりである。

図表 31 地域移行機能強化病棟入院料の届出に際しての精神病床削減計画 (届出施設)

- ・平成 29 年 3 月までに精神病床 6 床を削減予定 (A 病院)
- ・平成 29 年 4 月までに精神病床 11 床を削減予定 (B 病院)
- ・平成 29 年 5 月までに精神病床 8 床を削減予定 (C 病院)
- ・平成 29 年 7 月までに精神病床 12 床を削減予定 (D 病院、E 病院、F 病院)
- ・平成 29 年 8 月までに精神病床 12 床を削減予定 (G 病院、H 病院)
- ・平成 29 年 9 月までに精神病床 12 床を削減予定 (I 病院)
- ・平成 31 年 3 月までに精神病床 58 床を削減予定 (J 病院)

⑦ 地域移行機能強化病棟入院料届出に際しての精神病床の許可病床数の変更の有無

地域移行機能強化病棟入院料届出に際しての精神病床の許可病床数の変更の有無をみると、「変更を行った」が5施設（50.0%）、「変更を行っていない」が5施設（50.0%）であった。

精神病床の許可病床数の変更を行った5施設の病床削減数については、「5床」が1施設、「6床」が1施設、「10床」が2施設、「21床」が1施設であった。

図表 32 地域移行機能強化病棟入院料届出に際しての精神病床の許可病床数の変更の有無（届出施設）

	施設数(件)	構成割合
変更を行った	5	50.0%
変更を行っていない	5	50.0%
全体	10	100.0%

⑧ 地域移行機能強化病棟の退院支援相談員の人数

地域移行機能強化病棟の退院支援相談員の人数をみると、「精神保健福祉士」が平均 2.8 人（中央値 3.0）、「保健師・看護師・准看護師」が平均 1.3 人（中央値 0.0）、「作業療法士」が平均 0.2 人（中央値 0.0）、社会福祉士が平均 0.1 人（中央値 0.0）であった。

1施設あたりの合計は平均 4.4 人（中央値 3.0）であった。

図表 33 地域移行機能強化病棟の退院支援相談員の人数（届出施設、n=10）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
1)精神保健福祉士	2.8	0.4	3.0
2)保健師・看護師・准看護師	1.3	4.1	0.0
(うち)精神障害者に関する業務に従事した経験を3年以上有する職員	1.3	4.1	0.0
3)作業療法士	0.2	0.4	0.0
(うち)精神障害者に関する業務に従事した経験を3年以上有する職員	0.1	0.3	0.0
4)社会福祉士(上記1)2)3)を除く)	0.1	0.3	0.0
(うち)精神障害者に関する業務に従事した経験を3年以上有する職員	0.0	0.0	0.0
5)その他	0.0	0.0	0.0
合計	4.4	4.4	3.0

⑨ 退院支援委員会の開催頻度

退院支援委員会の開催頻度をみると、「1 か月に 1 回程度」が 5 施設（50.0%）、「週に数回」が 4 施設（40.0%）、「1 週間に 1 回程度」が 1 施設（10.0%）であった。

図表 34 退院支援委員会の開催頻度（届出施設）

	施設数(件)	構成割合
週に数回	4	40.0%
1 週間に 1 回程度	1	10.0%
2 週間に 1 回程度	0	0.0%
3 週間に 1 回程度	0	0.0%
1 か月に 1 回程度	5	50.0%
その他	0	0.0%
全体	10	100.0%

⑩ 退院支援業務等の実施のタイミング

退院支援業務等の実施のタイミングをみると、「病棟入棟時には既に実施済みであることが多い」という施設が多かったのは、「服薬アドヒアランスの確認と安定に向けた介入」（10 施設中 6 施設）であった。多くの業務が「病棟入棟後に実施することが多い」という回答であった。特に、「退院支援計画の作成」、「活動場所への移動手段に応じた訓練」では 10 施設中 9 施設が「病棟入棟後に実施することが多い」であった。

図表 35 退院支援業務等の実施のタイミング（届出施設）

（単位：上段「件」、下段「%」）

	入棟時には既に実施済みであることが多い	入棟後に実施することが多い	入棟前実施と入棟後実施が同じくらい	実施していない	無回答
1) 退院支援計画の作成	0 0.0	9 90.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0
2) 退院支援計画の患者や家族等への説明	1 10.0	8 80.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0
3) 保健所、指定特定・一般相談支援事業所の職員、障害福祉サービス事業者の職員、ピアサポーター等との定期的な交流機会を通じた退院意欲の喚起	3 30.0	3 30.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0
4) 地域生活を念頭に置いた実際的なプログラムの実施（家事能力や服薬管理等、日常生活に必要な能力を習得する訓練や外出等）	2 20.0	5 50.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0
5) 通院医療機関の確保	2 20.0	7 70.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0
6) 訪問診療及び訪問看護の必要性の検討	2 20.0	7 70.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0
7) 服薬アドヒアランスの確認と安定に向けた介入	6 60.0	2 20.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0
8) 居住の場の検討と居住先の確保	3 30.0	5 50.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0
9) 居住先等での試験外泊や訓練の実施	2 20.0	7 70.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0
10) 障害福祉サービスや介護保険サービス等の利用の必要性の検討	2 20.0	5 50.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0
11) 後見人、補佐人または補助人の必要性の検討	2 20.0	5 50.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0
12) 退院後の相談支援に応じる者の検討と確保	2 20.0	3 30.0	5 50.0	0 0.0	0 0.0
13) 症状の悪化時等、トラブル時の対処方法や連絡先の一覧の作成	2 20.0	7 70.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0
14) 市区町村役所での諸手続きや居住先で必要な日用品購入等への同行	2 20.0	7 70.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0
15) 日中の適切な活動場所の検討	4 40.0	5 50.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0
16) 活動場所への移動手段に応じた訓練	1 10.0	9 90.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
17) 退院前の精神科デイ・ケア等の実施	1 10.0	8 80.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0

その他に実施している退院支援業務等として、以下が挙げられた。

図表 36 その他に実施している退院支援業務等（届出施設、自由記述式）

- ・退院支援委員会を含むケア会議等への地域支援者招請。
- ・ピアスタッフと協働しての集団外出計画、実施。
- ・退院阻害要因のとりまとめと自立支援協議会（退院支援部会）への提言。
- ・退院準備プログラムとして退院後の単身生活において必要な生活スキル（衣食住、金銭管理など）や疾病管理を人数限定のグループワークで実施。退院後のサポートグループワークとして当該病棟退院者で同じ外来日（同じ主治医のため）の来院時に茶話会を中心としたグループワークを実施。いずれ入院者の参加を検討。

⑪ 入院・入棟患者数

平成 28 年 9 月 1 か月間に地域移行機能強化病棟に新たに入院・入棟した患者数は、1 施設あたり平均 4.5 人（中央値 4.0）であった。このうち、「自院の精神病棟入院基本料（15 対 1）算定病棟から転棟した患者」が平均 2.2 人（中央値 1.0）で最も多かった。

図表 37 平成 28 年 9 月 1 か月間に地域移行機能強化病棟に新たに入院・入棟した患者数
（届出施設、n=10）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
地域移行機能強化病棟入院料算定病床における新規入院・入棟患者数	4.5	3.1	4.0
（うち）自院の精神療養病棟から転棟した患者数	0.6	1.1	0.0
（うち）自院の精神病棟入院基本料(15対1)算定病棟から転棟した患者数	2.2	2.6	1.0
（うち）自院の認知症治療病棟から転棟した患者数	0.1	0.3	0.0
（うち）自院の上記以外の病床から転棟した患者数	0.6	0.8	0.0
（うち）他院から転院した患者数	0.1	0.3	0.0
（うち）自宅等、医療機関以外から入院した患者数	0.9	2.2	0.0

【参考】地域移行機能強化病棟の届出病床数（届出施設、n=10）

（単位：床）

平均値	標準偏差	中央値
56.8	6.3	60.0

⑫ 退院・転院患者数

平成 28 年 9 月 1 か月間に地域移行機能強化病棟から退院した患者数は、1 施設あたり平均 3.4 人（中央値 3.0）であった。このうち、「入院期間が 1 年超の退院患者数」は平均 2.2 人（中央値 2.5）であった。退院先をみると、「自宅・賃貸住宅に退院した退院患者数」が平均 1.6 人（中央値 1.5）で最も多かった。

図表 38 平成 28 年 9 月 1 か月間に地域移行機能強化病棟から退院した患者数
（届出施設、n=10）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
地域移行機能強化病棟入院料算定病床における退院患者数	3.4	1.6	3.0
（うち）入院期間が 1 年超の退院患者数	2.2	1.0	2.5
（うち）自宅・賃貸住宅に退院した退院患者数	1.6	1.3	1.5
（うち）退院し、グループホーム・ケアホームに入所した退院患者数	0.8	1.1	0.0
（うち）退院し、認知症対応型共同生活介護に入所した退院患者数	0.3	0.9	0.0
（うち）退院し、介護保険施設に入所した退院患者数	0.4	0.7	0.0
（うち）退院し、有料老人ホーム・サ高住に入所した退院患者数	0.3	0.7	0.0

平成 28 年 9 月 1 か月間に地域移行機能強化病棟から転院した患者数は、1 施設あたり平均 0.3 人（中央値 0.0）であった。このうち、「入院期間が 1 年超の転院患者」は平均 0.3 人（中央値 0.0）であった。

図表 39 平成 28 年 9 月 1 か月間に地域移行機能強化病棟から転院した患者数
（届出施設、n=10）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
地域移行機能強化病棟入院料算定病床における転院患者数	0.3	0.5	0.0
（うち）入院期間が 1 年超の転院患者数	0.3	0.5	0.0

⑬ 病床削減後に実施したいサービス・事業

病床削減後に実施したいサービス・事業は次のとおりであった。

図表 40 病床削減後に実施したいサービス・事業（届出施設、複数回答、n=10）

	施設数(件)	構成割合(%)
精神科救急・急性期病床	4	40.0
重度かつ慢性等の精神障害者に医療を提供する病床	1	10.0
精神科外来	0	0.0
精神科デイケア等	0	0.0
訪問診療	1	10.0
訪問看護	0	0.0
短期入所療養介護	0	0.0
介護老人保健施設	1	10.0
介護老人福祉施設	0	0.0
軽費老人ホーム	0	0.0
養護老人ホーム	0	0.0
有料老人ホーム	0	0.0
サ高住	1	10.0
認知症高齢者グループホーム	0	0.0
その他介護サービス	0	0.0
居宅介護	0	0.0
重度訪問介護	1	10.0
行動援護	1	10.0
生活介護	1	10.0
重度障害者等包括支援	1	10.0
自立訓練(機能訓練)	0	0.0
自立訓練(生活訓練)	1	10.0
宿泊型自立訓練	0	0.0
就労移行支援	1	10.0
就労継続支援 A 型	1	10.0
就労継続支援 B 型	0	0.0
相談支援	1	10.0
共同生活援助	2	20.0
短期入所	1	10.0
その他障害福祉サービス	0	0.0
無回答	0	0.0
特になし	2	20.0
全体	10	100.0

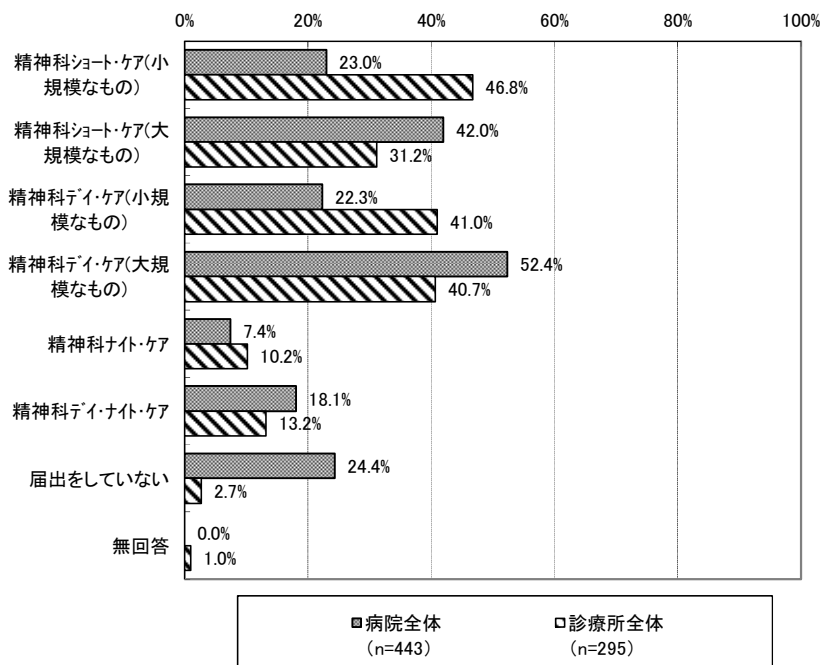
(5) 精神科デイ・ケア等の取組状況

① 届出を行っている精神科デイ・ケア等

届出を行っている精神科デイ・ケア等をみると、病院では「精神科デイ・ケア（大規模なもの）」が52.4%で最も多く、次いで「精神科ショート・ケア（大規模なもの）」(42.0%)であった。

また、診療所では「精神科ショート・ケア（小規模なもの）」が46.8%で最も多く、次いで「精神科デイ・ケア（小規模なもの）」(41.0%)、「精神科デイ・ケア（大規模なもの）」(40.7%)であった。

図表 41 精神科デイ・ケア等の届出状況（複数回答）



② 精神科デイ・ケア等に従事している職員数（実人数）

精神科デイ・ケア等に従事している職員数（実人数）の平均をみると、病院では、平成28年9月は専従職員数が合計5.72人、専任が5.23人であった。医師では専従よりも専任が多く、看護師・准看護師、作業療法士、精神保健福祉士では専任よりも専従が多かった。平成27年9月と比較すると、専任の職員数が若干増加した。

診療所では、平成28年9月は専従職員数が合計5.10人、専任が3.57人であった。医師では専従よりも専任が多く、看護師・准看護師、精神保健福祉士では専任よりも専従が多かった。平成27年9月と比較すると、専従・専任の職員数が若干増加した。

図表 42 精神科デイ・ケア等に従事している職員数（実人数）（平均値、n=328）【病院】

（単位：人）

	平成27年9月		平成28年9月	
	専従	専任	専従	専任
1) 医師	0.07	2.60	0.07	2.69
2) 看護師・准看護師	2.20	0.78	2.22	0.83
3) 作業療法士	1.21	0.49	1.19	0.52
4) 精神保健福祉士	1.14	0.53	1.14	0.55
5) 社会福祉士(上記4)を除く)	0.02	0.00	0.02	0.00
6) 臨床心理技術者(上記4)5)を除く)	0.49	0.42	0.49	0.49
7) 看護補助者	0.44	0.08	0.41	0.08
8) その他	0.16	0.07	0.18	0.06
9) 合計	5.73	4.98	5.72	5.23

(注) 精神科デイ・ケア等の届出をしている病院のうち、平成27年9月、平成28年9月の職員数について記入のあった328施設を集計対象とした。

図表 43 精神科デイ・ケア等に従事している職員数（実人数）（平均値）【診療所】

（単位：人）

	平成27年9月		平成28年9月	
	専従	専任	専従	専任
1) 医師	0.38	1.63	0.39	1.68
2) 看護師・准看護師	1.59	0.67	1.63	0.69
3) 作業療法士	0.55	0.08	0.58	0.07
4) 精神保健福祉士	1.05	0.46	1.09	0.45
5) 社会福祉士(上記4)を除く)	0.04	0.01	0.04	0.00
6) 臨床心理技術者(上記4)5)を除く)	0.75	0.50	0.79	0.52
7) 看護補助者	0.07	0.05	0.27	0.07
8) その他	0.23	0.08	0.30	0.08
9) 合計	4.65	3.49	5.10	3.57

(注) 精神科デイ・ケア等の届出をしている診療所のうち、職員数について記入のあった施設、平成27年9月は256施設、平成28年9月は267施設を集計対象とした。

③ 精神科デイ・ケア等を行った患者数

1) 精神科ショート・ケア

平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科ショート・ケアを行った患者数は、病院では 1 施設あたり平均 51.7 人であった。このうち、「早期加算」を算定した患者数は 14.2 人で、全患者に占める割合は 27.4%であった。また、「1 年超の患者数」は 29.7 人で、全患者に占める割合は 57.5%、「3 年超の患者数」は 15.9 人で、全患者に占める割合は 30.8%であった。

同様に診療所についてみると、1 施設あたり平均 37.1 人であった。このうち、「早期加算」を算定した患者数は 13.8 人で、全患者に占める割合は 37.2%であった。また、「1 年超の患者数」は 19.5 人で、全患者に占める割合は 52.6%、「3 年超の患者数」は 9.5 人で、全患者に占める割合は 25.7%であった。

図表 44 精神科ショート・ケアを行った患者数 (n=255) 【病院】

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
①患者数	51.7	131.8	20.0
②(うち)早期加算の患者数	14.2	38.1	5.0
③(うち)1年超の患者数	29.7	87.2	13.0
④(うち)3年超の患者数	15.9	34.9	7.0
早期加算割合(②/①)	27.4%		
1年超の患者割合(③/①)	57.5%		
3年超の患者割合(④/①)	30.8%		

(注)・平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科ショート・ケアを行った患者数。
 ・精神科ショート・ケアを行った患者数、内訳の患者数について記入のあった 255 施設を集計対象とした。

図表 45 精神科ショート・ケアを行った患者数 (n=208) 【診療所】

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
①患者数	37.1	66.8	19.0
②(うち)早期加算の患者数	13.8	24.6	7.0
③(うち)1年超の患者数	19.5	43.6	8.5
④(うち)3年超の患者数	9.5	29.7	2.0
早期加算割合(②/①)	37.2%		
1年超の患者割合(③/①)	52.6%		
3年超の患者割合(④/①)	25.7%		

(注)・平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科ショート・ケアを行った患者数。
 ・精神科ショート・ケアを行った患者数、内訳の患者数について記入のあった 208 施設を集計対象とした。

2) 精神科デイ・ケア

平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科デイ・ケアを行った患者数は、病院では 1 施設あたり平均 167.5 人であった。このうち、「早期加算」を算定した患者数は 39.6 人で、全患者に占める割合は 23.6%であった。また、「1 年超の患者数」は 116.2 人で、全患者に占める割合は 69.3%、「3 年超の患者数」は 75.2 人で、全患者に占める割合は 44.9%であった。

同様に診療所についてみると、1 施設あたり平均 90.1 人であった。このうち、「早期加算」を算定した患者数は 29.5 人で、全患者に占める割合は 32.7%であった。また、「1 年超の患者数」は 49.8 人で、全患者に占める割合は 55.4%、「3 年超の患者数」は 27.4 人で、全患者に占める割合は 30.4%であった。

図表 46 精神科デイ・ケアを行った患者数 (n=301) 【病院】

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
①患者数	167.5	246.3	68.0
②(うち)早期加算の患者数	39.6	69.3	16.0
③(うち)1年超の患者数	116.2	191.7	45.0
④(うち)3年超の患者数	75.2	133.1	31.0
早期加算割合(②/①)	23.6%		
1年超の患者割合(③/①)	69.3%		
3年超の患者割合(④/①)	44.9%		

(注)・平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科デイ・ケアを行った患者数。
・精神科デイ・ケアを行った患者数、内訳の患者数について記入のあった 301 施設を集計対象とした。

図表 47 精神科デイ・ケアを行った患者数 (n=218) 【診療所】

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
①患者数	90.1	203.1	38.0
②(うち)早期加算の患者数	29.5	83.0	10.0
③(うち)1年超の患者数	49.8	110.3	23.0
④(うち)3年超の患者数	27.4	61.4	14.0
早期加算割合(②/①)	32.7%		
1年超の患者割合(③/①)	55.4%		
3年超の患者割合(④/①)	30.4%		

(注)・平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科デイ・ケアを行った患者数。
・精神科デイ・ケアを行った患者数、内訳の患者数について記入のあった 218 施設を集計対象とした。

3) 精神科ナイト・ケア

平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科ナイト・ケアを行った患者数は、病院では 1 施設あたり平均 43.8 人であった。このうち、「早期加算」を算定した患者数は 10.6 人で、全患者に占める割合は 24.3%であった。また、「1 年超の患者数」は 33.2 人で、全患者に占める割合は 75.7%、「3 年超の患者数」は 25.8 人で、全患者に占める割合は 58.9%であった。

同様に診療所についてみると、1 施設あたり平均 29.7 人であった。このうち、「早期加算」を算定した患者数は 5.5 人で、全患者に占める割合は 18.5%であった。また、「1 年超の患者数」は 24.2 人で、全患者に占める割合は 81.5%、「3 年超の患者数」は 11.5 人で、全患者に占める割合は 38.7%であった。

図表 48 精神科ナイト・ケアを行った患者数 (n=30) 【病院】

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
①患者数	43.8	97.2	13.0
②(うち)早期加算の患者数	10.6	31.5	2.0
③(うち)1年超の患者数	33.2	68.1	8.5
④(うち)3年超の患者数	25.8	56.9	6.0
早期加算割合(②/①)	24.3%		
1年超の患者割合(③/①)	75.7%		
3年超の患者割合(④/①)	58.9%		

(注)・平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科ナイト・ケアを行った患者数。
 ・精神科ナイト・ケアを行った患者数、内訳の患者数について記入のあった 30 施設を集計対象とした。

図表 49 精神科ナイト・ケアを行った患者数 (n=28) 【診療所】

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
①患者数	29.7	83.8	7.0
②(うち)早期加算の患者数	5.5	15.5	0.0
③(うち)1年超の患者数	24.2	69.2	7.0
④(うち)3年超の患者数	11.5	27.0	3.0
早期加算割合(②/①)	18.5%		
1年超の患者割合(③/①)	81.5%		
3年超の患者割合(④/①)	38.7%		

(注)・平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科ナイト・ケアを行った患者数。
 ・精神科ナイト・ケアを行った患者数、内訳の患者数について記入のあった 28 施設を集計対象とした。

4) 精神科デイ・ナイト・ケア

平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科デイ・ナイト・ケアを行った患者数は、病院では 1 施設あたり平均 117.5 人であった。このうち、「早期加算」を算定した患者数は 23.3 人で、全患者に占める割合は 19.8%であった。また、「1 年超の患者数」は 81.1 人で、全患者に占める割合は 69.0%、「3 年超の患者数」は 58.5 人で、全患者に占める割合は 49.8%であった。

同様にみると、診療所では 1 施設あたり平均 50.9 人であった。このうち、「早期加算」を算定した患者数は 11.3 人で、全患者に占める割合は 22.2%であった。また、「1 年超の患者数」は 39.6 人で、全患者に占める割合は 77.8%、「3 年超の患者数」は 25.3 人で、全患者に占める割合は 49.7%であった。

図表 50 精神科デイ・ナイト・ケアを行った患者数 (n=74) 【病院】

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
①患者数	117.5	267.7	31.0
②(うち)早期加算の患者数	23.3	63.2	5.0
③(うち)1年超の患者数	81.1	203.9	24.0
④(うち)3年超の患者数	58.5	174.9	17.5
早期加算割合(②/①)	19.8%		
1年超の患者割合(③/①)	69.0%		
3年超の患者割合(④/①)	49.8%		

- (注)・平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科デイ・ナイト・ケアを行った患者数。
 ・精神科デイ・ナイト・ケアを行った患者数、内訳の患者数について記入のあった 74 施設を集計対象とした。

図表 51 精神科デイ・ナイト・ケアを行った患者数 (n=34) 【診療所】

(単位：人)

	平均値	標準偏差	中央値
①患者数	50.9	103.7	24.0
②(うち)早期加算の患者数	11.3	17.0	4.0
③(うち)1年超の患者数	39.6	90.9	19.5
④(うち)3年超の患者数	25.3	72.0	5.0
早期加算割合(②/①)	22.2%		
1年超の患者割合(③/①)	77.8%		
3年超の患者割合(④/①)	49.7%		

- (注)・平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科デイ・ナイト・ケアを行った患者数。
 ・精神科デイ・ナイト・ケアを行った患者数、内訳の患者数について記入のあった 34 施設を集計対象とした。

④ 6 か月間の精神科デイ・ケア等の実施状況

平成 28 年 4 月～9 月における精神科デイ・ケア等の月平均患者数と平均実施期間をみると、病院では「精神科デイ・ケア等を月 1 回以上実施した患者数の平均」は平均 89.0 人（中央値 56.3）であった。また、「精神科デイ・ケア等を月 14 回以上実施した患者数の平均」は平均 24.7 人（中央値 15.3）であった。「精神科デイ・ケア等を最初に算定した月から平成 28 年 9 月末までの月数の平均」は、平均 54.4 か月（中央値 42.5）であった。

同様にみると、診療所では「精神科デイ・ケア等を月 1 回以上実施した患者数の平均」は平均 47.8 人（中央値 34.0）であった。また、「精神科デイ・ケア等を月 14 回以上実施した患者数の平均」は平均 11.4 人（中央値 6.0）であった。「精神科デイ・ケア等を最初に算定した月から平成 28 年 9 月末までの月数の平均」は、平均 31.4 か月（中央値 12.0）であった。

図表 52 精神科デイ・ケア等の月平均患者数と平均実施期間【病院】

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
精神科デイ・ケア等を月 1 回以上実施した患者数の平均(人)	328	89.0	148.7	56.3
精神科デイ・ケア等を月 14 回以上実施した患者数の平均(人)	328	24.7	56.7	15.3
精神科デイ・ケア等を最初に算定した月から平成 28 年 9 月末までの月数の平均(月)	133	54.4	92.8	42.5

(注) 平成 28 年 4 月～9 月の月平均患者数について記入のあった 328 施設、精神科デイ・ケア等を最初に算定した月から平成 28 年 9 月末までの月数の平均について記入のあった 133 施設をそれぞれ集計対象とした。

図表 53 精神科デイ・ケア等の月平均患者数と平均実施期間【診療所】

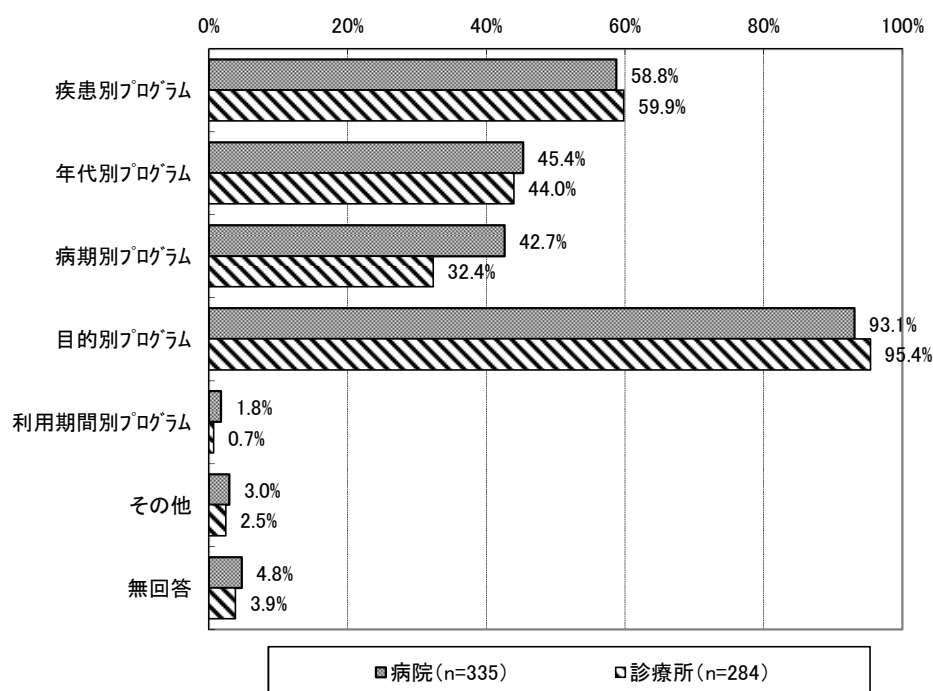
	施設数	平均値	標準偏差	中央値
精神科デイ・ケア等を月 1 回以上実施した患者数の平均(人)	272	47.8	54.4	34.0
精神科デイ・ケア等を月 14 回以上実施した患者数の平均(人)	272	11.4	17.5	6.0
精神科デイ・ケア等を最初に算定した月から平成 28 年 9 月末までの月数の平均(月)	134	31.4	37.7	12.0

(注) 平成 28 年 4 月～9 月の月平均患者数について記入のあった 272 施設、精神科デイ・ケア等を最初に算定した月から平成 28 年 9 月末までの月数の平均について記入のあった 134 施設をそれぞれ集計対象とした。

⑤ 精神科デイ・ケア等のプログラムの種類

精神科デイ・ケア等のプログラムの種類をみると、病院・診療所ともに「目的別プログラム」がそれぞれ 93.1%、95.4%で最も多かった。次いで「疾患別プログラム」(病院 58.8%、診療所 59.9%)、「年代別プログラム」(病院 45.4%、診療所 44.0%)であった。診療所と比較して病院では「病期別プログラム」が 10.3 ポイント高かった。

図表 54 精神科デイ・ケア等のプログラムの種類 (複数回答)

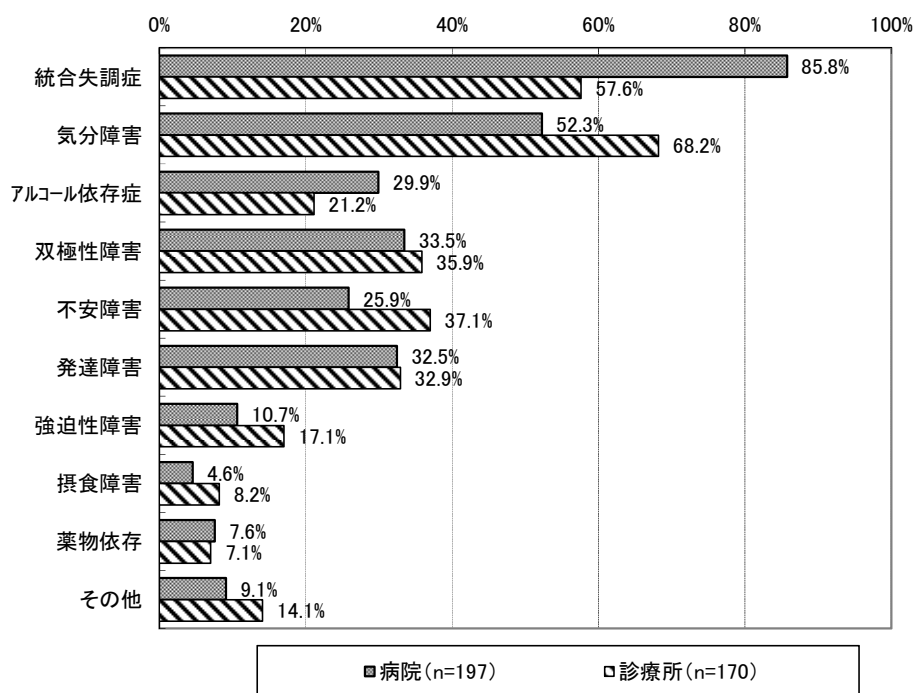


(注) 「その他」の内容として、病院では「男女別プログラム」、「躁うつ病 CBT」、「生活習慣、生活リズムの確立」等が挙げられた。診療所では「学習支援」、「復職・就労等のフォローアップ」、「リワーク修了者向け OB 会」、「女性限定プログラム」、「寄せ植え、フラワーアレンジメント (集中力、持続力をつけるため)」等が挙げられた。

疾患別プログラムを実施している病院・診療所において、その疾患別プログラムの内容をみると、病院では「統合失調症」が85.8%で最も多く、診療所と比較して28.2ポイント高かった。

診療所では「気分障害」が68.2%で最も多く、病院と比較して15.9ポイント高かった。

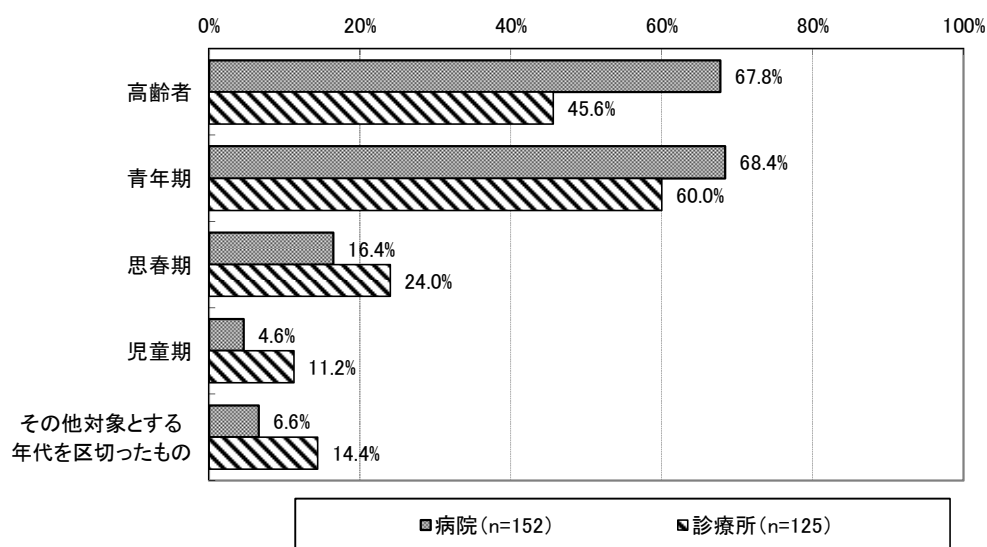
図表 55 精神科デイ・ケア等のプログラムの種類～疾患別プログラム～（複数回答）



- (注) ・当該項目について無回答はなかった。
 ・「その他」の内容として、病院では「高次脳機能障害」、「認知症」、「適応障害」等が挙げられた。
 また、診療所では「認知症」、「高次脳機能障害」、「パニック障害」等が挙げられた。

年代別プログラムを実施している病院・診療所において、その年代別プログラムの内容をみると、病院では「青年期」が68.4%で最も多く、診療所と比較して8.4ポイント高かった。次いで「高齢者」が67.8%で、診療所と比較すると22.2ポイント高かった。診療所では「青年期」が60.0%で最も多く、次いで「高齢者」(45.6%)であった。

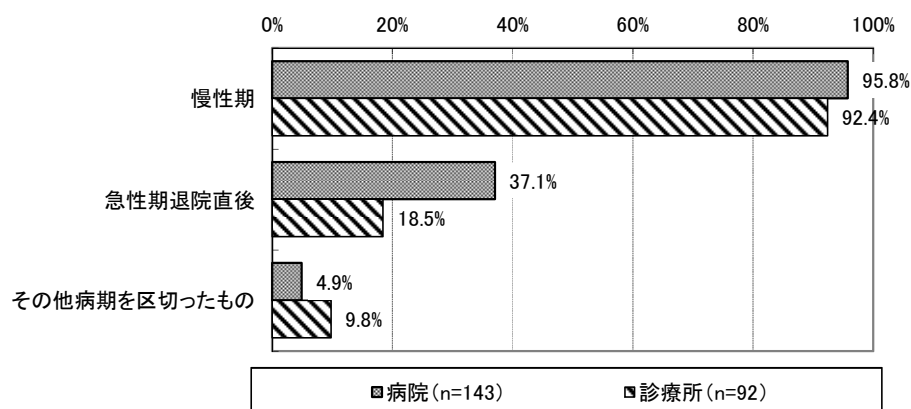
図表 56 精神科デイ・ケア等のプログラムの種類～年代別プログラム～（複数回答）



- (注)・当該項目について無回答はなかった。
- ・「その他対象とする年代を区切ったもの」の内容として、病院では「20代～70代」、「成人期」、「20～60代」、「40歳以下の就労を目指す人」、「就業可能な年代層に対する復職支援」等が挙げられた。診療所では「18～45歳」、「20代、30代」、「概ね15歳以上50歳未満」、「30歳以上55歳未満」、「児童期以外」、「就労世代」、「母子のうち、子は幼・保入園前まで」、「年代を区別せず対応」等が挙げられた。

病期別プログラムを実施している病院・診療所において、その病期別プログラムの内容をみると、病院・診療所ともに「慢性期」がそれぞれ 95.8%、92.4%で最も多かった。また、「急性期退院直後」は、病院では 37.1%、診療所では 18.5%となっており、病院の割合は診療所の割合の 2 倍近くとなった。

図表 57 精神科デイ・ケア等のプログラムの種類～病期別プログラム～（複数回答）

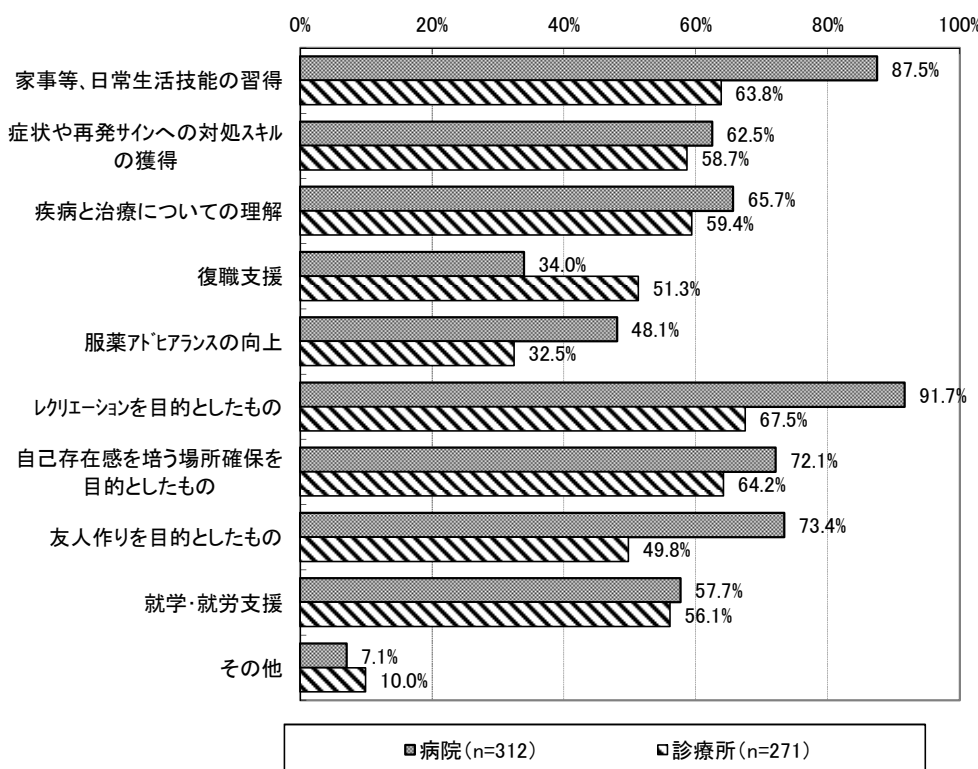


(注)・当該項目について無回答はなかった。

- ・「その他病期を区切ったもの」の内容として、病院では「回復期」、「導入期、回復期、卒業期」等が挙げられた。診療所では「復職へ向けた安定期」、「休職中から復職まで」、「回復期」等が挙げられた。

目的別プログラムを実施している病院・診療所において、その目的別プログラムの内容をみると、病院では「レクリエーションを目的としたもの」が 91.7%で最も多く、次いで「家事等、日常生活技能の習得」(87.5%)、「友人作りを目的としたもの」(73.4%)、「自己存在感を培う場所確保を目的としたもの」(72.1%)であった。診療所では「レクリエーションを目的としたもの」が 67.5%で最も多く、次いで「自己存在感を培う場所確保を目的としたもの」(64.2%)、「家事等、日常生活技能の習得」(63.8%)であった。

図表 58 精神科デイ・ケア等のプログラムの種類～目的別プログラム～（複数回答）



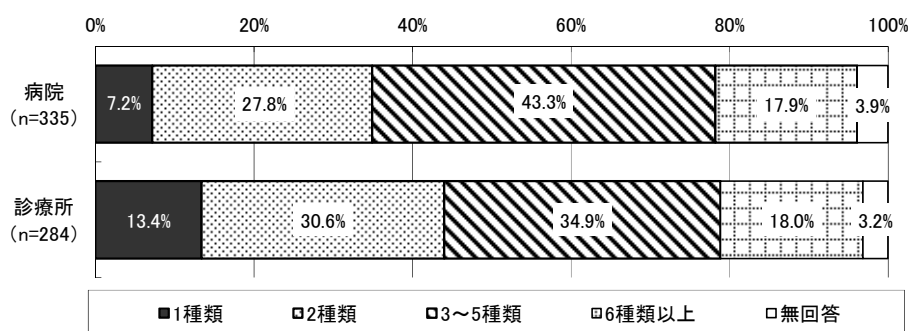
(注)・当該項目について無回答はなかった。

・「その他」の内容として、病院では「デイ・ケアに慣れることを目的としたもの」、「栄養指導」、「対人スキル向上」、「生活習慣病対策」、「学習（英語等）」、「体力維持、向上」、「脳リハビリ」、「ストレス対処」、「パソコン習得」、「認知症改善プログラム」、「社会資源について知る」等が挙げられた。診療所では「運動などの健康づくり」、「対人関係訓練」、「断酒の場の確保」、「自己効力感を育むことを目的としたもの」、「目的に沿って個別に行う」、「自尊心の獲得」、「親和トレーニング」等が挙げられた。

⑥ 精神科デイ・ケア等の実施日におけるプログラムの数

精神科デイ・ケア等の実施日におけるプログラムの数をみると、病院・診療所ともに「3～5種類」がそれぞれ43.3%、34.9%で最も多かった。次いで「2種類」（病院27.8%、診療所30.6%）、「6種類以上」（病院17.9%、診療所18.0%）であった。

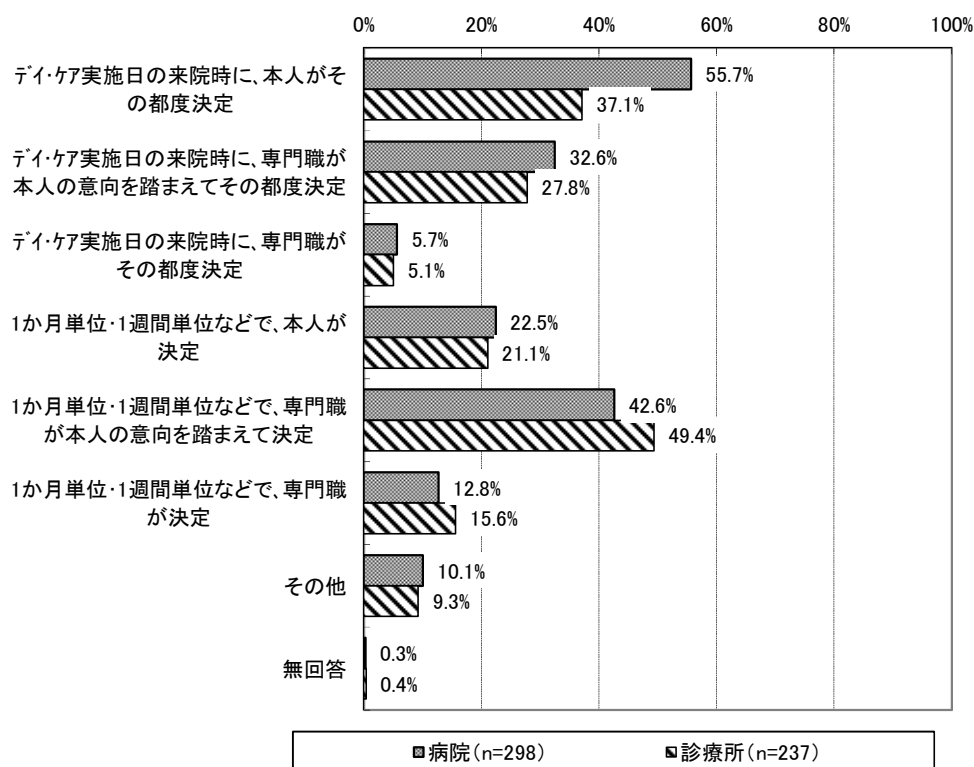
図表 59 精神科デイ・ケア等の実施日におけるプログラムの数



⑦ 精神科デイ・ケア等のプログラム選択・決定方法

精神科デイ・ケア等のプログラム選択・決定方法をみると、病院では「デイ・ケア実施日の来院時に、本人がその都度決定」が55.7%で最も多く、次いで「1か月単位・1週間単位などで、専門職が本人の意向を踏まえて決定」(42.6%)であった。診療所では「1か月単位・1週間単位などで、専門職が本人の意向を踏まえて決定」が49.4%で最も多く、次いで「デイ・ケア実施日の来院時に、本人がその都度決定」(37.1%)であった。

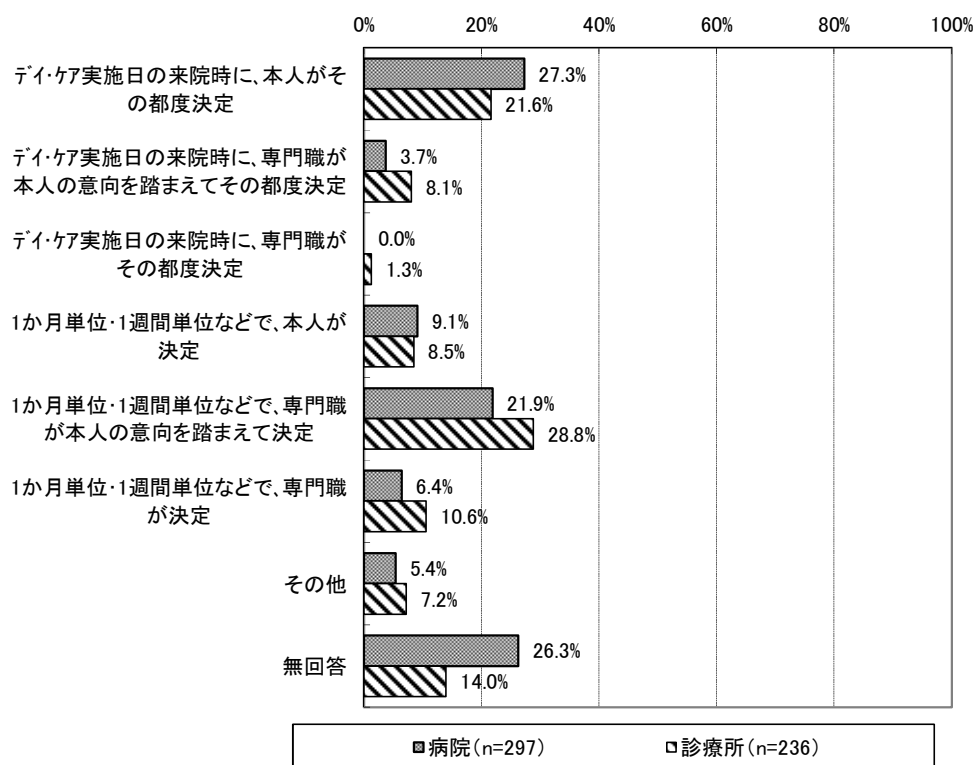
図表 60 精神科デイ・ケア等のプログラム選択・決定方法
(2種類以上のプログラムを用意している施設、複数回答)



(注) 「その他」の内容として、病院では「あらかじめプログラム担当者が参加希望者を募集し、各自申し込みを行う」、「開始時、評価時に本人と専門職で話し合い決定」、「主治医による提案(許可を要するプログラム有)」、「診断計画立案時に3か月の短期目標に沿って本院と専門職で話し合い決定」、「専門職が選んだ複数のプログラムから本人が選択」、「プログラムの中で翌月1か月分を参加者全員で案を出し合い決定」、「来院前日までに本人が決定」等が挙げられた。診療所では「半年毎に専門職と本人が決定」、「1年単位で本人が決定」、「午前中は自主活動で本人が決定、午後は全体プログラムで専門職が決定」等が挙げられた。

精神科デイ・ケア等のプログラム選択・決定方法で最も多いものをみると、病院では「デイ・ケア実施日の来院時に、本人がその都度決定」が 27.3%で最も多かった。診療所では「1か月単位・1週間単位などで、専門職が本人の意向を踏まえて決定」が 28.8%で最も多かった。

図表 61 精神科デイ・ケア等のプログラム選択・決定方法（最も多いもの）
（2種類以上のプログラムを用意している施設、単数回答）



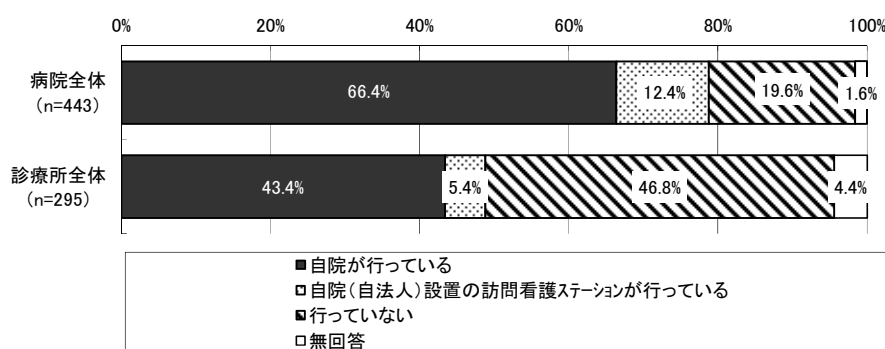
(6) 精神科訪問看護の状況

① 精神科訪問看護の実施状況

精神科訪問看護の実施状況をみると、病院では「自院が行っている」が66.4%、「自院（自法人）設置の訪問看護ステーションが行っている」が12.4%、「行っていない」が19.6%であった。

また、診療所では「自院が行っている」が43.4%、「自院（自法人）設置の訪問看護ステーションが行っている」が5.4%、「行っていない」が46.8%であった。

図表 62 精神科訪問看護の実施状況



② 精神科訪問看護に携わる職員数

精神科訪問看護に携わる職員数は次のとおりである。

図表 63 精神科訪問看護に携わる職員数（常勤換算）【病院】
（自院で精神科訪問看護を実施している施設）

（単位：人）

	平成 27 年 9 月				平成 28 年 9 月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
保健師・看護師	276	2.85	3.00	2.00	281	2.98	3.11	2.00
准看護師	276	0.26	1.08	0.00	281	0.27	1.00	0.00
作業療法士	276	0.42	1.17	0.00	281	0.42	1.05	0.00
精神保健福祉士	276	1.54	1.95	1.00	281	1.54	1.93	1.00
その他	276	0.04	0.24	0.00	281	0.06	0.45	0.00
合計	276	5.12	5.09	4.00	281	5.26	5.08	4.00

（注）自院で精神科訪問看護をしており、精神科訪問看護に携わる職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 64 精神科訪問看護に携わる職員数（常勤換算）【診療所】
（自院で精神科訪問看護を実施している施設）

（単位：人）

	平成 27 年 9 月				平成 28 年 9 月			
	施設数	平均値	標準偏差	中央値	施設数	平均値	標準偏差	中央値
保健師・看護師	114	1.61	1.65	1.00	123	1.68	1.61	1.00
准看護師	114	0.17	0.49	0.00	123	0.17	0.45	0.00
作業療法士	114	0.20	0.49	0.00	123	0.22	0.51	0.00
精神保健福祉士	114	1.32	1.26	1.00	123	1.38	1.33	1.00
その他	114	0.12	0.87	0.00	123	0.15	0.90	0.00
合計	114	3.42	3.17	3.00	123	3.60	3.23	3.00

（注）自院で精神科訪問看護をしており、精神科訪問看護に携わる職員数について記入のあった施設を集計対象とした。

③ 精神科訪問看護を実施した患者数

平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科訪問看護を実施した患者数をみると、病院では平均 56.8 人（中央値 40.0）であった。このうち、「身体疾患を有する患者数」が平均 17.2 人（中央値 8.0）、「他の精神科療法を行った患者数」が平均 29.0 人（中央値 12.0）、「新規の患者数」が平均 1.4 人（中央値 1.0）であった。

同様に診療所についてみると、患者数は平均 26.6 人（中央値 14.0）であった。このうち、「身体疾患を有する患者数」が平均 6.4 人（中央値 0.5）、「他の精神科療法を行った患者数」が平均 15.0 人（中央値 5.0）、「新規の患者数」が平均 1.3 人（中央値 0.0）であった。

図表 65 精神科訪問看護を実施した患者数（実人数）【病院】
（自院で精神科訪問看護を実施している施設）

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科訪問看護を実施した患者数	293	56.8	58.9	40.0
（うち）身体疾患を有する患者数	269	17.2	28.6	8.0
（うち）他の精神科療法を行った患者数	272	29.0	43.8	12.0
（うち）新規の患者数	280	1.4	2.0	1.0

図表 66 精神科訪問看護を実施した患者数（実人数）【診療所】
（自院で精神科訪問看護を実施している施設）

（単位：人）

	施設数	平均値	標準偏差	中央値
平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科訪問看護を実施した患者数	128	26.6	37.5	14.0
（うち）身体疾患を有する患者数	128	6.4	13.5	0.5
（うち）他の精神科療法を行った患者数	128	15.0	24.9	5.0
（うち）新規の患者数	128	1.3	7.6	0.0

④ 訪問回数別の患者数

平成 28 年 9 月 25 日～10 月 1 日の 1 週間の精神科訪問看護について、週あたりの訪問回数別の患者数をみると、病院では合計 27.6 人のうち「週 1 回」が平均 24.7 人、「週 2 回」が平均 2.1 人であった。

同様に診療所についてみると、合計 14.0 人のうち「週 1 回」が平均 11.0 人、「週 2 回」が平均 2.0 人であった。

図表 67 精神科訪問看護を実施した患者数（実人数、n=286）【病院】

（自院で精神科訪問看護を実施している施設）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
週 1 回	24.7	25.0	19.0
週 2 回	2.1	4.0	0.0
週 3 回	0.7	2.0	0.0
週 4 回	0.1	0.8	0.0
週 5 回以上	0.1	0.7	0.0
合計	27.6	28.4	22.0

(注)・平成 28 年 9 月 25 日～10 月 1 日の 1 週間に精神科訪問看護を行った患者数。

・自院で精神科訪問看護を実施している施設で、患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

図表 68 精神科訪問看護を実施した患者数（実人数、n=127）【診療所】

（自院で精神科訪問看護を実施している施設）

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
週 1 回	11.0	15.2	6.0
週 2 回	2.0	3.6	0.0
週 3 回	0.8	1.9	0.0
週 4 回	0.1	0.6	0.0
週 5 回以上	0.1	0.4	0.0
合計	14.0	18.3	8.0

(注)・平成 28 年 9 月 25 日～10 月 1 日の 1 週間に精神科訪問看護を行った患者数。

・自院で精神科訪問看護を実施している施設で、患者数について記入のあった施設を集計対象とした。

⑤ 病院における精神科訪問看護の算定患者数と算定回数

1) 病院における精神科訪問看護・指導料（Ⅰ）

病院における、平成28年9月1か月間の精神科訪問看護・指導料（Ⅰ）の算定患者数と算定回数は次のとおりである。

「30分未満」を算定した患者数は平均4.0人であり、算定回数は平均7.8回であった。また、「30分以上」を算定した患者数は平均47.0人であり、算定回数は平均99.7回であった。

図表 69 精神科訪問看護・指導料（Ⅰ）の算定患者数（実人数）と算定回数
（自院で精神科訪問看護を実施している施設、n=282）【病院】

		平均値	標準偏差	中央値
①精神科訪問看護・指導料(Ⅰ):30分未満	算定患者数(人)	4.0	13.6	0.0
	算定回数(回)	7.8	30.2	0.0
(うち)保健師、看護師、作業療法士または精神保健福祉士によるもの	算定回数(回)	7.3	28.6	0.0
(うち)准看護師によるもの	算定回数(回)	0.5	3.8	0.0
②精神科訪問看護・指導料(Ⅰ):30分以上	算定患者数(人)	47.0	50.5	35.0
	算定回数(回)	99.7	102.3	77.5
(うち)保健師、看護師、作業療法士または精神保健福祉士によるもの	算定回数(回)	94.5	98.0	67.5
(うち)准看護師によるもの	算定回数(回)	5.3	22.8	0.0
③精神科訪問看護・指導料(Ⅰ):合計	算定患者数(人)	51.0	54.1	36.5
	算定回数(回)	107.5	108.8	80.0
(うち)保健師、看護師、作業療法士または精神保健福祉士によるもの	算定回数(回)	101.8	103.2	72.5
(うち)准看護師によるもの	算定回数(回)	5.7	24.7	0.0

(注)・平成28年9月1か月間の算定患者数（実人数）と算定回数。

・精神科訪問看護・指導料（Ⅰ）の算定患者数・算定回数、精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）の算定患者数・算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

2) 病院における精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）

病院における、平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）の算定患者数と算定回数は次のとおりである。

「30 分未満」を算定した患者数は平均 0.9 人であり、算定回数は平均 2.9 回であった。また、「30 分以上」を算定した患者数は平均 3.9 人であり、算定回数は平均 9.8 回であった。

図表 70 精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）の算定患者数（実人数）と算定回数
（自院で精神科訪問看護を実施している施設、n=282）【病院】

		平均値	標準偏差	中央値
①精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）：30 分未満	算定患者数（人）	0.9	6.0	0.0
	算定回数（回）	2.9	22.6	0.0
（うち）保健師、看護師、作業療法士または精神保健福祉士によるもの		算定回数（回）	2.7	21.7
（うち）准看護師によるもの		算定回数（回）	0.2	2.7
②精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）：30 分以上	算定患者数（人）	3.9	9.1	0.0
	算定回数（回）	9.8	25.0	0.0
（うち）保健師、看護師、作業療法士または精神保健福祉士によるもの		算定回数（回）	9.1	22.5
（うち）准看護師によるもの		算定回数（回）	0.6	4.7
③精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）：合計	算定患者数（人）	4.8	11.6	0.0
	算定回数（回）	12.6	37.2	0.0
（うち）保健師、看護師、作業療法士または精神保健福祉士によるもの		算定回数（回）	11.8	34.8
（うち）准看護師によるもの		算定回数（回）	0.8	5.9

（注）・平成 28 年 9 月 1 か月間の算定患者数（実人数）と算定回数。
・精神科訪問看護・指導料（Ⅰ）の算定患者数・算定回数、精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）の算定患者数・算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

3) 病院における精神科訪問看護・指導料（Ⅱ）

病院における、平成28年9月1か月間に精神科訪問看護・指導料（Ⅱ）を算定した実績は次のとおりである。

図表 71 精神科訪問看護・指導料（Ⅱ）の算定回数等
（自院で精神科訪問看護を実施している施設、n=294）【病院】

（単位：人）

	平均値	標準偏差	中央値
施設への訪問延べ日数(日)	1.2	5.1	0.0
対象人員(人)	1.2	4.2	0.0
算定回数(回)	2.6	10.0	0.0

(注)・平成28年9月1か月間の算定実績。

・すべての項目について記入のあった施設を集計対象とした。

4) 病院における精神科訪問看護・指導料の加算算定実績

病院における、平成28年9月1か月間の精神科訪問看護・指導料の加算算定実績は次のとおりである。

図表 72 精神科訪問看護・指導料の加算算定実績
（自院で精神科訪問看護を実施している施設、n=294）【病院】

	算定患者数(人)			算定回数(回)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
長時間精神科訪問看護・指導加算	0.65	4.23	0.00	1.15	9.04	0.00
夜間・早朝訪問看護加算	0.14	1.64	0.00	0.45	6.56	0.00
深夜訪問看護加算	0.00	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00
精神科緊急訪問看護加算	0.02	0.24	0.00	0.03	0.41	0.00

(注)・平成28年9月1か月間の算定実績。

・すべての項目について記入のあった施設を集計対象とした。

5) 病院における複数回訪問の患者数

平成28年9月1か月間において、1日に複数回の精神科訪問看護を行った患者数は次のとおりである。

図表 73 1日に複数回の精神科訪問看護を行った患者数（実人数）
（自院で精神科訪問看護を実施している施設、n=293）【病院】

（単位：人）

平均値	標準偏差	中央値
0.69	8.14	0.00

(注)・平成28年9月1か月間の実績。加算の有無は問わない。

・記入のあった施設を集計対象とした。

6) 病院における精神科複数回訪問加算の算定実績

平成28年9月1か月間における、精神科複数回訪問加算の算定実績は次のとおりである。

図表 74 病院における精神科複数回訪問加算の算定実績
(自院で精神科訪問看護を実施している施設、n=292)【病院】

	算定患者数(人)			算定回数(回)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1日に2回	0.02	0.22	0.00	0.07	0.71	0.00
1日3回以上	0.00	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00

(注)・平成28年9月1か月間の精神科複数回訪問加算の算定患者数と算定回数。
・算定患者数、算定回数すべてに記入のあった292施設を集計対象とした。

⑥ 診療所における精神科訪問看護の算定患者数と算定回数

1) 診療所における精神科訪問看護・指導料(Ⅰ)

診療所における、平成28年9月1か月間の精神科訪問看護・指導料(Ⅰ)の算定患者数と算定回数は次のとおりである。

「30分未満」を算定した患者数は平均3.1人であり、算定回数は平均8.6回であった。また、「30分以上」を算定した患者数は平均22.1人であり、算定回数は平均53.4回であった。

図表 75 精神科訪問看護・指導料(Ⅰ)の算定患者数(実人数)と算定回数
(自院で精神科訪問看護を実施している施設、n=122)【診療所】

		平均値	標準偏差	中央値
①精神科訪問看護・指導料(Ⅰ):30分未満	算定患者数(人)	3.1	10.9	0.0
	算定回数(回)	8.6	32.4	0.0
(うち)保健師、看護師、作業療法士または精神保健福祉士によるもの	算定回数(回)	8.3	32.4	0.0
(うち)准看護師によるもの	算定回数(回)	0.2	1.6	0.0
②精神科訪問看護・指導料(Ⅰ):30分以上	算定患者数(人)	22.1	34.4	11.0
	算定回数(回)	53.4	74.1	22.5
(うち)保健師、看護師、作業療法士または精神保健福祉士によるもの	算定回数(回)	52.3	72.9	22.0
(うち)准看護師によるもの	算定回数(回)	1.1	5.9	0.0
③精神科訪問看護・指導料(Ⅰ):合計	算定患者数(人)	25.2	37.6	13.0
	算定回数(回)	62.0	86.1	27.5
(うち)保健師、看護師、作業療法士または精神保健福祉士によるもの	算定回数(回)	60.6	85.0	26.0
(うち)准看護師によるもの	算定回数(回)	1.4	6.4	0.0

(注)・平成28年9月1か月間の算定患者数(実人数)と算定回数。
・精神科訪問看護・指導料(Ⅰ)の算定患者数・算定回数、精神科訪問看護・指導料(Ⅲ)の算定患者数・算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

2) 診療所における精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）

診療所における、平成28年9月1か月間の精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）の算定患者数と算定回数は次のとおりである。

「30分未満」を算定した患者数は平均2.3人であり、算定回数は平均5.8回であった。また、「30分以上」を算定した患者数は平均1.3人であり、算定回数は平均4.1回であった。

図表 76 精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）の算定患者数（実人数）と算定回数
（自院で精神科訪問看護を実施している施設、n=122）【診療所】

		平均値	標準偏差	中央値
①精神科訪問看護・指導料(Ⅲ):30分未満	算定患者数(人)	2.3	13.6	0.0
	算定回数(回)	5.8	32.0	0.0
(うち)保健師、看護師、作業療法士または精神保健福祉士によるもの	算定回数(回)	5.8	32.0	0.0
(うち)准看護師によるもの	算定回数(回)	0.0	0.2	0.0
②精神科訪問看護・指導料(Ⅲ):30分以上	算定患者数(人)	1.3	3.8	0.0
	算定回数(回)	4.1	15.0	0.0
(うち)保健師、看護師、作業療法士または精神保健福祉士によるもの	算定回数(回)	4.0	14.7	0.0
(うち)准看護師によるもの	算定回数(回)	0.2	1.6	0.0
③精神科訪問看護・指導料(Ⅲ):合計	算定患者数(人)	3.6	14.3	0.0
	算定回数(回)	9.9	35.9	0.0
(うち)保健師、看護師、作業療法士または精神保健福祉士によるもの	算定回数(回)	9.8	35.8	0.0
(うち)准看護師によるもの	算定回数(回)	0.2	1.6	0.0

(注)・平成28年9月1か月間の算定患者数（実人数）と算定回数。

・精神科訪問看護・指導料（Ⅰ）の算定患者数・算定回数、精神科訪問看護・指導料（Ⅲ）の算定患者数・算定回数について記入のあった施設を集計対象とした。

3) 診療所における精神科訪問看護・指導料（Ⅱ）

診療所における、平成28年9月1か月間に精神科訪問看護・指導料（Ⅱ）を算定した実績についてみると、「施設への訪問延べ日数」は平均0.5日（中央値0.0）、「対象人員」は平均0.5人（中央値0.0）、「算定回数」は平均2.0回（中央値0.0）であった。

図表 77 精神科訪問看護・指導料（Ⅱ）の算定回数等
（自院で精神科訪問看護を実施している施設、n=128）【診療所】

	平均値	標準偏差	中央値
施設への訪問延べ日数(日)	0.5	2.2	0.0
対象人員(人)	0.5	2.3	0.0
算定回数(回)	2.0	11.1	0.0

(注)・平成28年9月1か月間の算定実績。
・すべての項目について記入のあった施設を集計対象とした。

4) 診療所における精神科訪問看護・指導料の加算算定実績

診療所における、平成28年9月1か月間の精神科訪問看護・指導料の加算算定実績は次のとおりである。

図表 78 精神科訪問看護・指導料の加算算定実績
（自院で精神科訪問看護を実施している施設、n=128）【診療所】

	算定患者数(人)			算定回数(回)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
長時間精神科訪問看護・指導加算	0.61	2.31	0.00	1.34	7.04	0.00
夜間・早朝訪問看護加算	0.63	3.46	0.00	1.04	6.24	0.00
深夜訪問看護加算	0.01	0.09	0.00	0.01	0.09	0.00
精神科緊急訪問看護加算	0.09	0.61	0.00	0.11	0.77	0.00

(注)・平成28年9月1か月間の算定実績。
・すべての項目について記入のあった施設を集計対象とした。

5) 診療所における複数回訪問の患者数

平成28年9月1か月間において、1日に複数回の精神科訪問看護を行った患者数は次のとおりである。

図表 79 1日に複数回の精神科訪問看護を行った患者数（実人数）
（自院で精神科訪問看護を実施している施設、n=128）【診療所】

(単位：人)

平均値	標準偏差	中央値
0.19	1.10	0.00

(注)・平成28年9月1か月間の実績。加算の有無は問わない。
・記入のあった施設を集計対象とした。

6) 診療所における精神科複数回訪問加算の算定実績

平成28年9月1か月間における、精神科複数回訪問加算の算定実績は次のとおりである。

図表 80 診療所における精神科複数回訪問加算の算定実績
(自院で精神科訪問看護を実施している施設、n=103)【診療所】

	算定患者数(人)			算定回数(回)		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
1日に2回	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1日3回以上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(注)・平成28年9月1か月間の精神科複数回訪問加算の算定患者数と算定回数。
・算定患者数、算定回数すべてに記入のあった103施設を集計対象とした。

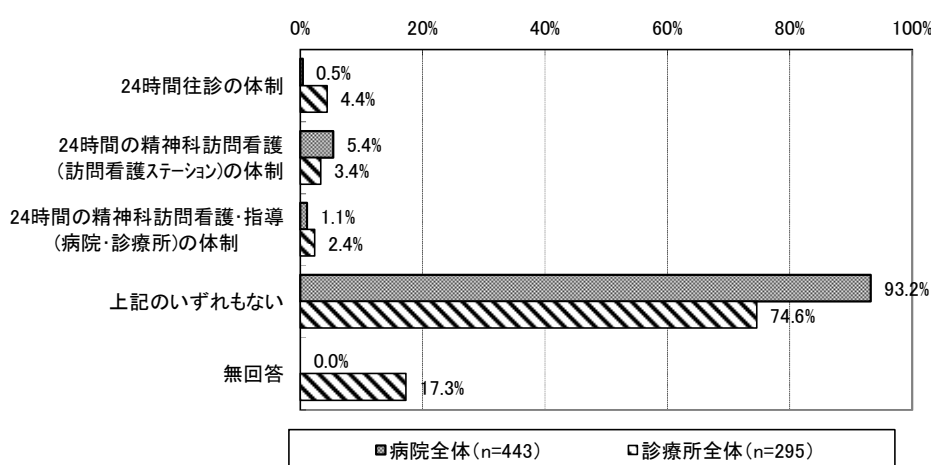
(7) 精神科重症患者早期集中支援管理料の状況

① 24 時間体制の整備状況

24 時間体制の整備状況をみると、病院、診療所ともに「上記のいずれもない」(病院 93.2%、診療所 74.6%) が最も多かった。

病院では「24 時間の精神科訪問看護 (訪問看護ステーション) の体制」が 5.4%であった。診療所では「24 時間往診の体制」が 4.4%、「24 時間の精神科訪問看護 (訪問看護ステーション) の体制」が 3.4%であった。

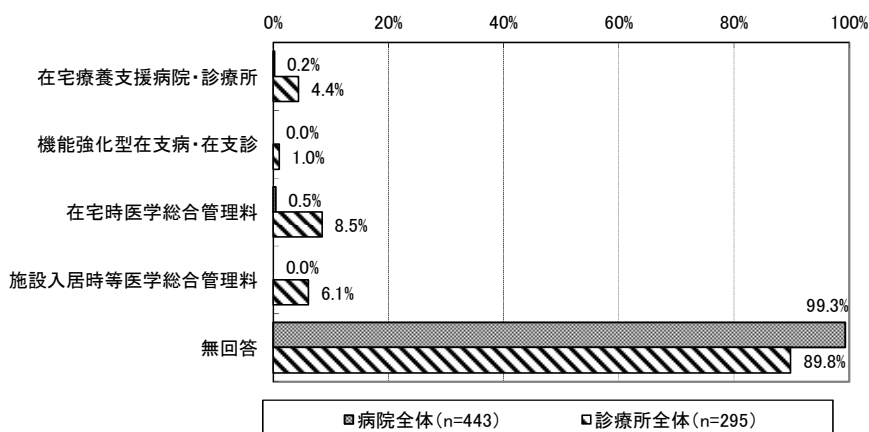
図表 81 24 時間体制の整備状況 (複数回答)



② 在宅医療に係る施設基準の届出状況

在宅医療に係る施設基準の届出状況をみると、病院では届出のある施設がほとんどなかった。診療所では「在宅時医学総合管理料」が 8.5%、「施設入居時等医学総合管理料」が 6.1%であった。

図表 82 在宅医療に係る施設基準の届出状況 (複数回答)

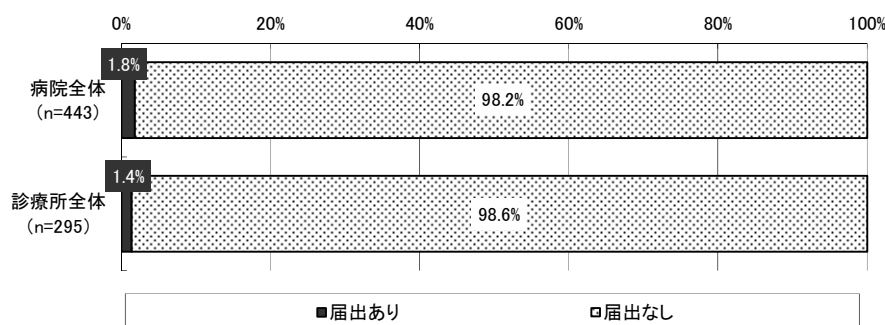


(注) 「在宅療養支援病院・診療所」「機能強化型在支病・在支診」「在宅時医学総合管理料」「施設入居時等医学総合管理料」のいずれも届出がない施設は「無回答」となる。

③ 精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出状況

精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出状況をみると、「届出あり」は病院では1.8%（8施設）、診療所では1.4%（4施設）であった。

図表 83 精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出状況



図表 84 精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出時期

	病院		診療所	
	施設数(件)	構成割合	施設数(件)	構成割合
平成 26 年 4 月～6 月	1	12.5%	0	0.0%
平成 26 年 7 月～9 月	0	0.0%	0	0.0%
平成 26 年 10 月～12 月	0	0.0%	0	0.0%
平成 27 年 1 月～3 月	0	0.0%	0	0.0%
平成 27 年 4 月～6 月	1	12.5%	0	0.0%
平成 27 年 7 月～9 月	0	0.0%	0	0.0%
平成 27 年 10 月～12 月	1	12.5%	0	0.0%
平成 28 年 1 月～3 月	0	0.0%	0	0.0%
平成 28 年 4 月～6 月	3	37.5%	3	75.0%
平成 28 年 7 月～9 月	2	25.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	25.0%
合計	8	100.0%	4	100.0%

④ 精神科重症患者早期集中支援管理料に基づく医学管理を実施するうえでの連携する訪問看護ステーションの有無

精神科重症患者早期集中支援管理料に基づく医学管理を実施するうえでの連携する訪問看護ステーションの有無をみると、「ある」は病院では37.5%（3施設）、診療所では50.0%（2施設）であった。病院のうち「ある」と回答した3施設ではいずれも連携事業所は「特別の関係にあるもの」であった。診療所では2施設のいずれも連携事業所は「特別の関係にあるもの以外」であった。

図表 85 精神科重症患者早期集中支援管理料に基づく医学管理を実施するうえでの連携する訪問看護ステーションの有無

	病院		診療所	
	施設数(件)	構成割合	施設数(件)	構成割合
ある	3	37.5%	2	50.0%
ない	5	62.5%	2	50.0%
全体	8	100.0%	4	100.0%

⑤ 精神科重症患者早期集中支援管理料に基づく医学管理を実施している職員体制（自院のみ）

精神科重症患者早期集中支援管理料に基づく医学管理を実施している職員体制（自院のみ）の平均は次のとおりである。

図表 86 精神科重症患者早期集中支援管理料に基づく医学管理を実施している職員体制（自院のみ、平均値、n=8）【病院】

（単位：人）

	常勤		非常勤	
	専従	専任	専従	専任
医師	0.00	1.38	0.00	0.00
【再掲】精神保健指定医	0.00	1.38	0.00	0.00
保健師・看護師	0.63	1.38	0.00	0.00
精神保健福祉士	0.88	0.63	0.00	0.00
作業療法士	0.25	0.63	0.00	0.00
その他	0.00	0.00	0.00	0.00

図表 87 精神科重症患者早期集中支援管理料に基づく医学管理を実施している職員体制
(自院のみ、平均値、n=4)【診療所】

(単位：人)

	常勤		非常勤	
	専従	専任	専従	専任
医師	0.50	0.50	0.25	0.00
【再掲】精神保健指定医	0.50	0.50	0.25	0.00
保健師・看護師	1.00	1.25	0.25	0.00
精神保健福祉士	2.00	1.00	0.00	0.00
作業療法士	0.50	1.00	0.05	0.00
その他	0.00	0.25	0.00	0.00

⑥ 精神科重症患者早期集中支援管理料の算定患者数

精神科重症患者早期集中支援管理料の算定患者数をみると、病院では「精神科重症患者早期集中支援管理料 1 (1 人の場合)」が平均 0.25 人 (中央値 0.00) であったが、他は実績がなかった。

診療所では算定実績がなかった。

図表 88 精神科重症患者早期集中支援管理料に基づく医学管理を実施している職員体制
(自院のみ、平均値、n=8)【病院】

(単位：人)

		平均値	標準偏差	中央値
精神科重症患者早期集中支援管理料 1	1 人の場合	0.25	0.46	0.00
	2 人以上の場合	0.00	0.00	0.00
精神科重症患者早期集中支援管理料 2	1 人の場合	0.00	0.00	0.00
	2 人以上の場合	0.00	0.00	0.00

(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の算定患者数 (実人数)。

図表 89 精神科重症患者早期集中支援管理料に基づく医学管理を実施している職員体制
(自院のみ、平均値、n=4)【診療所】

(単位：人)

		平均値	標準偏差	中央値
精神科重症患者早期集中支援管理料 1	1 人の場合	0.00	0.00	0.00
	2 人以上の場合	0.00	0.00	0.00
精神科重症患者早期集中支援管理料 2	1 人の場合	0.00	0.00	0.00
	2 人以上の場合	0.00	0.00	0.00

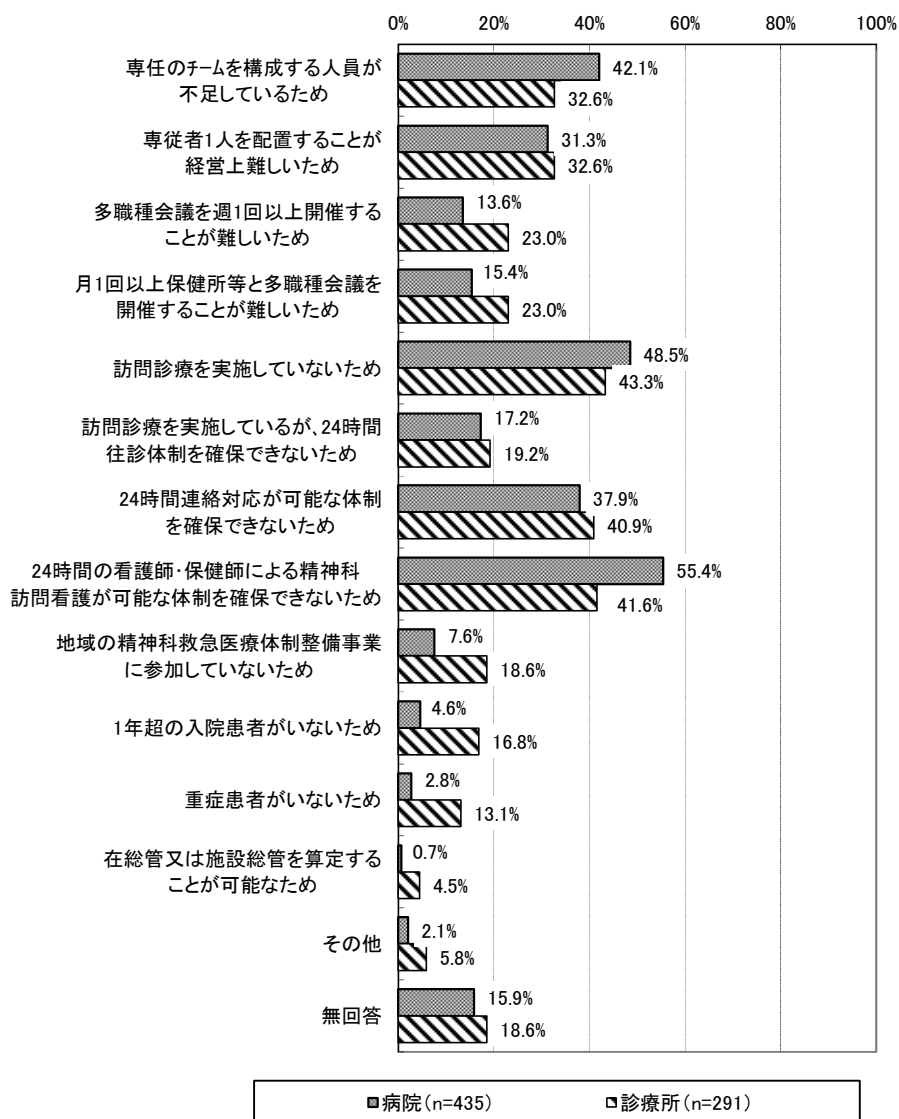
(注) 平成 28 年 9 月 1 か月間の算定患者数 (実人数)。

⑦ 精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出を行っていない理由

精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出を行っていない理由をみると、病院では「24時間の看護師・保健師による精神科訪問看護が可能な体制を確保できないため」が55.4%で最も多く、次いで「訪問診療を実施していないため」(48.5%)、「専任のチームを構成する人員が不足しているため」(42.1%)であった。

診療所では「訪問診療を実施していないため」が43.3%で最も多く、次いで「24時間の看護師・保健師による精神科訪問看護が可能な体制を確保できないため」(41.6%)、「24時間連絡対応が可能な体制を確保できないため」(40.9%)であった。

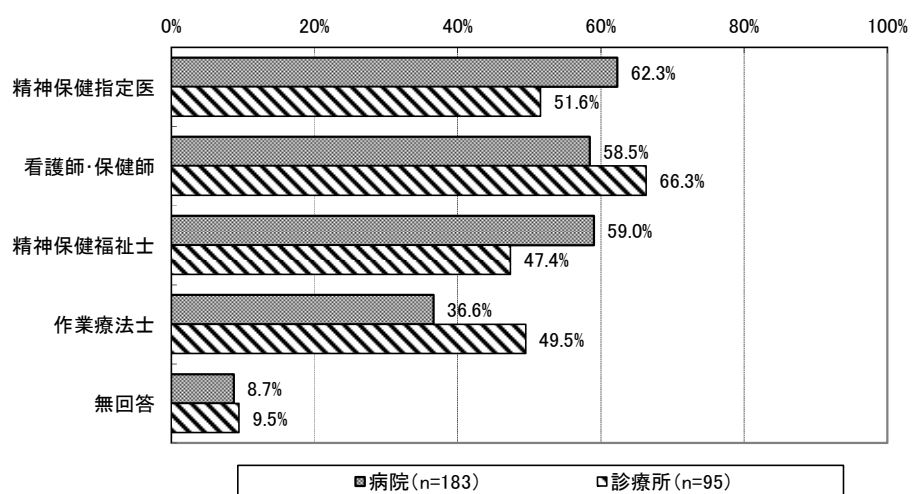
図表 90 精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出を行っていない理由
(精神科重症患者早期集中支援管理料の届出をしていない施設、複数回答)



(注) 「その他」の内容として、病院では「体制確保に見合う点数がないため」、「対象となる患者が少ないため」、「県が地域の精神科救急医療体制整備事業を整備しないため」、「重症患者はクリニックで訪問診療・看護を行っているため。病院と役割を分離したため」、「在宅への退院はほぼないため」等が挙げられた。診療所では「公立病院がその機能を任っているため」、「日々の業務で手一杯」、「重症者には対応できない」等が挙げられた。

図表 91 精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出を行っていない理由で
不足している人材

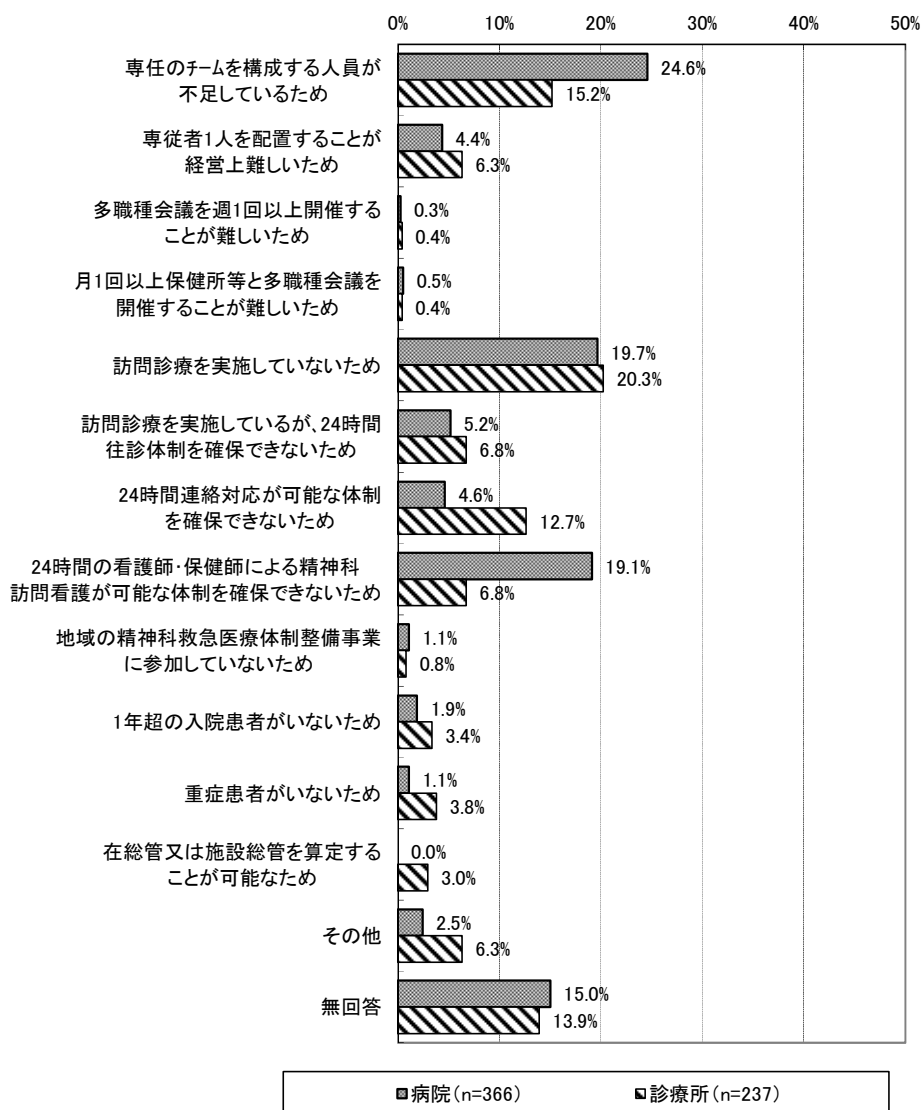
(「専任のチームを構成する人員が不足しているため」と回答した施設、複数回答)



精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出を行っていない最大の理由をみると、病院では「専任のチームを構成する人員が不足しているため」が 24.6%で最も多く、次いで「訪問診療を実施していないため」(19.7%)、「24 時間の看護師・保健師による精神科訪問看護が可能な体制を確保できないため」(19.1%)であった。

診療所では「訪問診療を実施していないため」が 20.3%で最も多く、次いで「専任のチームを構成する人員が不足しているため」(15.2%)、「24 時間連絡対応が可能な体制を確保できないため」(12.7%)であった。

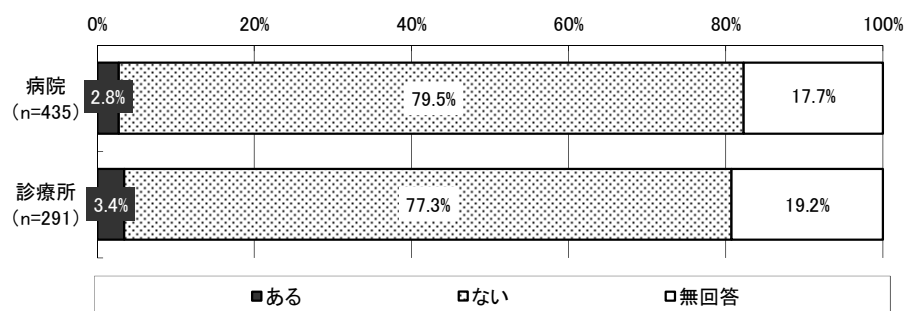
図表 92 精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出を行っていない最大の理由
 (精神科重症患者早期集中支援管理料の届出をしていない施設、単数回答)



⑧ 精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出意向

精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出意向をみると、「ある」の割合は、病院では2.8%（12施設）、診療所では3.4%（10施設）であった。

図表 93 精神科重症患者早期集中支援管理料の施設基準の届出意向
（精神科重症患者早期集中支援管理料の届出をしていない施設、複数回答）

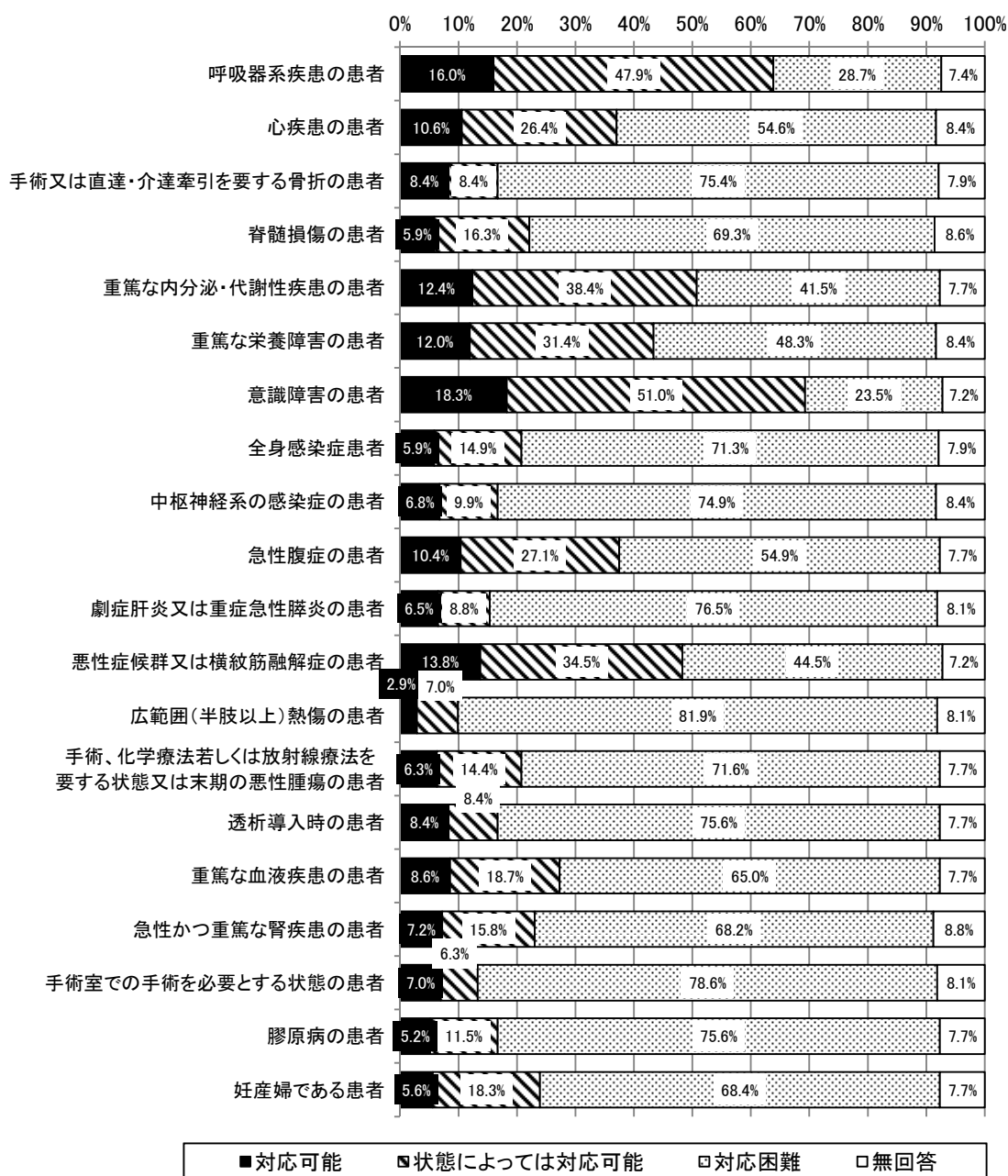


(8) 病院における身体合併症治療への対応状況

病院における身体合併症治療への対応状況は次のとおりである。

「対応困難」の割合が高いのは、「広範囲（半肢以上）熱傷の患者」（81.9%）、「手術室での手術を必要とする状態の患者」（78.6%）、「劇症肝炎又は重症急性膵炎の患者」（76.5%）、「透析導入時の患者」「膠原病の患者」（いずれも 75.6%）、「手術又は直達・介達牽引を要する骨折の患者」（75.4%）であった。

図表 94 病院における身体合併症治療への対応状況（n=443）【病院】



3. 入院患者調査の結果

【調査対象等】

○調査対象：「病院調査」の対象施設の 1) 地域移行機能強化病棟入院料算定病棟に入院している患者 2 名（入院期間が 5 年以上の患者 1 名、5 年未満の患者 1 名）、2) 精神病棟入院基本料、精神療養病棟入院料算定病棟に長期にわたり入院している患者各 1 名を対象とした。1 施設につき最大 4 名の患者を対象とした。

回答数：1,207 人

回答者：対象患者を担当する看護師・精神保健福祉士

(1) 患者の属性等

① 現在入院している病棟

本調査では、1,207 人分の入院患者票を回収した。対象患者が入院している病棟は、次のとおりである。本調査では、「現在入院している病棟別」に集計結果を掲載している。

図表 95 現在入棟している病棟

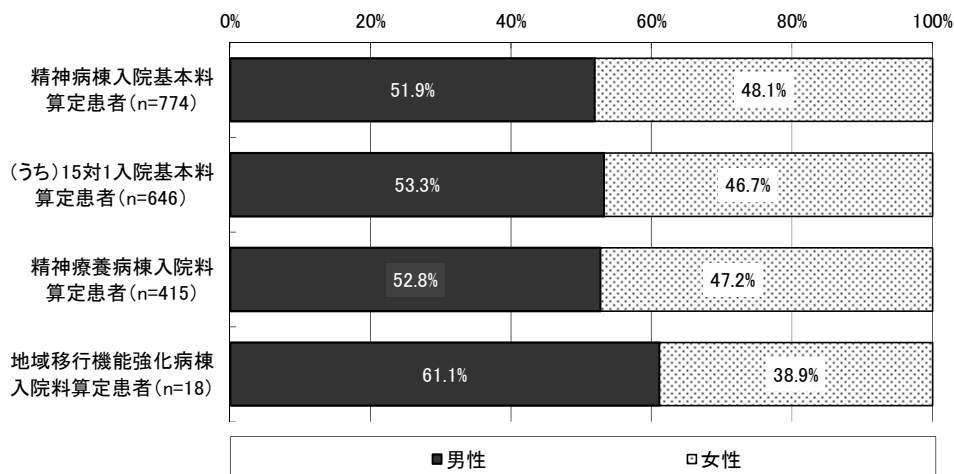
(単位：上段「人」、下段「%」)

患者総数	精神病棟入院基本料	(うち)精神病棟入院基本料					精神療養病棟入院料	地域移行機能強化病棟入院料
		10:1	13:1	15:1	18:1	20:1		
1,207	774	26	80	646	15	7	415	18
100.0	64.1	2.2	6.6	53.5	1.2	0.6	34.4	1.5

② 性別

性別は、以下のとおりである。

図表 96 性別

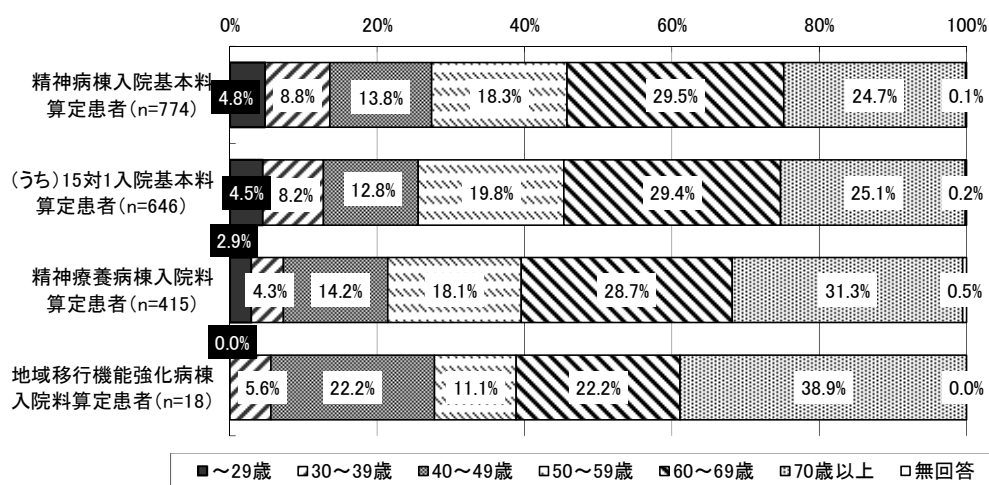


③ 年齢

年齢階級別分布をみると、精神病棟入院基本料算定患者では「60～69 歳」が 29.5%で最も多かった。精神療養病棟入院料算定患者、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では「70 歳以上」が最も多かった。

平均年齢をみると、精神病棟入院基本料算定患者では平均 59.1 歳（中央値 61.0）、精神療養病棟入院料算定患者では平均 61.9 歳（中央値 64.0）、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では平均 62.1 歳（中央値 64.0）であった。

図表 97 年齢階級別分布



図表 98 平均年齢

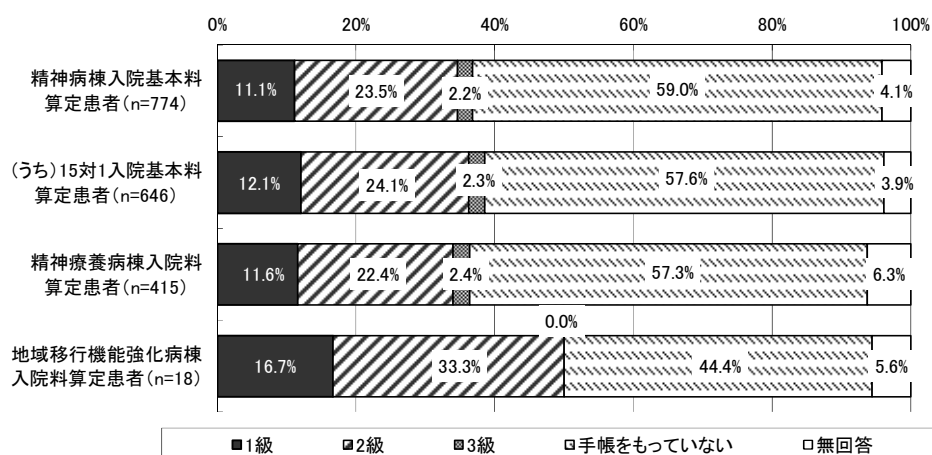
(単位：歳)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
精神病棟入院基本料	773	59.1	16.4	61.0
(うち)15対1入院基本料	645	59.4	16.2	61.0
精神療養病棟入院料	413	61.9	14.8	64.0
地域移行機能強化病棟入院料	18	62.1	14.9	64.0

④ 精神障害者福祉手帳の保有状況等

精神障害者福祉手帳の保有状況等をみると、いずれの入院患者でも「手帳をもっていない」が多かったが、特に精神病棟入院基本料算定患者で 59.0%と多かった。地域移行機能強化病棟入院料算定患者では「1級」が 16.7%、「2級」が 33.3%で合わせて半数を占めた。

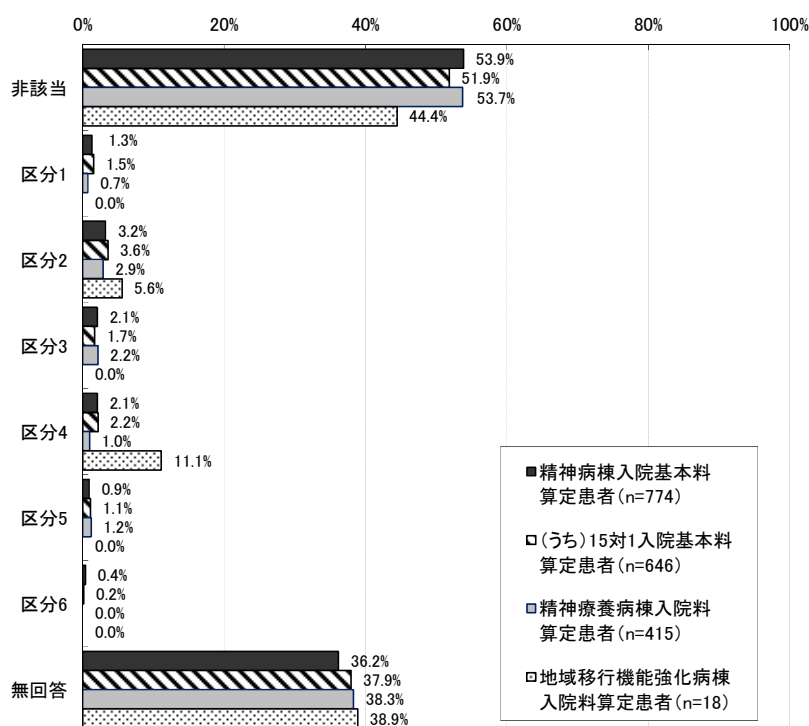
図表 99 精神障害者福祉手帳の保有状況等



⑤ 障害者支援区分

障害者支援区分をみると、いずれの入院患者でも「非該当」が多かった。また、無回答の割合も多く、把握していないケースも多いものと推察される。

図表 100 障害者支援区分 (単数回答)

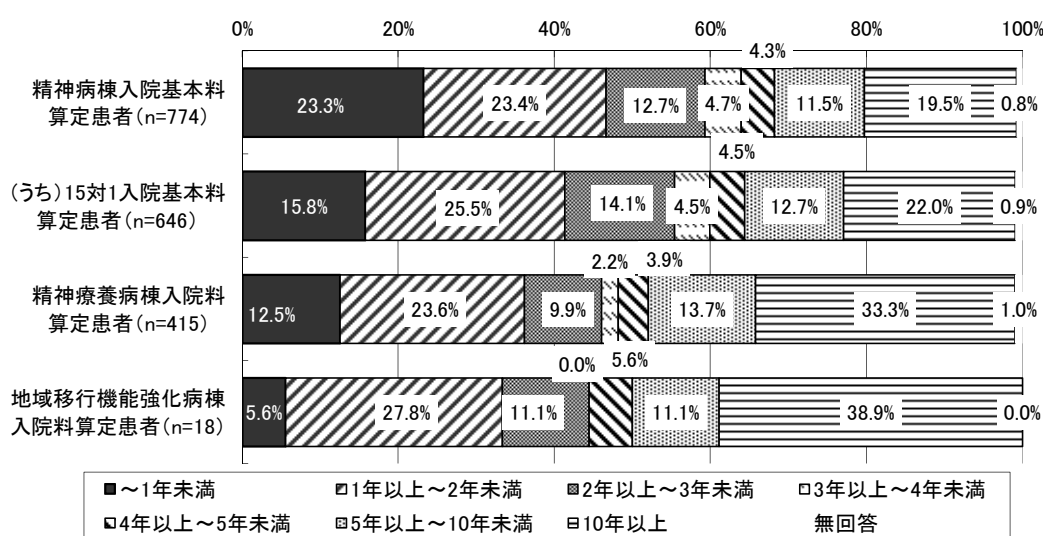


(2) 入院の状況等

① 入院期間

入院期間別分布をみると、精神病棟入院基本料算定患者では「1年以上～2年未満」が23.4%で最も多く、次いで「～1年未満」が23.3%であった。また、平均入院期間は平均2,452.1日（中央値801.5）で他の病棟の入院患者よりも短かった。一方、入院期間が「10年以上」の割合は、精神療養病棟入院料算定患者では33.3%、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では38.9%となり、平均入院期間も長かった。

図表 101 入院期間別分布



(注) 「今回の入院日」から平成28年10月1日までの日数を「入院期間」として算出した。

図表 102 平均入院期間

(単位：日)

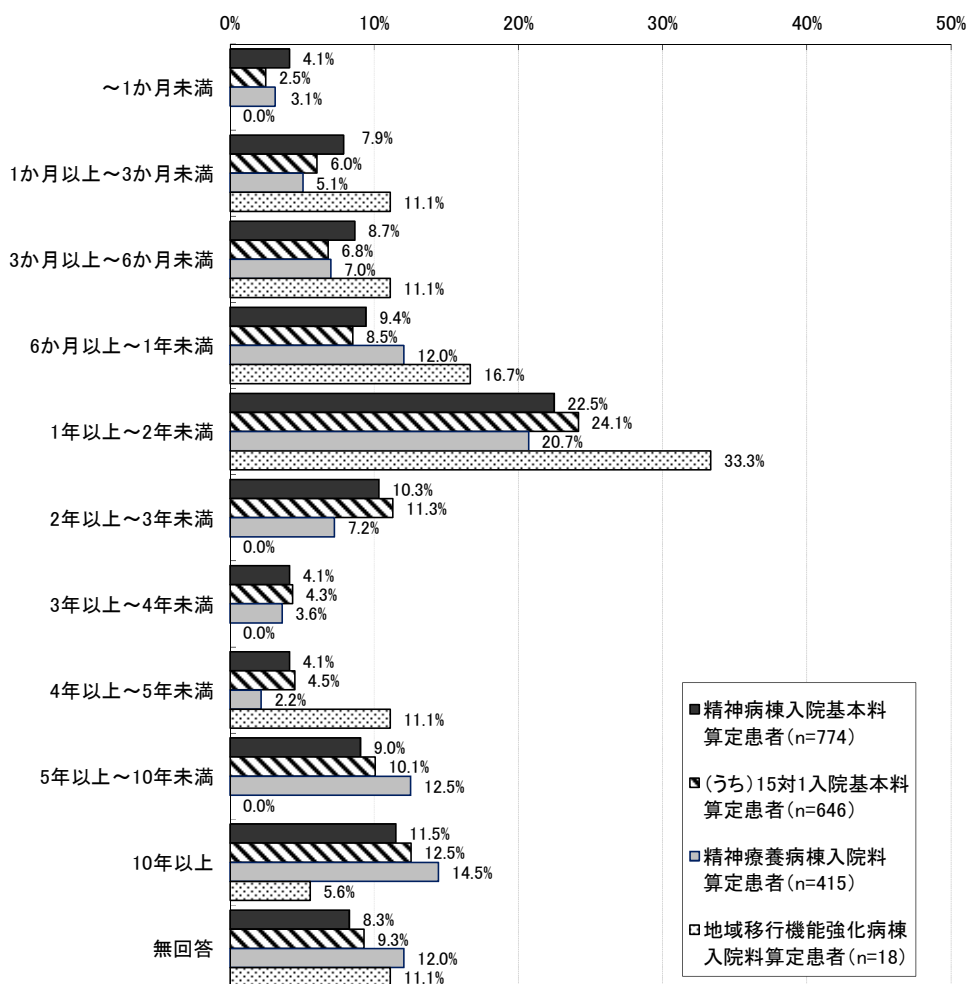
	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
精神病棟入院基本料	768	2,452.1	3,860.9	801.5
(うち)15対1入院基本料	640	2,739.4	4,043.9	904.5
精神療養病棟入院料	411	3,844.6	4,897.3	1,516.0
地域移行機能強化病棟入院料	18	4,630.1	5,498.0	1,905.0

(注) 「今回の入院日」から平成28年10月1日までの日数を「入院期間」として算出した。

② 現在の病棟での入棟期間

現在の病棟での入院期間別分布をみると、いずれの入院患者でも「1年以上～2年未満」が最も多かった。

図表 103 現在の病棟での入院期間別分布（単数回答）



(注) 「現在の病棟への入棟日」から平成28年10月1日までの日数を「現在の病棟での入院期間」として算出した。

図表 104 現在の病棟での平均入院期間

(単位：日)

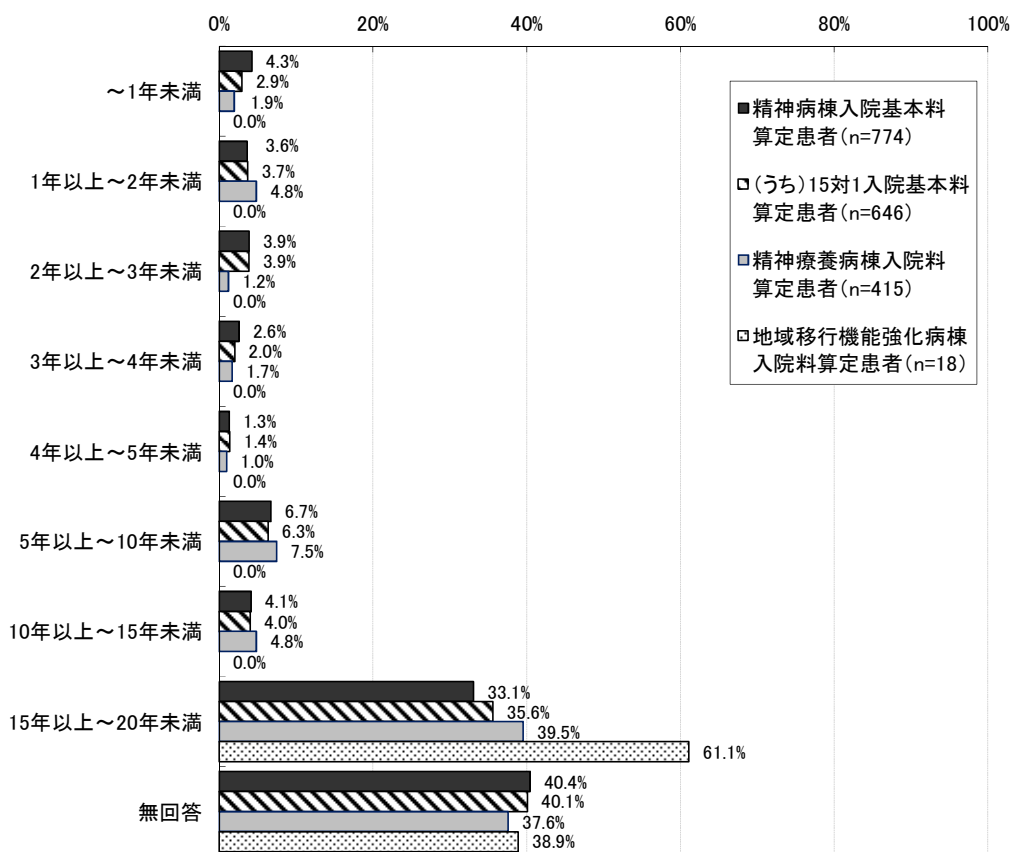
	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
精神病棟入院基本料	710	1708.8	3086.7	601.5
(うち)15対1入院基本料	586	1873.2	3205.6	686.0
精神療養病棟入院料	365	1802.1	2778.8	624.0
地域移行機能強化病棟入院料	16	749.8	1049.2	388.0

(注) 「現在の病棟への入棟日」から平成28年10月1日までの日数を「現在の病棟での入院期間」として算出した。

③ 精神科・神経科の初診日からの経過期間

精神科・神経科の初診日からの経過期間をみると、いずれの入院患者でも「15年以上～20年未満」が最も多かった。

図表 105 精神科・神経科の初診日からの経過期間（単数回答）



(注) 「精神科・神経科の初診日」から平成28年10月1日までの日数を「精神科・神経科の初診日からの経過期間」として算出した。

図表 106 精神科・神経科の初診日からの経過期間

(単位：日)

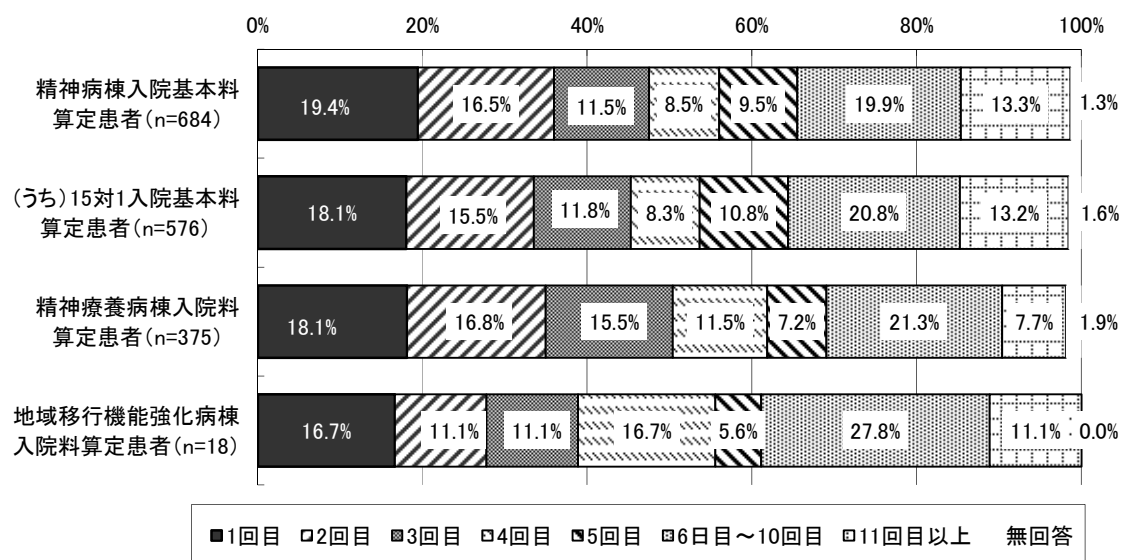
	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
精神病棟入院基本料	461	7,326.6	5,865.7	6,413.0
(うち)15対1入院基本料	387	7,778.5	5,896.4	6,865.0
精神療養病棟入院料	259	8,855.7	6,395.6	8,146.0
地域移行機能強化病棟入院料	11	12,211.6	5,045.2	11,249.0

(注) 「精神科・神経科の初診日」から平成28年10月1日までの日数を「精神科・神経科の初診日からの経過期間」として算出した。

④ 精神科・神経科への通算入院回数

精神科・神経科への通算入院回数をみると、「1回目」という患者は、精神病棟入院基本料算定患者、精神療養病棟入院患者で約2割を占めた。一方で、「11回目以上」という患者が1割程度いた。

図表 107 精神科・神経科への通算入院回数（不明者を除く）



図表 108 精神科・神経科への通算入院回数（不明者を除く）

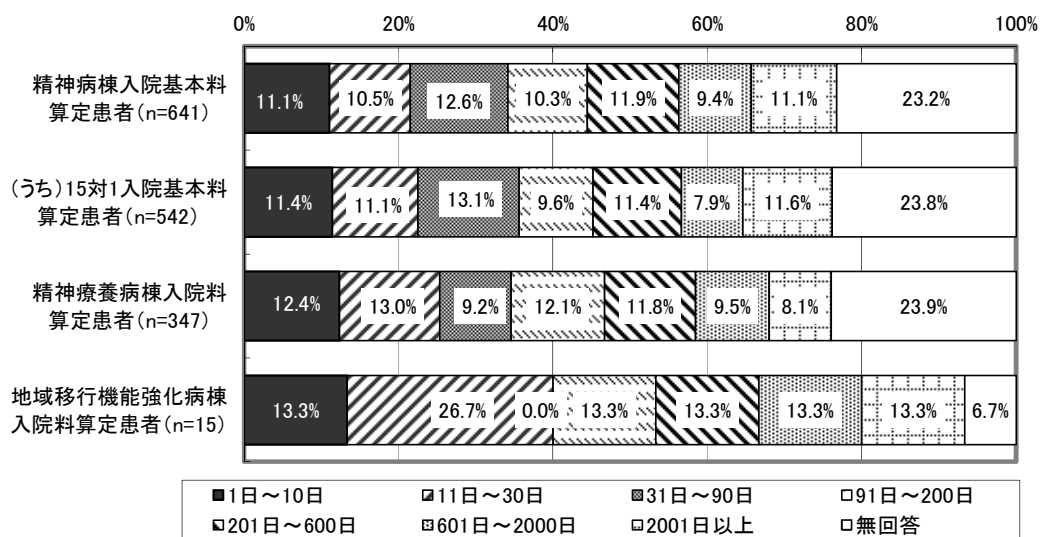
(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
精神病棟入院基本料	675	5.3	5.4	4.0
(うち)15対1入院基本料	567	5.3	5.0	4.0
精神療養病棟入院料	368	4.7	4.4	3.0
地域移行機能強化病棟入院料	18	5.6	4.5	4.0

⑤ 前回退院日からの今回の入院までの期間

2回以上の入院経験者における、前回退院日から今回の入院までの期間をみると、前回の退院日から30日以内（「1日～10日」「11日～30日」）は、精神病棟入院基本料算定患者、精神療養病棟入院料算定患者ではおよそ2割程度となった。

図表 109 前回退院日から今回の入院までの期間（2回以上の入院経験者）

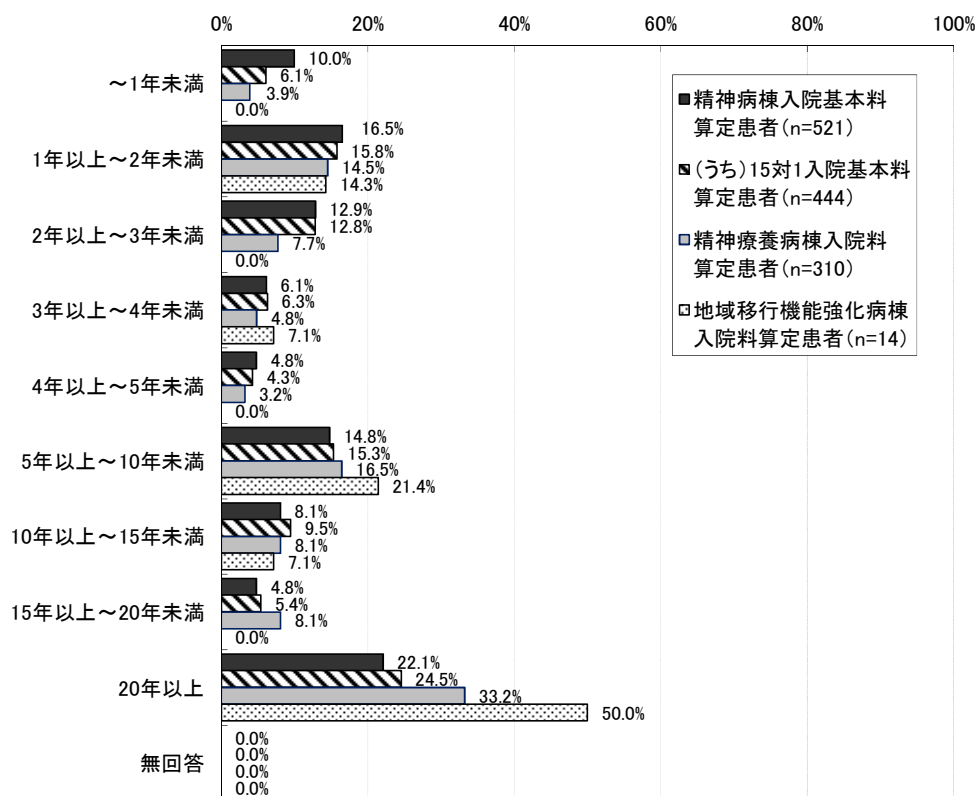


(注)「前回退院日」から「今回の入院日」までの日数を算出した。

⑥ 精神科・神経科への通算入院期間

精神科・神経科への通算入院期間をみると、いずれの入院患者でも「20年以上」が最も多かった。

図表 110 精神科・神経科への通算入院期間（不明者を除く）

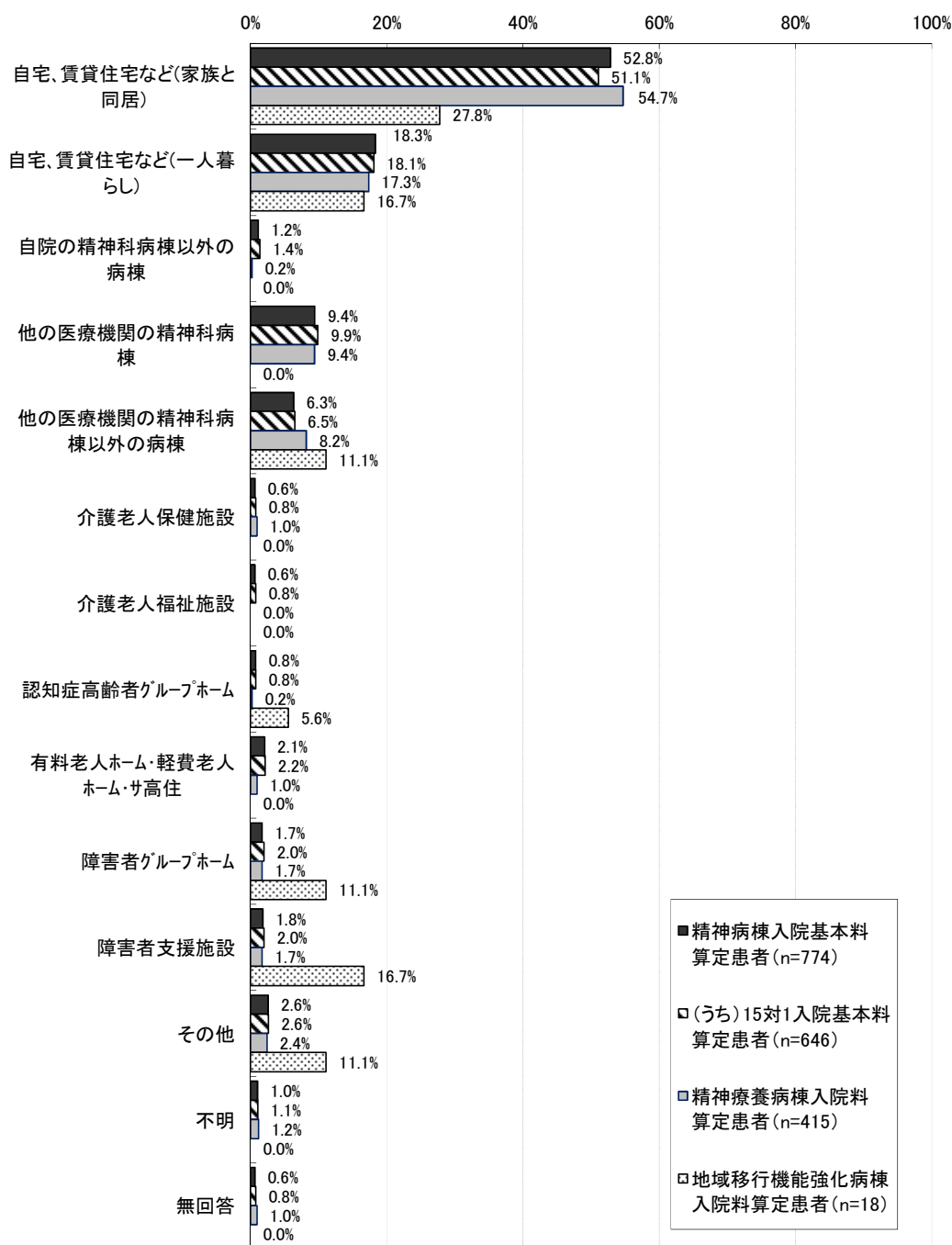


⑦ 入院前の居場所

入院前の居場所をみると、いずれの入院患者も「自宅、賃貸住宅など（家族と同居）」が最も多く、次いで「自宅、賃貸住宅など（一人暮らし）」であった。

地域移行機能強化病棟入院料算定患者は人数が少ないが、入院前の居場所をみると、この2つ以外に「障害者支援施設」が16.7%、「他の医療機関の精神科病棟以外の病棟」、「障害者グループホーム」が11.1%で他と比較して相対的にやや高かった。

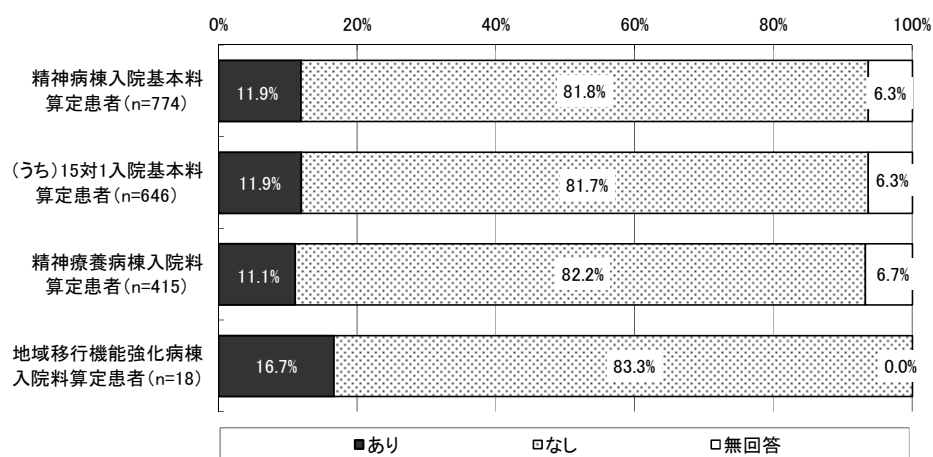
図表 111 入院前の居場所（単数回答）



⑧ 直近の在宅療養期間における、精神科訪問看護の利用の有無

直近の在宅療養期間における、精神科訪問看護の利用の有無をみると、「あり」の割合は精神病棟入院基本料算定患者が 11.9%、精神療養病棟入院料算定患者が 11.1%、地域移行機能強化病棟入院料算定患者が 16.7%であった。

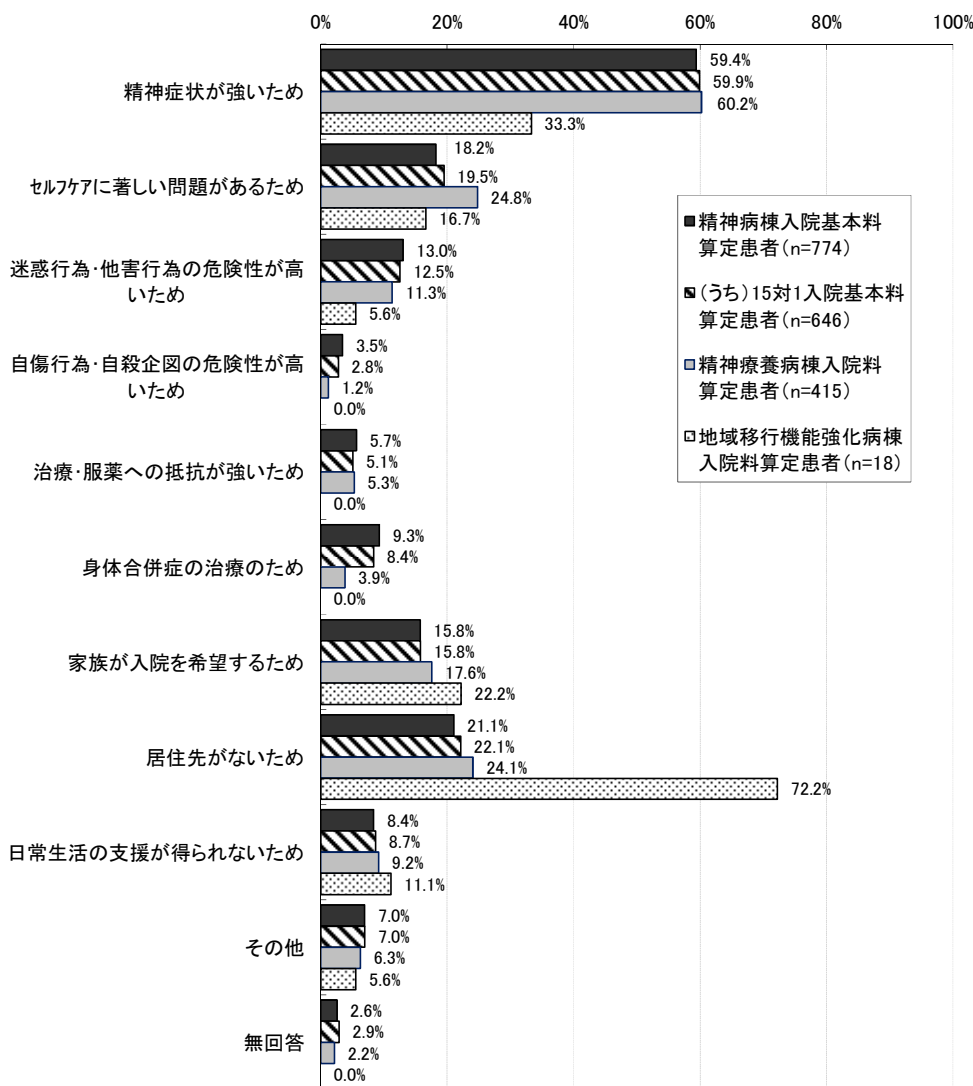
図表 112 直近の在宅療養期間における、精神科訪問看護の利用の有無



⑨ 現在入院している病棟における主な入院の理由

現在入院している病棟における主な入院の理由をみると、精神病棟入院基本料算定患者、精神療養病棟入院料算定患者では「精神症状が強いため」が最も多く 6 割近くを占めた。地域移行機能強化病棟入院料算定患者では「居住先がないため」が 72.2%で最も多く、他の入院患者と比較すると、「精神症状が強いため」の割合が低かった。

図表 113 現在入院している病棟における主な入院の理由（複数回答、2 つまで）

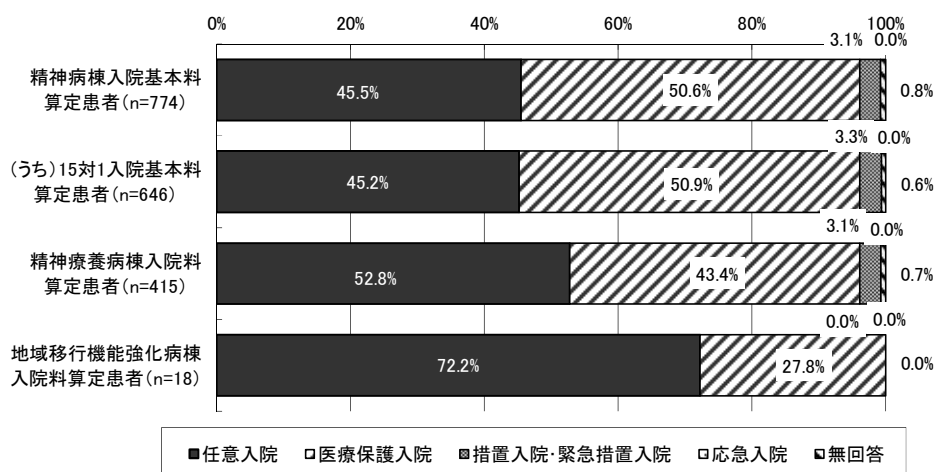


(注) 「その他」の内容として、「本人が入院を希望」、「不安感が強い」、「退院意欲の欠如」、「退院に向けて生活訓練」、「支援できる家族がいない」、「施設等が決まらない」、「病識の欠如」、「アルコール依存」、「退院準備」、「退院意欲がない」、「周囲とのトラブル」、「意思疎通困難」、「復職準備」、「無為・自閉」、「妄想」、「薬物療法・休養」、「抑うつ状態」、「食事摂食不良」、「社会性の欠如」、「本人が入所を拒否」、「デイ・ケアのある通院先の確保」等が挙げられた。

⑩ 今回の入院時の入院形態

今回の入院時の入院形態をみると、精神病棟入院基本料算定患者では「任意入院」が45.5%、「医療保護入院」が50.6%で「医療保護入院」のほうが多かった。精神療養病棟入院料算定患者では「任意入院」が52.8%、「医療保護入院」が43.4%で、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では「任意入院」が72.2%、「医療保護入院」が27.8%と「任意入院」のほうが多かった。なお、「応急入院」はいなかった。

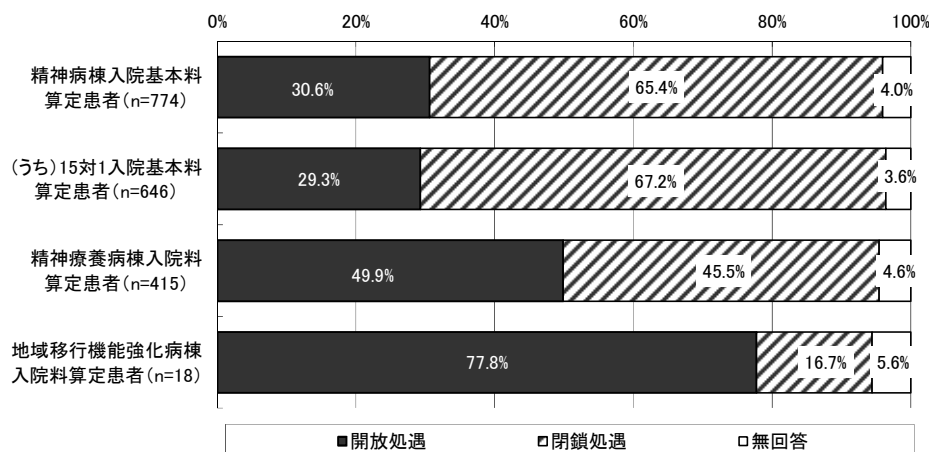
図表 114 今回の入院時の入院形態



⑪ 現在の処遇

現在の処遇をみると、精神病棟入院基本料算定患者では「開放処遇」が30.6%、「閉鎖処遇」が65.4%で「閉鎖処遇」のほうが多かった。精神療養病棟入院料算定患者では「開放処遇」が49.9%、「閉鎖処遇」が45.5%で、「開放処遇」がやや多かった。地域移行機能強化病棟入院料算定患者では「開放処遇」が77.8%で、「閉鎖処遇」が16.7%と「開放処遇」のほうが多かった。

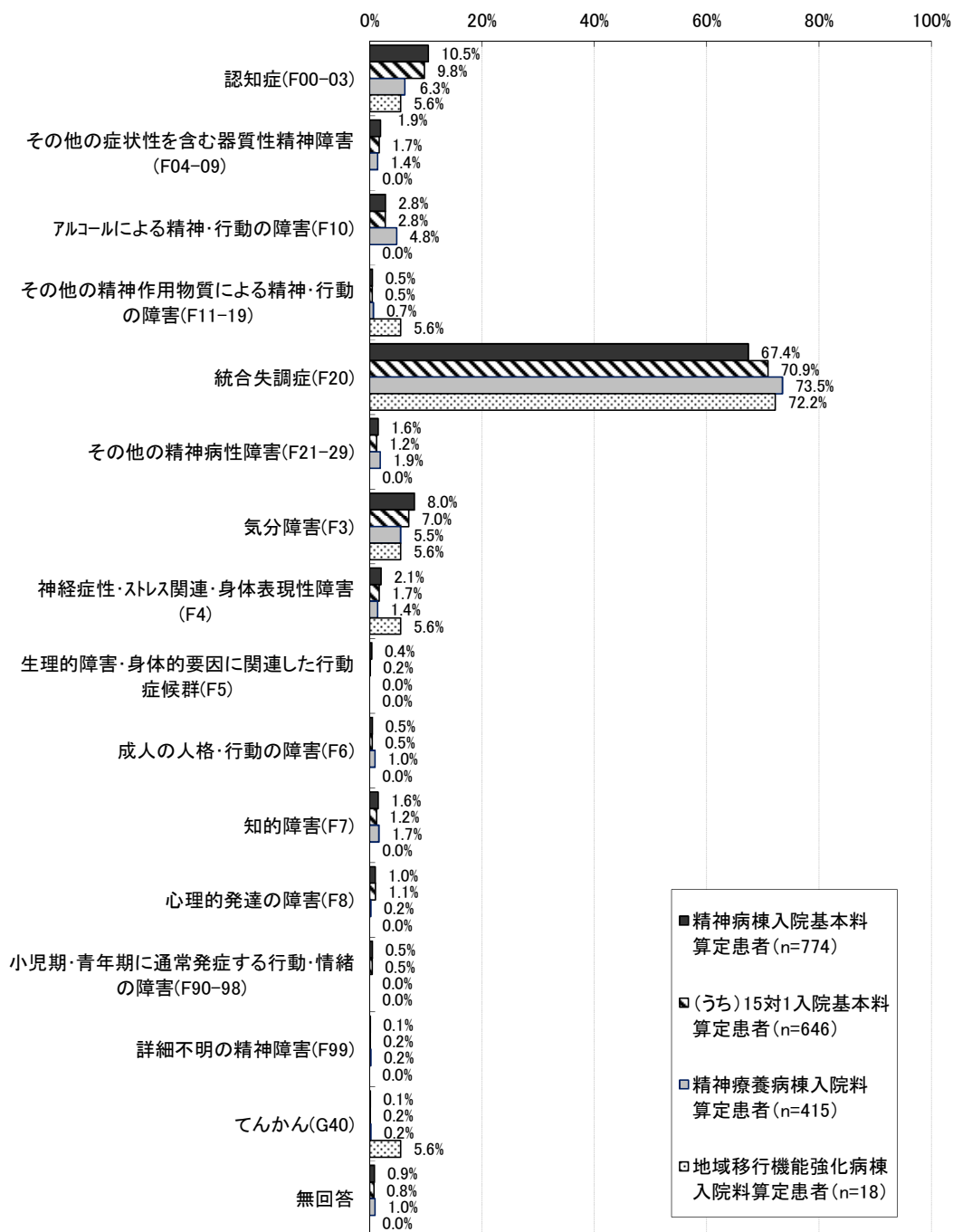
図表 115 現在の処遇



⑫ 主傷病

主傷病をみると、いずれの入院患者でも「統合失調症」が7割程度と最も多かった。

図表 116 主傷病（単数回答）



⑬ その他の精神疾患の傷病

その他の精神疾患の傷病をみると、いずれの入院患者でも「なし」が4割強～5割強で最も多かった。

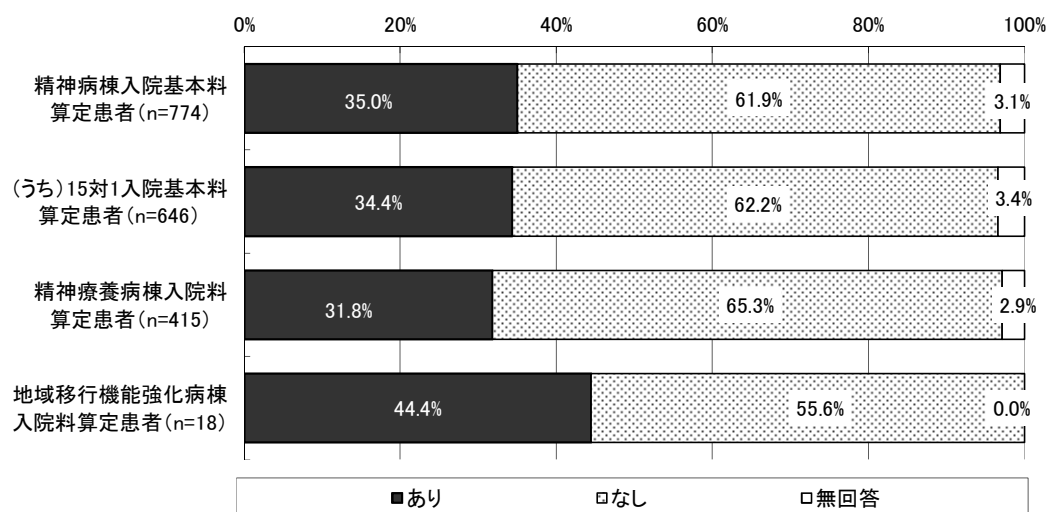
図表 117 その他の精神疾患の傷病（複数回答）



⑭ 身体合併症の有無と内容

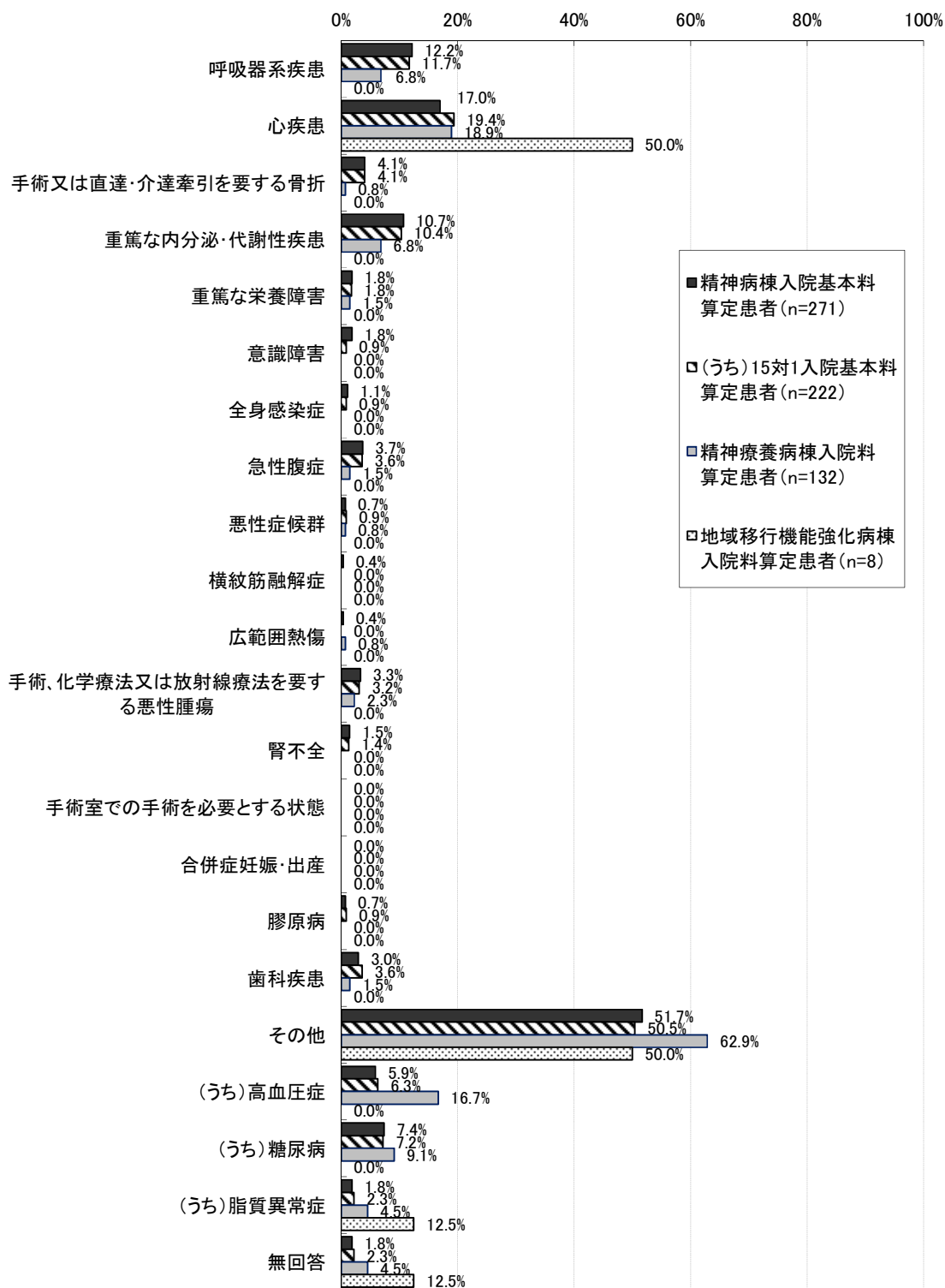
身体合併症の有無をみると、「あり」の割合は、精神病棟入院基本料算定患者では 35.0%、精神療養病棟入院料算定患者では 31.8%、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では 44.4%であった。

図表 118 身体合併症の有無



身体合併症がある患者について身体合併症の内容をみると、「心疾患」、「呼吸器系疾患」、「重篤な内分泌・代謝性疾患」などが挙げられた。

図表 119 身体合併症（身体合併症がある患者、複数回答）



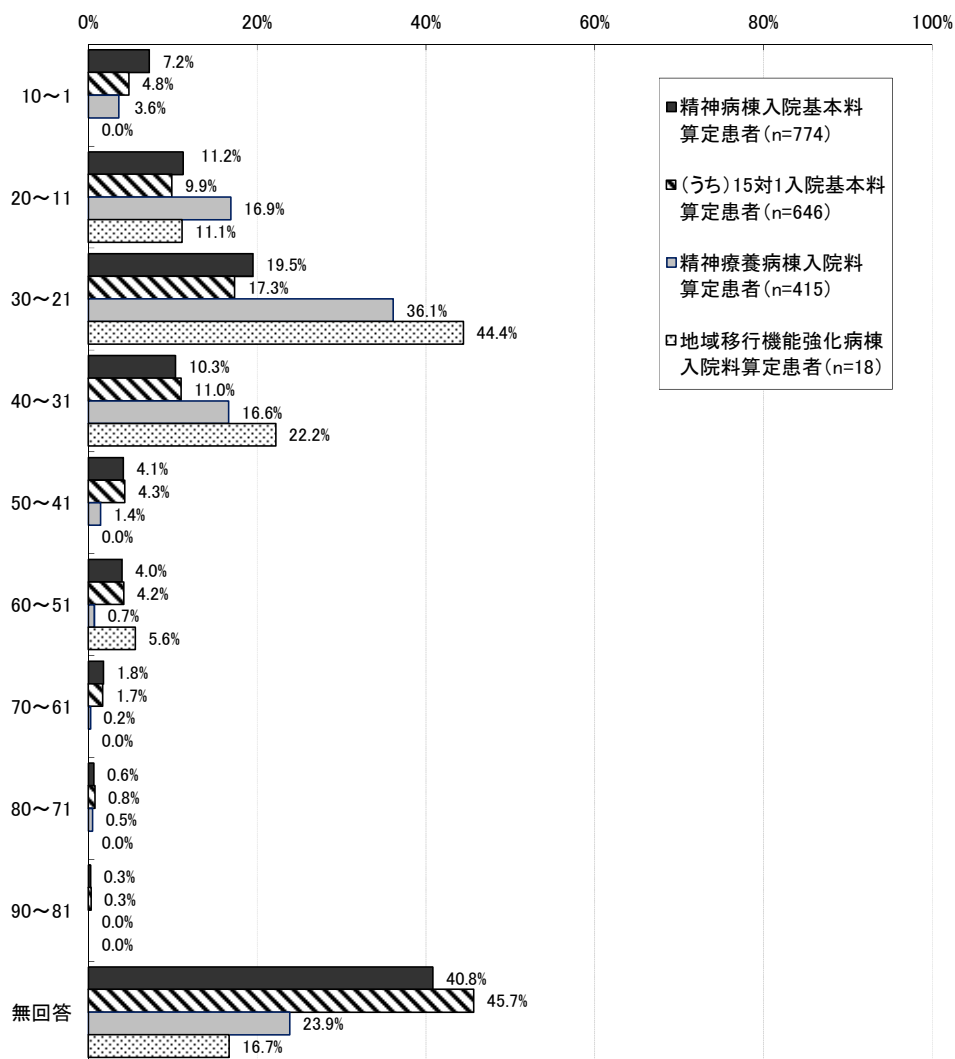
(注) 「その他」に記載のあった疾患について、上位の「高血圧症」、「糖尿病」、「脂質異常症」と記載のあったものを別途集計し、「その他」のうち数として上記に掲載した。

(3) 患者の状態等

① 患者のGAFスコア

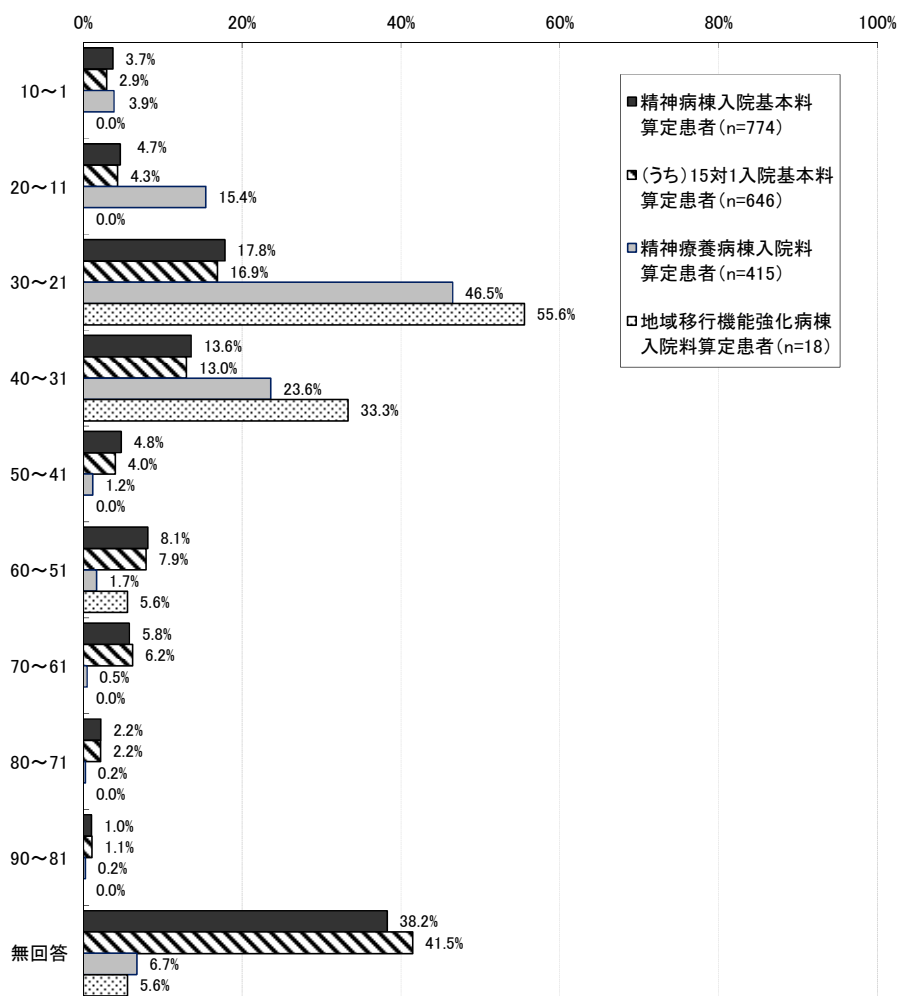
患者の入棟時のGAFスコアをみると、いずれの入院患者でも「30～21」の割合が最も高かった。

図表 120 患者のGAFスコア（入棟時、単数回答）



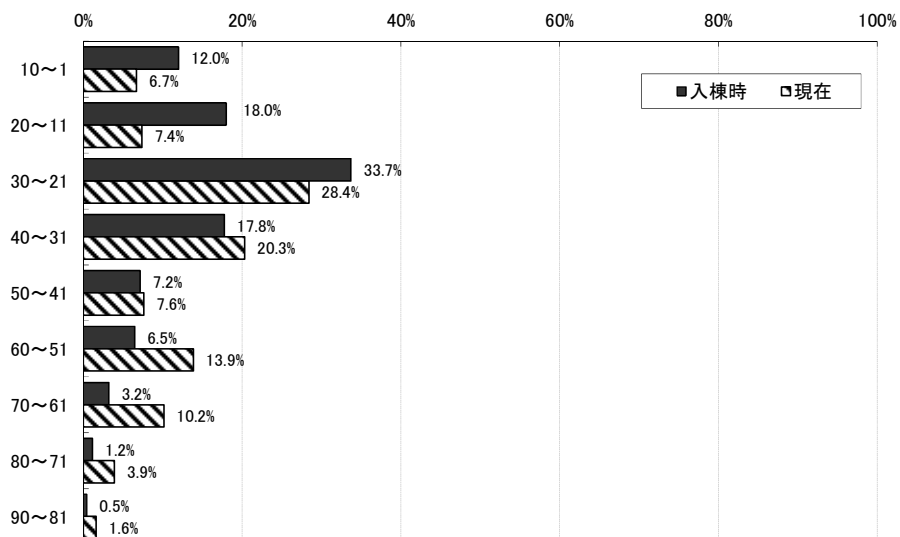
患者の現在のGAFスコアをみると、いずれの入院患者でも「30～21」の割合が最も高かった。

図表 121 患者のGAFスコア（現在、単数回答）



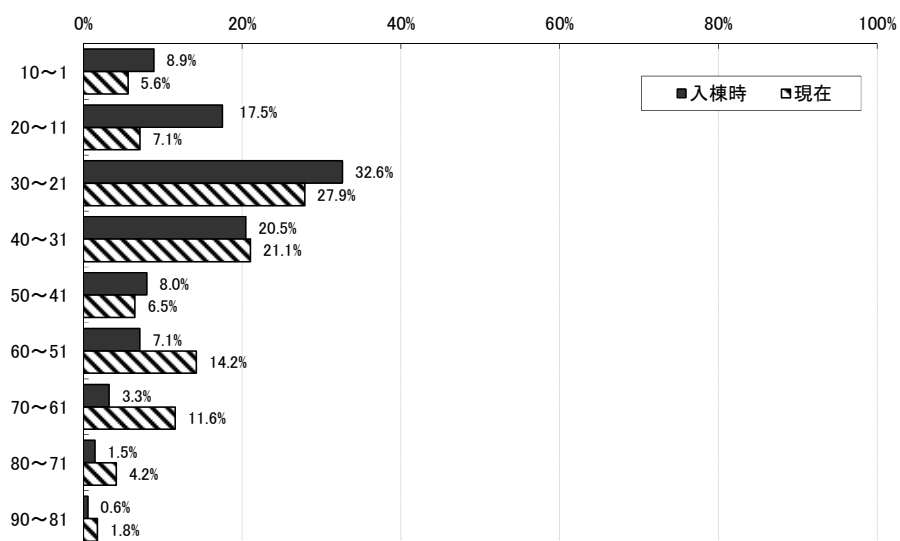
精神病棟入院基本料算定患者、及び 15 対 1 入院基本料算定患者について、入棟時と現在を比較すると、30 未満の割合が減少し、31 以上の割合が増加している。

図表 122 患者の G A F スコア（精神病棟入院基本料算定患者、単数回答、n=433）



(注) 入棟時及び現在の GAF スコアについて記入のあった患者票を集計対象とした。

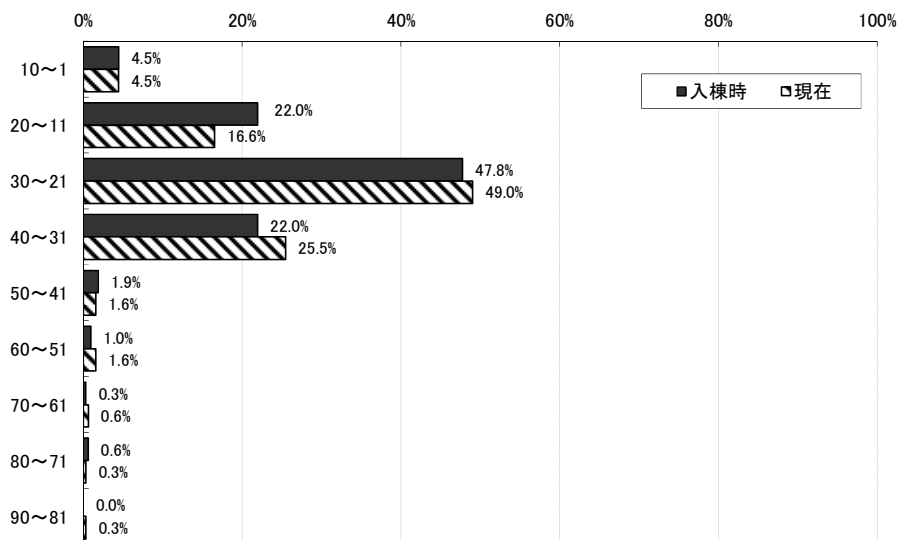
図表 123 患者の G A F スコア（15 対 1 入院基本料算定患者、単数回答、n=337）



(注) 入棟時及び現在の GAF スコアについて記入のあった患者票を集計対象とした。

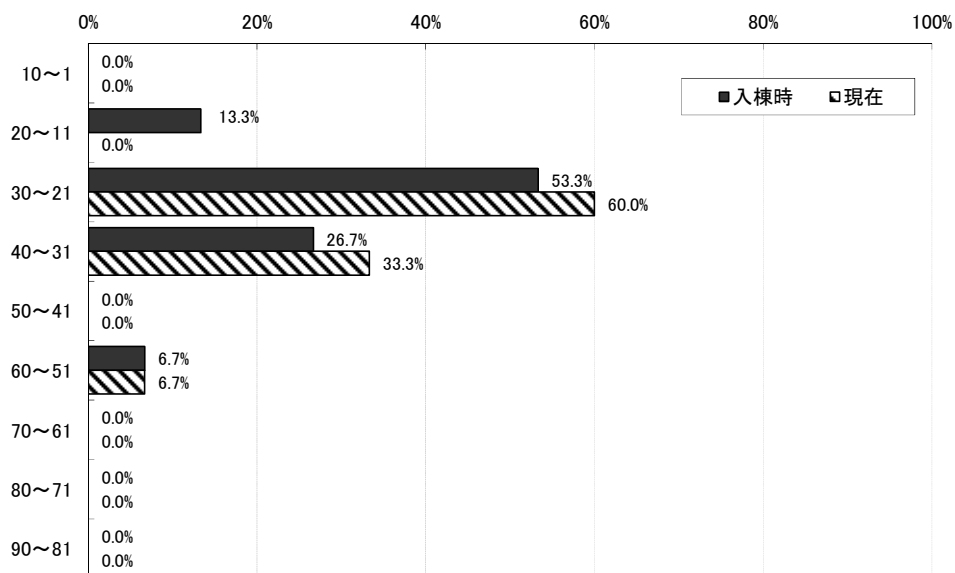
精神療養病棟入院料算定患者について、入棟時と現在を比較すると、20 未満の割合が減少し、21 以上 40 未満の割合が増加している。

図表 124 患者の G A F スコア（精神療養病棟入院料算定患者、単数回答、n=314）



(注) 入棟時及び現在の GAF スコアについて記入のあった患者票を集計対象とした。

図表 125 患者の G A F スコア（地域移行機能強化病棟入院料算定患者、単数回答、n=15）

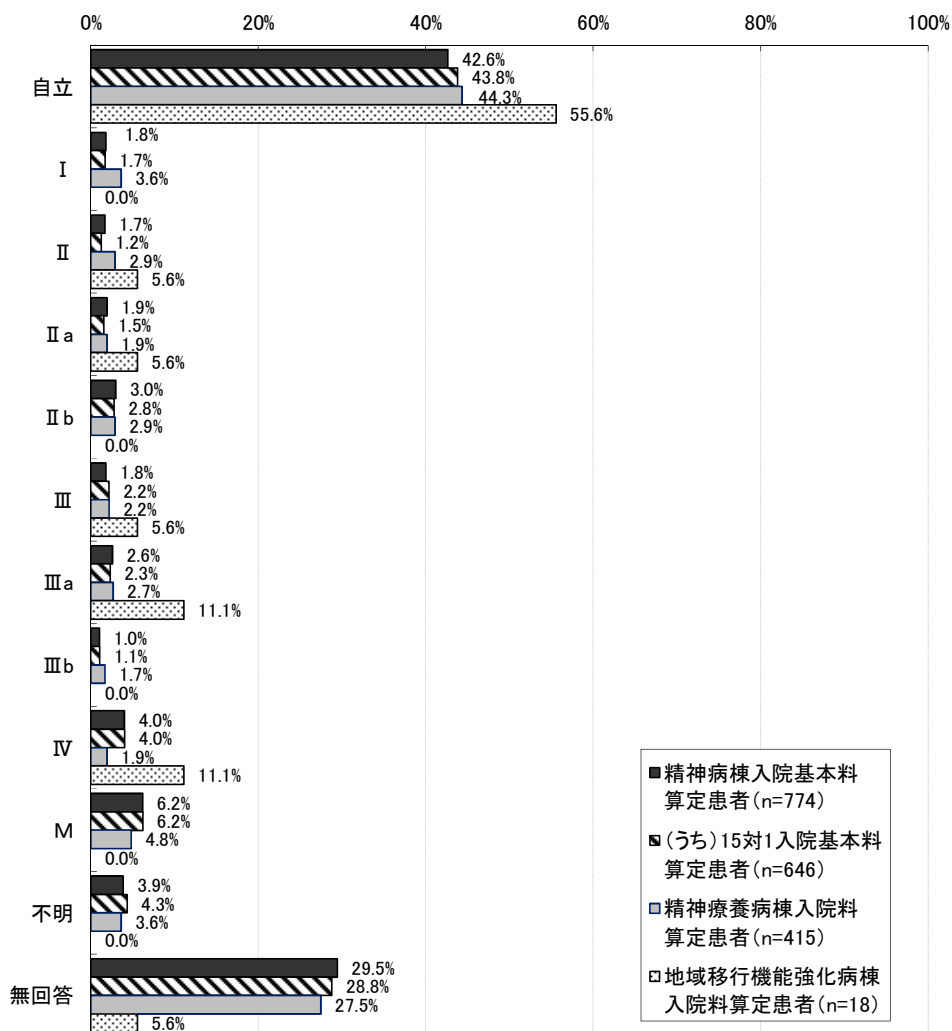


(注) 入棟時及び現在の GAF スコアについて記入のあった患者票を集計対象とした。

② 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度をみると、いずれの入院患者でも「自立」が多かった。

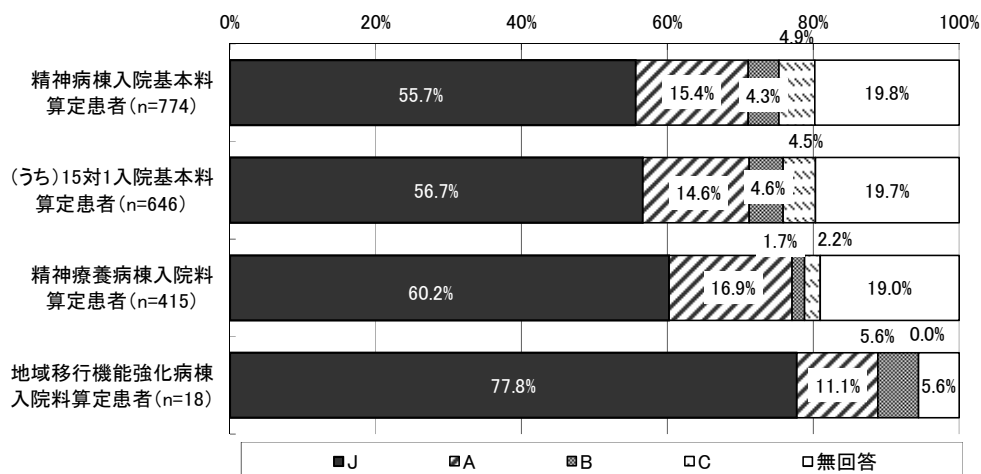
図表 126 認知症高齢者の日常生活自立度（単数回答）



③ 障害高齢者の日常生活自立度

障害高齢者の日常生活自立度をみると、いずれの入院患者でも「J」が最も多く過半数を占めた。次いで「A」が多かった。

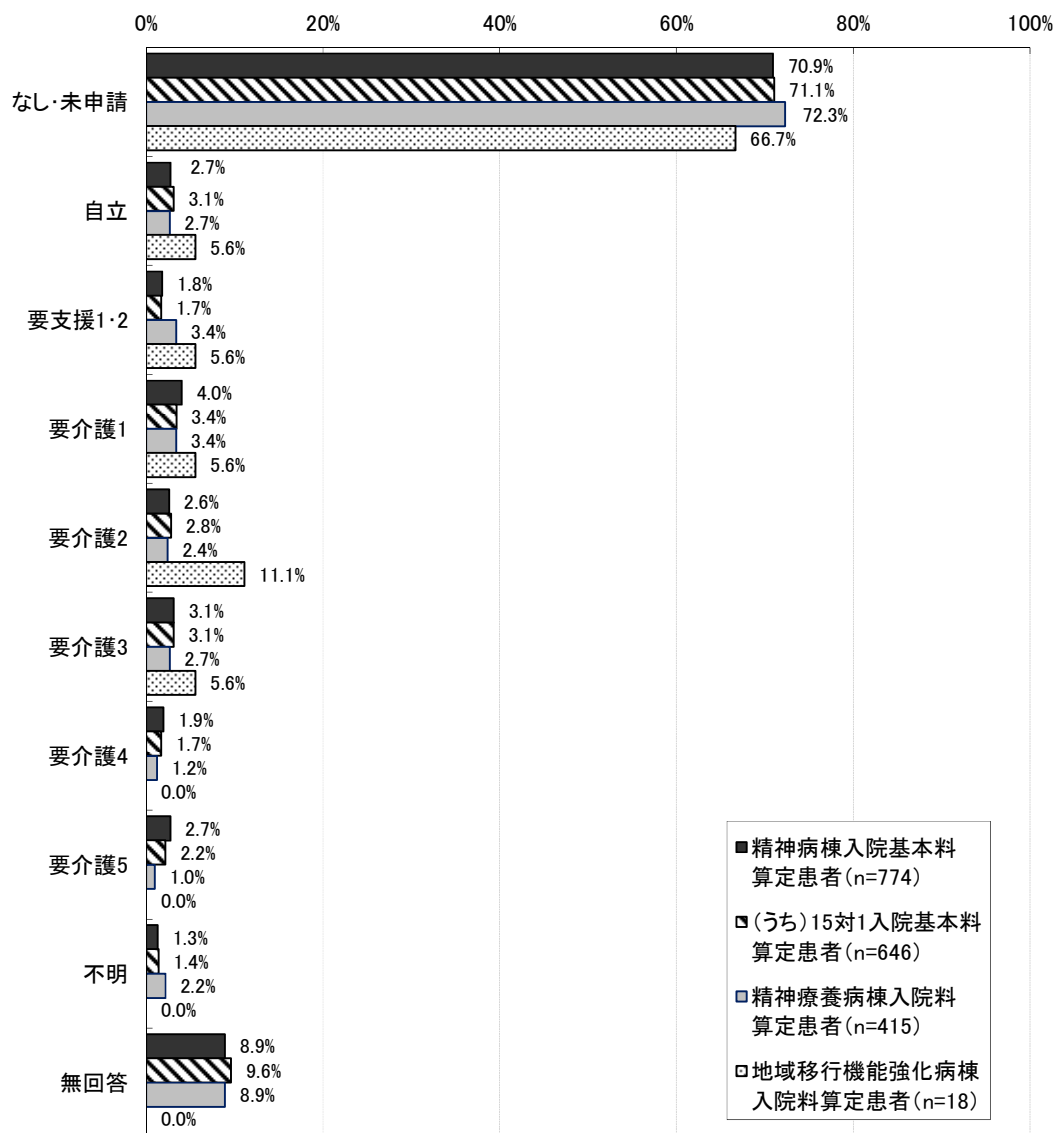
図表 127 障害高齢者の日常生活自立度



④ 要介護度

要介護度をみると、いずれの入院患者でも「なし・未申請」がおよそ7割近くを占めた。

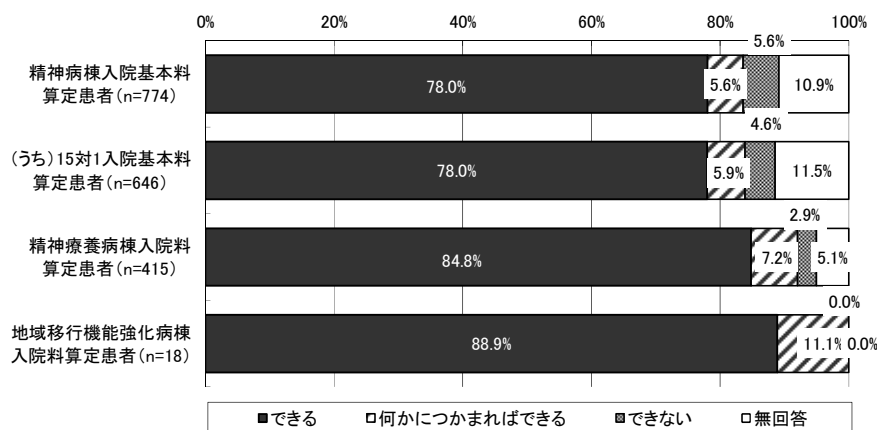
図表 128 要介護度（単数回答）



⑤ 患者の状況

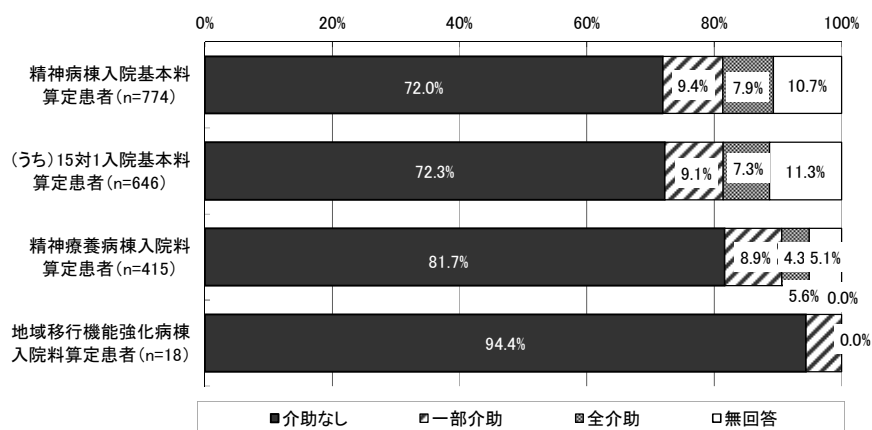
患者の状況のうち「寝返り」をみると、いずれの入院患者でも「できる」が8割弱から9割近くを占めた。

図表 129 患者の状況～寝返り～



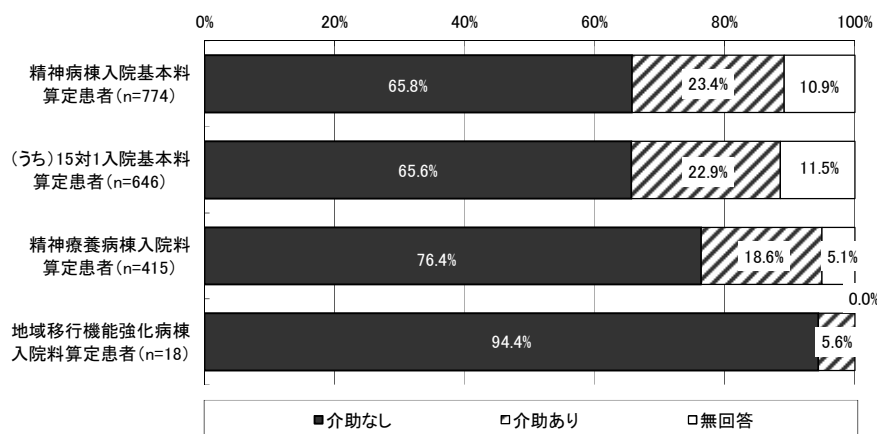
患者の状況のうち「移乗」をみると、いずれの入院患者でも「介助なし」が7割から9割強を占めた。地域移行機能強化病棟入院料算定患者では94.4%、精神療養病棟入院料算定患者では81.7%と精神病棟入院基本料算定患者よりも割合が高かった。

図表 130 患者の状況～移乗～



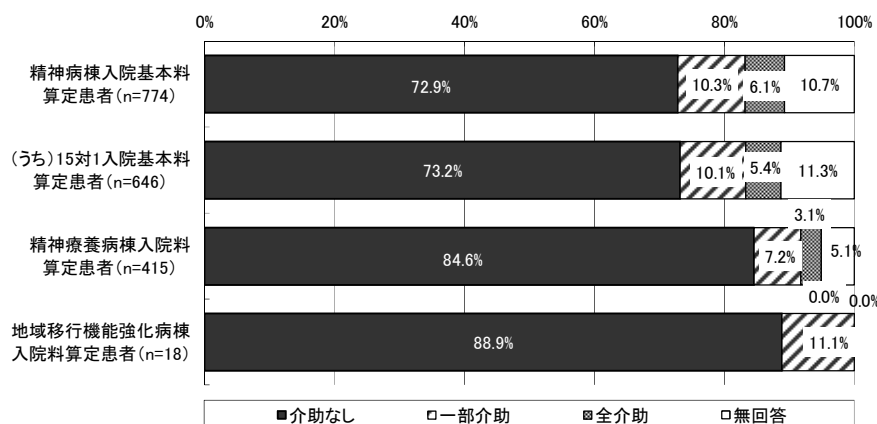
患者の状況のうち「口腔清潔」をみると、いずれの入院患者でも「介助なし」が6割強を超えた。この割合は、精神病棟入院基本料算定患者では65.8%、精神療養病棟入院料算定患者では76.4%、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では94.4%であった。

図表 131 患者の状況～口腔清潔～



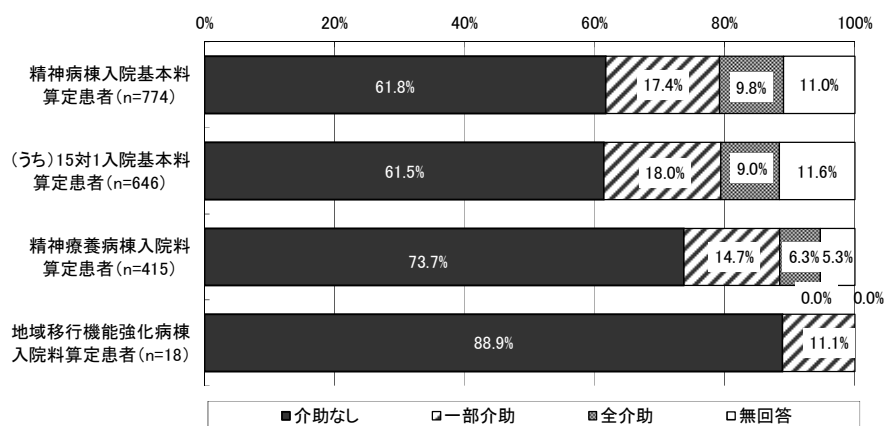
患者の状況のうち「食事摂取」をみると、いずれの入院患者でも「介助なし」が7割を超えた。この割合は、精神病棟入院基本料算定患者では72.9%、精神療養病棟入院料算定患者では84.6%、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では88.9%であった。

図表 132 患者の状況～食事摂取～



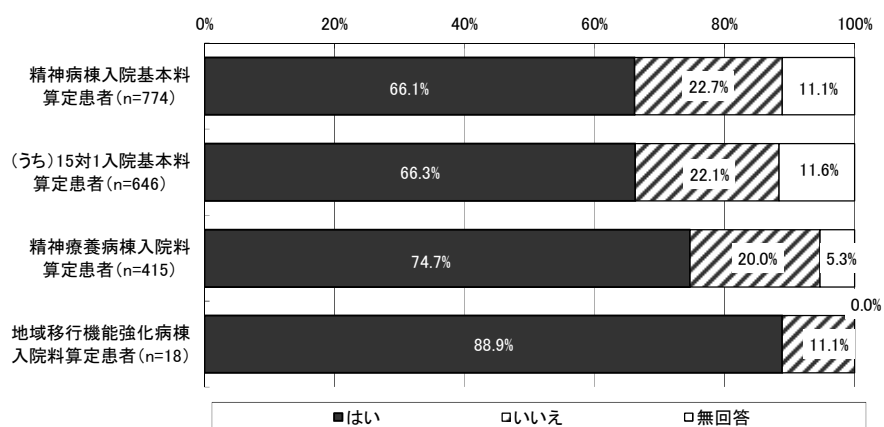
患者の状況のうち「衣服の着脱」をみると、いずれの入院患者でも「介助なし」が6割を超えた。この割合は、精神病棟入院基本料算定患者では61.8%、精神療養病棟入院料算定患者では73.7%、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では88.9%であった。一方で、「全介助」が精神病棟入院基本料算定患者では1割程度を占めた。

図表 133 患者の状況～衣服の着脱～



患者の状況のうち「診療・療養上の指示が通じる」をみると、いずれの入院患者でも「はい」(診療・療養上の指示が通じる)が6割を超えた。この割合は、精神病棟入院基本料算定患者では66.1%、精神療養病棟入院料算定患者では74.7%、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では88.9%であった。一方で、「いいえ」(診療・療養上の指示が通じない)が精神病棟入院基本料算定患者、精神療養病棟入院料算定患者では2割程度を占めた。

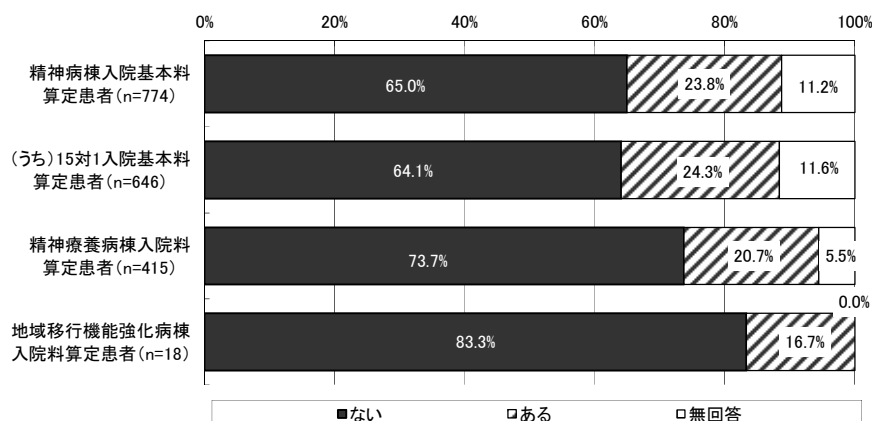
図表 134 患者の状況～診療・療養上の指示が通じる～



入院患者調査

患者の状況のうち「危険行動」をみると、いずれの入院患者でも「ない」が6割を超えた。この割合は、精神病棟入院基本料算定患者では65.0%、精神療養病棟入院料算定患者では73.7%、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では83.3%であった。一方で、危険行動が「ある」という割合は精神病棟入院基本料算定患者では23.8%、精神療養病棟入院料算定患者では20.7%、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では16.7%を占めた。

図表 135 患者の状況～危険行動～

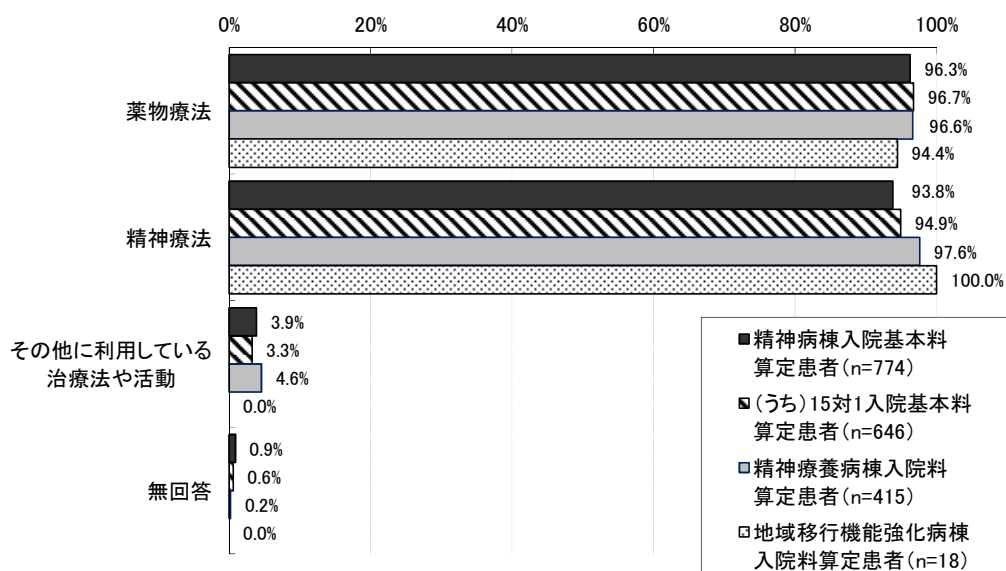


(4) 治療の状況

① 主傷病に対して実施している診療内容

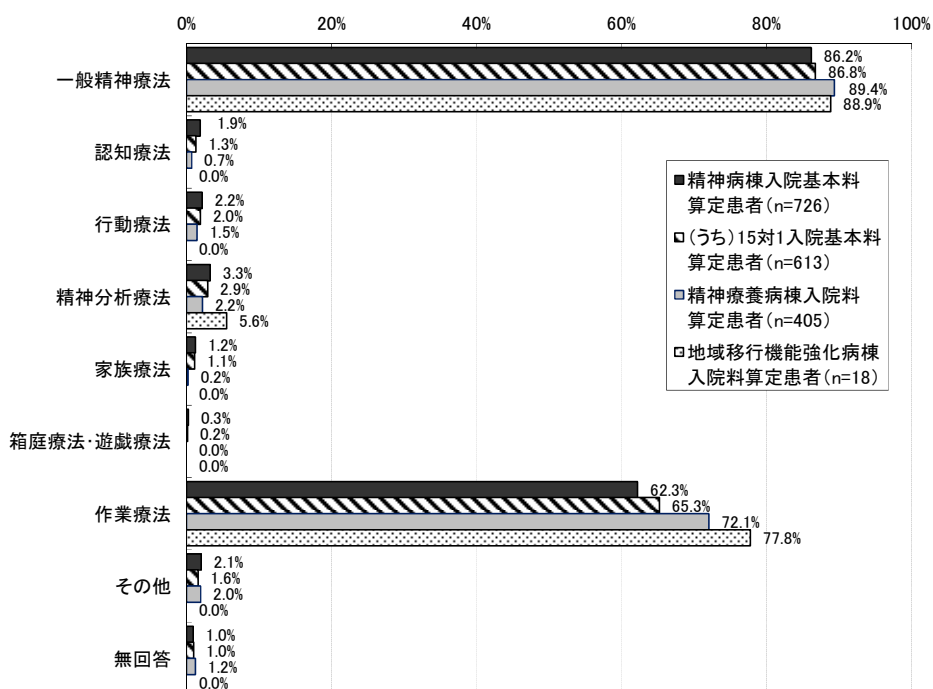
主傷病に対して実施している診療内容は、次のとおりである。

図表 136 主傷病に対して実施している診療内容（複数回答）



主傷病に対して実施している精神療法をみると、いずれの入院患者でも「一般精神療法」が最も多く、次いで「作業療法」であった。

図表 137 主傷病に対して実施している精神療法の内容
(精神療法を実施している施設、複数回答)

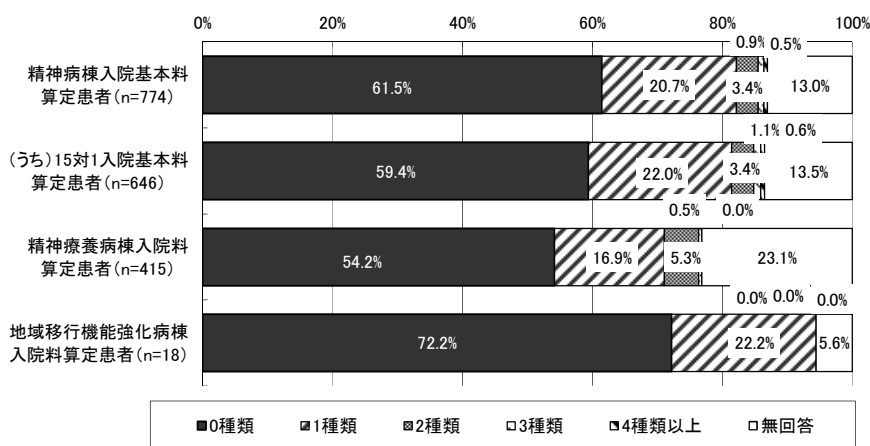


② 向精神薬の処方内容

1) 抗不安薬

抗不安薬の処方薬数をみると、入院時、現在ともに、いずれの患者でも「0種類」が過半数を占めた。また、入院時に比較して現在の方が、「0種類」の割合がやや高くなっている。

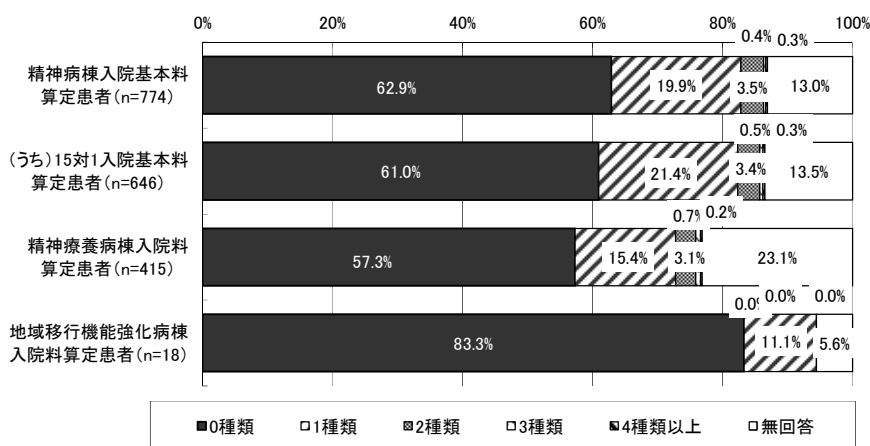
図表 138 抗不安薬の処方薬数（入院時）



(単位：種類)

	患者数(人)	平均	標準偏差	中央値
精神病棟入院基本料	673	0.4	0.7	0.0
(うち)15対1入院基本料	559	0.4	0.7	0.0
精神療養病棟入院料	319	0.4	0.6	0.0
地域移行機能強化病棟入院料	17	0.2	0.4	0.0

図表 139 抗不安薬の処方薬数（現在）



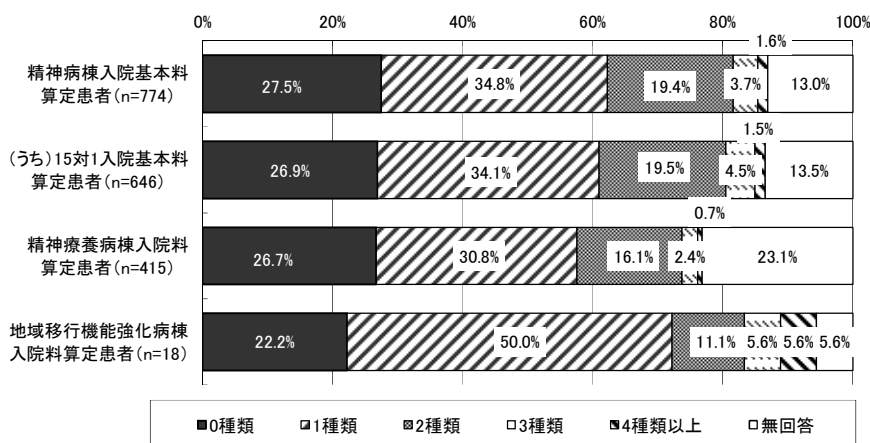
(単位：種類)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
精神病棟入院基本料	673	0.3	0.6	0.0
(うち)15対1入院基本料	559	0.4	0.6	0.0
精神療養病棟入院料	319	0.3	0.6	0.0
地域移行機能強化病棟入院料	17	0.1	0.3	0.0

2) 睡眠薬

睡眠薬の処方薬数をみると、入院時、現在ともに、いずれの患者でも「1種類」が最も多かった。また、入院時に比較して現在の方が、「0種類」の割合がやや高くなっている。

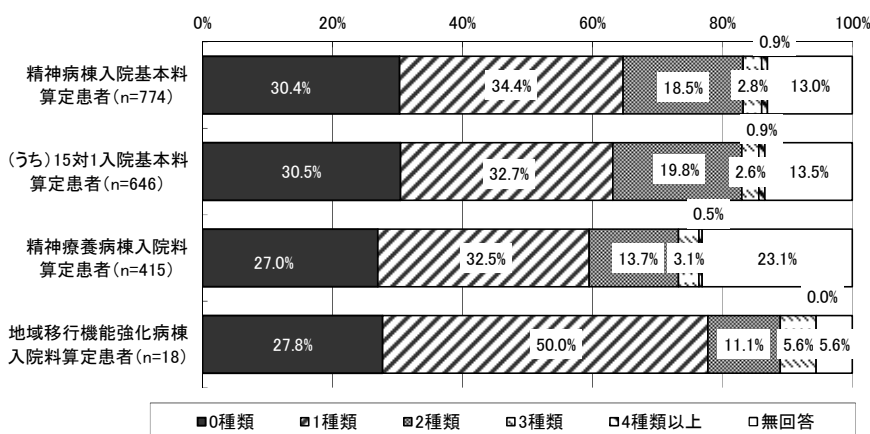
図表 140 睡眠薬の処方薬数（入院時）



(単位：種類)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
精神病棟入院基本料	673	1.1	1.0	1.0
(うち)15対1入院基本料	559	1.1	1.0	1.0
精神療養病棟入院料	319	1.0	0.9	1.0
地域移行機能強化病棟入院料	17	1.2	1.1	1.0

図表 141 睡眠薬の処方薬数（現在）



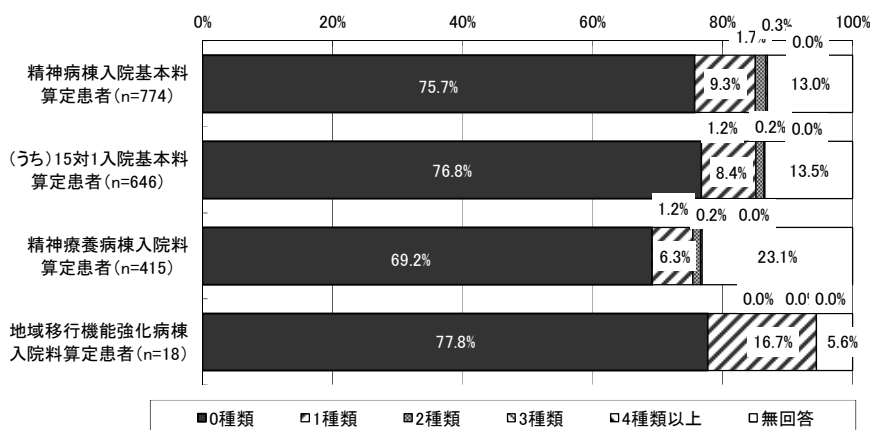
(単位：種類)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
精神病棟入院基本料	673	1.0	0.9	1.0
(うち)15対1入院基本料	559	1.0	0.9	1.0
精神療養病棟入院料	319	0.9	0.9	1.0
地域移行機能強化病棟入院料	17	0.9	0.8	1.0

3) 抗うつ薬

抗うつ薬の処方薬数をみると、入院時、現在ともに、いずれの患者でも「0種類」が大きな割合を占めた。

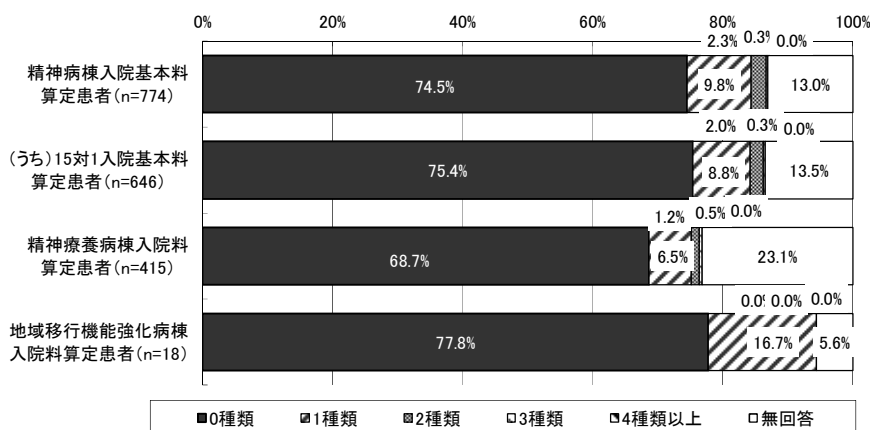
図表 142 抗うつ薬の処方薬数（入院時）



(単位：種類)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
精神病棟入院基本料	673	0.2	0.4	0.0
(うち)15対1入院基本料	559	0.1	0.4	0.0
精神療養病棟入院料	319	0.1	0.4	0.0
地域移行機能強化病棟入院料	17	0.2	0.4	0.0

図表 143 抗うつ薬の処方薬数（現在）



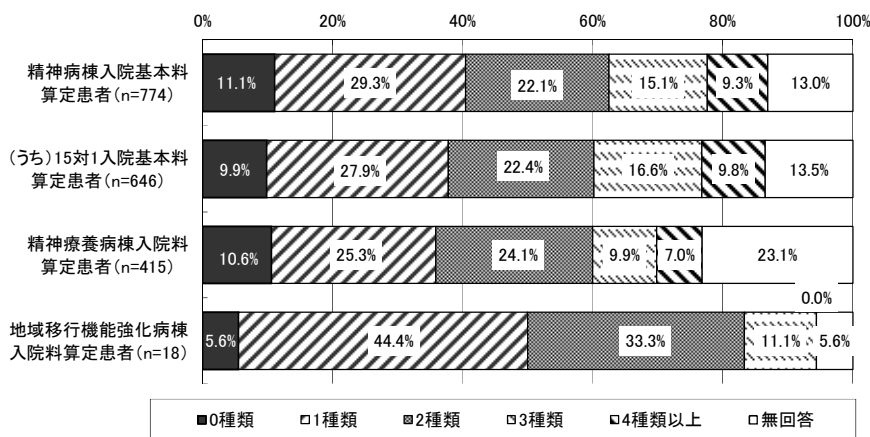
(単位：種類)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
精神病棟入院基本料	673	0.2	0.5	0.0
(うち)15対1入院基本料	559	0.2	0.4	0.0
精神療養病棟入院料	319	0.1	0.4	0.0
地域移行機能強化病棟入院料	17	0.2	0.4	0.0

4) 抗精神病薬

抗精神病薬の処方薬数をみると、入院時は、いずれの患者でも「1種類」が最も多かった。

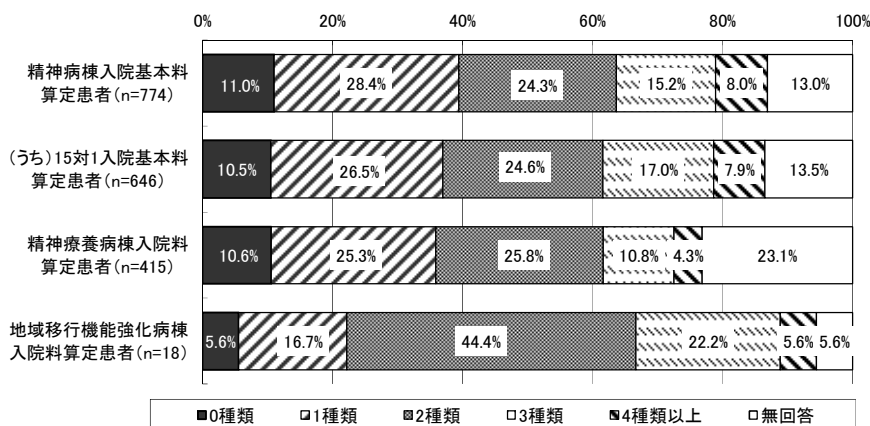
図表 144 抗精神病薬の処方薬数（入院時）



(単位：種類)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
精神病棟入院基本料	673	1.9	1.4	2.0
(うち)15対1入院基本料	559	1.9	1.34	2.0
精神療養病棟入院料	319	1.7	1.2	2.0
地域移行機能強化病棟入院料	17	1.5	0.8	1.0

図表 145 抗精神病薬の処方薬数（現在）



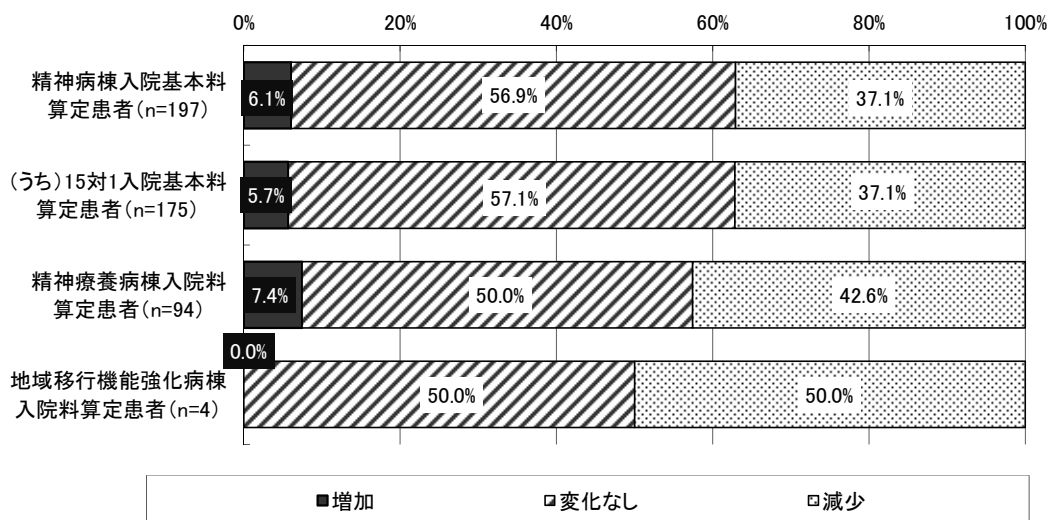
(単位：種類)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
精神病棟入院基本料	673	1.8	1.4	2.0
(うち)15対1入院基本料	559	1.9	1.3	2.0
精神療養病棟入院料	319	1.7	1.2	2.0
地域移行機能強化病棟入院料	17	2.1	1.0	2.0

③ 向精神薬の処方薬数の変化

1) 抗不安薬

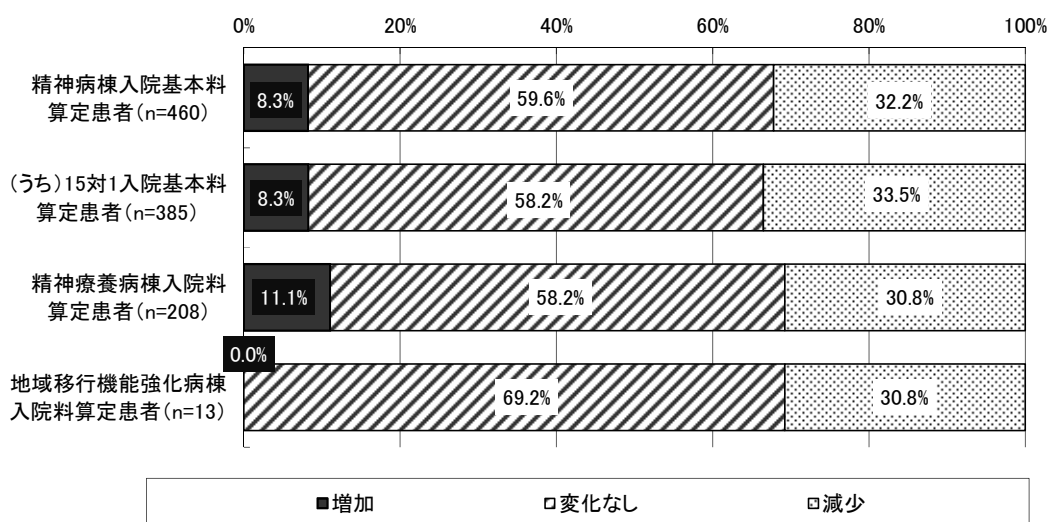
図表 146 抗不安薬の処方薬数の変化（入院時～現在）
（入院時に抗不安薬が1種類以上処方されていた患者）



(注)・入院時に抗不安薬の処方数が1種類以上であった患者を対象とした。
・処方薬数について、入院時、現在、いずれにおいても記入のあったものを集計対象とした。

2) 睡眠薬

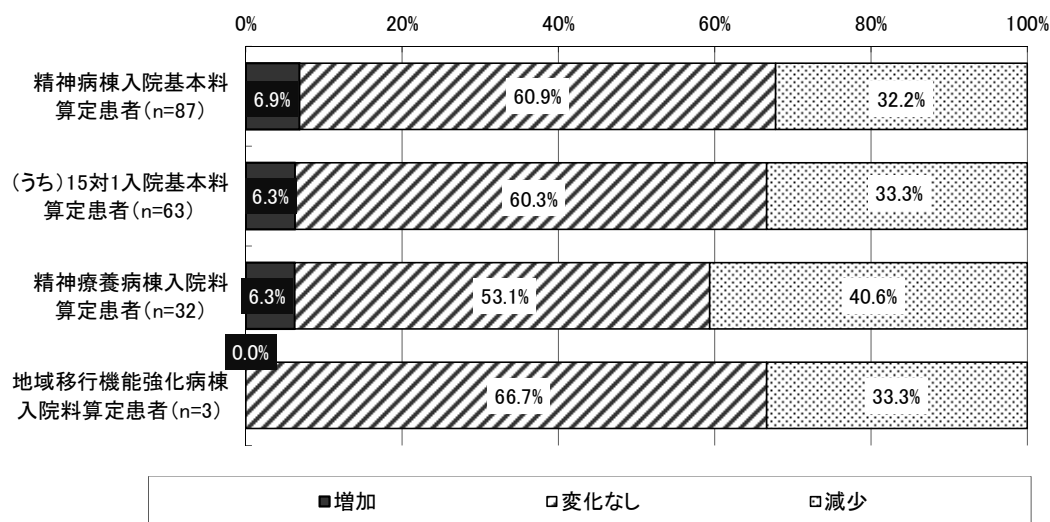
図表 147 睡眠薬の処方薬数の変化（入院時～現在）
（入院時に睡眠薬が1種類以上処方されていた患者）



(注)・入院時に睡眠薬の処方数が1種類以上であった患者を対象とした。
・処方薬数について、入院時、現在、いずれにおいても記入のあったものを集計対象とした。

3) 抗うつ薬

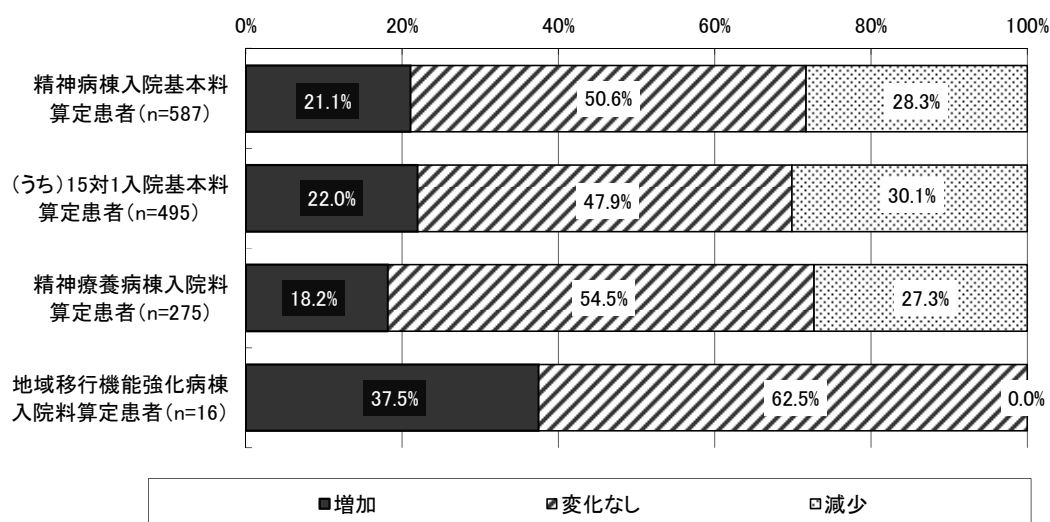
図表 148 抗うつ薬の処方薬数の変化（入院時～現在）
（入院時に抗うつ薬が1種類以上処方されていた患者）



(注)・入院時に抗うつ薬の処方数が1種類以上であった患者を対象とした。
・処方薬数について、入院時、現在、いずれにおいても記入のあったものを集計対象とした。

4) 抗精神病薬

図表 149 抗精神病薬の処方薬数の変化（入院時～現在）
（入院時に抗精神病薬が1種類以上処方されていた患者）

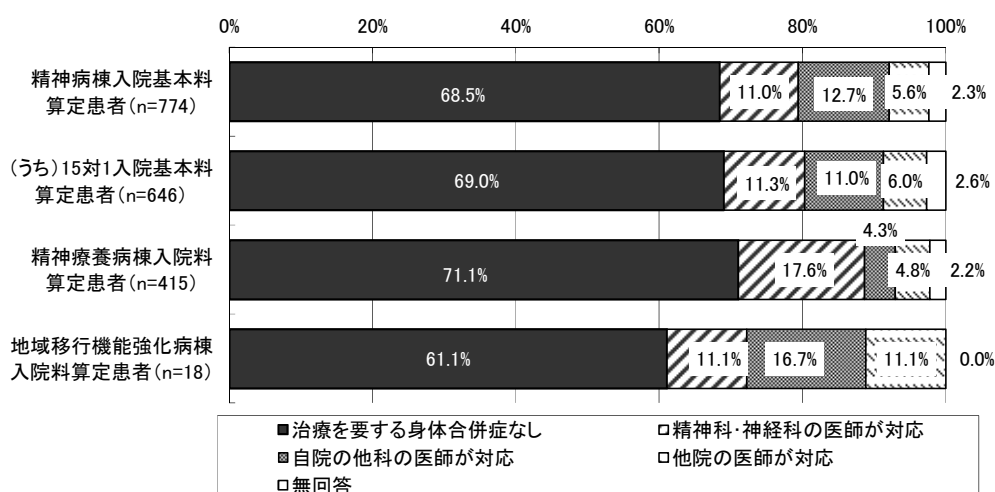


(注)・入院時に抗精神病薬の処方数が1種類以上であった患者を対象とした。
・処方薬数について、入院時、現在、いずれにおいても記入のあったものを集計対象とした。

④ 身体合併症に対する主な対応状況

いずれの入院患者でも「治療を要する身体合併症なし」が6割～7割程度と多くを占めた。「精神科・神経科の医師が対応」は精神療養病棟入院料算定患者で17.6%と他の病棟入院患者と比較すると高かった。また、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では、「自院の他科の医師が対応」が16.7%、「他院の医師が対応」が11.1%で他の病棟入院患者と比較すると高かった。

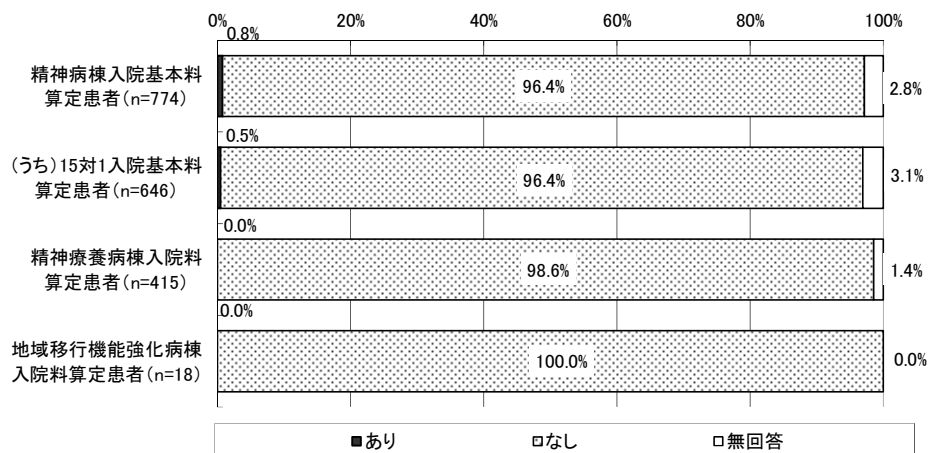
図表 150 身体合併症に対する主な対応状況



⑤ 他院でのサービス利用の有無

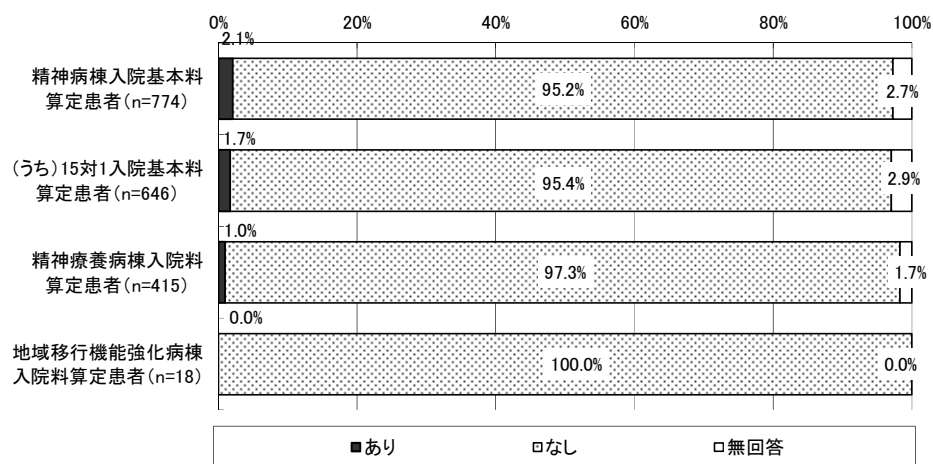
他院の精神科ショート・ケア利用の有無をみると、いずれの入院患者でも「あり」は1%に満たない状況であった。

図表 151 他院の精神科ショート・ケア利用の有無



他院の精神科デイ・ケア利用の有無をみると、いずれの入院患者でも「あり」は3%に満たない状況であった。

図表 152 他院の精神科デイ・ケア利用の有無

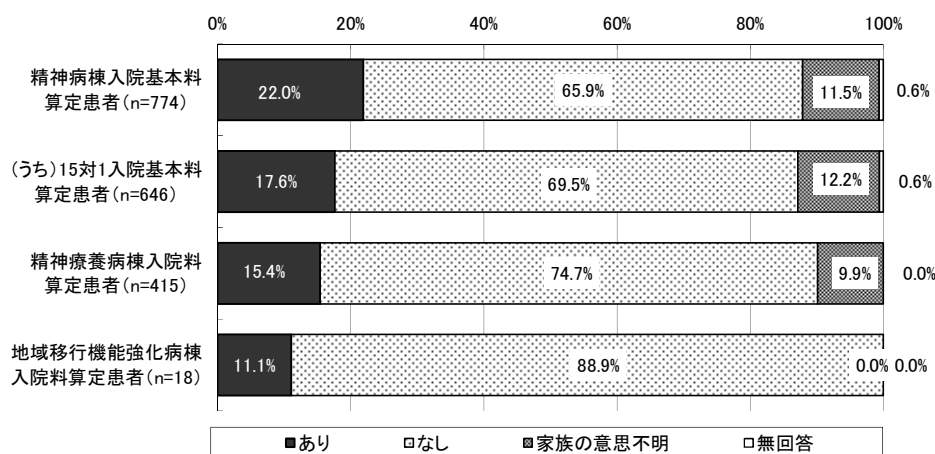


(5) 退院の見通しと退院支援の状況

① 退院後に同居する意思のある家族の有無

退院後に同居する意思のある家族の有無をみると、いずれの入院患者でも「なし」が6割強～9割程度を占めた。また、「家族の意思不明」が精神病棟入院基本料算定患者、精神療養病棟入院料算定患者では1割程度あった。

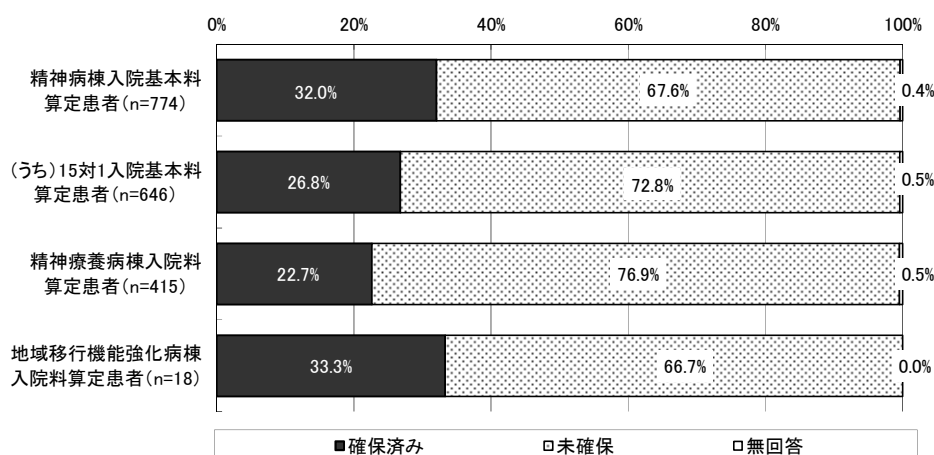
図表 153 退院後に同居する意思のある家族の有無



② 退院後の居住先の確保状況

退院後の居住先の確保状況をみると、いずれの入院患者でも「確保済み」は2割から3割強程度であった。「未確保」が6割強から8割弱で「確保済み」を大きく上回った。

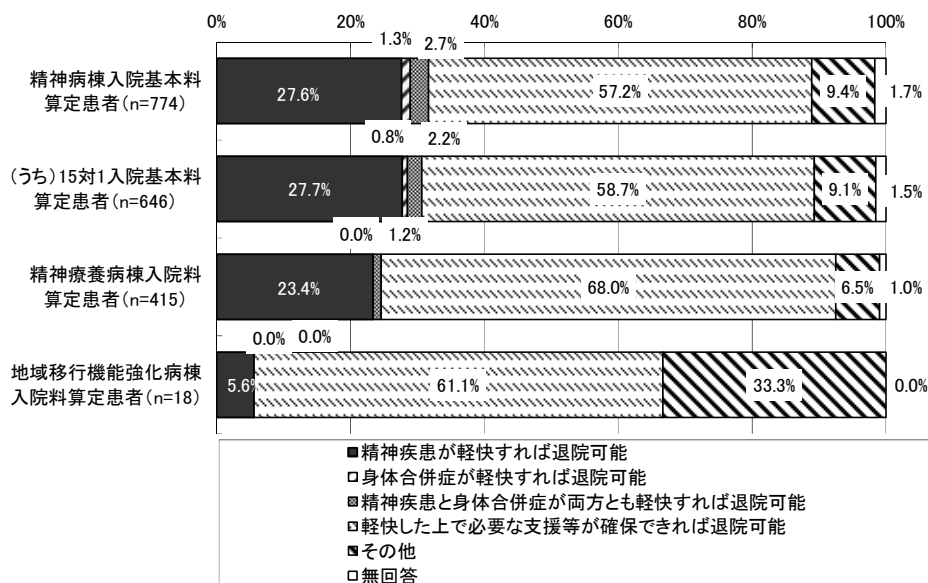
図表 154 退院後の居住先の確保状況



③ 退院が可能となる状況

退院が可能となる状況を見ると、いずれの入院患者でも「(精神疾患又は身体合併症が)軽快した上で(居住先や退院後に)必要な支援等が確保できれば退院可能」が6割程度と最も多かった。精神病棟入院基本料算定患者、精神療養病棟入院料算定患者では「精神疾患が軽快すれば退院可能」がそれぞれ27.6%、23.4%であった。

図表 155 退院が可能となる状況



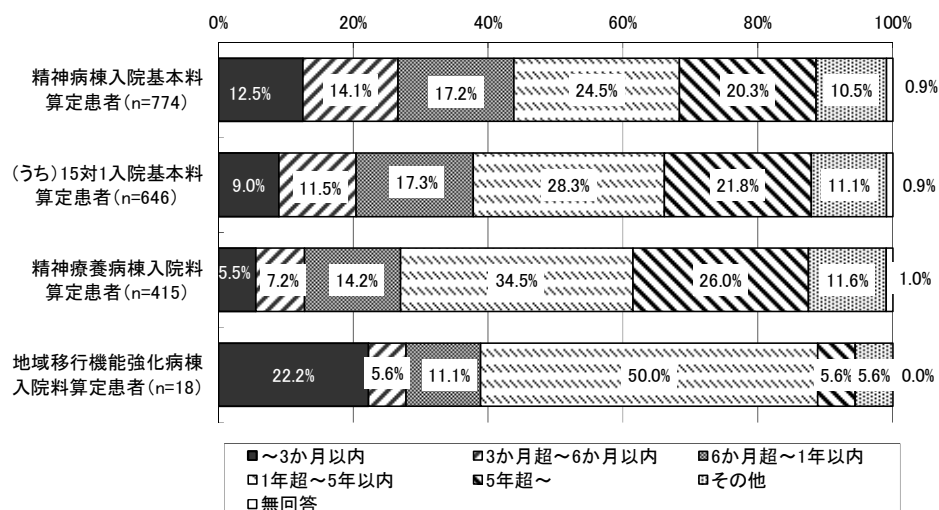
(注) 「その他」の内容として、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では「独語、介護抵抗、BPSD 著明で現状では退院困難」、「借金問題、居住先確保、精神疾患軽快」等が挙げられた。

④ 予想される入院期間

予想される入院期間をみると、いずれの入院患者でも「1年超～5年以内」が最も多かった。

精神病棟入院基本料算定患者では「～3か月以内」が12.5%、「3か月超～6か月以内」が14.1%で両者を合わせると26.6%が6か月以内に退院が可能な患者となった。一方、精神療養病棟入院料算定患者では「5年超」が26.0%で他の病棟入院患者と比較して割合が高かった。地域移行機能強化病棟入院料算定患者では「～3か月以内」が22.2%、「3か月超～6か月以内」が5.6%、「6か月超～1年以内」が11.1%、「1年超～5年以内」が50.0%、「5年超～」が5.6%であった。

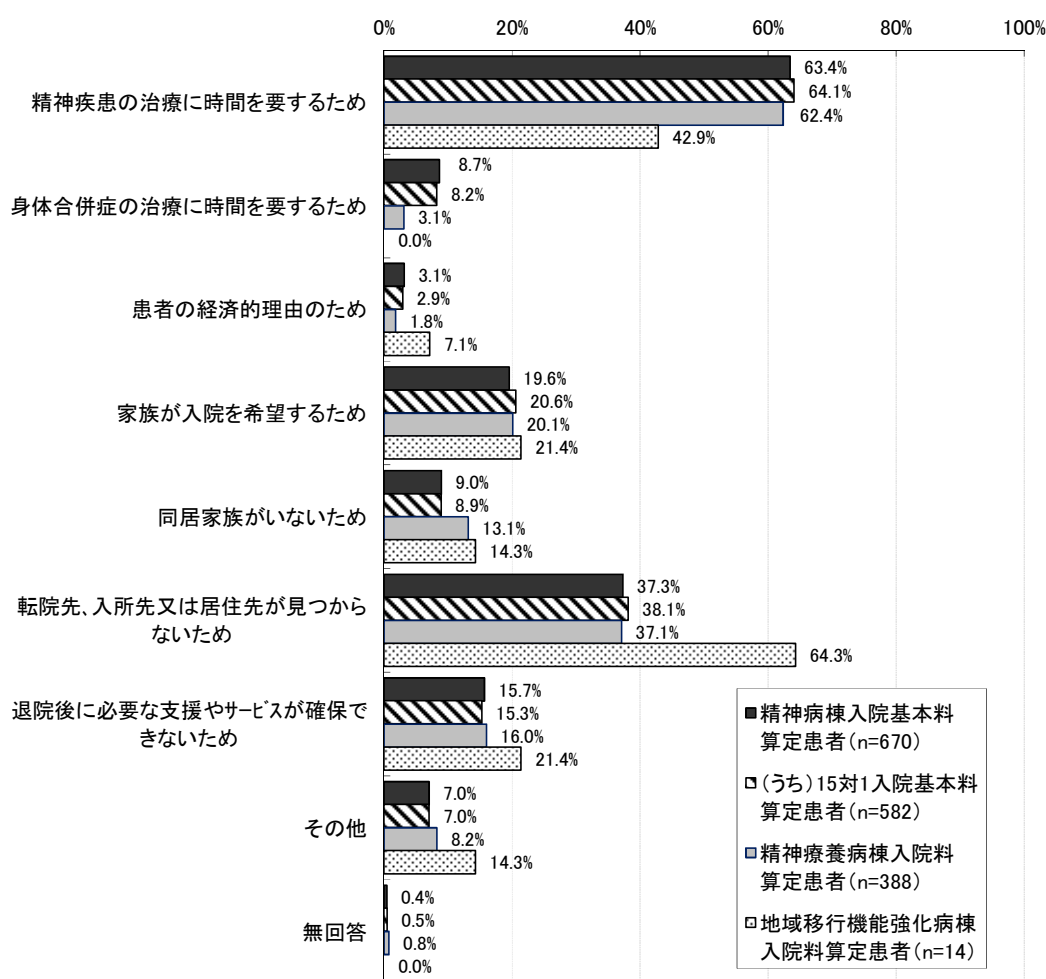
図表 156 予想される入院期間



⑤ 予想される入院期間が3か月超となる主な理由

予想される入院期間が3か月超となる主な理由をみると、精神病棟入院基本料算定患者、精神療養病棟入院料算定患者では「精神疾患の治療に時間を要するため」が6割以上で最も多く、次いで「転院先、入所先又は居住先が見つからないため」(4割未満)であった。地域移行機能強化病棟入院料算定患者では「転院先、入所先又は居住先が見つからないため」が64.3%で最も多く、次いで「精神疾患の治療に時間を要するため」(42.9%)であった。

図表 157 予想される入院期間が3か月超となる主な理由
(予想される入院期間が3か月超の患者、複数回答)

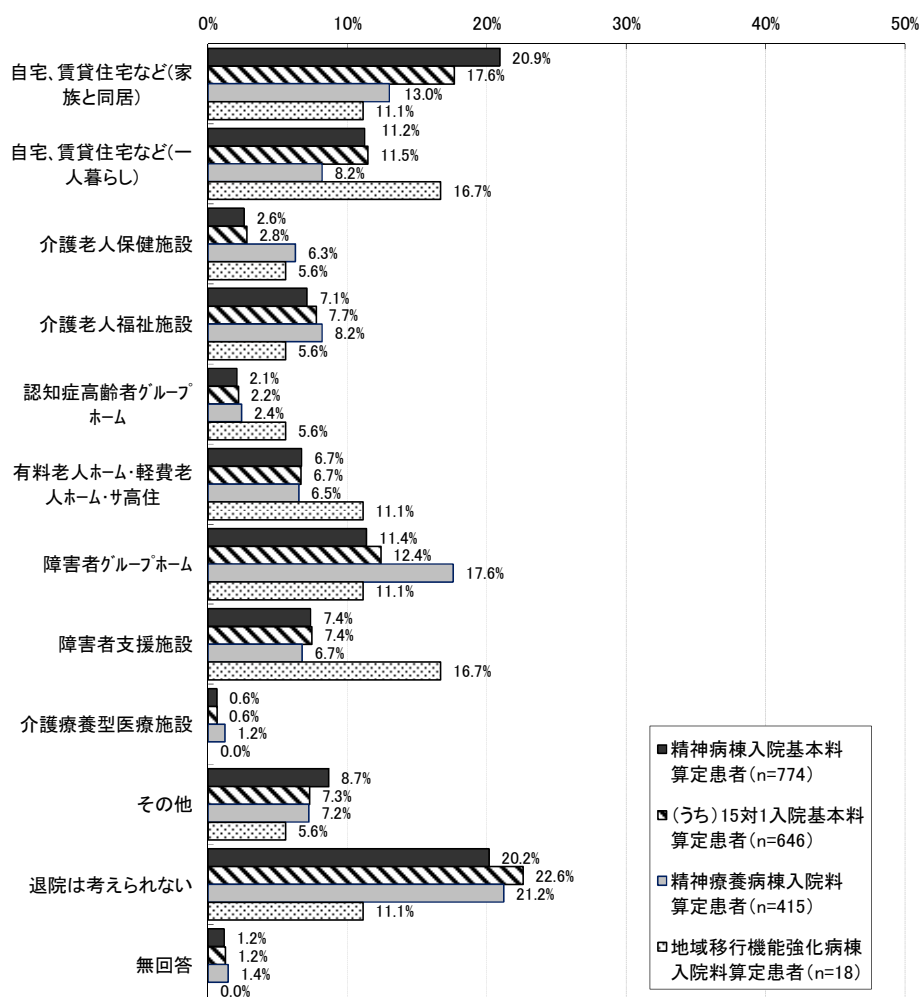


⑥ 退院先の予定

退院先の予定をみると、精神病棟入院基本料算定患者では「自宅、賃貸住宅など（家族と同居）」が20.9%で最も多く、次いで「障害者グループホーム」（11.4%）、「自宅、賃貸住宅など（一人暮らし）」（11.2%）であった。精神療養病棟入院料算定患者では「障害者グループホーム」が17.6%で最も多く、次いで「自宅、賃貸住宅など（家族と同居）」（13.0%）、であった。地域移行機能強化病棟入院料算定患者では「自宅、賃貸住宅など（一人暮らし）」、「障害者支援施設」がいずれも16.7%で最も多かった。

一方で、「退院は考えられない」が、精神病棟入院基本料算定患者では20.2%、精神療養病棟入院料算定患者では21.2%、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では11.1%であった。

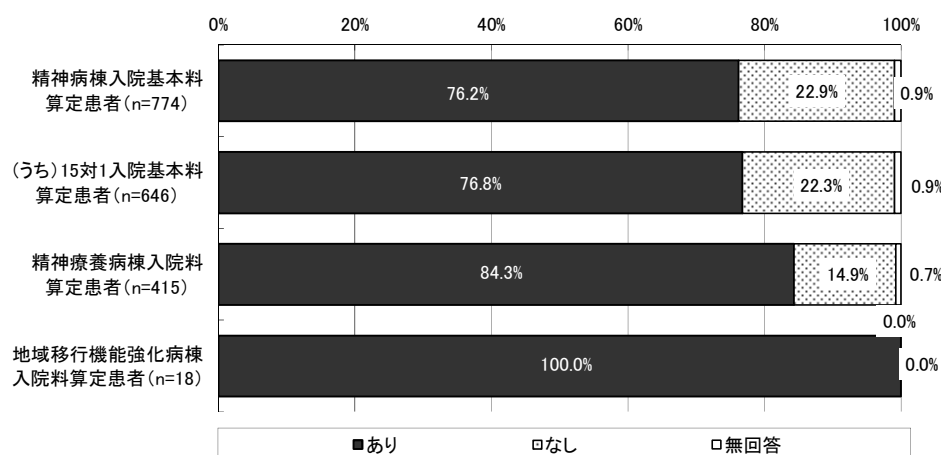
図表 158 退院先の予定（単数回答）



⑦ 担当の退院相談支援員の有無と職種

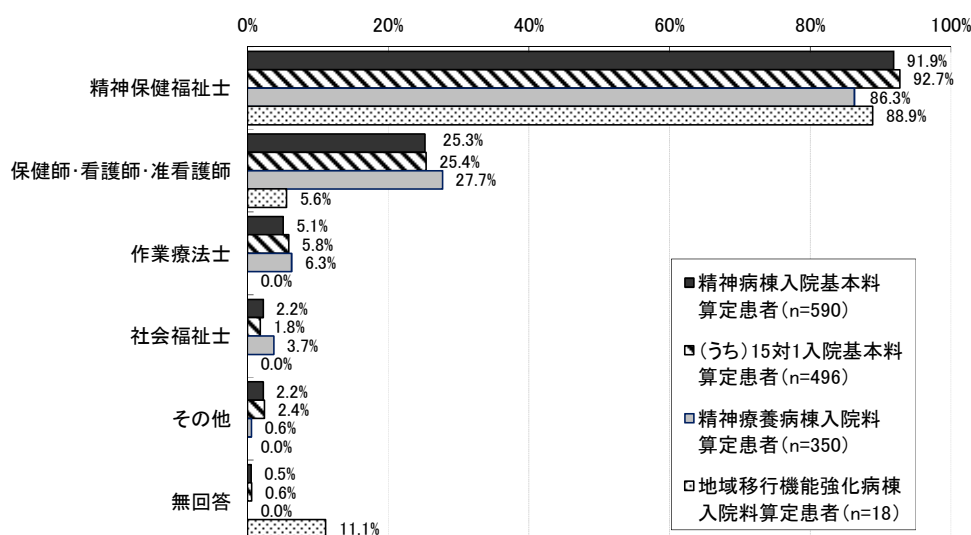
担当の退院相談支援員の有無をみると、担当の退院相談支援員が「あり」という割合は精神病棟入院基本料算定患者では 76.2%、精神療養病棟入院料算定患者では 84.3%、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では 100.0%であった。

図表 159 担当の退院相談支援員の有無



担当の退院相談支援員が「あり」という患者について、退院相談支援員の職種をみると、「精神保健福祉士」が 9 割前後で最も多く、次いで「保健師・看護師・准看護師」であった。

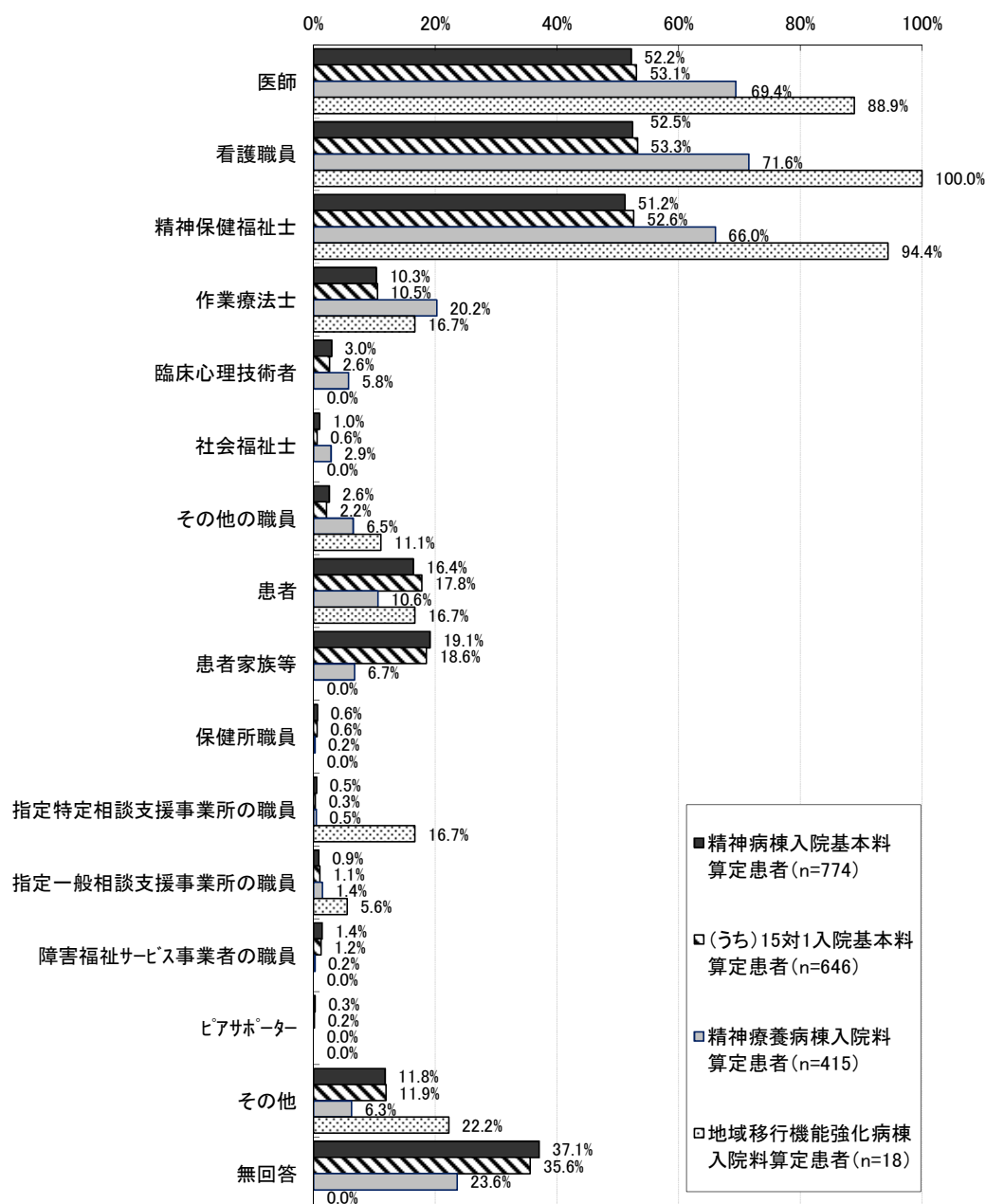
図表 160 担当の退院相談支援員の職種（担当の退院相談支援員がいる患者、複数回答）



⑧ 直近の退院支援委員会の参加者

直近の退院支援委員会の参加者をみると、精神病棟入院基本料算定患者では「看護職員」が52.5%で最も多く、次いで「医師」が52.2%、「精神保健福祉士」が51.2%であった。精神療養病棟入院料算定患者でも同じ職種であるが、「看護職員」が71.6%で最も多く、次いで「医師」が69.4%、「精神保健福祉士」が66.0%であった。地域移行機能強化病棟入院料算定患者でも同じ職種が参加しているが、この割合は「看護職員」が100.0%、「精神保健福祉士」が94.4%、「医師」が88.9%と他の病棟入院患者よりも高かった。

図表 161 直近の退院支援委員会の参加者（複数回答）

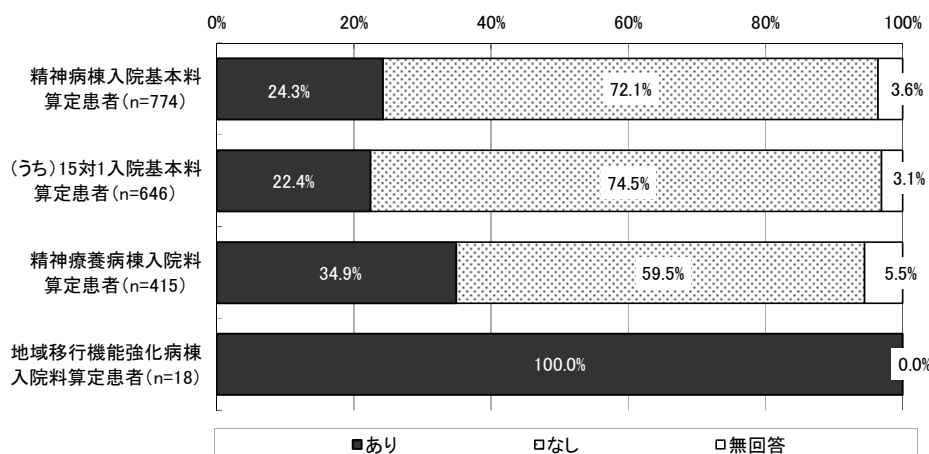


⑨ 退院支援計画の有無

退院支援計画の有無をみると、「あり」の割合は、精神病棟入院基本料算定患者では 24.3%、精神療養病棟入院料算定患者では 34.9%で、両病棟の入院患者では「なし」のほうが多かった。

一方、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では「あり」が 100.0%であった。

図表 162 退院支援計画の有無

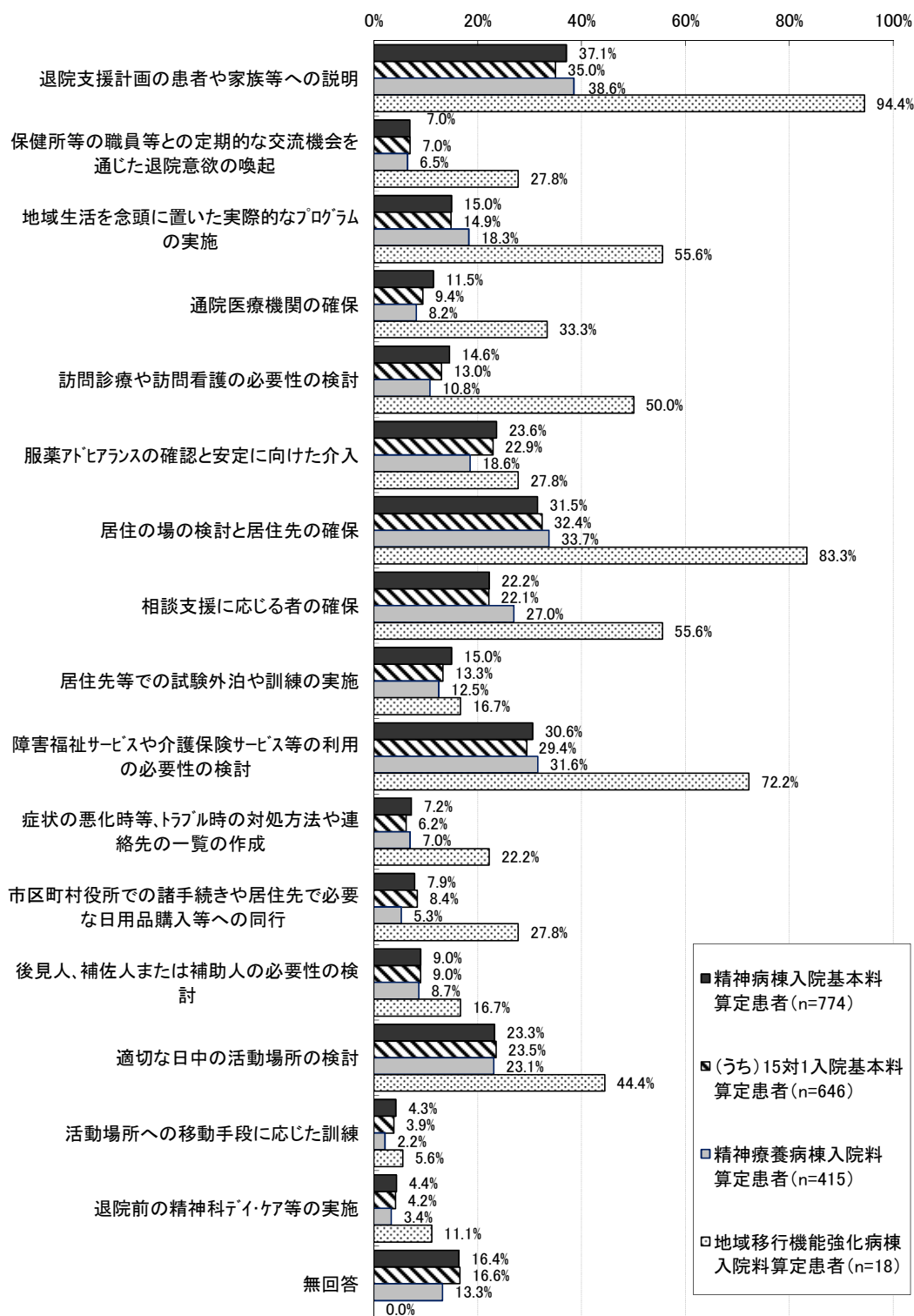


⑩ 退院に向けて実施したこと

退院に向けて実施したことをみると、精神病棟入院基本料算定患者、精神療養病棟入院料算定患者では「退院支援計画の患者や家族等への説明」がそれぞれ 37.1%、38.6%で最も多く、次いで「居住の場の検討と居住先の確保」(31.5%、33.7%)、「障害福祉サービスや介護保険サービス等の利用の必要性の検討」(30.6%、31.6%)であった。

地域移行機能強化病棟入院料算定患者では「退院支援計画の患者や家族等への説明」が 94.4%で最も多く、次いで「居住の場の検討と居住先の確保」(83.3%)、「障害福祉サービスや介護保険サービス等の利用の必要性の検討」(72.2%)、「地域生活を念頭に置いた実際的なプログラムの実施」、「相談支援に応じる者の確保」(いずれも 55.6%)、「訪問診療や訪問看護の必要性の検討」(50.0%)であった。地域移行機能強化病棟入院料算定患者では他の病棟入院患者と比較して様々な取組の実施率が高かった。

図表 163 退院に向けて実施したこと（複数回答）

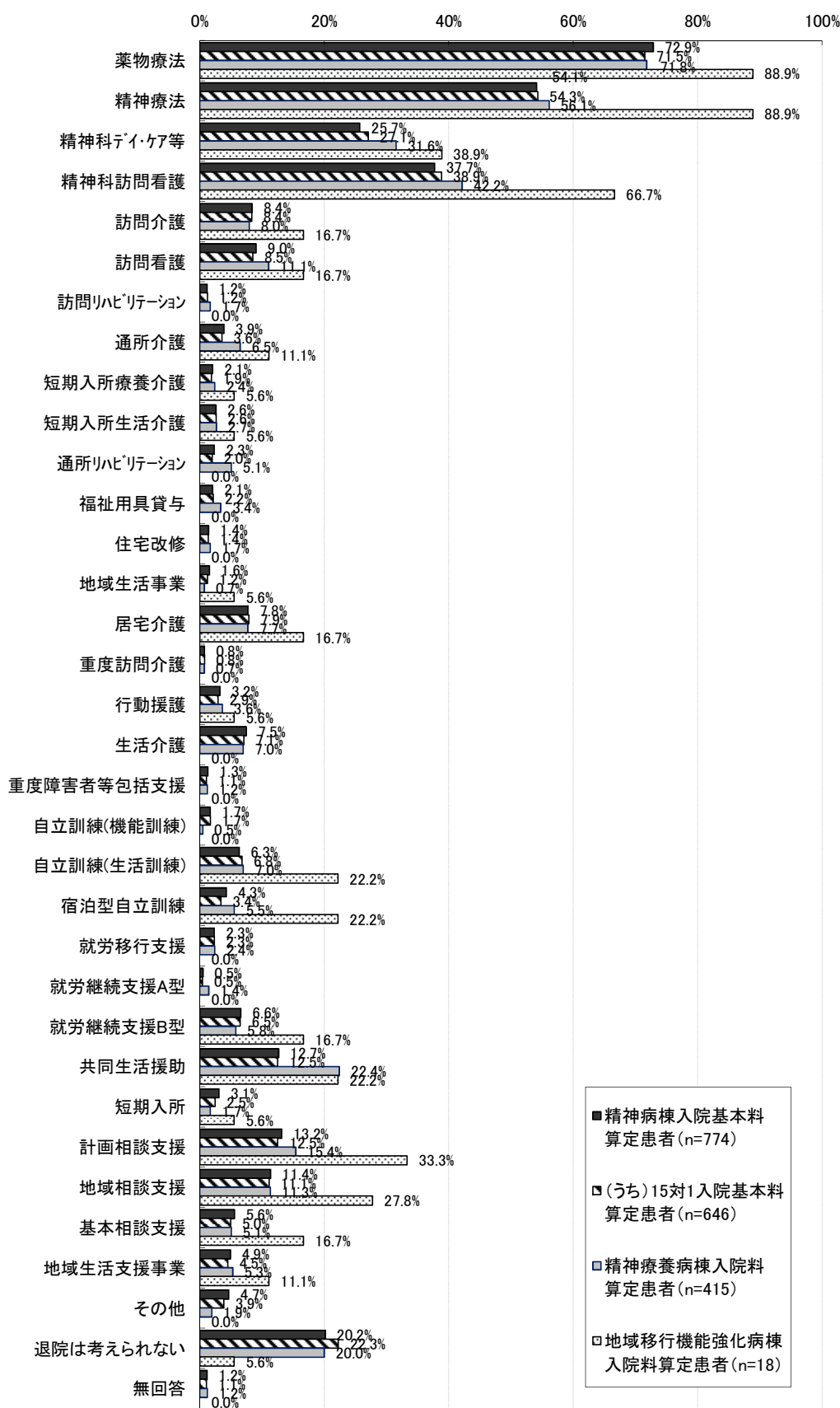


⑪ 退院後に生活を継続するために必要な支援等

退院後に生活を継続するために必要な支援等をみると、いずれの入院患者でも「薬物療法」、「精神療法」、「精神科デイ・ケア等」、「精神科訪問看護」といった医療保険における内容が多かった。

この他についてみると、地域移行機能強化病棟入院料算定患者では「計画相談支援」(33.3%)、「地域相談支援」(27.8%)、「自立訓練（生活訓練）」、「宿泊型自立訓練」、「共同生活援助」(いずれも 22.1%) 等が 2 割以上あった。

図表 164 退院後に向けて生活を継続するために必要な支援等（複数回答）

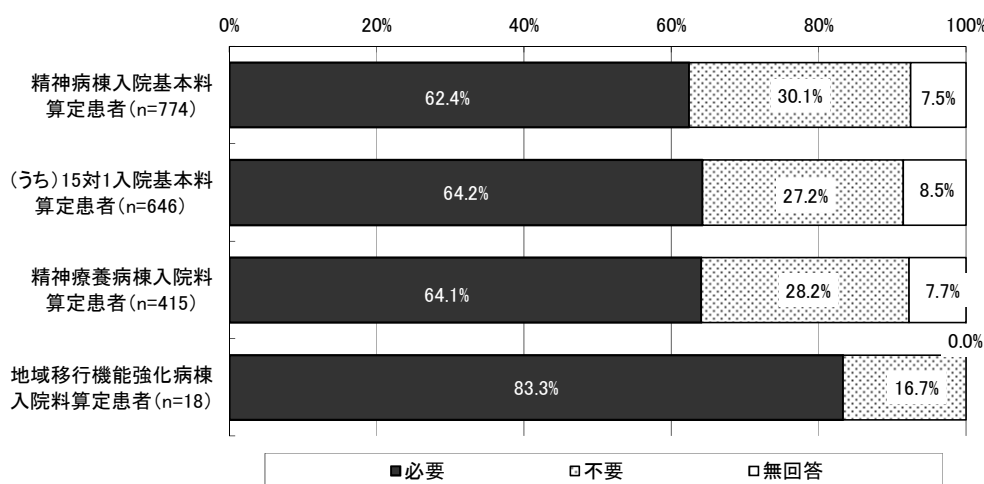


⑫ 退院後の看護師等による訪問看護の必要度と頻度

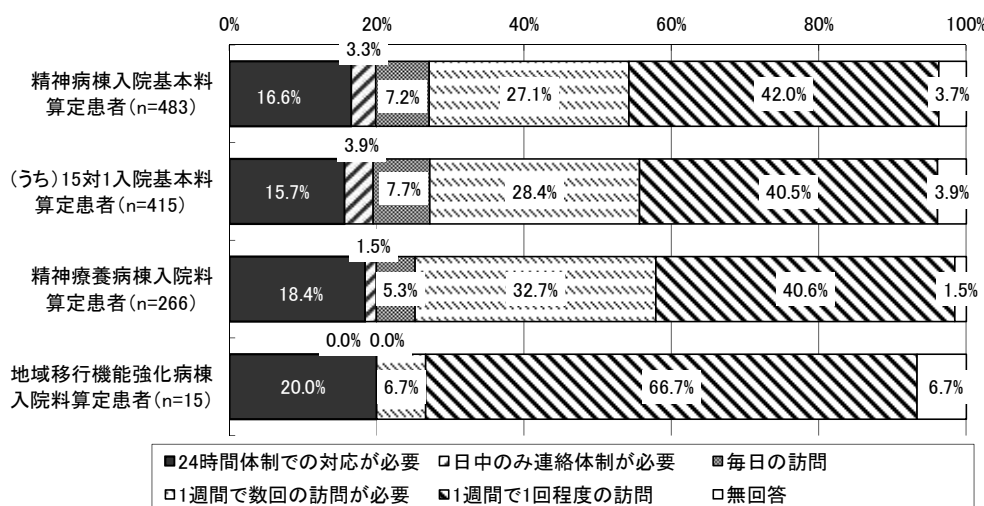
退院後の看護師等による訪問看護の必要度をみると、いずれの入院患者でも「必要」が6割以上となった。特に地域移行機能強化病棟入院料算定患者では「必要」が83.3%と8割を超えた。

退院後の看護師等による訪問看護が必要である入院患者について必要な頻度をみると、精神病棟入院基本料算定患者、精神療養病棟入院料算定患者では「1週間で1回程度の訪問」がおおよそ4割で最も多く、次いで「1週間で数回の訪問が必要」がおおよそ3割であった。また、「24時間体制での対応が必要」が2割弱であった。地域移行機能強化病棟入院料算定患者では「1週間で1回程度の訪問」が66.7%が多いが、一方で、「24時間体制での対応が必要」が20.0%であった。

図表 165 退院後の看護師等による訪問看護の必要度



図表 166 退院後の看護師等による訪問看護の必要な頻度
(退院後の看護師等による訪問看護が必要である患者)



4. 精神科デイ・ケア等患者調査の結果

【調査対象等】

○調査対象：「病院調査」「診療所調査」の対象施設において、調査日時時点で精神科デイ・ケア等を1年超継続利用した患者を対象とした（うち、1年超3年以内の患者1名、3年超の患者1名）。1施設につき最大2名の患者を対象とした。

回答数：1,089人

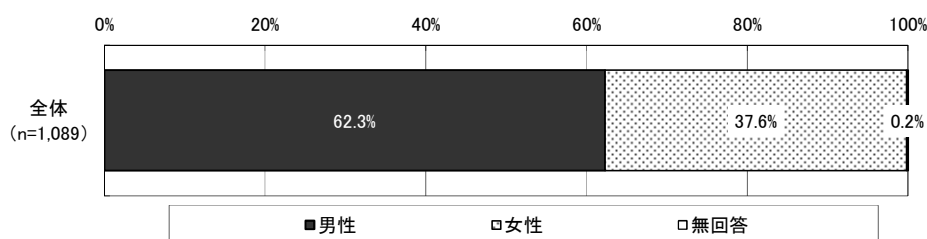
回答者：対象患者を担当する看護師・精神保健福祉士

(1) 患者の属性等

① 性別

患者の性別をみると、「男性」が62.3%、「女性」が37.6%と男性が多かった。

図表 167 性別



図表 168 性別（精神科デイ・ケア等利用期間別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

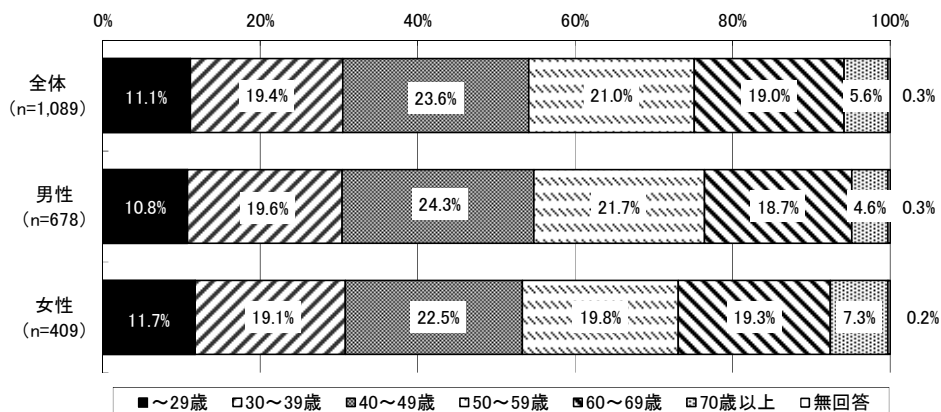
	総数	男性	女性	無回答
全体	1,089	678	409	2
	100.0	62.3	37.6	0.2
～2年以内	287	184	102	1
	100.0	64.1	35.5	0.3
2年超～3年以内	199	105	93	1
	100.0	52.8	46.7	0.5
3年超～5年以内	166	110	56	0
	100.0	66.3	33.7	0.0
5年超～	388	248	140	0
	100.0	63.9	36.1	0.0

(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

② 年齢

患者の年齢階級をみると、全体では「40～49 歳」が 23.6%で最も多いが、30 歳以上 70 歳未満の各年齢階級は 2 割程度と分散していた。

図表 169 年齢階級



(注)「全体」には性別が不明の 2 人が含まれている。

図表 170 年齢

(単位：歳)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,086	48.0	14.6	48.0
男性	676	47.7	14.0	47.0
女性	408	48.4	15.6	48.0

(注)・「全体」には性別が不明の 2 人が含まれている。
・年齢について記入のあった 1,086 人分を集計対象とした。

図表 171 年齢階級 (精神科デイ・ケア等利用期間別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	無回答
全体	1089	121	211	257	229	207	61	3
	100.0	11.1	19.4	23.6	21.0	19.0	5.6	0.3
~2年以内	287	56	67	59	45	48	11	1
	100.0	19.5	23.3	20.6	15.7	16.7	3.8	0.3
2年超~3年以内	199	30	37	45	47	26	13	1
	100.0	15.1	18.6	22.6	23.6	13.1	6.5	0.5
3年超~5年以内	166	18	39	34	41	26	8	0
	100.0	10.8	23.5	20.5	24.7	15.7	4.8	0.0
5年超~	388	13	63	109	81	96	26	0
	100.0	3.4	16.2	28.1	20.9	24.7	6.7	0.0

(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の 49 人が含まれている。

図表 172 年齢（精神科デイ・ケア等利用期間別）

（単位：歳）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,086	48.0	14.6	48.0
～2年以内	286	44.3	15.3	43.0
2年超～3年以内	198	46.4	15.6	47.0
3年超～5年以内	166	47.3	14.6	48.0
5年超～	388	51.5	12.8	50.5

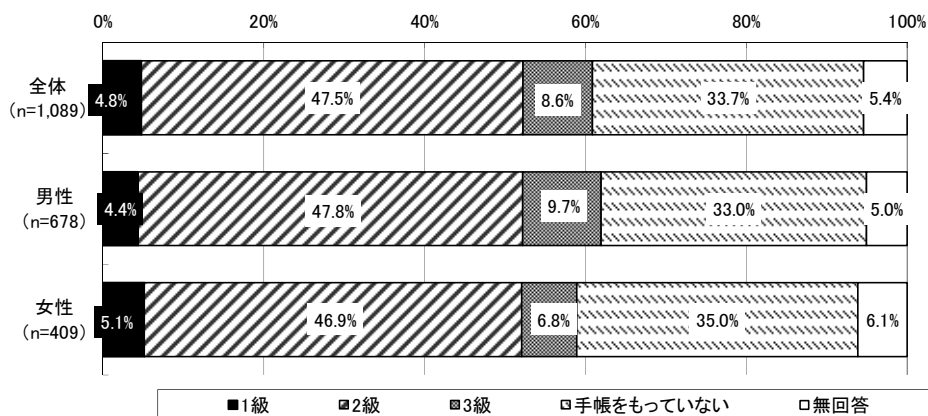
(注)・「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の48人が含まれている。
 ・年齢について記入のあった1,086人分を集計対象とした。

③ 精神障害者福祉手帳

精神障害者福祉手帳をみると、全体では「1級」が4.8%、「2級」が47.5%、「3級」が8.6%、「手帳をもっていない」が33.7%であった。

精神科デイ・ケア等利用期間が長くなるほど精神障害者福祉手帳の保有率が高くなる傾向がみられた。

図表 173 精神障害者福祉手帳



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 174 精神障害者福祉手帳（精神科デイ・ケア等利用期間別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

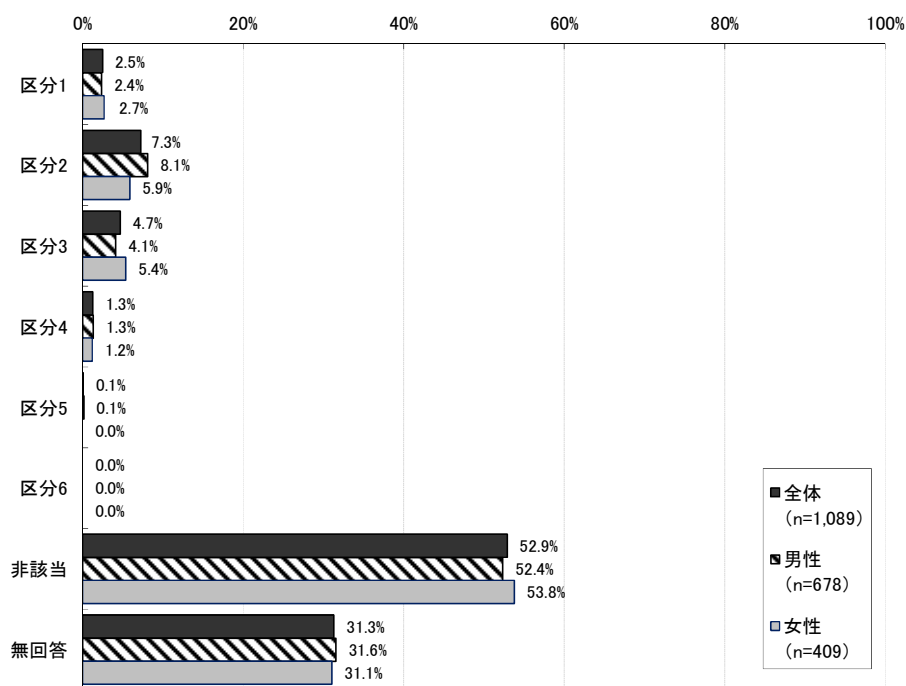
	総数	1級	2級	3級	手帳をもっていない	無回答
全体	1,089	52	517	94	367	59
	100.0	4.8	47.5	8.6	33.7	5.4
～2年以内	287	14	91	27	139	16
	100.0	4.9	31.7	9.4	48.4	5.6
2年超～3年以内	199	6	86	17	81	9
	100.0	3.0	43.2	8.5	40.7	4.5
3年超～5年以内	166	6	81	13	60	6
	100.0	3.6	48.8	7.8	36.1	3.6
5年超～	388	19	234	34	77	24
	100.0	4.9	60.3	8.8	19.8	6.2

(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

④ 障害者支援区分

障害者支援区分は次のとおりである。

図表 175 障害者支援区分（単数回答）



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 176 障害者支援区分（精神科デイ・ケア等利用期間別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

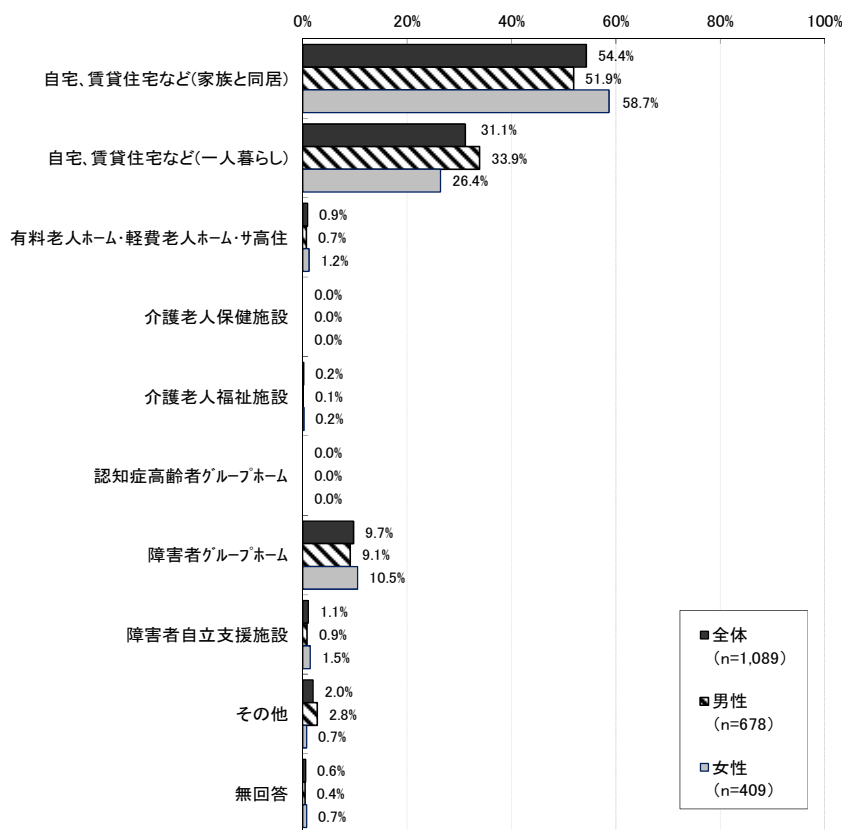
	総数	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当	無回答
全体	1,089	27	79	51	14	1	0	576	341
	100.0	2.5	7.3	4.7	1.3	0.1	0.0	52.9	31.3
～2年以内	287	2	11	11	4	1	0	188	70
	100.0	0.7	3.8	3.8	1.4	0.3	0.0	65.5	24.4
2年超～3年以内	199	5	23	10	1	0	0	104	56
	100.0	2.5	11.6	5.0	0.5	0.0	0.0	52.3	28.1
3年超～5年以内	166	6	13	10	4	0	0	80	53
	100.0	3.6	7.8	6.0	2.4	0.0	0.0	48.2	31.9
5年超～	388	12	28	17	5	0	0	186	140
	100.0	3.1	7.2	4.4	1.3	0.0	0.0	47.9	36.1

(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

⑤ 現在の居場所

現在の居場所をみると、「自宅、賃貸住宅など（家族と同居）」が 54.4%で最も多く、次いで「自宅、賃貸住宅など（一人暮らし）」(31.1%)であった。

図表 177 現在の居場所（単数回答）



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 178 現在の居場所（精神科デイ・ケア等利用期間別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	自宅、賃貸住宅など(家族と同居)	自宅、賃貸住宅など(一人暮らし)	有料老人ホーム・軽費老人ホーム・サ高住	介護老人保健施設	介護老人福祉施設	認知症高齢者グループホーム	障害者グループホーム	障害者自立支援施設	その他	無回答
全体	1,089	592	339	10	0	2	0	106	12	22	6
	100.0	54.4	31.1	0.9	0.0	0.2	0.0	9.7	1.1	2.0	0.6
～2年以内	287	173	72	4	0	0	0	27	5	4	2
	100.0	60.3	25.1	1.4	0.0	0.0	0.0	9.4	1.7	1.4	0.7
2年超～3年以内	199	116	55	2	0	0	0	18	3	4	1
	100.0	58.3	27.6	1.0	0.0	0.0	0.0	9.0	1.5	2.0	0.5
3年超～5年以内	166	92	46	1	0	0	0	23	1	3	0
	100.0	55.4	27.7	0.6	0.0	0.0	0.0	13.9	0.6	1.8	0.0
5年超～	388	190	142	3	0	2	0	36	3	10	2
	100.0	49.0	36.6	0.8	0.0	0.5	0.0	9.3	0.8	2.6	0.5

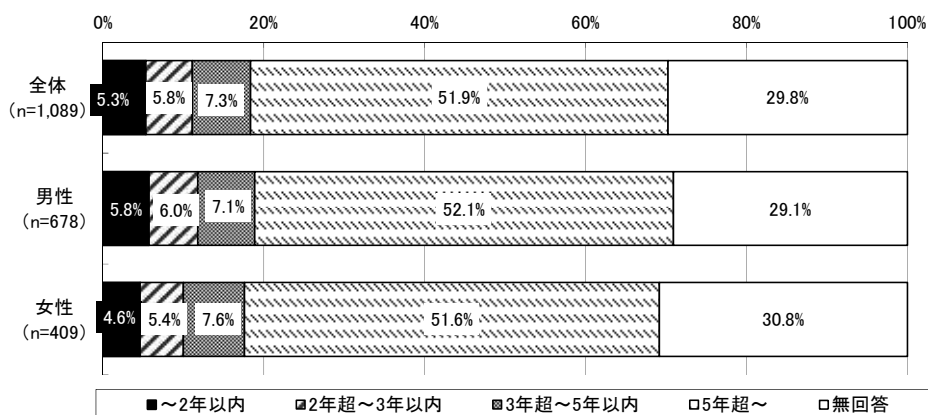
(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

(2) 精神科デイ・ケア等開始前後の状況

① 精神疾患治療期間

精神疾患治療期間（精神疾患の治療開始からの経過期間）をみると、無回答が多い点に留意する必要があるものの、「5年超～」が51.9%であった。

図表 179 精神疾患治療期間



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 180 精神疾患治療期間（精神科デイ・ケア等利用期間別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	~2年以内	2年超~3年以内	3年超~5年以内	5年超~10年以内	10年超~15年以内	15年超~20年以内	20年超~	無回答
全体	1,089	58	63	79	167	112	98	188	324
	100.0	5.3	5.8	7.3	15.3	10.3	9.0	17.3	29.8
~2年以内	287	57	33	31	35	22	9	34	66
	100.0	19.9	11.5	10.8	12.2	7.7	3.1	11.8	23.0
2年超~3年以内	199	1	30	19	26	23	19	19	62
	100.0	0.5	15.1	9.5	13.1	11.6	9.5	9.5	31.2
3年超~5年以内	166	0	0	28	31	19	10	31	47
	100.0	0.0	0.0	16.9	18.7	11.4	6.0	18.7	28.3
5年超~	388	0	0	0	69	47	59	96	117
	100.0	0.0	0.0	0.0	17.8	12.1	15.2	24.7	30.2

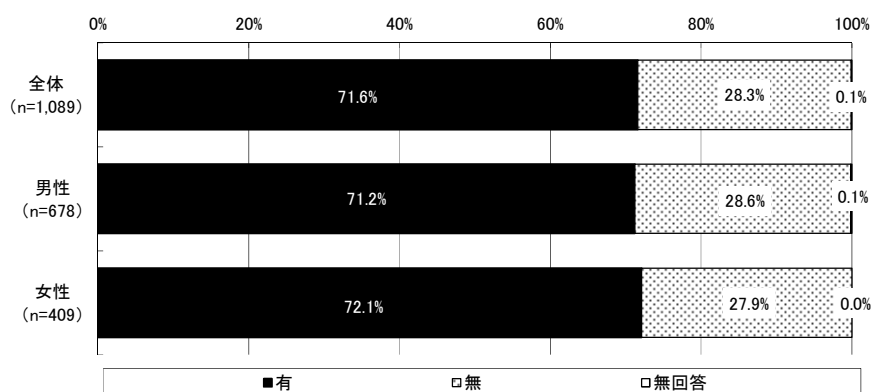
(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

② 精神科での入院の有無

1) 精神科での入院の有無

精神科での入院の有無をみると、精神科での入院が「有」は71.6%、「無」が28.3%であった。

図表 181 精神科での入院の有無



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 182 精神科での入院の有無 (精神科デイ・ケア等利用期間別)

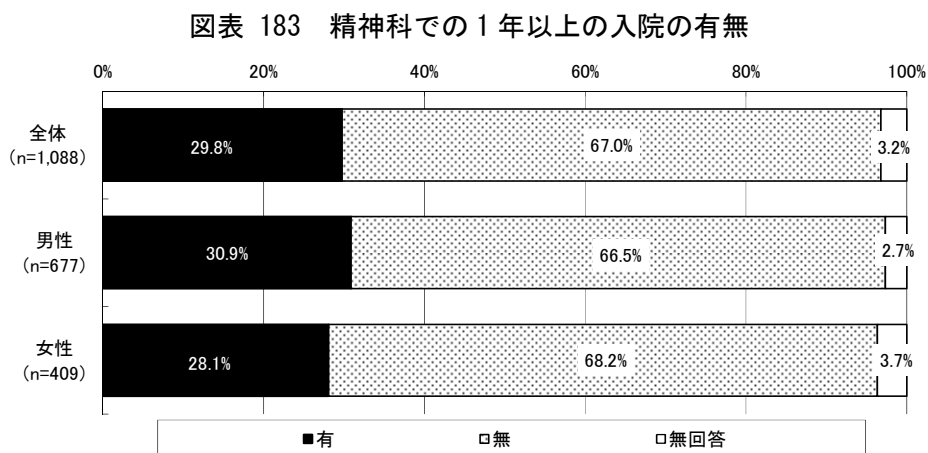
(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	有	無	無回答
全体	1,089	780	308	1
	100.0	71.6	28.3	0.1
～2年以内	287	172	115	0
	100.0	59.9	40.1	0.0
2年超～3年以内	199	138	61	0
	100.0	69.3	30.7	0.0
3年超～5年以内	166	111	55	0
	100.0	66.9	33.1	0.0
5年超～	388	320	68	0
	100.0	82.5	17.5	0.0

(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

2) 精神科での1年以上の入院の有無

精神科での1年以上の入院の有無をみると、精神科での1年以上の入院が「有」は29.8%、「無」が67.0%であった。



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 184 精神科での1年以上の入院の有無（精神科デイ・ケア等利用期間別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

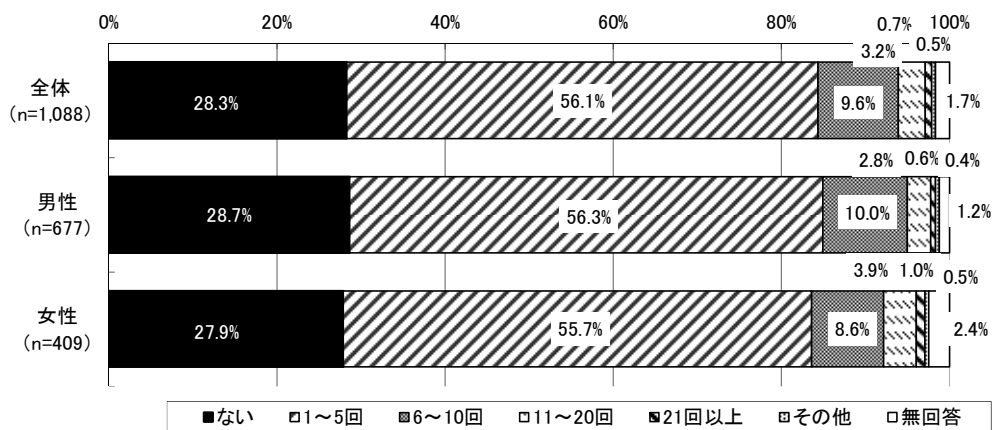
	総数	有	無	無回答
全体	1,088	324	729	35
	100.0	29.8	67.0	3.2
～2年以内	287	61	218	8
	100.0	21.3	76.0	2.8
2年超～3年以内	199	40	154	5
	100.0	20.1	77.4	2.5
3年超～5年以内	166	43	116	7
	100.0	25.9	69.9	4.2
5年超～	388	159	215	14
	100.0	41.0	55.4	3.6

(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の48人が含まれている。

3) 通算入院回数（精神科に限る）

通算入院回数（精神科に限る）をみると、「1～5回」が56.1%で最も多く、次いで「ない」(28.3%)であった。

図表 185 通算入院回数



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 186 通算入院回数（精神科デイ・ケア等利用期間別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

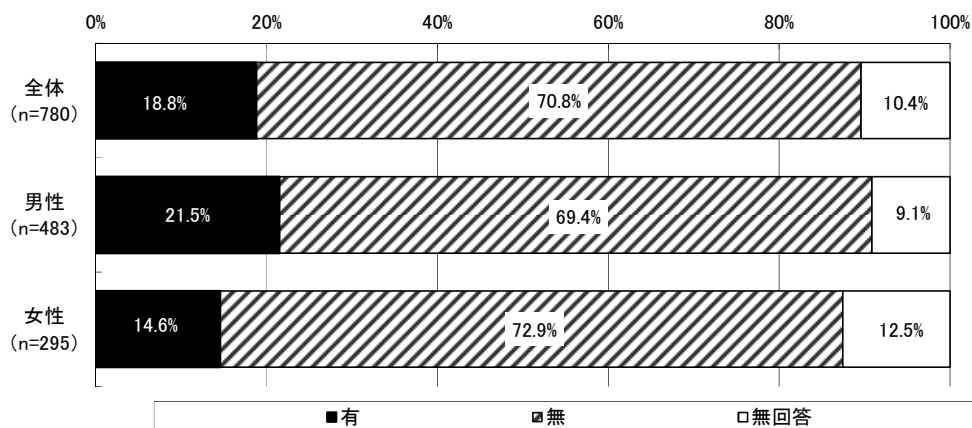
	総数	ない	1～5回	6～10回	11～20回	21回以上	その他	無回答
全体	1,088	308	610	104	35	8	5	18
	100.0	28.3	56.1	9.6	3.2	0.7	0.5	1.7
～2年以内	287	115	145	20	5	0	0	2
	100.0	40.1	50.5	7.0	1.7	0.0	0.0	0.7
2年超～3年以内	199	61	117	10	6	0	1	4
	100.0	30.7	58.8	5.0	3.0	0.0	0.5	2.0
3年超～5年以内	166	55	83	15	7	0	3	3
	100.0	33.1	50.0	9.0	4.2	0.0	1.8	1.8
5年超～	388	68	238	50	17	6	1	8
	100.0	17.5	61.3	12.9	4.4	1.5	0.3	2.1

(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の48人が含まれている。

③ 入院中の精神科デイ・ケア等実施の有無

入院中の精神科デイ・ケア等実施の有無をみると、「有」が 18.8%、「無」が 70.8%であった。

図表 187 入院中の精神科デイ・ケア等実施の有無（入院経験のある患者）



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 188 入院中の精神科デイ・ケア等実施の有無
(入院経験のある患者、精神科デイ・ケア等利用期間別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

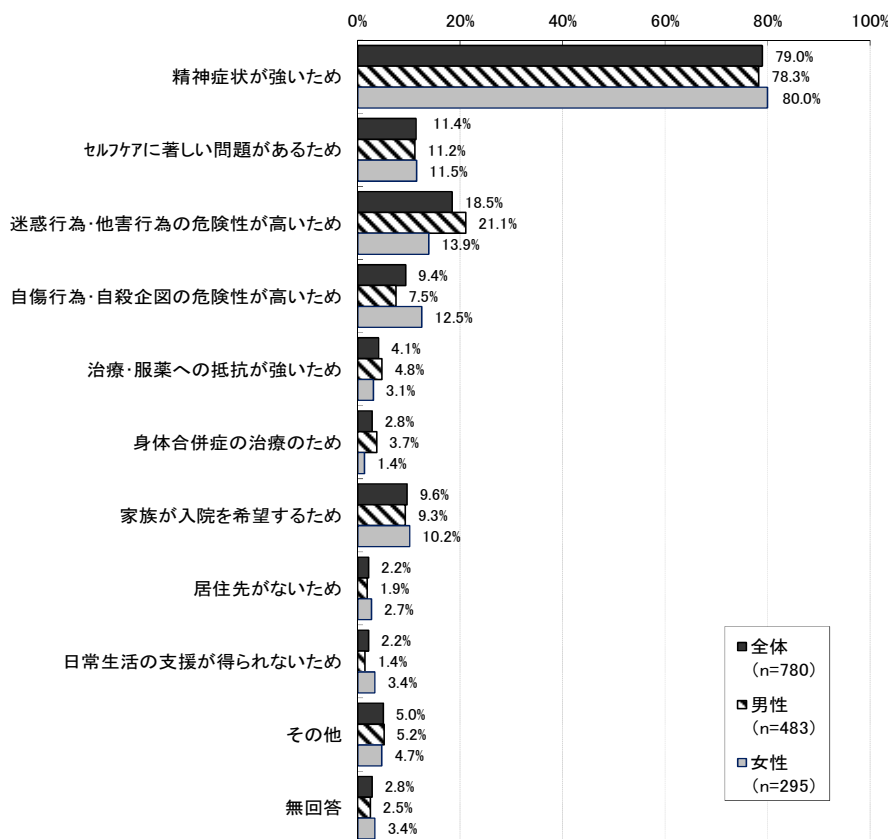
	総数	有	無	無回答
全体	780	147	552	81
	100.0	18.8	70.8	10.4
～2年以内	172	35	118	19
	100.0	20.3	68.6	11.0
2年超～3年以内	138	26	97	15
	100.0	18.8	70.3	10.9
3年超～5年以内	111	30	73	8
	100.0	27.0	65.8	7.2
5年超～	320	51	241	28
	100.0	15.9	75.3	8.8

(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の39人が含まれている。

④ 直近の主な入院の理由

直近の主な入院の理由をみると、「精神症状が強いため」が79.0%で最も多かった。

図表 189 直近の主な入院の理由（入院経験のある患者、複数回答）



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 190 直近の主な入院の理由

(入院経験のある患者、精神科デイ・ケア等利用期間別、複数回答)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	精神症状が強いため	セルフケアに著しい問題があるため	迷惑行為・他害行為の危険性が高いため	自傷行為・自殺企図の危険性が高いため	治療・服薬への抵抗が強いため	身体合併症の治療のため	家族が入院を希望するため	居住先がないため	日常生活の支援が得られないため	その他	無回答
全体	780	616	89	144	73	32	22	75	17	17	39	22
	100.0	79.0	11.4	18.5	9.4	4.1	2.8	9.6	2.2	2.2	5.0	2.8
～2年以内	172	126	20	32	26	10	6	13	2	5	13	4
	100.0	73.3	11.6	18.6	15.1	5.8	3.5	7.6	1.2	2.9	7.6	2.3
2年超～3年以内	138	104	12	33	13	6	6	16	2	2	4	3
	100.0	75.4	8.7	23.9	9.4	4.3	4.3	11.6	1.4	1.4	2.9	2.2
3年超～5年以内	111	90	17	24	10	3	5	6	3	4	4	3
	100.0	81.1	15.3	21.6	9.0	2.7	4.5	5.4	2.7	3.6	3.6	2.7
5年超～	320	265	34	50	20	12	5	37	9	6	16	8
	100.0	82.8	10.6	15.6	6.3	3.8	1.6	11.6	2.8	1.9	5.0	2.5

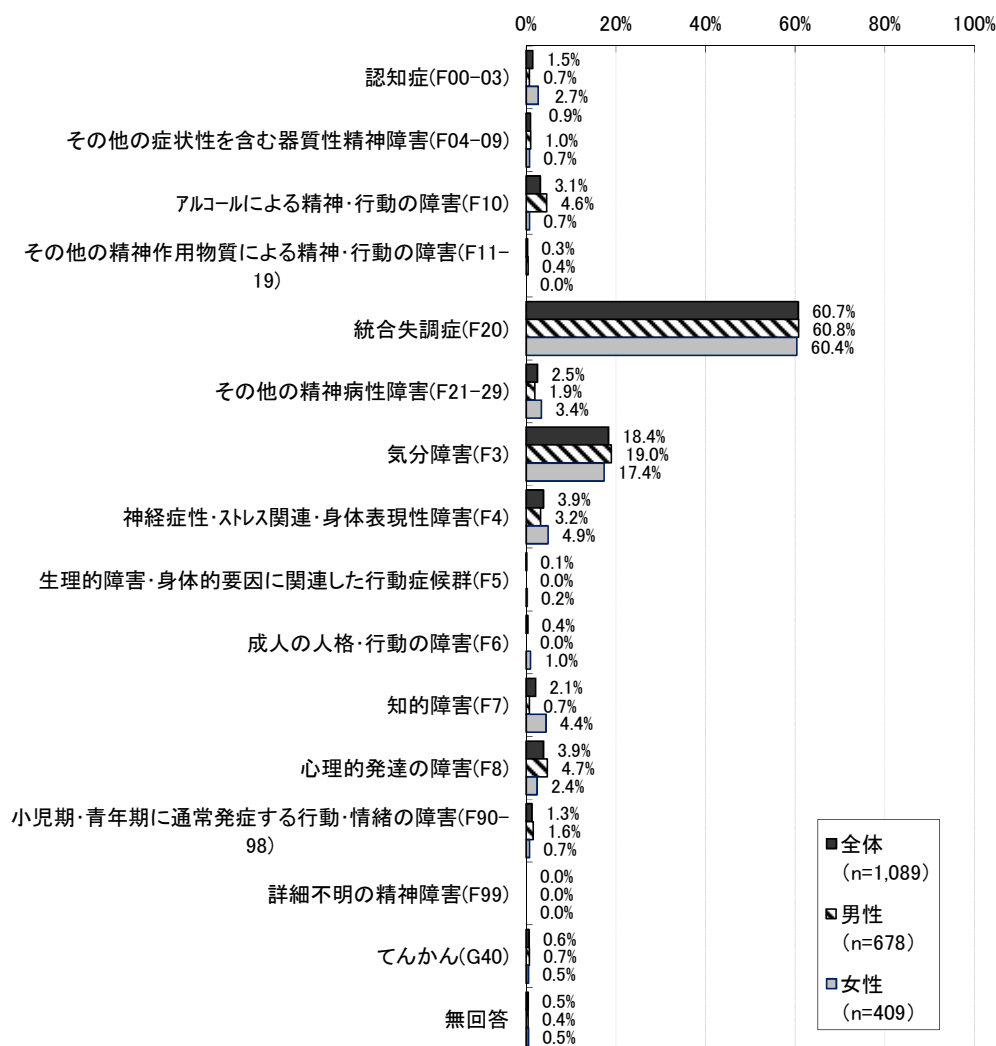
(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の39人が含まれている。

(3) 患者の状態等

① 主傷病

主傷病をみると、「統合失調症」が60.7%で最も多く、次いで「気分障害」(18.4%)であった。

図表 191 主傷病 (単数回答)



(注) 「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 192 主傷病（精神科デイ・ケア等利用期間別、単数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	認知症 (F00-03)	その他の症 状性を含む 器質性精 神障害 (F04-09)	アルコールによ る精神・行 動の障害 (F10)	その他の精 神作用物 質による精 神・行動の 障害(F11-	統合失調 症(F20)	その他の精 神病性障 害(F21-29)	気分障害 (F3)	神経症性・ ストレス関連・ 身体表現 性障害(F4)
全体	1,089	16	10	34	3	661	27	200	42
	100.0	1.5	0.9	3.1	0.3	60.7	2.5	18.4	3.9
～2年以内	287	5	3	14	1	122	10	84	11
	100.0	1.7	1.0	4.9	0.3	42.5	3.5	29.3	3.8
2年超～3年以内	199	6	2	6	1	111	4	42	10
	100.0	3.0	1.0	3.0	0.5	55.8	2.0	21.1	5.0
3年超～5年以内	166	3	2	5	0	96	2	33	6
	100.0	1.8	1.2	3.0	0.0	57.8	1.2	19.9	3.6
5年超～	388	0	2	6	0	299	9	39	13
	100.0	0.0	0.5	1.5	0.0	77.1	2.3	10.1	3.4

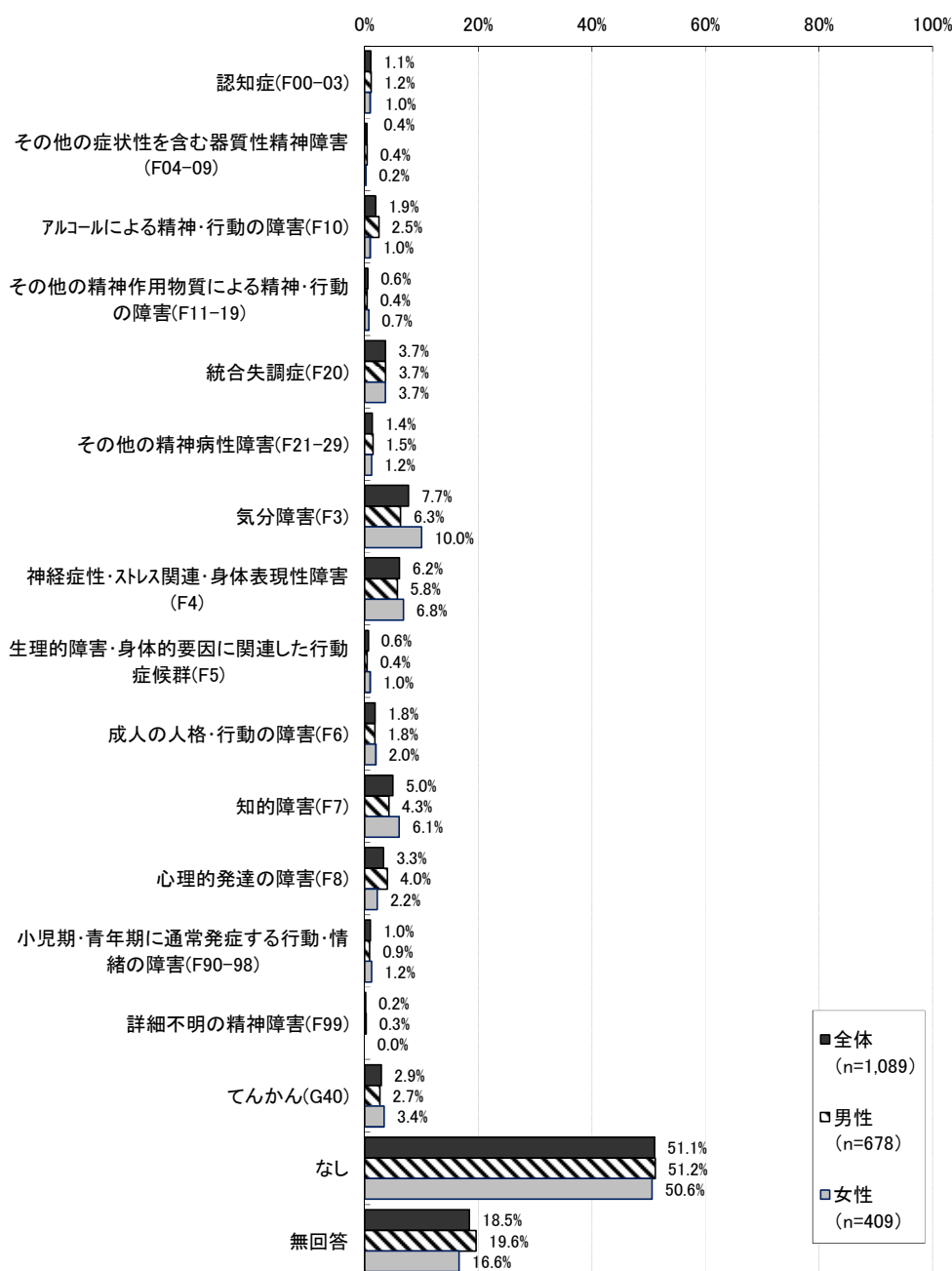
	総数	生理的障 害・身体的 要因に関連 した行動症 候群(F5)	成人の人 格・行動の 障害(F6)	知的障害 (F7)	心理的発 達の障害 (F8)	小児期・青 年期に通常 発症する行 動・情緒の 障害(F90-	詳細不明 の精神障 害(F99)	てんかん (G40)	無回答
全体	1,089	1	4	23	42	14	0	7	5
	100.0	0.1	0.4	2.1	3.9	1.3	0.0	0.6	0.5
～2年以内	287	0	1	8	21	4	0	2	1
	100.0	0.0	0.3	2.8	7.3	1.4	0.0	0.7	0.3
2年超～3年以内	199	0	1	4	8	3	0	1	0
	100.0	0.0	0.5	2.0	4.0	1.5	0.0	0.5	0.0
3年超～5年以内	166	1	0	7	4	5	0	2	0
	100.0	0.6	0.0	4.2	2.4	3.0	0.0	1.2	0.0
5年超～	388	0	2	4	8	1	0	1	4
	100.0	0.0	0.5	1.0	2.1	0.3	0.0	0.3	1.0

（注）「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

② その他の精神疾患の傷病

その他の精神疾患の傷病をみると、「なし」が51.1%を占めた。「気分障害」が7.7%で最も多く、次いで「神経症性・ストレス関連・身体表現性障害」が6.2%であった。

図表 193 その他の精神疾患の傷病（複数回答）



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 194 その他の精神疾患の傷病（精神科デイ・ケア等利用期間別、複数回答）

（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	認知症 (F00-03)	その他の症 状性を含む 器質性精 神障害 (F04-09)	アルコールによ る精神・行 動の障害 (F10)	その他の精 神作用物 質による精 神・行動の 障害(F11-	統合失調 症(F20)	その他の精 神病性障 害(F21-29)	気分障害 (F3)	神経症性・ ストレス関連 ・身体表現 性障害(F4)
全体	1,089	12	4	21	6	40	15	84	67
	100.0	1.1	0.4	1.9	0.6	3.7	1.4	7.7	6.2
～2年以内	287	2	2	5	2	12	6	19	16
	100.0	0.7	0.7	1.7	0.7	4.2	2.1	6.6	5.6
2年超～3年以内	199	4	0	3	0	5	4	16	18
	100.0	2.0	0.0	1.5	0.0	2.5	2.0	8.0	9.0
3年超～5年以内	166	1	1	1	2	8	1	13	18
	100.0	0.6	0.6	0.6	1.2	4.8	0.6	7.8	10.8
5年超～	388	4	1	11	2	15	3	34	12
	100.0	1.0	0.3	2.8	0.5	3.9	0.8	8.8	3.1

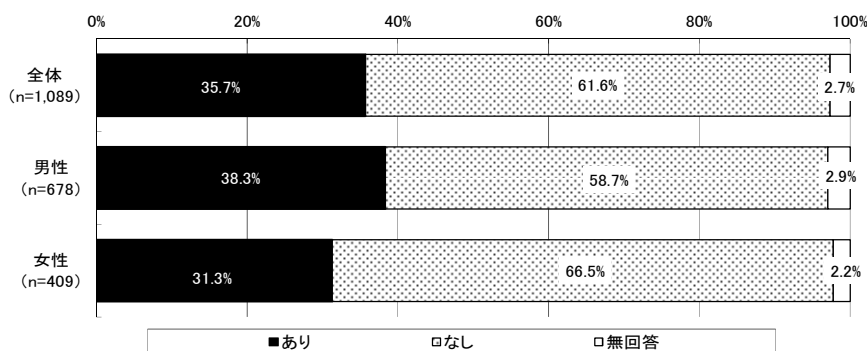
	総数	生理的障 害・身体 的要因に 関連した 行動症候 群(F5)	成人の人 格・行動 の障害 (F6)	知的障害 (F7)	心理的発 達の障害 (F8)	小児期・ 青年期に 通常発症 する行動 ・情緒の障 害(F90- 98)	詳細不明 の精神障 害(F99)	てんかん (G40)	なし	無回答
全体	1,089	7	20	54	36	11	2	32	556	201
	100.0	0.6	1.8	5.0	3.3	1.0	0.2	2.9	51.1	18.5
～2年以内	287	4	7	10	8	3	1	4	154	47
	100.0	1.4	2.4	3.5	2.8	1.0	0.3	1.4	53.7	16.4
2年超～3年以内	199	2	2	11	10	2	0	7	94	41
	100.0	1.0	1.0	5.5	5.0	1.0	0.0	3.5	47.2	20.6
3年超～5年以内	166	0	3	14	9	3	0	9	77	19
	100.0	0.0	1.8	8.4	5.4	1.8	0.0	5.4	46.4	11.4
5年超～	388	1	7	17	8	2	1	9	206	84
	100.0	0.3	1.8	4.4	2.1	0.5	0.3	2.3	53.1	21.6

（注）「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

③ 身体合併症

身体合併症の有無をみると、「あり」が35.7%、「なし」が61.6%であった。

図表 195 身体合併症の有無



（注）「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 196 身体合併症の有無（精神科デイ・ケア等利用期間別）

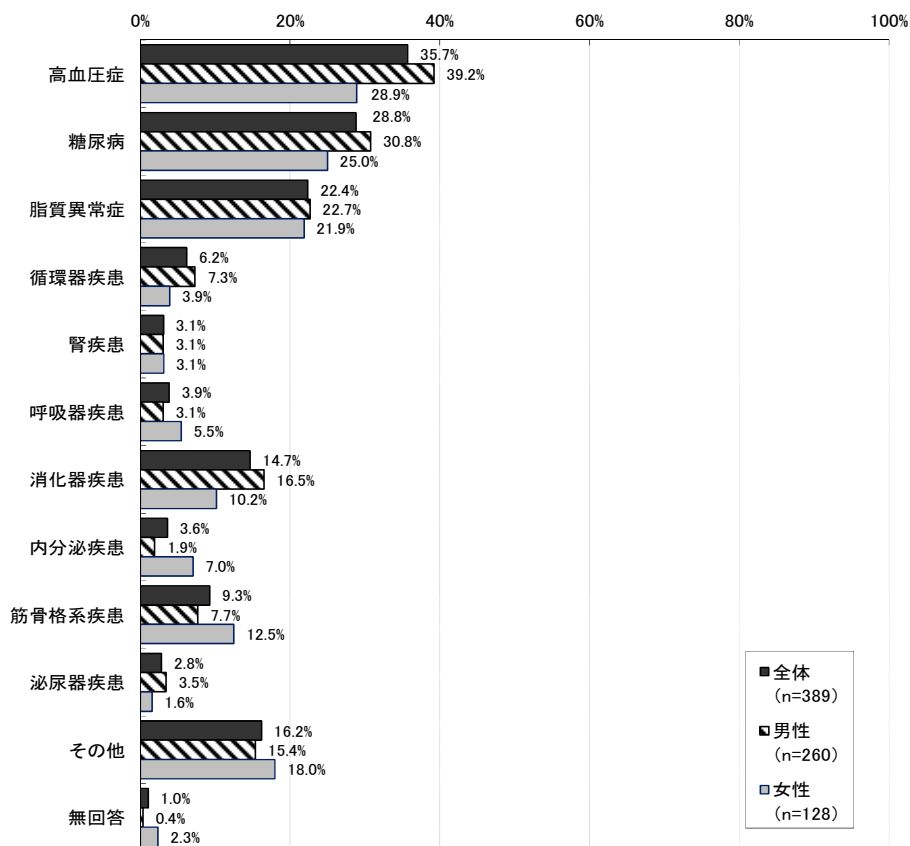
（単位：上段「人」、下段「%」）

	総数	あり	なし	無回答
全体	1,089	389	671	29
	100.0	35.7	61.6	2.7
～2年以内	287	81	197	9
	100.0	28.2	68.6	3.1
2年超～3年以内	199	60	135	4
	100.0	30.2	67.8	2.0
3年超～5年以内	166	61	100	5
	100.0	36.7	60.2	3.0
5年超～	388	165	214	9
	100.0	42.5	55.2	2.3

（注）「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

身体合併症の内容をみると、「高血圧症」が35.7%で最も高く、次いで「糖尿病」（28.8%）、「脂質異常症」（22.4%）であった。

図表 197 身体合併症（身体合併症がある患者、複数回答）



（注）「全体」には性別が不明の1人が含まれている。

図表 198 身体合併症

(身体合併症がある患者、精神科デイ・ケア等利用期間別、複数回答)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	高血圧症	糖尿病	脂質異常症	循環器疾患	腎疾患	呼吸器疾患	消化器疾患	内分泌疾患
全体	389	139	112	87	24	12	15	57	14
	100.0	35.7	28.8	22.4	6.2	3.1	3.9	14.7	3.6
～2年以内	81	29	23	10	5	2	3	13	6
	100.0	35.8	28.4	12.3	6.2	2.5	3.7	16.0	7.4
2年超～3年以内	60	20	20	17	1	2	2	13	0
	100.0	33.3	33.3	28.3	1.7	3.3	3.3	21.7	0.0
3年超～5年以内	61	20	16	14	3	2	2	7	1
	100.0	32.8	26.2	23.0	4.9	3.3	3.3	11.5	1.6
5年超～	165	61	48	43	14	6	6	20	7
	100.0	37.0	29.1	26.1	8.5	3.6	3.6	12.1	4.2
	総数	筋骨格系疾患	泌尿器疾患	その他	無回答				
全体	389	36	11	63	4				
	100.0	9.3	2.8	16.2	1.0				
～2年以内	81	11	2	16	0				
	100.0	13.6	2.5	19.8	0.0				
2年超～3年以内	60	9	2	7	0				
	100.0	15.0	3.3	11.7	0.0				
3年超～5年以内	61	4	1	13	1				
	100.0	6.6	1.6	21.3	1.6				
5年超～	165	11	6	22	3				
	100.0	6.7	3.6	13.3	1.8				

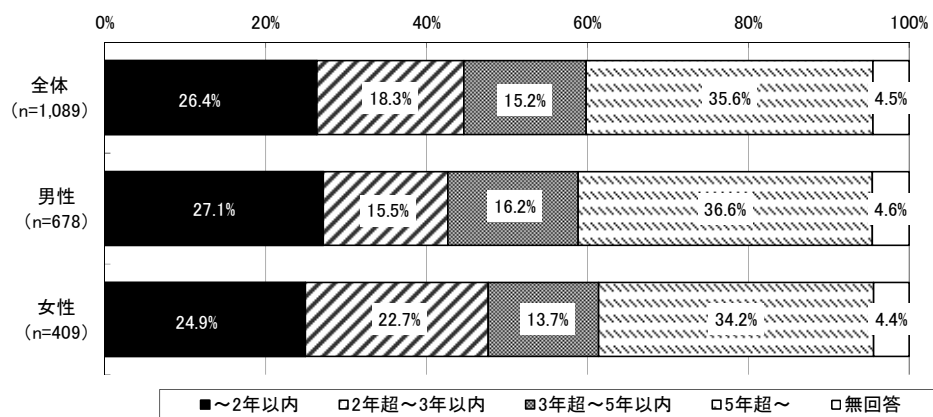
(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の22人が含まれている。

(4) 精神科デイ・ケア等の実施状況

① 精神科デイ・ケア等の利用期間

精神科デイ・ケア等の利用期間をみると、「5年超～」が35.6%で最も多く、次いで「～2年以内」が26.4%であった。

図表 199 精神科デイ・ケア等の利用期間

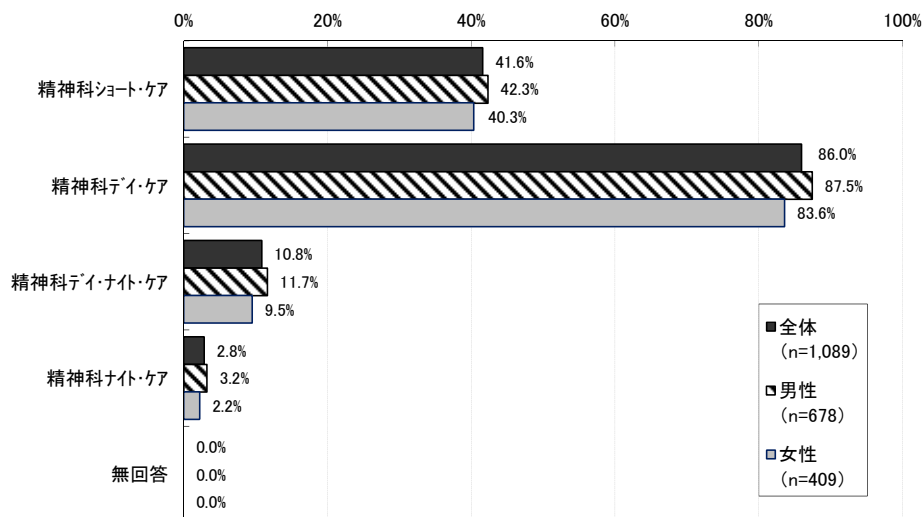


(注) 「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

② 現在利用している精神科デイ・ケア等

現在利用している精神科デイ・ケア等の種類をみると、「精神科デイ・ケア」が86.0%で最も多く、次いで「精神科ショート・ケア」(41.6%)であった。

図表 200 現在利用している精神科デイ・ケア等（複数回答）



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 201 現在利用している精神科デイ・ケア等
(精神科デイ・ケア等利用期間別、複数回答)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	精神科ショート・ケア	精神科デイ・ケア	精神科デイ・ナイト・ケア	精神科ナイト・ケア	無回答
全体	1,089	453	936	118	31	0
	100.0	41.6	86.0	10.8	2.8	0.0
～2年以内	287	135	237	26	6	0
	100.0	47.0	82.6	9.1	2.1	0.0
2年超～3年以内	199	85	168	17	6	0
	100.0	42.7	84.4	8.5	3.0	0.0
3年超～5年以内	166	69	149	13	6	0
	100.0	41.6	89.8	7.8	3.6	0.0
5年超～	388	145	346	49	11	0
	100.0	37.4	89.2	12.6	2.8	0.0

(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

③ 精神科デイ・ケア等の利用回数

1) 精神科ショート・ケア

平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科ショート・ケアの利用回数は、平均 3.7 回（中央値 3.0）であった。

図表 202 精神科ショート・ケアの利用回数

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	387	3.7	3.9	3.0
男性	246	3.3	3.6	2.0
女性	140	4.4	4.3	3.0

（注）「全体」には性別が不明の 1 人が含まれている。

図表 203 精神科ショート・ケアの利用回数（精神科デイ・ケア等利用期間別）

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	387	3.7	3.9	3.0
～2年以内	115	4.1	3.9	3.0
2年超～3年以内	74	4.0	4.1	3.0
3年超～5年以内	58	3.1	3.0	2.0
5年超～	122	3.4	3.9	2.0

（注）「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の 18 人が含まれている。

2) 精神科デイ・ケア

平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科デイ・ケアの利用回数は、平均 10.0 回（中央値 10.0）であった。

図表 204 精神科デイ・ケアの利用回数

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	902	10.0	6.2	10.0
男性	573	10.5	6.3	11.0
女性	328	9.2	5.9	8.0

（注）「全体」には性別が不明の 1 人が含まれている。

図表 205 精神科デイ・ケアの利用回数（精神科デイ・ケア等利用期間別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	902	10.0	6.2	10.0
～2年以内	229	10.3	5.9	10.0
2年超～3年以内	163	8.1	6.1	7.0
3年超～5年以内	143	9.6	6.0	8.0
5年超～	333	10.9	6.3	11.0

(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の34人が含まれている。

3) 精神科デイ・ナイト・ケア

平成28年9月1か月間の精神科デイ・ナイト・ケアの利用回数は、平均11.9回（中央値13.0）であった。

図表 206 精神科デイ・ナイト・ケアの利用回数

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	114	11.9	7.4	13.0
男性	76	12.0	7.7	13.0
女性	38	11.6	6.9	12.5

図表 207 精神科デイ・ナイト・ケアの利用回数（精神科デイ・ケア等利用期間別）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	114	11.9	7.4	13.0
～2年以内	26	11.7	7.5	11.0
2年超～3年以内	16	10.5	7.4	10.5
3年超～5年以内	13	8.5	7.0	8.0
5年超～	46	13.1	7.5	15.5

(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の13人が含まれている。

4) 精神科ナイト・ケア

平成 28 年 9 月 1 か月間の精神科ナイト・ケアの利用回数は、平均 3.4 回（中央値 2.0）であった。

図表 208 精神科ナイト・ケアの利用回数

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	26	3.4	3.4	2.0
男性	19	3.8	3.4	3.0
女性	7	2.3	3.3	1.0

図表 209 精神科ナイト・ケアの利用回数（精神科デイ・ケア等利用期間別）

（単位：回）

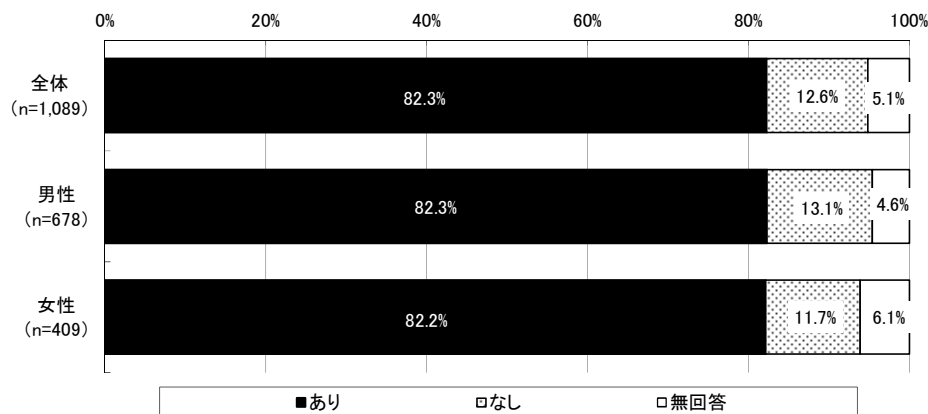
	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	26	3.4	3.4	2.0
～2年以内	5	1.2	1.6	1.0
2年超～3年以内	4	4.8	4.3	3.0
3年超～5年以内	5	2.4	2.8	1.0
5年超～	10	4.7	3.8	5.0

（注）「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の 2 人が含まれている。

④ 精神保健福祉士等による患者の意向確認の有無

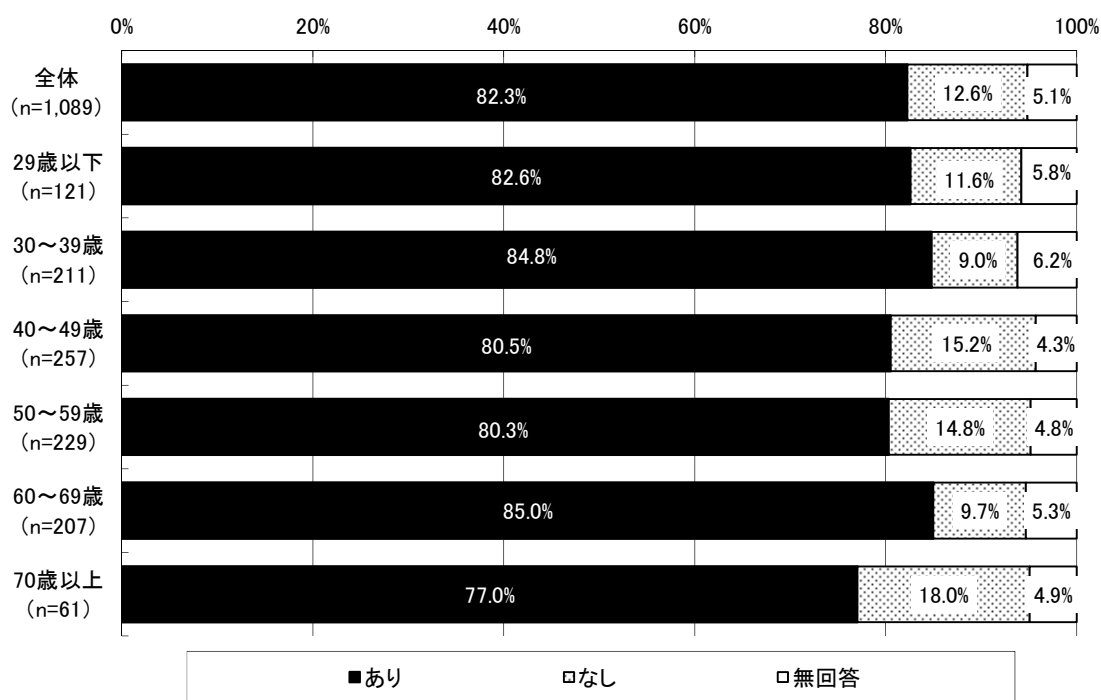
精神保健福祉士等による患者の意向確認の有無をみると、「あり」が 82.3%、「なし」が 12.6%であった。

図表 210 精神保健福祉士等による患者の意向確認の有無



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 211 精神保健福祉士等による患者の意向確認の有無 (年齢階級別)



(注)「全体」には年齢が不明の3人が含まれている。

図表 212 精神保健福祉士等による患者の意向確認の有無
(精神科デイ・ケア等利用期間別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

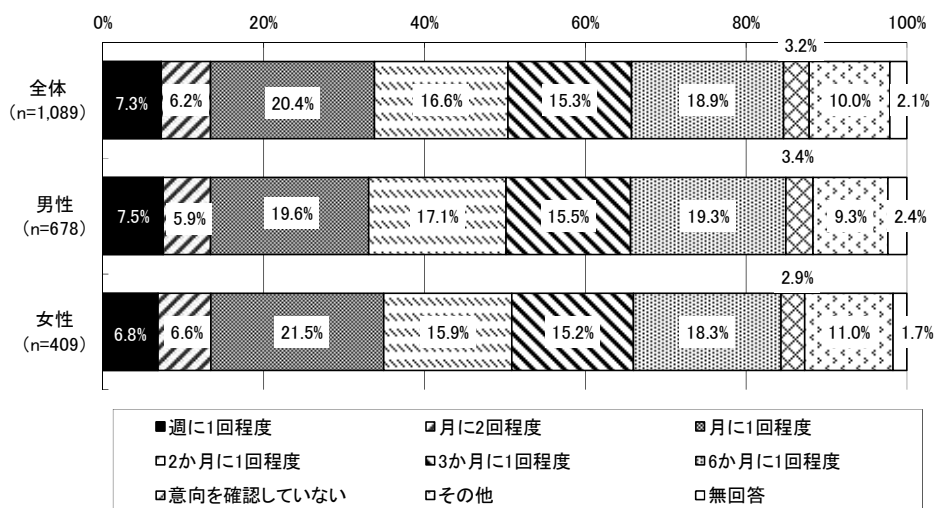
	総数	あり	なし	無回答
全体	1,089	896	137	56
	100.0	82.3	12.6	5.1
～2年以内	287	241	29	17
	100.0	84.0	10.1	5.9
2年超～3年以内	199	156	34	9
	100.0	78.4	17.1	4.5
3年超～5年以内	166	135	23	8
	100.0	81.3	13.9	4.8
5年超～	388	323	47	18
	100.0	83.2	12.1	4.6

(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

⑤ 精神科デイ・ケア等に関する患者の意向確認の頻度

精神科デイ・ケア等に関する患者の意向確認の頻度をみると、「月に1回程度」が20.4%で最も多かった。

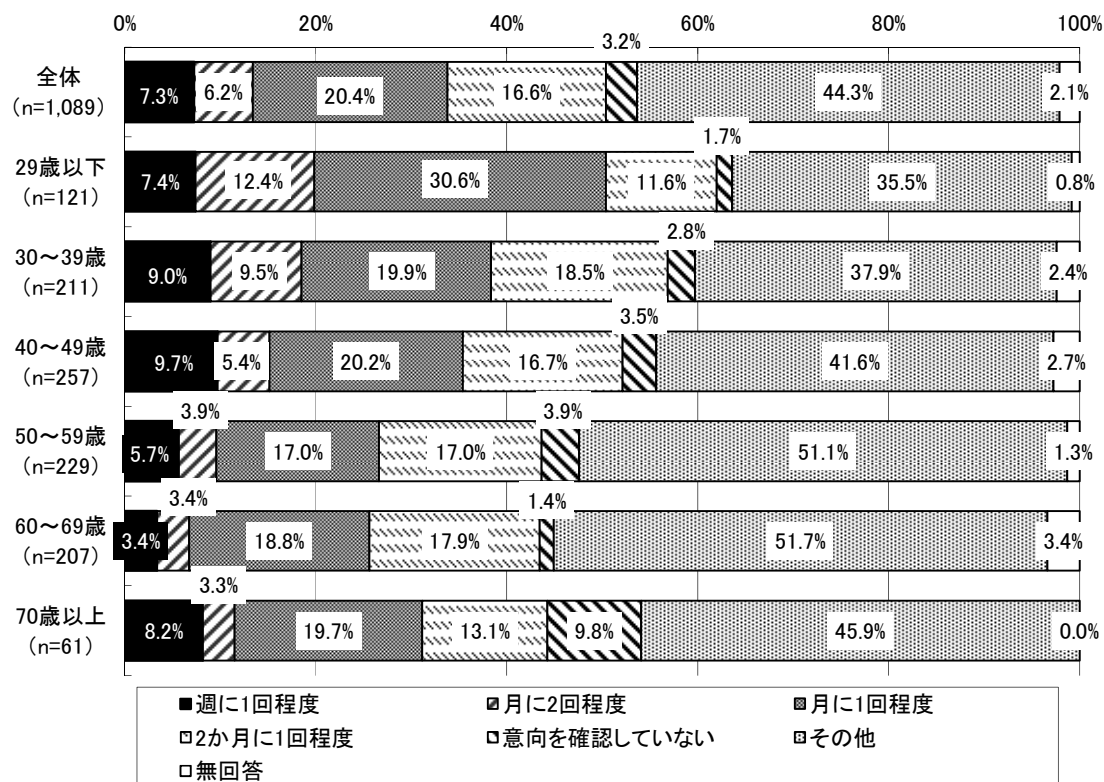
図表 213 精神科デイ・ケア等に関する患者の意向確認の頻度



(注)・「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

・図表中の「3か月に1回程度」、「6か月に1回程度」の選択肢は設けていなかったが、「その他」の中で記載が多かったため、別途分類し集計を行った。

図表 214 精神科デイ・ケア等に関する患者の意向確認の頻度（年齢階級別）



(注)「全体」には年齢が不明の3人が含まれている。

図表 215 精神科デイ・ケア等に関する患者の意向確認の頻度
(精神科デイ・ケア等利用期間別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	週に1回程度	月に2回程度	月に1回程度	2か月に1回程度	3か月に1回程度	6か月に1回程度	意向を確認していない	その他	無回答
全体	1,089	79	67	222	181	167	206	35	109	23
	100.0	7.3	6.2	20.4	16.6	15.3	18.9	3.2	10.0	2.1
~2年以内	287	20	23	61	42	40	54	8	33	6
	100.0	7.0	8.0	21.3	14.6	13.9	18.8	2.8	11.5	2.1
2年超~3年以内	199	17	12	46	29	30	34	7	17	7
	100.0	8.5	6.0	23.1	14.6	15.1	17.1	3.5	8.5	3.5
3年超~5年以内	166	10	18	32	26	26	29	7	14	4
	100.0	6.0	10.8	19.3	15.7	15.7	17.5	4.2	8.4	2.4
5年超~	388	27	11	70	75	65	87	11	36	6
	100.0	7.0	2.8	18.0	19.3	16.8	22.4	2.8	9.3	1.5

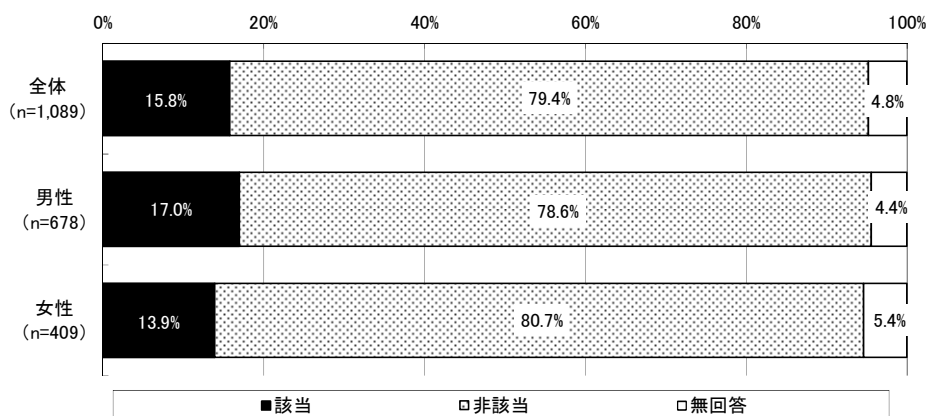
(注)・「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

・図表中の「3か月に1回程度」、「6か月に1回程度」の選択肢は設けていなかったが、「その他」の中で記載が多かったため、別途分類し集計を行った。

⑥ 長期かつ頻回による 100 分の 90 の点数該当の状況

長期かつ頻回による 100 分の 90 の点数該当の状況を見ると、「該当」が 15.8%であった。

図表 216 長期かつ頻回による 100 分の 90 の点数該当の状況



(注) 「全体」には性別が不明の 2 人が含まれている。

図表 217 長期かつ頻回による 100 分の 90 の点数該当の状況
(精神科デイ・ケア等利用期間別)

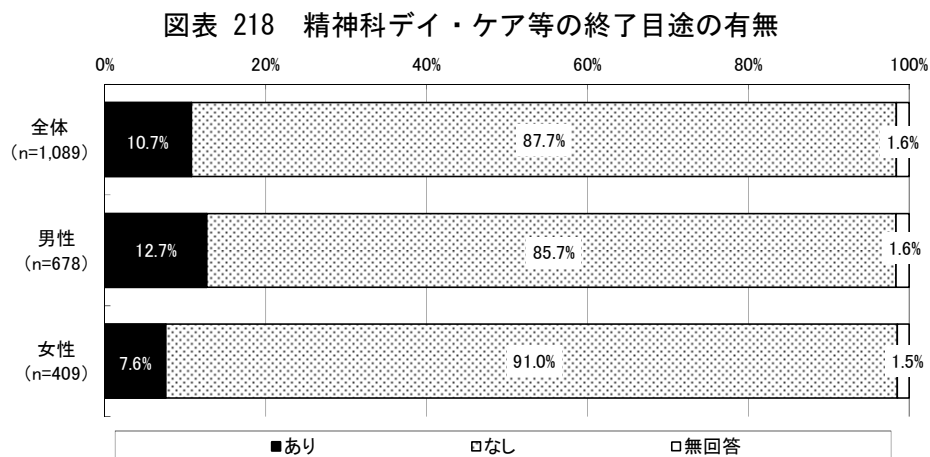
(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	該当	非該当	無回答
全体	1,089	172	865	52
	100.0	15.8	79.4	4.8
～2年以内	287	19	249	19
	100.0	6.6	86.8	6.6
2年超～3年以内	199	9	176	14
	100.0	4.5	88.4	7.0
3年超～5年以内	166	39	121	6
	100.0	23.5	72.9	3.6
5年超～	388	97	284	7
	100.0	25.0	73.2	1.8

(注) 「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の 49 人が含まれている。

⑦ 精神科デイ・ケア等の終了目途の有無

精神科デイ・ケア等の終了目途の有無をみると、「あり」が 10.7%、「なし」が 87.7%であった。



(注) 「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 219 精神科デイ・ケア等の終了目途の有無 (精神科デイ・ケア等利用期間別)

(単位：上段「人」、下段「%」)

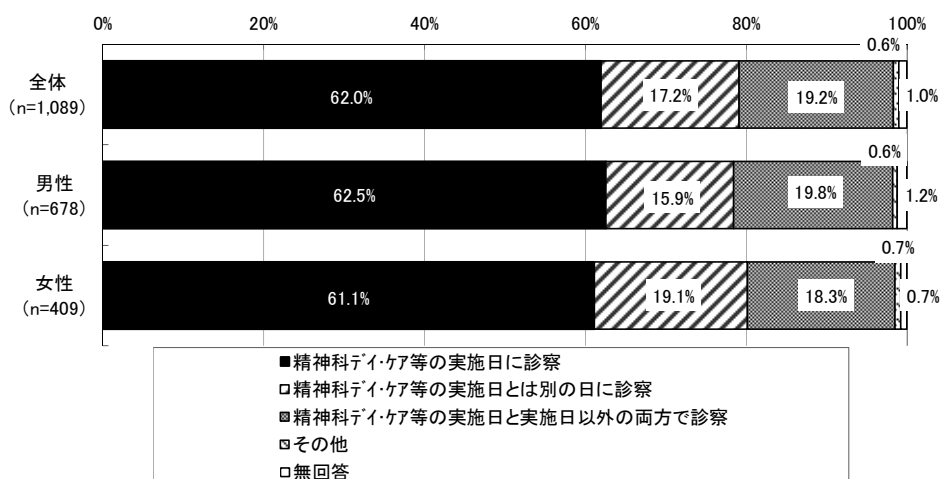
	総数	あり	なし	無回答
全体	1,089	117	955	17
	100.0	10.7	87.7	1.6
～2年以内	287	56	225	6
	100.0	19.5	78.4	2.1
2年超～3年以内	199	21	173	5
	100.0	10.6	86.9	2.5
3年超～5年以内	166	16	148	2
	100.0	9.6	89.2	1.2
5年超～	388	21	363	4
	100.0	5.4	93.6	1.0

(注) 「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

⑧ 精神科の医師による診察のタイミング

精神科の医師による診察のタイミングをみると、「精神科デイ・ケア等の実施日に診察」が62.0%で最も多かった。

図表 220 精神科の医師による診察のタイミング



(注) 「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 221 精神科の医師による診察のタイミング（精神科デイ・ケア等利用期間別）

(単位：上段「人」、下段「%」)

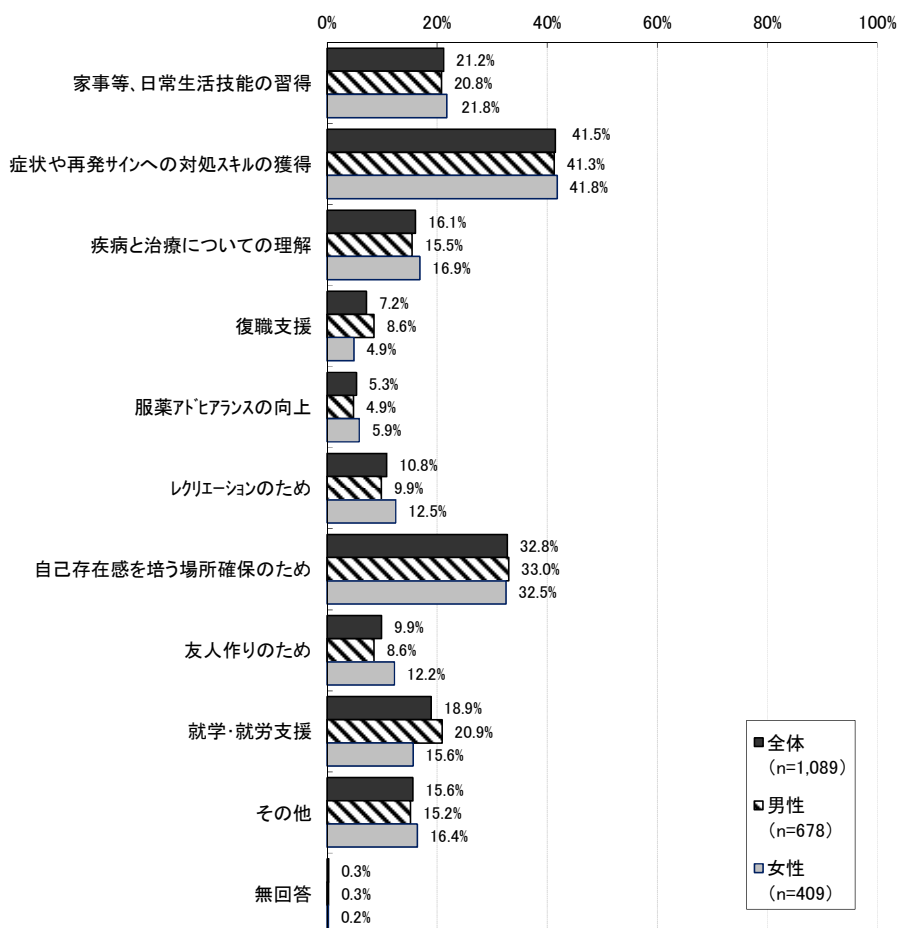
	総数	精神科デイ・ケア等の実施日に診察	精神科デイ・ケア等の実施日とは別の日に診察	精神科デイ・ケア等の実施日と実施日以外の両方で診察	その他	無回答
全体	1,089	675	187	209	7	11
	100.0	62.0	17.2	19.2	0.6	1.0
～2年以内	287	173	55	50	4	5
	100.0	60.3	19.2	17.4	1.4	1.7
2年超～3年以内	199	113	44	42	0	0
	100.0	56.8	22.1	21.1	0.0	0.0
3年超～5年以内	166	103	28	32	1	2
	100.0	62.0	16.9	19.3	0.6	1.2
5年超～	388	252	55	77	1	3
	100.0	64.9	14.2	19.8	0.3	0.8

(注) 「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

⑨ 精神科デイ・ケア等を実施する主な目的

精神科デイ・ケア等を実施する主な目的をみると、「症状や再発サインへの対処スキルの獲得」が 41.5%で最も多く、次いで「自己存在感を培う場所確保のため」(32.8%)であった。

図表 222 精神科デイ・ケア等を実施する主な目的（複数回答、2つまで）



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 223 精神科デイ・ケア等を実施する主な目的
(精神科デイ・ケア等利用期間別、複数回答、2つまで)

(単位：上段「人」、下段「%」)

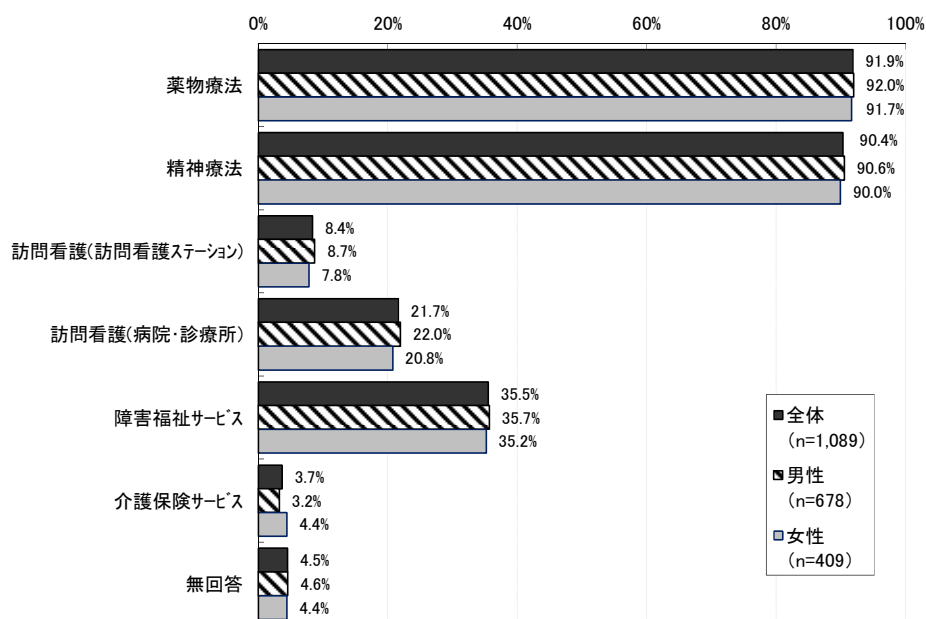
	総数	家事等、日常生活技能の習得	症状や再発サインへの対処スキルの獲得	疾病と治療についての理解	復職支援	服薬アドヒアランスの向上	レクリエーションのため	自己存在感を培う場所確保のため	友人作りのため	就学・就労支援	その他	無回答
全体	1,089	231	452	175	78	58	118	357	108	206	170	3
	100.0	21.2	41.5	16.1	7.2	5.3	10.8	32.8	9.9	18.9	15.6	0.3
～2年以内	287	43	131	47	45	12	18	75	21	61	54	0
	100.0	15.0	45.6	16.4	15.7	4.2	6.3	26.1	7.3	21.3	18.8	0.0
2年超～3年以内	199	43	77	34	9	8	28	61	21	56	27	0
	100.0	21.6	38.7	17.1	4.5	4.0	14.1	30.7	10.6	28.1	13.6	0.0
3年超～5年以内	166	34	70	24	14	12	14	47	17	34	28	2
	100.0	20.5	42.2	14.5	8.4	7.2	8.4	28.3	10.2	20.5	16.9	1.2
5年超～	388	97	157	63	9	25	47	155	41	48	56	1
	100.0	25.0	40.5	16.2	2.3	6.4	12.1	39.9	10.6	12.4	14.4	0.3

(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

⑩ 精神科デイ・ケア等以外で利用している診療内容・サービス等

精神科デイ・ケア等以外で利用している診療内容・サービス等をみると、「薬物療法」、「精神療法」が90%以上と多かった。次いで「障害福祉サービス」(35.5%)、「訪問看護(病院・診療所)」(21.7%)であった。

図表 224 精神科デイ・ケア等以外で利用している診療内容・サービス等 (複数回答)



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 225 精神科デイ・ケア等以外で利用している診療内容・サービス等 (精神科デイ・ケア等利用期間別、複数回答)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	薬物療法	精神療法	訪問看護 (訪問看護ステーション)	訪問看護 (病院・診療所)	障害福祉 サービス	介護保険 サービス	無回答
全体	1,089	1001	984	91	236	387	40	49
	100.0	91.9	90.4	8.4	21.7	35.5	3.7	4.5
～2年以内	287	256	257	21	46	79	8	15
	100.0	89.2	89.5	7.3	16.0	27.5	2.8	5.2
2年超～3年以内	199	181	179	15	41	72	6	10
	100.0	91.0	89.9	7.5	20.6	36.2	3.0	5.0
3年超～5年以内	166	158	152	15	35	70	7	7
	100.0	95.2	91.6	9.0	21.1	42.2	4.2	4.2
5年超～	388	363	354	33	96	147	17	14
	100.0	93.6	91.2	8.5	24.7	37.9	4.4	3.6

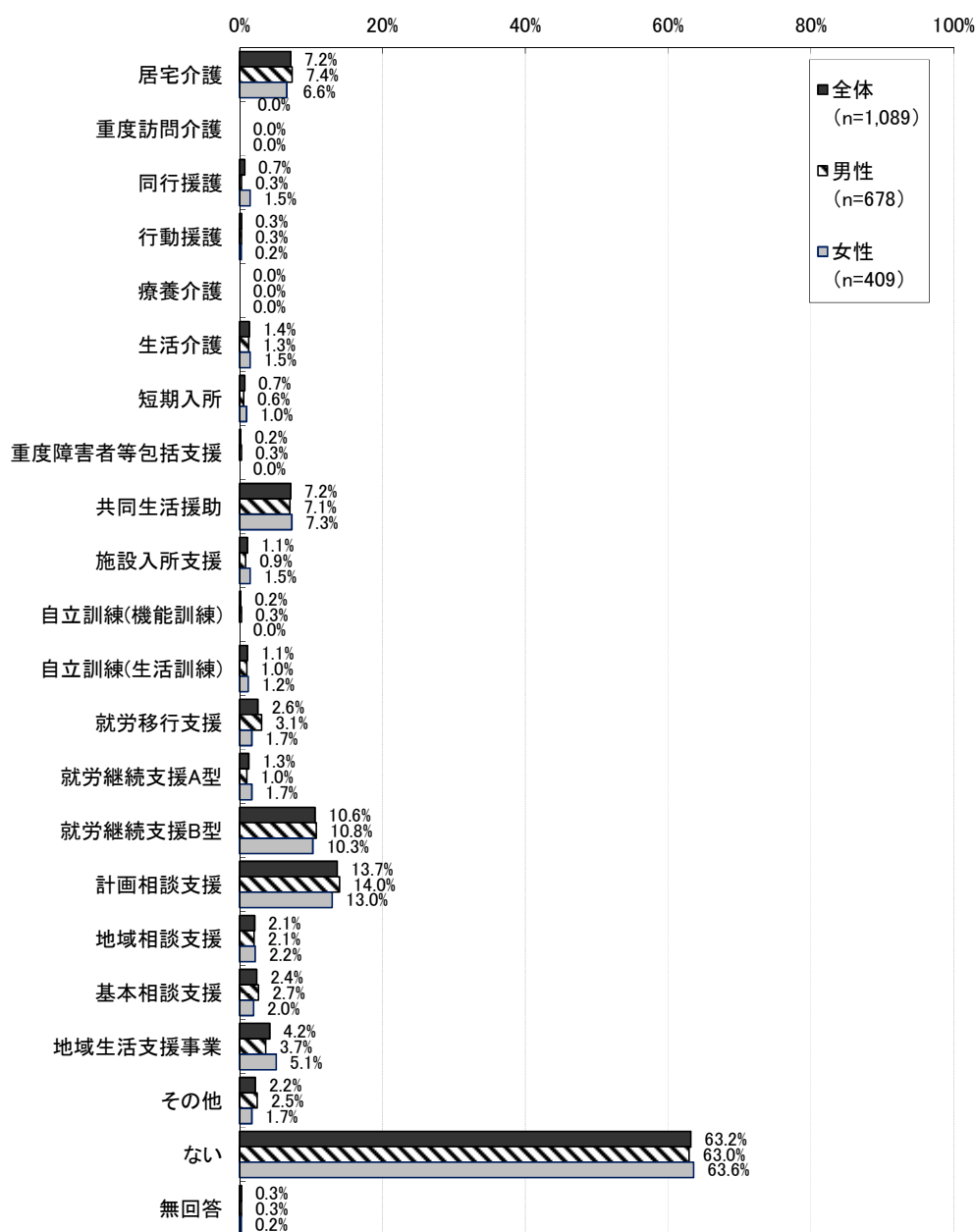
(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

⑪ 現在利用しているサービスの種類

現在利用しているサービスの種類をみると、「計画相談支援」が13.7%で最も多く、次いで「就労継続支援B型」(10.6%)、「居宅介護」、「共同生活援助」(いずれも7.2%)であった。

なお、「ない」が63.2%と多かった。

図表 226 現在利用しているサービスの種類 (複数回答)



(注) 「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 227 現在利用しているサービスの種類（精神科デイ・ケア等利用期間別、複数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	療養介護	生活介護	短期入所	重度障害者等包括支援
全体	1,089	78	0	8	3	0	15	8	2
	100.0	7.2	0.0	0.7	0.3	0.0	1.4	0.7	0.2
～2年以内	287	14	0	1	1	0	2	1	0
	100.0	4.9	0.0	0.3	0.3	0.0	0.7	0.3	0.0
2年超～3年以内	199	10	0	4	1	0	5	3	0
	100.0	5.0	0.0	2.0	0.5	0.0	2.5	1.5	0.0
3年超～5年以内	166	17	0	2	0	0	2	0	0
	100.0	10.2	0.0	1.2	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0
5年超～	388	33	0	1	1	0	4	4	2
	100.0	8.5	0.0	0.3	0.3	0.0	1.0	1.0	0.5

	総数	共同生活援助	施設入所支援	自立訓練 (機能訓練)	自立訓練 (生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	計画相談支援
全体	1,089	78	12	2	12	28	14	115	149
	100.0	7.2	1.1	0.2	1.1	2.6	1.3	10.6	13.7
～2年以内	287	21	3	0	6	4	2	21	29
	100.0	7.3	1.0	0.0	2.1	1.4	0.7	7.3	10.1
2年超～3年以内	199	14	2	0	2	9	4	19	30
	100.0	7.0	1.0	0.0	1.0	4.5	2.0	9.5	15.1
3年超～5年以内	166	14	5	1	2	6	2	24	23
	100.0	8.4	3.0	0.6	1.2	3.6	1.2	14.5	13.9
5年超～	388	28	2	1	2	8	6	46	62
	100.0	7.2	0.5	0.3	0.5	2.1	1.5	11.9	16.0

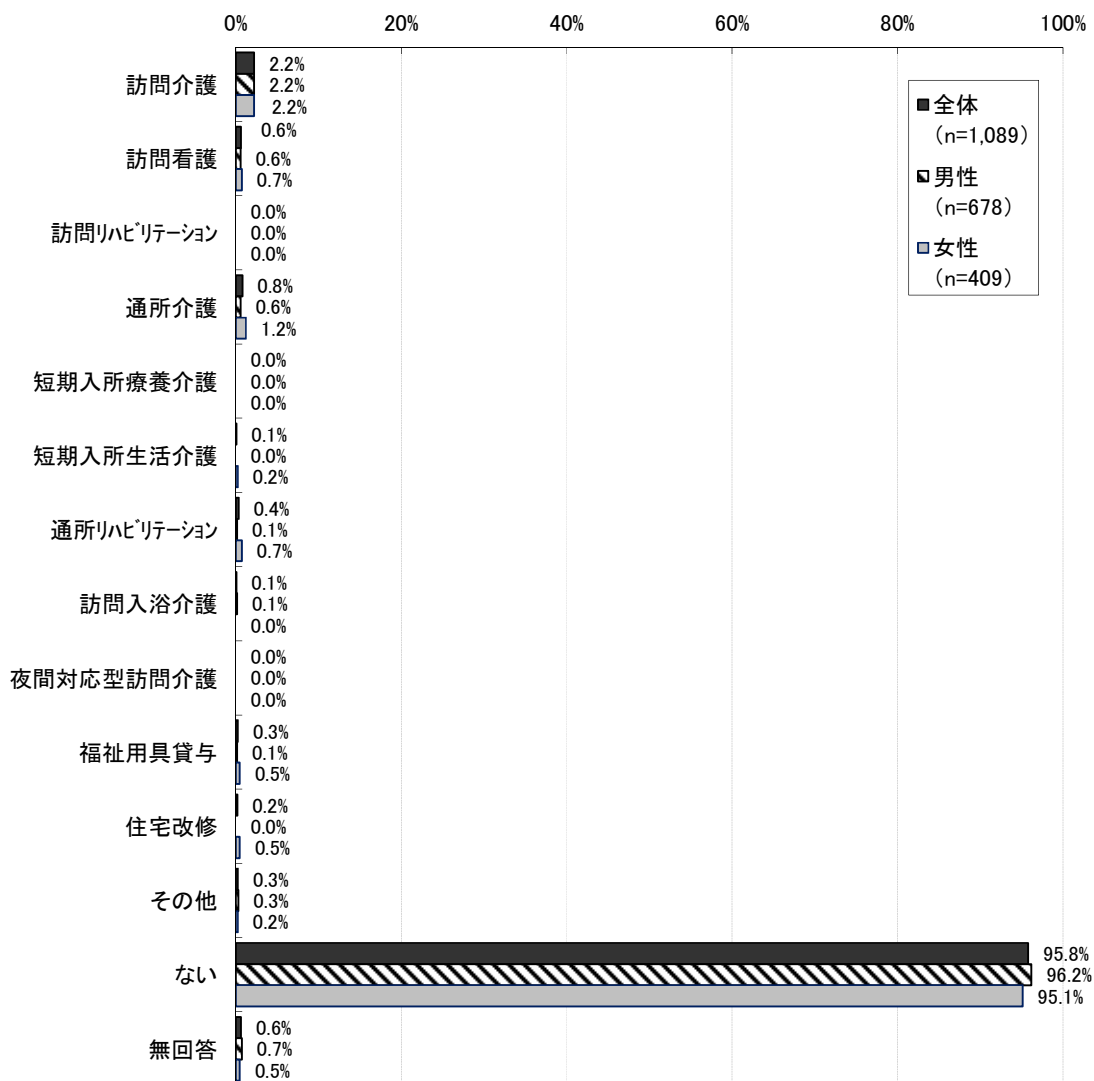
	総数	地域相談支援	基本相談支援	地域生活支援事業	その他	ない	無回答
全体	1,089	23	26	46	24	688	3
	100.0	2.1	2.4	4.2	2.2	63.2	0.3
～2年以内	287	3	9	8	3	203	2
	100.0	1.0	3.1	2.8	1.0	70.7	0.7
2年超～3年以内	199	5	3	9	5	126	0
	100.0	2.5	1.5	4.5	2.5	63.3	0.0
3年超～5年以内	166	0	4	6	4	93	0
	100.0	0.0	2.4	3.6	2.4	56.0	0.0
5年超～	388	12	10	19	8	237	1
	100.0	3.1	2.6	4.9	2.1	61.1	0.3

(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

⑫ 現在利用している介護保険サービスの種類

現在利用している介護保険サービスの種類をみると、「ない」が95.8%で利用がほとんどみられなかった。

図表 228 現在利用している介護保険サービスの種類（複数回答）



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 229 現在利用している介護保険サービスの種類
(精神科デイ・ケア等利用期間別、複数回答)

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	訪問介護	訪問看護	訪問リハビリ テーション	通所介護	短期入所 療養介護	短期入所 生活介護	通所リハビリ テーション	訪問入浴 介護
全体	1,089	24	7	0	9	0	1	4	1
	100.0	2.2	0.6	0.0	0.8	0.0	0.1	0.4	0.1
～2年以内	287	6	0	0	2	0	0	1	0
	100.0	2.1	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.3	0.0
2年超～3年以内	199	4	1	0	1	0	0	0	0
	100.0	2.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0
3年超～5年以内	166	5	2	0	2	0	1	0	0
	100.0	3.0	1.2	0.0	1.2	0.0	0.6	0.0	0.0
5年超～	388	7	4	0	3	0	0	3	1
	100.0	1.8	1.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.8	0.3

	総数	夜間対応 型訪問介 護	福祉用具 貸与	住宅改修	その他	ない	無回答
全体	1,089	0	3	2	3	1043	7
	100.0	0.0	0.3	0.2	0.3	95.8	0.6
～2年以内	287	0	2	1	1	276	3
	100.0	0.0	0.7	0.3	0.3	96.2	1.0
2年超～3年以内	199	0	1	1	0	192	1
	100.0	0.0	0.5	0.5	0.0	96.5	0.5
3年超～5年以内	166	0	0	0	0	159	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	95.8	0.0
5年超～	388	0	0	0	2	370	2
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.5	95.4	0.5

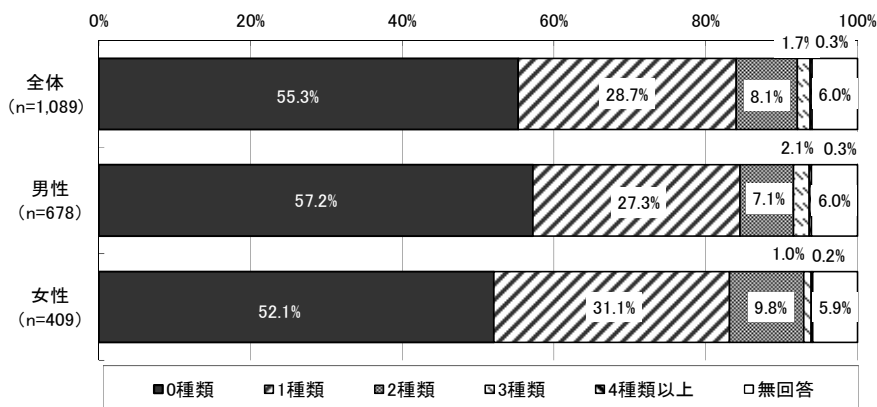
(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

⑬ 向精神薬の処方内容

1) 抗不安薬

抗不安薬の処方薬数をみると、平成 27 年 9 月、平成 28 年 9 月ともに平均 0.5 種類（中央値 0.0）であった。

図表 230 抗不安薬の処方薬数（平成 27 年 9 月）

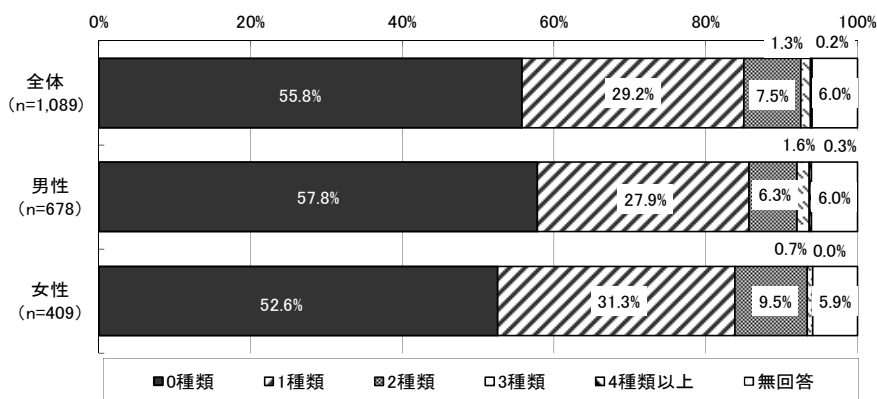


(注)「全体」には性別が不明の 2 人が含まれている。

(単位：種類)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,024	0.5	0.7	0.0
男性	637	0.5	0.8	0.0
女性	385	0.6	0.7	0.0

図表 231 抗不安薬の処方薬数（平成 28 年 9 月）



(注)「全体」には性別が不明の 2 人が含まれている。

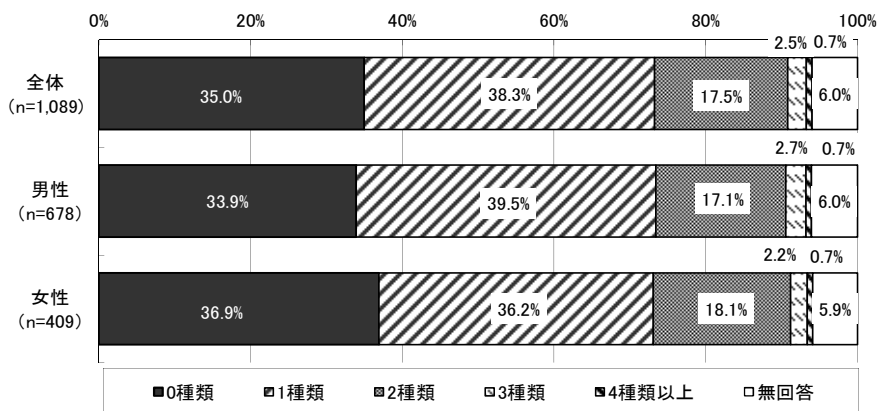
(単位：種類)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,024	0.5	0.7	0.0
男性	637	0.5	0.7	0.0
女性	385	0.6	0.7	0.0

2) 睡眠薬

睡眠薬の処方薬数をみると、平成27年9月、平成28年9月ともに平均0.9種類（中央値1.0）であった。

図表 232 睡眠薬の処方薬数（平成27年9月）

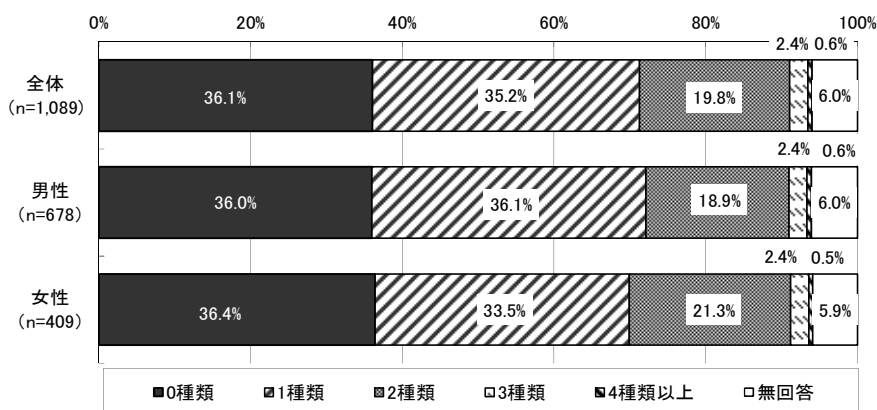


(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

(単位：種類)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,024	0.9	0.9	1.0
男性	637	0.9	0.9	1.0
女性	385	0.9	0.9	1.0

図表 233 睡眠薬の処方薬数（平成28年9月）



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

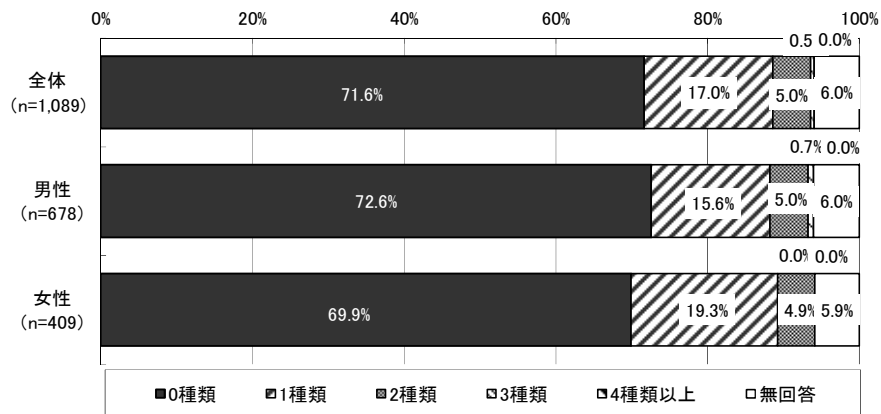
(単位：種類)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,024	0.9	0.9	1.0
男性	637	0.9	0.9	1.0
女性	385	0.9	0.9	1.0

3) 抗うつ薬

抗うつ薬の処方薬数をみると、平成27年9月、平成28年9月ともに患者1人あたり平均0.3種類（中央値0.0）であった。

図表 234 抗うつ薬の処方薬数（平成27年9月）

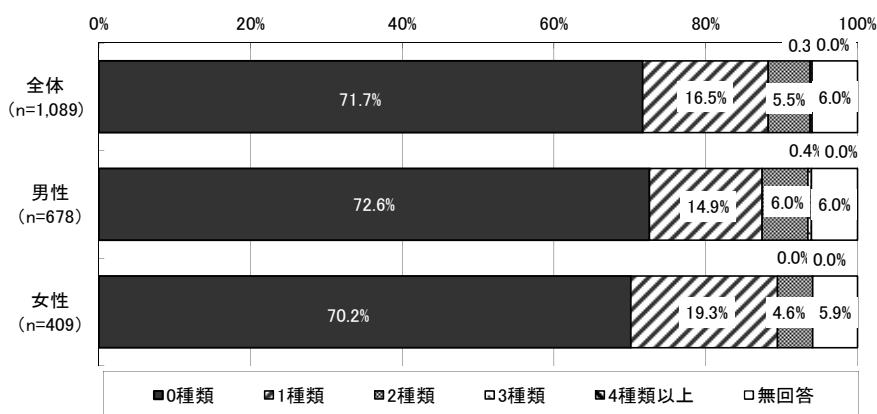


(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

(単位：種類)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,024	0.3	0.6	0.0
男性	637	0.3	0.6	0.0
女性	385	0.3	0.6	0.0

図表 235 抗うつ薬の処方薬数（平成28年9月）



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

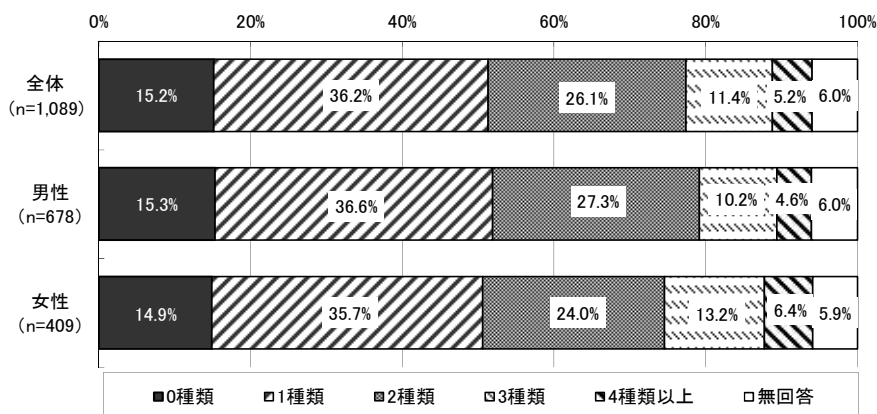
(単位：種類)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,024	0.3	0.6	0.0
男性	637	0.3	0.6	0.0
女性	385	0.3	0.6	0.0

4) 抗精神病薬

抗精神病薬の処方薬数をみると、平成 27 年 9 月、平成 28 年 9 月ともに患者 1 人あたり平均 1.5 種類（中央値 1.0）であった。

図表 236 抗精神病薬の処方薬数（平成 27 年 9 月）

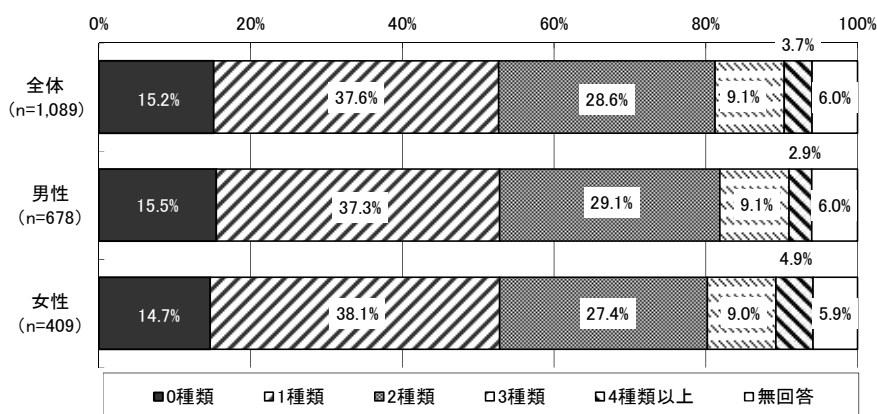


(注)「全体」には性別が不明の 2 人が含まれている。

(単位：種類)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,024	1.5	1.1	1.0
男性	637	1.5	1.1	1.0
女性	385	1.6	1.2	1.0

図表 237 抗精神病薬の処方薬数（平成 28 年 9 月）



(注)「全体」には性別が不明の 2 人が含まれている。

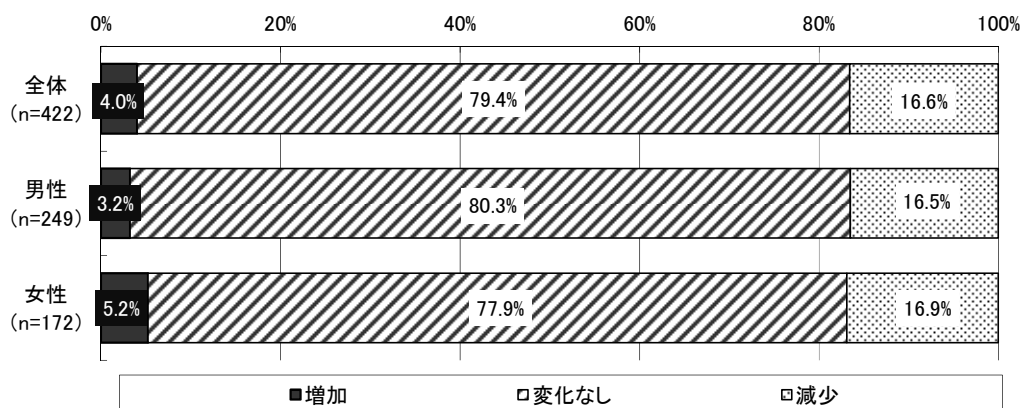
(単位：種類)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	1,024	1.5	1.0	1.0
男性	637	1.4	1.0	1.0
女性	385	1.5	1.1	1.0

⑭ 向精神薬の処方薬数の変化

1) 抗不安薬

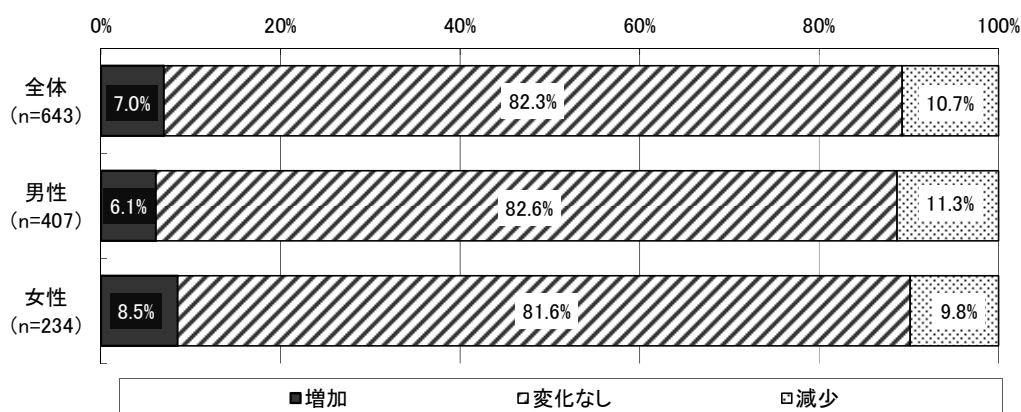
図表 238 抗不安薬の処方数の変化（平成 27 年 9 月と比較した平成 28 年 9 月の状況）
（平成 27 年 9 月に抗不安薬が 1 種類以上処方されていた患者）



(注)・「全体」には性別が不明の 1 人が含まれている。
 ・平成 27 年 9 月に抗不安薬の処方数が 1 品目以上であった患者を対象とした。
 ・処方薬数について、平成 27 年 9 月、平成 28 年 9 月、いずれにおいても記入のあったものを集計対象とした。

2) 睡眠薬

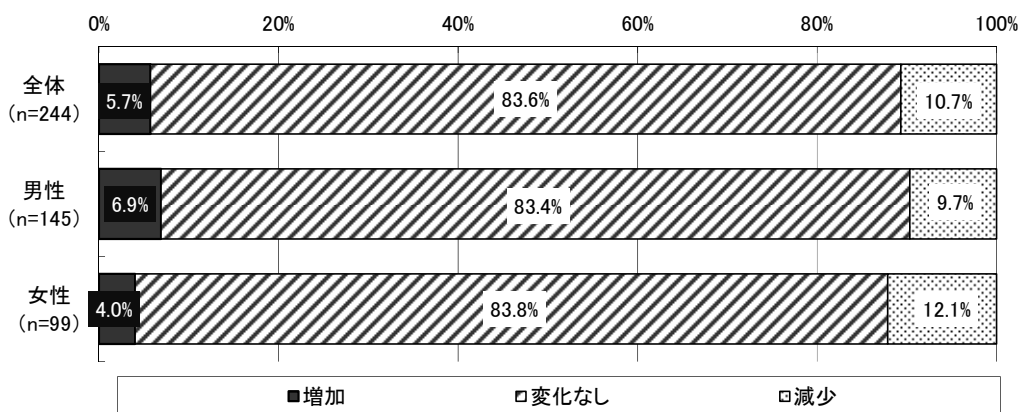
図表 239 睡眠薬の処方数の変化（平成 27 年 9 月と比較した平成 28 年 9 月の状況）
（平成 27 年 9 月に睡眠薬が 1 種類以上処方されていた患者）



(注)・「全体」には性別が不明の 2 人が含まれている。
 ・平成 27 年 9 月に睡眠薬の処方数が 1 品目以上であった患者を対象とした。
 ・処方薬数について、平成 27 年 9 月、平成 28 年 9 月、いずれにおいても記入のあったものを集計対象とした。

3) 抗うつ薬

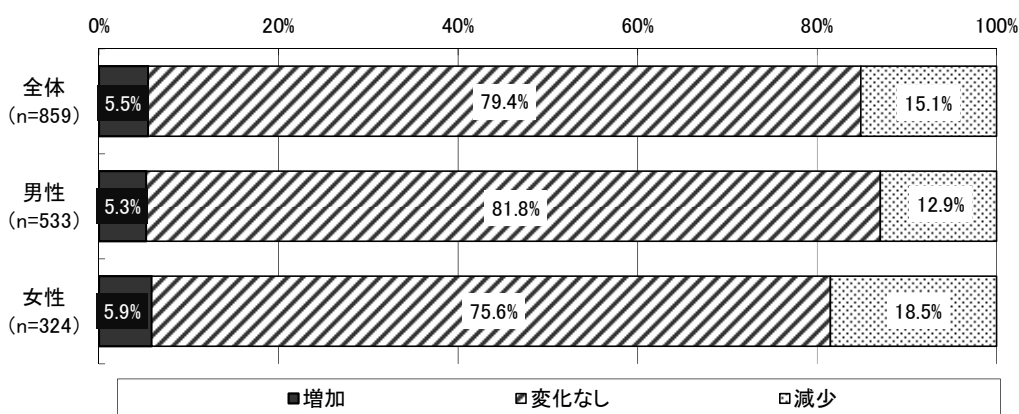
図表 240 抗うつ薬の処方数の変化（平成 27 年 9 月と比較した平成 28 年 9 月の状況）
（平成 27 年 9 月に抗うつ薬が 1 種類以上処方されていた患者）



(注)・平成 27 年 9 月に抗うつ薬の処方数が 1 品目以上であった患者を対象とした。
・処方薬数について、平成 27 年 9 月、平成 28 年 9 月、いずれにおいても記入のあったものを集計対象とした。

4) 抗精神病薬

図表 241 抗精神病薬の処方数の変化（平成 27 年 9 月と比較した平成 28 年 9 月の状況）
（平成 27 年 9 月に抗精神病薬が 1 種類以上処方されていた患者）

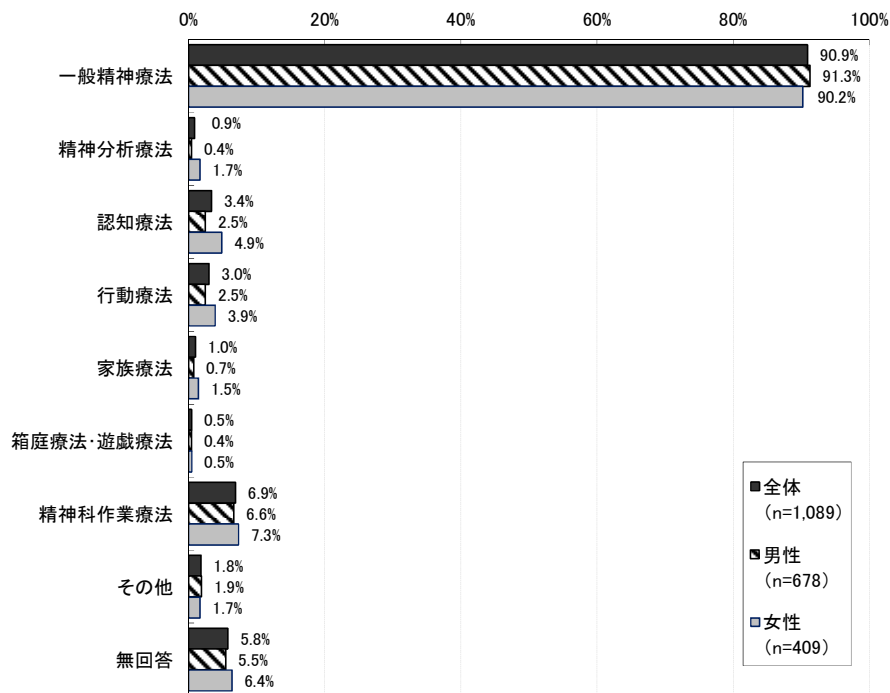


(注)・「全体」には性別が不明の 2 人が含まれている。
・平成 27 年 9 月に抗精神病薬の処方数が 1 品目以上であった患者を対象とした。
・処方薬数について、平成 27 年 9 月、平成 28 年 9 月、いずれにおいても記入のあったものを集計対象とした。

⑮ 精神療法の内容

精神療法の内容を見ると、「一般精神療法」が90.9%で最も多く、次いで「精神科作業療法」(6.9%)であった。

図表 242 精神療法の内容（複数回答）



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 243 精神療法の内容（精神科デイ・ケア等利用期間別、複数回答）

(単位：上段「人」、下段「%」)

	総数	一般精神療法	精神分析療法	認知療法	行動療法	家族療法	箱庭療法・遊戯療法	精神科作業療法	その他	無回答
全体	1,089	990	10	37	33	11	5	75	20	63
	100.0	90.9	0.9	3.4	3.0	1.0	0.5	6.9	1.8	5.8
～2年以内	287	254	2	15	14	2	2	20	7	19
	100.0	88.5	0.7	5.2	4.9	0.7	0.7	7.0	2.4	6.6
2年超～3年以内	199	182	5	4	4	3	1	16	2	11
	100.0	91.5	2.5	2.0	2.0	1.5	0.5	8.0	1.0	5.5
3年超～5年以内	166	152	1	9	7	2	1	11	4	7
	100.0	91.6	0.6	5.4	4.2	1.2	0.6	6.6	2.4	4.2
5年超～	388	361	2	7	7	4	0	24	6	22
	100.0	93.0	0.5	1.8	1.8	1.0	0.0	6.2	1.5	5.7

(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の49人が含まれている。

⑩ 精神科訪問看護の利用状況

1) 訪問した日数

精神科訪問看護の利用があった患者に対して、平成28年9月1か月間に訪問した日数をみると、平均3.0日（中央値2.0）であった。

図表 244 訪問した日数（精神科訪問看護利用者）

（単位：日）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	221	3.0	2.3	2.0
男性	142	2.8	2.0	2.0
女性	77	3.4	2.6	3.0

(注)・「全体」には性別が不明の2人が含まれている。
・平成28年9月1か月間に訪問した日数について記入のあった患者を集計対象とした。

図表 245 訪問した日数（精神科訪問看護利用者、精神科デイ・ケア等利用期間別）

（単位：日）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	221	3.0	2.3	2.0
～2年以内	44	3.3	2.5	2.0
2年超～3年以内	38	3.1	2.0	2.5
3年超～5年以内	31	3.5	2.5	3.0
5年超～	91	2.7	2.1	2.0

(注)・「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の17人が含まれている。
・平成28年9月1か月間に訪問した日数について記入のあった患者を集計対象とした。

2) 訪問した回数

精神科訪問看護の利用があった患者に対して、平成28年9月1か月間に訪問した回数をみると、平均3.0回（中央値2.0）であった。

図表 246 訪問した回数（精神科訪問看護利用者）

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	221	3.0	2.3	2.0
男性	142	2.8	2.0	2.0
女性	77	3.4	2.7	3.0

(注)・「全体」には性別が不明の2人が含まれている。
・平成28年9月1か月間に訪問した回数について記入のあった患者を集計対象とした。

図表 247 訪問した回数（精神科訪問看護利用者、精神科デイ・ケア等利用期間別）

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	221	3.0	2.3	2.0
～2年以内	44	3.2	2.6	2.0
2年超～3年以内	38	3.1	2.0	2.5
3年超～5年以内	31	3.4	2.6	3.0
5年超～	91	2.7	2.1	2.0

(注)・「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の17人が含まれている。
 ・平成28年9月1か月間に訪問した回数について記入のあった患者を集計対象とした。

3) 長時間精神科訪問看護・指導加算を算定した回数

平成28年9月1か月間に長時間精神科訪問看護・指導加算を算定した回数をみると、平均0.0回（中央値0.0）であった。

図表 248 長時間精神科訪問看護・指導加算を算定した回数

（精神科訪問看護利用者）

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	221	0.0	0.3	0.0
男性	142	0.0	0.3	0.0
女性	77	0.0	0.3	0.0

(注)・「全体」には性別が不明の2人が含まれている。
 ・平成28年9月1か月間に算定した回数について記入のあった患者を集計対象とした。

4) 夜間・早朝訪問看護加算を算定した回数

平成28年9月1か月間に夜間・早朝訪問看護加算を算定した回数をみると、平均0.0回（中央値0.0）であった。

図表 249 夜間・早朝訪問看護加算を算定した回数

（精神科訪問看護利用者）

（単位：回）

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	221	0.0	0.1	0.0
男性	142	0.0	-	0.0
女性	77	0.0	0.1	0.0

(注)・「全体」には性別が不明の2人が含まれている。
 ・平成28年9月1か月間に算定した回数について記入のあった患者を集計対象とした。

5) 深夜訪問看護加算を算定した回数

平成 28 年 9 月 1 か月間に深夜訪問看護加算を算定した回数をみると、平均 0.0 回（中央値 0.0）であった。

図表 250 深夜訪問看護加算を算定した回数（精神科訪問看護利用者）

(単位：回)

	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	221	0.0	-	0.0
男性	142	0.0	-	0.0
女性	77	0.0	-	0.0

(注)・「全体」には性別が不明の 2 人が含まれている。
 ・平成 28 年 9 月 1 か月間に算定した回数について記入のあった患者を集計対象とした。

6) 精神科緊急訪問看護加算を算定した回数

平成 28 年 9 月 1 か月間に精神科緊急訪問看護加算を算定した回数をみると、平均 0.0 回（中央値 0.0）であった。

図表 251 精神科緊急訪問看護加算を算定した回数（精神科訪問看護利用者）

(単位：回)

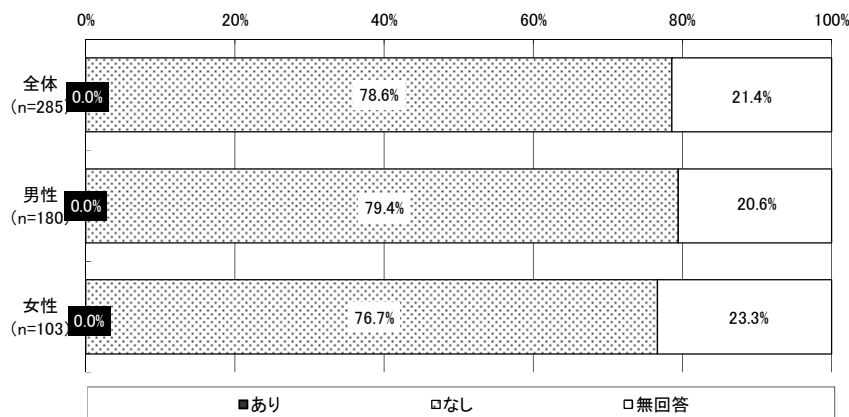
	患者数(人)	平均値	標準偏差	中央値
全体	221	0.0	-	0.0
男性	142	0.0	-	0.0
女性	77	0.0	-	0.0

(注)・「全体」には性別が不明の 2 人が含まれている。
 ・平成 28 年 9 月 1 か月間に算定した回数について記入のあった患者を集計対象とした。

7) 精神科重症患者早期集中支援管理料の算定の有無

精神科重症患者早期集中支援管理料の算定の有無をみると、「あり」はなかった。

図表 252 精神科重症患者早期集中支援管理料の算定の有無（精神科訪問看護利用者）

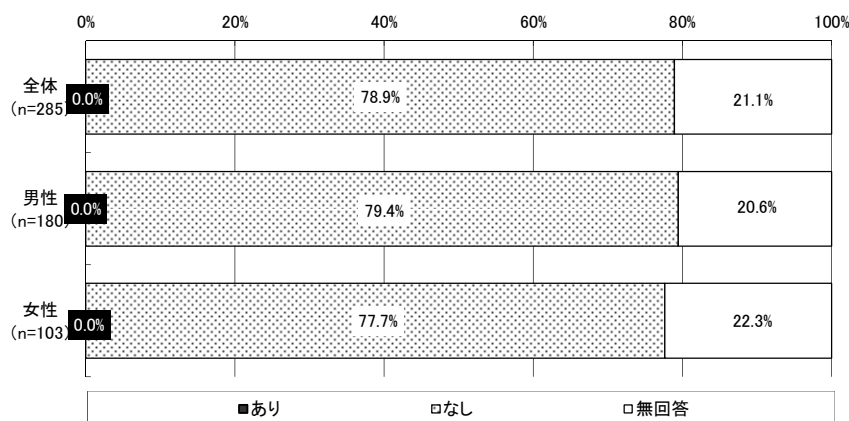


(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

8) 急性増悪による週4回以上の訪問看護の実施の有無

急性増悪による週4回以上の訪問看護の実施の有無をみると、「あり」はなかった。

図表 253 急性増悪による週4回以上の訪問看護の実施の有無（精神科訪問看護利用者）

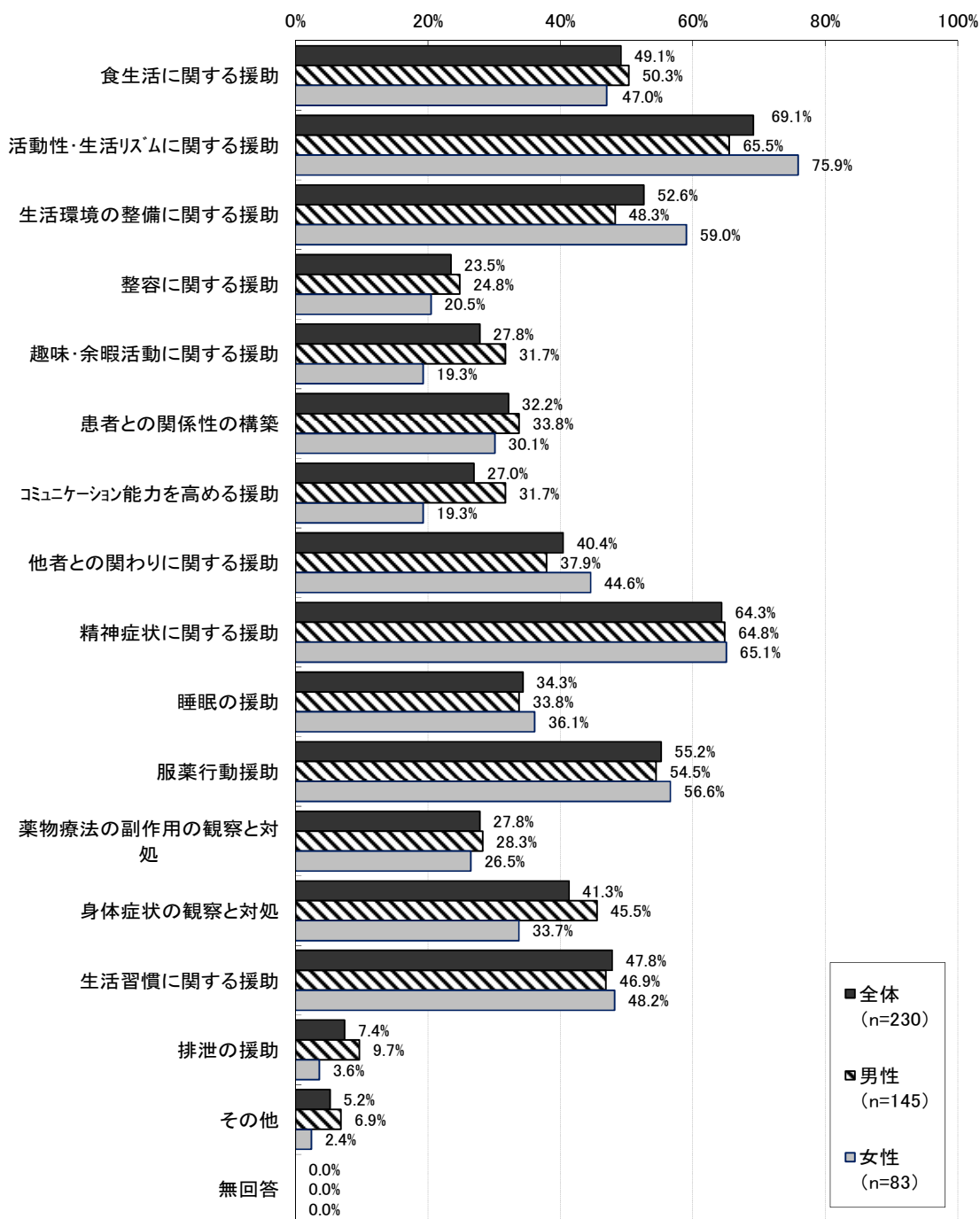


(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

⑰ 精神科訪問看護で実施した具体的援助の内容

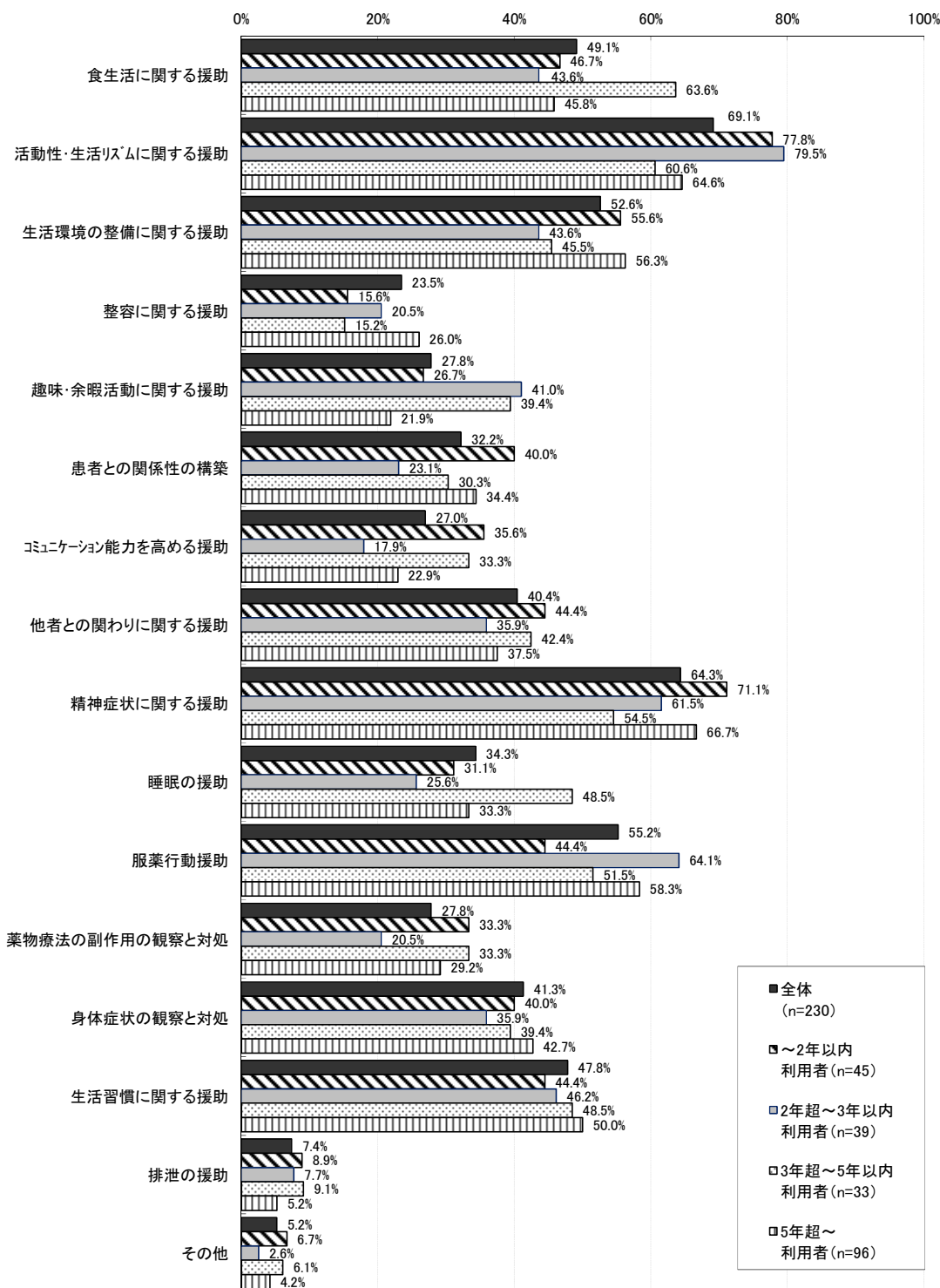
精神科訪問看護で実施した具体的援助の内容は次のとおりである。

図表 254 精神科訪問看護で実施した具体的援助
(精神科訪問看護利用者、複数回答)



(注)「全体」には性別が不明の2人が含まれている。

図表 255 精神科訪問看護で実施した具体的援助
(精神科デイ・ケア等利用期間別、精神科訪問看護を利用した患者、複数回答)



(注)「全体」には精神科デイ・ケア等利用期間が不明の17人が含まれている。

参 考 资 料

(1) 病院調査

病院調査において、患者の地域移行と地域定着を推進するためどのような取組が必要かなど意見を自由記述式で記載していただいた内容のうち、主なものを以下にとりまとめた。

○受入施設・住環境の整備など

- ・精神科病院のゆるやかな縮小と地域での公的な拠点施設（介護保険の地域包括支援センターのようなもの）の整備。
- ・当院の患者は8割が60歳以上で、歩行自立者が3割程度しかいない。この世代の地域移行をどう考えていくのか。ぜひ高齢者のための介護配置や精神科特養（転換型）を検討してほしい。
- ・長期入院者が退院を目指す際に課題となることの代表として、食事（栄養管理）と薬がある。グループホームよりケアを受けられるケアホームの数が増えることで、より退院可能な人が増えるのではないだろうか。
- ・高齢の長期入院患者の居住場所が課題で、サテライト型グループホームの普及が望まれる。
- ・シェアハウスなど社会復帰に向けた中間施設の充実。 / 等

○日中活動の場の整備

- ・日中活動の場の確保、移動手手段の確保等が必要。
- ・移動手手段（通院介助が精神疾患の方にとって利用しづらい）。
- ・精神科訪問看護と地域の訪問看護ステーションとの役割分担・連携推進。
- ・デイ・ケア移行のステップや個々の病状等に柔軟に対応できるショート・ケアの充実等。
- ・病識の弱さ等から、服薬中断など再燃の火種を持ち続ける不安定さをどの患者も抱えている。日中活動の場としてデイ・ケアの存在は重要。日中無為に過ごしがちな精神障害者が、規則正しい生活を送るための重要な拠点であることを重視してほしい。
- ・公的機関における福祉面、就労援助等のフォロー。 / 等

○地域との連携と理解

- ・精神障害者1人1人へのきめ細かい支援体制と地域の温かい目も必要。
- ・地域住民の不安軽減目的のため対話を深めることと、地域の人が気軽に利用できる相談窓口が必要。
- ・病院の啓発活動に力を入れる（広く病院を知ってもらうために病院祭、出前講座、精神疾患への関心を高めるための講演会などを実施）。
- ・精神障害者に限らず「市民サポーター養成」、「ピアサポーター養成」を義務化していくことはできないか。学校教育の場でも精神の病気や難病などをとりあげるカリキュ

ラム導入も必要。

- ・精神疾患に対する偏見が地域医療機関のスタッフにも残っており、地域住民の偏見も含め改善していく必要がある（当院に通院している統合失調症の患者が昏睡状態であったにもかかわらず受入を拒否された）。／等

○他施設・事業所等との連携

- ・精神科以外のかかりつけ医や総合病院との連携。
- ・訪問看護ステーションの強化と他のステーションとの地域連携。
- ・相談支援事業者及び事業所との連携の強化。
- ・身体合併症への対応等を加味し、地域の訪問看護ステーションへの移行事例の見極め。
- ・児童精神科の地域移行では、在宅に戻れない場合の居住先が限られている。措置で福祉施設に入所するにしても、児童相談所との連携は必須。
- ・患者の診療行為の継続性に関する情報の把握が大切。外部から患者を訪問する診療サービスグループ（例：訪問看護）との連携が特に重要。／等

○診療報酬

- ・外来部門の診療報酬による利益誘導が必要。例えば、退院後早期の訪問看護の加算を厚くする、外来通院療法の点数引上げ等。
- ・高齢精神障害者への対応として精神科病棟の介護老人保健施設への病棟単位での転換と精神科療養病床の廃止を同時に進める。
- ・包括的地域生活支援プログラム（ACT）や多職種訪問看護の整備が必要と思われる。特に ACT に関する診療報酬点数化が重要である。／等

○人材確保

- ・精神保健福祉士不足、医師不足の解消と家族の協力が必要。
- ・精神障害者支援従事者の人材育成。
- ・介護保険におけるケアマネジャー的な役割をする専門員が足りていない。
- ・当院ではモデル事業の頃から地域体制整備コーディネーターが病棟にいて、退院の大きな力になっている。しかし人数が少なく、利用できる患者が少ない。また、生活保護ケースワーカーには退院支援の視点が全くなく、退院阻害要因になっている。
- ・退院支援スタッフの増員。／等

○その他

- ・地域に精神科の患者を受け入れてもらう前提として、根底には刑法 39 条がネックになっている可能性がある。医療観察法等もあるが、もう少し法律的制度の調整も必要。
- ・夜間増悪時等への訪問などの介入。

- ・障害福祉サービス利用時の煩雑な手続きの改善・時間短縮。障害分野に理解のある行政担当者の配置及び固定化。 /等

2. 診療所調査

診療所調査において、患者の地域移行と地域定着を推進するためどのような取組が必要かなど意見等を自由記述式で記載していただいた内容のうち、主なものを以下にとりまとめた。

○支援体制の整備

- ・地域生活を支える「医療＋保健＋福祉」の拠点の整備（多機能型診療所を核とした総合型サービス提供機関を20万人に1か所程度設置）。
- ・デイ・ケア、地域活動支援センター、作業所など参加できる場所、身近に相談できる場所、人（継続しての関わりは必要）。
- ・地域と本人とを適切に結びつけるマネジメント機能の強化が必要であり、高齢者の地域包括支援センターのような施設があるとよいと考える。
- ・グループホーム等入所施設を充実させ、入所者を支えるための訪問看護やデイ・ケア、福祉就労施設を利用しやすいものにする必要がある。その一つとして福祉就労施設職員を対象とした、精神疾患への理解を深める研修会等も必要。
- ・一人暮らしを始めたばかりのデイ・ケア利用者、家族の急な入院により複数回の見守りが必要な訪問看護利用者など同一日に複数の支援を行うことがある。柔軟かつ多様な支援が地域移行・定着支援には重要。 /等

○地域との連携・理解

- ・地域理解の促進。まずは行事への参加や日々のあいさつから。
- ・地域で生活するために必要なのは、収入・友人・住む家。精神科に入院している人が退院し、地域に帰るには上記の確保が必要。 /等

○他施設・事業所等との連携

- ・各医院、ケアマネジャー、コメディカルとの連携が必要。
- ・生活保護の患者は、ケースワーカーなど行政との連携、及び方向性の一致が必要。その他の患者は、家族及びキーパーソンとの連携、方向性の一致のための仕組みが必要。
- ・医療と福祉の連携。福祉の中でも障害と介護の連携など。地域ごとの差がある中で地域を越えた連携をどうとるかが課題。 /等

○人材確保

- ・精神疾患を有する患者を看たいという看護師が少ない。

- ・デイ・ケアを行うにあたって、「経験のある看護師」、「作業療法士」の基準クリアが難しい。当院のショート・ケアは昨年まで週 5 回行っていたがスタッフの退職に伴い、今年 4 月からは月 2 回の就職者のフォローアップのみとしている。
- ・デイケアスタッフの資格者について、もう少しゆるやかなものにしてほしい（優秀なスタッフは、NS、PSW、OT、CP の枠組みを越えて採用したい）。
- ・ピアサポーターを活用できるようなシステムを作ってほしい。限られた病院でしかピアサポーターを利用していないのもっと利用してほしい。 / 等

○診療報酬

- ・精神科在宅医療の必要性を認識すること。需要に対して供給が追いついていない。精神科における訪問診療・往診・訪問看護を診療報酬上も評価すること。
- ・通院のベースである通院精神療法の点数の見直しをしてほしい。5 分の治療で知りえる患者の状況は限られる。しかし、30 分超の診察をしても 70 点しか増えないのであれば、必然的に短時間診療となってしまう。
- ・精神科専門療法についての基準の変更。同日 1 項目のみの算定では不十分。
- ・訪問看護ステーションと PSW の訪問が両立できるよう診療報酬の点数を上げてほしい。
- ・患者の地域生活には多職種連携によるサポートが必要で、デイ・ケアや訪問看護などを持つ多機能型精神科診療所は（経済的にもマンパワー的にも）、最も効率よくその役割を果たしている。一方で、その運営上、専門職を多く雇用する必要性から人件費負担が重く、現在の診療報酬体系では外来だけのコンパクトな精神科診療所の方が経営しやすい仕組みになっている。スタッフ数や時間などのコストを配慮し存続できる仕組みにしてほしい。
- ・認知症初期集中支援チームについて半年間の集中介入だけでなく、その後も継続可能なものとしてほしい。 / 等

○その他

- ・最近急増した就労移行支援事業所は連携が難しく、時に患者の症状が不安定になることがある。デイ・ケア等を長年担ってきた施設で就労移行支援を行うことが望ましいのではないか。
- ・総合失調症の患者で生活支援が必要な場合、施設を移動したりすると個人の全体をマネジメントする人が誰なのかわからなくなる。家族でそのような人がいればよいのだが、いない場合もある。患者の情報を患者自身が持ち歩くことができるなど、生活全般の正しい情報を聴ける方法があると周囲の支援が受けやすくなる。
- ・遠隔診療等の導入を検討中。 / 等